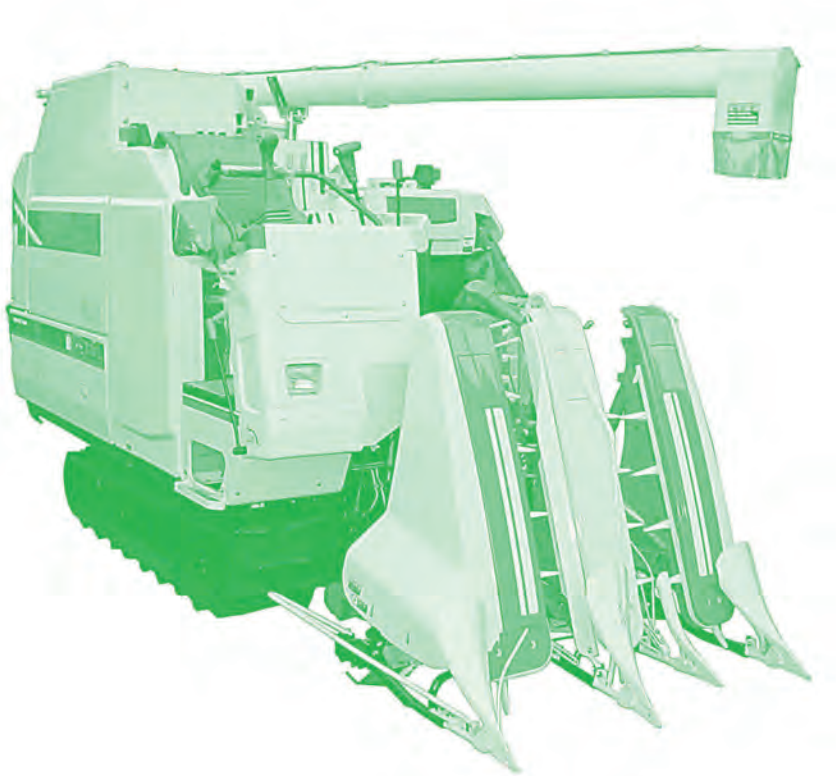
コンバイン

取扱説明書

VS251・281



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに,この取扱説明書をよくお読みいただき,安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は5ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

● **安全な作業をするための注意事項は？** **安全作業のために** 安全作業説明編

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

● **使用前に知っておかなければならないことは？** **ご使用まえに** 1

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

● **各部のはたらきを知るには？** **各部のはたらき** 5

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

● **コンバインを動かすには？** **運転のしかた** 25

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

● **収穫作業を行うには？** **作業のしかた** 33

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

● **自動装置を使用して作業するには？** **自動装置について** 57

各自動装置の取扱いについて説明しています。

● **機械を長もちさせるには？** **手入れのしかた** 66

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

● **機械を3ケ月以上格納するときは？** **長期格納のしかた** 142

機械を長期に格納するときの，手入れのしかたについて説明しています。

● **故障かなと思ったら？** **不調時の処置** 144

作業中のトラブルや不調，異常を感じたときは，すぐ原因を調べ処置してください。

● **諸元・関連部品？** **付　　表** 156

機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明し，また，取扱説明書にでてくる専門用語を解説しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-23)
(安全作業説明編)

ご使用まえに……1
1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
2．公道走行するために…… 4

各部のはたらき……5
1．各部の名称…… 5
2．運転装置の取扱い…… 6
1．スイッチ・計器関係…… 6
2．ペダル・レバー関係……14
3．電装関係……22

運転のしかた……25
1．運転まえの点検……25
2．エンジンの始動と停止……27
1．エンジン始動のしかた……27
2．エンジン停止のしかた……27
3．走行・停車のしかた……28
1．走行のしかた……28
2．停車のしかた……29
4．自動車への積込み・積降ろし……30
1．自動車・アユミについて……31
2．機械の積込み要領……31
5．ほ場への出入り……32
1．ほ場への出入りのしかた……32

作業のしかた……33
1．作業まえの準備……33
1．作物の条件について……33
2．ほ場の条件について……33
3．ほ場の準備……34
4．機械の準備……34
2．刈取り作業のしかた……37
1．刈取り操作の手順……37
2．作業速度の選びかた……39
3．ほ場での刈取り手順……39
4．こく粒の排出操作方法……43
5．グレンタンク補助樋口の取扱い……46
6．ツインハーモニー……46
7．リフトシャットの取扱い……47
8．夜間作業 ……48
9．トルクリミッタの取扱い……49
10．エンジン自動停止の取扱い……50
11．手こぎ作業……51
12．エンジン停止スイッチの取扱い……52
13．刈取り作業終了後の取扱い……52
14．警報装置について……53
3．ワラ処理部の取扱い……54
1．カッタ作業……54
2．排ワラ作業……55
3．中割り作業……55
4．マルチカッタ切替レバー[マルチカッタ仕様]…55-1
4．麦刈り作業時の調整のしかた……56
1．選別ダイヤルの調節……56
2．こぎ胴回転数のセット……56
5．刈刃の高さ調節のしかた……56

自動装置について……57
1．こぎ深さ自動制御……57
1．運転装置……57
2．こぎ深さセンサの調整……58
3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……58
2．方向自動制御［A仕様］ ……58
1．運転装置……58
2．作業のしかた……59
3．方向自動制御の使えない条件……59
3．刈高さポジションコントロール……60
1．運転装置……60
2．自動での作業のしかた……60
3．手動での作業のしかた……61
4．水平自動制御［L仕様］ ……61
1．運転装置……61
2．作業のしかた……62

5．選別自動制御……63
1．運転装置……63
6．排出オーガ自動制御……64
1．運転装置……64
7．マイコン（マイクロコンピュータ）……65
手入れのしかた……66
1．定期点検整備……66
「定期点検整備表」……66
2．給油・注油・給水のしかた……70
「給油・注油・給水表」……71
1．燃料の補給……72
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換 …72
3．ラジエータ冷却水の点検・交換 ……73
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換 …75
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイル
フィルタ・HSTオイルフィルタの交換 ……75
6．スターホイル駆動ケース（刈取部）…… 77
7．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…77
8．こぎ胴ギヤケース……78
9．搬送HSTギヤケース ……78
10．グレン入力ギヤケースのオイル点検･交換 …79
11．集中注油タンク……79
12．機体水平制御リフトアーム軸受部の給脂
［水平自動制御仕様］ ……79
13．各部の注油……80
14．集中注油装置の使い方……81
15．保護カバーの取外し……81-1
3．各部の点検と掃除のしかた……82
1．ラジエータ吸気部の掃除……82
2．エアクリーナの掃除……82
3．燃料フィルタの掃除・交換……83
4．燃料のエア抜きのしかた……84
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除 …84
6．電気配線の点検と掃除……85
7．バッテリの点検と充電……86
8．グレンタンクの回動のしかた……89
9．こぎ胴部の開きかた……90
10．脱こく内部の掃除……91
11．脱こくファンケースの取外し・取付け…95
12．揺動流板の掃除……96
13．グレンタンク部の掃除…… 100
14．カッタのオープンのしかた…… 101
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 102
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 102
2．爪の交換のしかた…… 121
3．ホース類の点検と交換…… 121
4．ワラ切カマの手入れ…… 122
5．こぎ歯の点検と交換…… 124
5．各部の点検と調整のしかた…… 125
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．マルチステアリングレバー…… 125
2．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 126
3．刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバー… 127
4．カッタ・排ワラ切替レバー…… 128
「ベルトの点検・調整」
5．エンジンファンベルト…… 129
6．走行ベルト…… 129
7．かき込みベルト（刈取部）…… 130
8．こぎ胴ベルト…… 131
9．選別ベルト…… 131
10．１番ラセン駆動ベルト…… 132
11．搬送HSTベルト …… 133
12．穂先排ワラベルト…… 133
13．排ワラ駆動ベルト…… 133
14．カッタベルト…… 134
15．グレン入力ベルト…… 134
「チェンの点検・調整」
16．株元搬送チェン（右）…… 135
17．株元搬送チェン（左）…… 135
18．かき込み搬送チェン（右，左）…… 136
19．穂先搬送チェン…… 136
20．こぎ深さ搬送チェン…… 137
21．脱こくフィードチェン…… 137
22．排ワラチェン…… 138
「クローラの点検・調整」
23．クローラ…… 139
「刈刃の調節」
24．刈刃…… 140

長期格納のしかた ……142
1．機械の掃除と洗浄…… 142
2．錆止めと注油…… 142
3．エンジンの手入れ…… 142
4．点検・整備…… 142
5．格納…… 143
6．再使用にあたって…… 143

不調時の処置 ……144
1．エンジン部…… 144
2．走行・運転操作部…… 146
3．電気・自動制御部…… 148
4．刈取部 …… 150
5．脱こく部…… 151
6．ワラ処理部…… 154
7．グレンタンク部…… 155

付　　表 ……156
1．主要諸元…… 156
2．電気配線図…… 157
3．ベルト一覧表…… 159
4．主な消耗部品…… 160
1．爪関係…… 160
2．カッタ関係…… 161
3．ヒューズ…… 161
4．刈刃・カマ関係…… 162
5．アタッチメント（別売り） …… 163
6．付属工具一覧表…… 163
7．潤滑油について…… 164
1．エンジンオイル…… 164
2．油圧作動油…… 164
3．ギヤオイル…… 164
4．三菱農機(純正油)マルチオイル…… 165
8．コンバイン関連商品…… 166
9．用語解説…… 167

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備及び掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-13）

⚠１日の作業が終わったら……（安-16）

⚠長期格納するときは……（安-17）

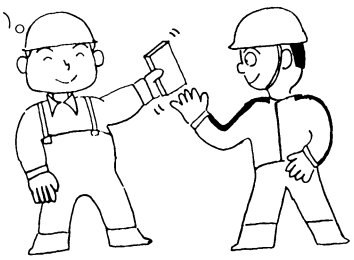
2．表示ラベルについて……（安-18）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

安全作業のために

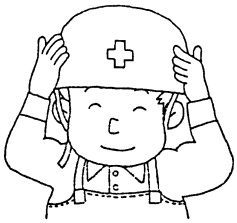
1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を，⚠危険 ⚠警告 ⚠注意の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。
・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

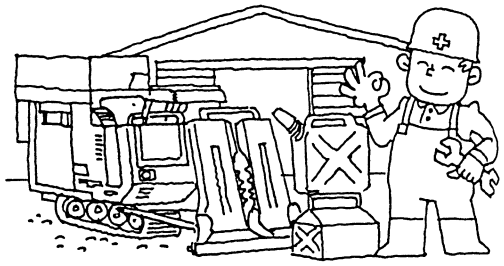
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。 	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

安全作業のポイント

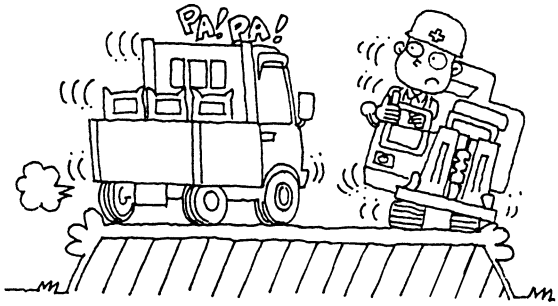


- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検



- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
- 給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
- 燃料補給時は，エンジンを停止し，火気を近づけない。
- 方向指示灯などの保安部品の作動を確認する。
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
- 機械は改造しない。
- 油脂類の廃却は，廃却設備のある所で処理する。



エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける。
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》《中立》または《切》にする。
- 屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
- 機械の周囲から人を遠ざける。
- エンジンの始動は，座席に座って行う。
- 始動のときは，周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける。
- ナローガイド，排出オーガを収納する。
- 機械に子供など，人や物を乗せない。
- 走行する前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
- 発進時は，周囲を確かめる。
- 走行時の旋回は，低速で行う。
- 後進時は，後方を確認する。
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
- わき見運転や手放し運転をしない。
- 作業機クラッチ，刈取クラッチを《切》にする。
- 運転中は，子供など，人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける。
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
- 前後左右を確認し，低速車線を走る。
- 夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

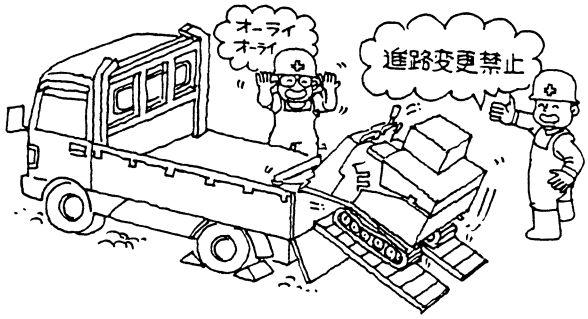
- 速度を落として走行する。
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
- 下り坂では，速度を下げてエンジンブレーキを使用する。
- 急傾斜地は，走行しない。
- 坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 副変速は，［倒伏］に入れておく。
- 傾斜地では，駐車しない。
  （やむを得ず駐車するときは，歯止めをする）
- 機械を離れるときは，スタータスイッチ（始動キー）を抜取る。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 作業機，刈取クラッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では，進路変更や変速操作をしない。
- 機械から降りて行う。



ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 変速は，低速であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときは，アユミを使用し，機械から降りて行う。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。

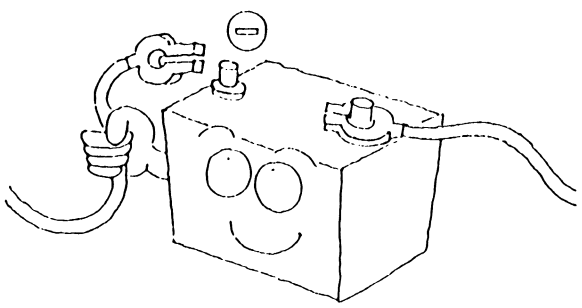


ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には，周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬよう余裕をもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は，周囲を確認する。
- ノッタの結束紐を交換するときは，エンジンを停止する。［ノッタ仕様］
- ノッタのそばに，手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は，使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに，機械を停止しない。



作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- こぎ胴部を開いたらストッパをかける。
- カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

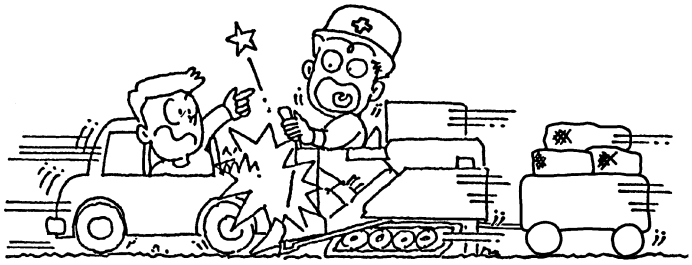
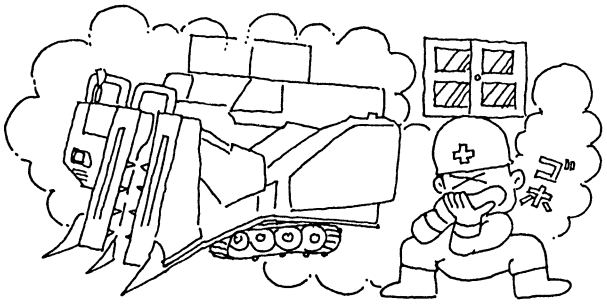
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする。
- スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておく。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは，冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは，エンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。（ガソリン車は燃料を抜取る）
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする。
- 部品（バッテリなど），または機械を廃却するときは，「お買いあげ先」に相談する。

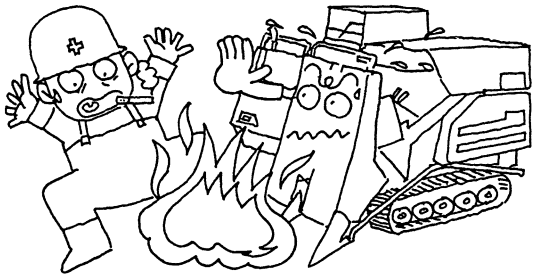
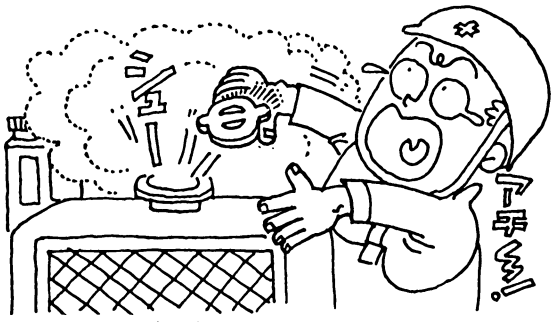
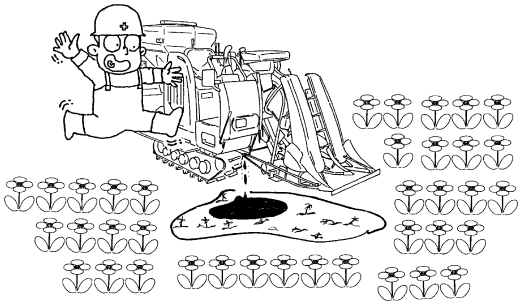
⚠作業前の一般的な注意事項

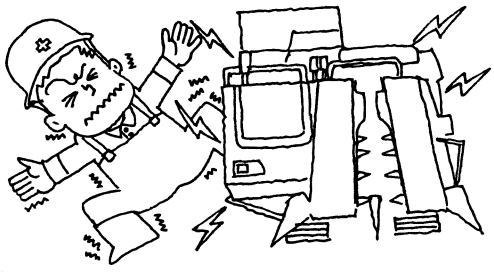
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

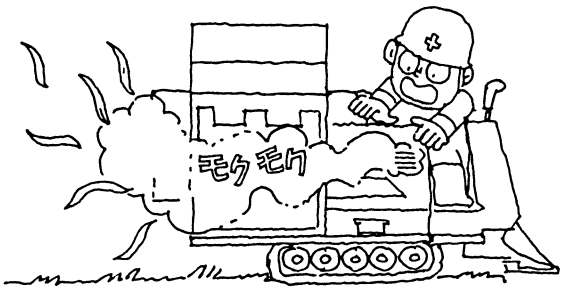
⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。 
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆１年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。 

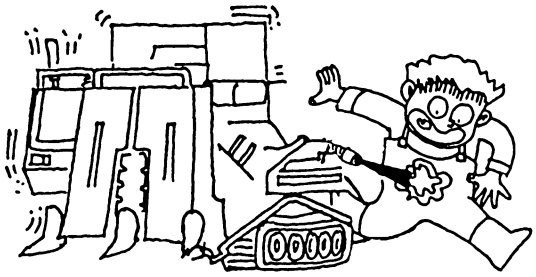
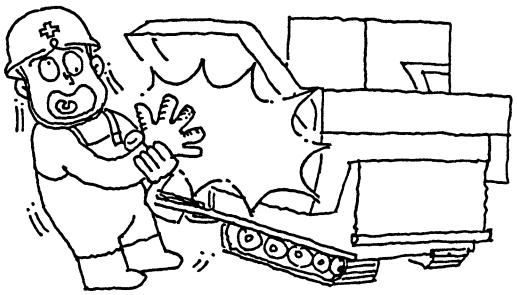
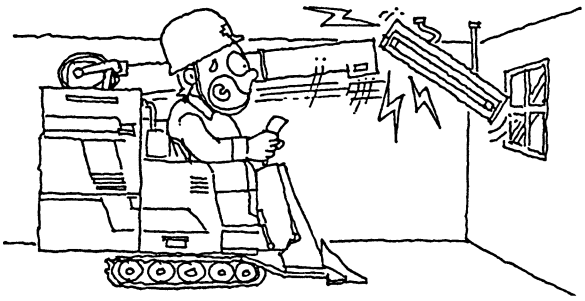
⚠点検・整備及び掃除をするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠危険 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ●燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取る。 ●エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ◆燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは 2 年ごとに交換する。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。 
⚠警告 ◆エンジンオイルなどの油脂類や不凍液の廃却は，廃却設備のある所で処理してください。	環境汚染の原因となります。 

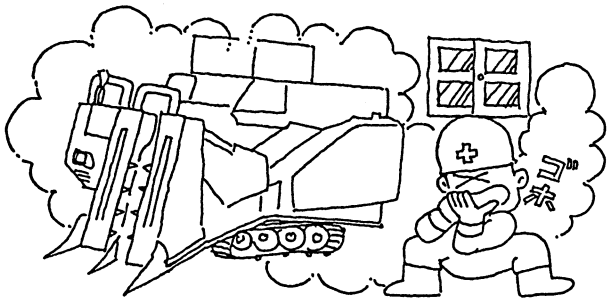
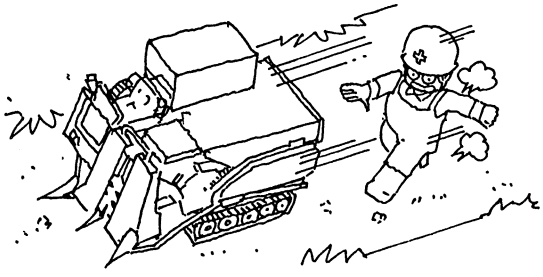
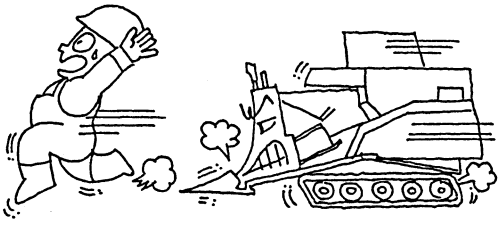
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（煙草・ライターなど）を近づけないでください。		バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して，傷害事故を引起こすことがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮膚，衣服，物に付いたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときは，すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは，医師の診断を受けてください。		バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは，指定されたバッテリを使用する。 ●㊉，㊀を逆に接続しない。		ショートして，火傷や火災の原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆方向指示灯などの保安部品の作動確認は，機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば調整してください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮膚に浸透し傷害の原因になります。 油が皮膚に浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。 
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では，電線などに引掛けない。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引掛けて，損害事故を起こすことがあります。 

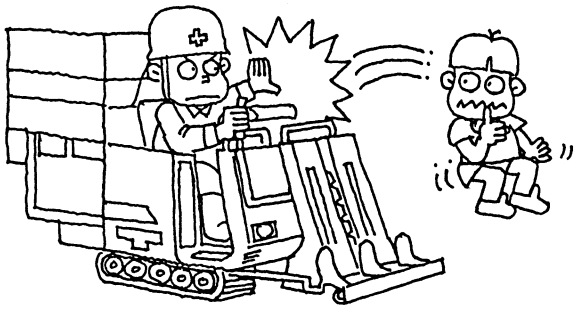
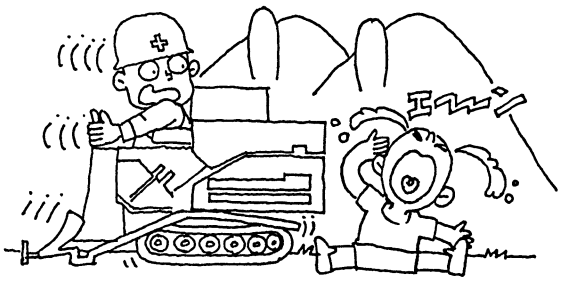
⚠エンジンを始動するときは……

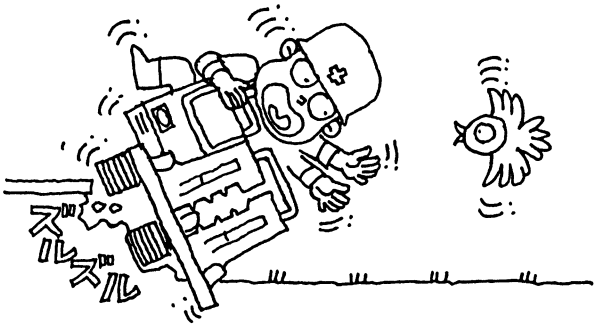
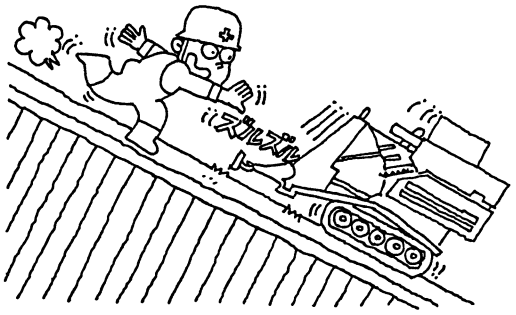
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。 
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《N》《中立》にしてください。 ◆作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にしてください。 ◆取外したカバーなどは，すべて取付けてください。 ●変速レバーが《N》《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆始動は，運転席の座席に座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速，副変速を《N》《中立》，作業機クラッチ・刈取クラッチを《切》にして行なってください。	急に発進したりして，思わぬ事故の原因となります。 

⚠路上走行をするときは……

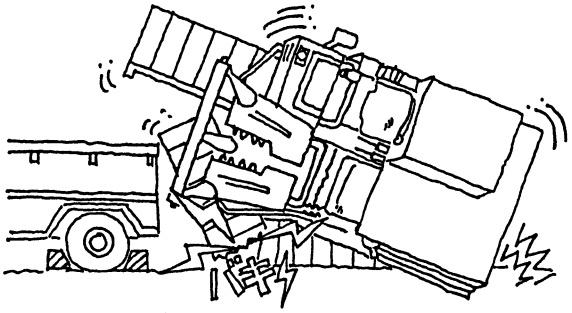
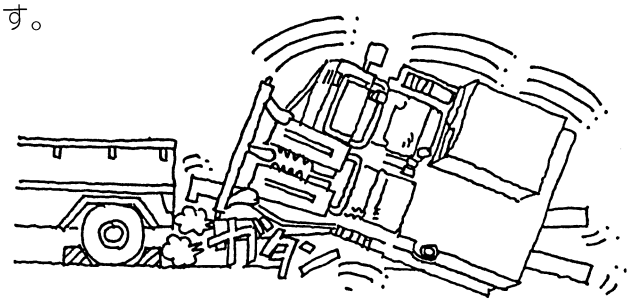
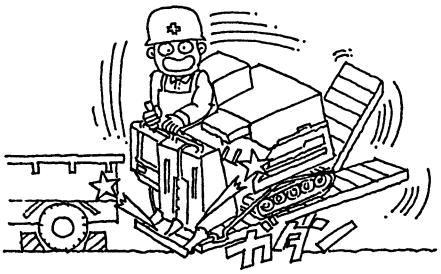
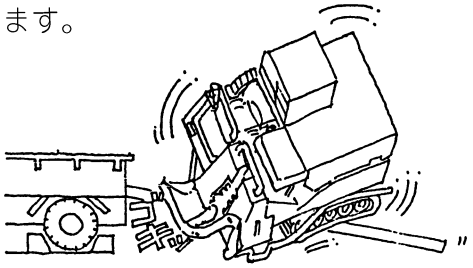
必 ず 守 っ て く だ さ い → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運ぶ。 ◆走行時は，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ◆作業機・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。 
⚠注意 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を30㎝程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ●雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ●凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道の途中で，走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，変速を《低速》に入れ変えてから，登り降りする。 ●坂道での旋回は，低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキが効かず思わぬ事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆坂道では，駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは，駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は，下げておく。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチ（始動キー）を抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。 

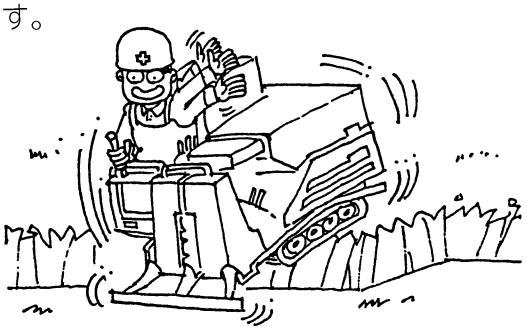
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

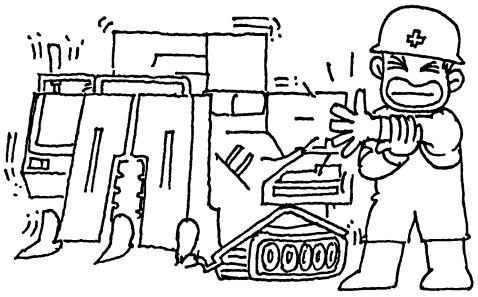
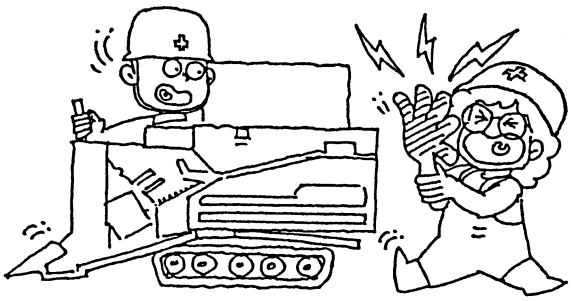
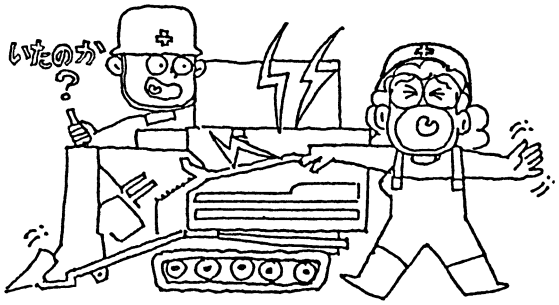
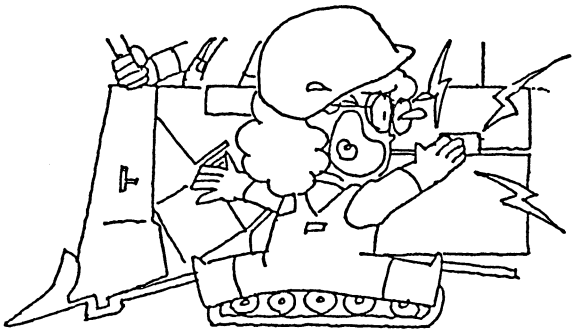
必ず守ってください → **守らないとこんな事故が！**

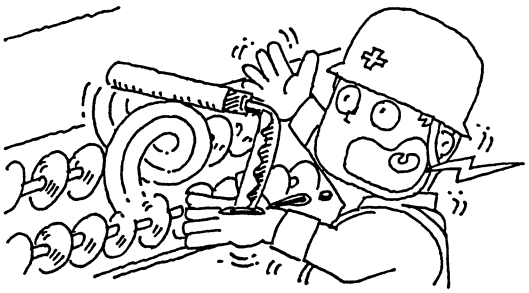
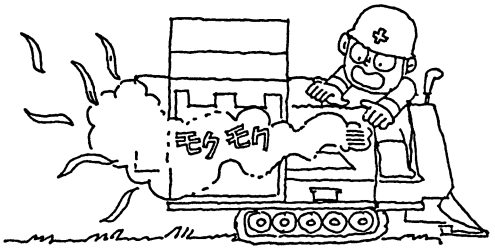
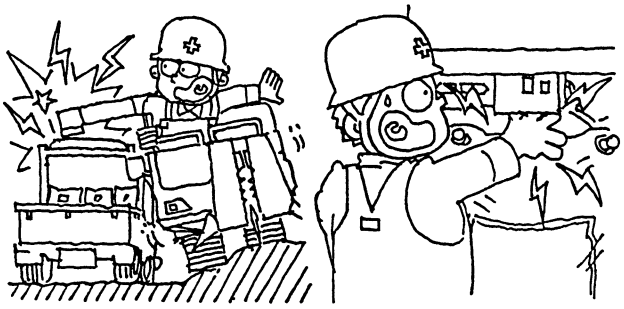
⚠警告 ◆自動車は，最大積載量を超えない車で，荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を《倒伏》か《後進》に入れ，タイヤに歯止めをする。 ◆アユミは，強度，幅，長さ（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使う。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。	アユミが外れたりして，転倒事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で，変速は低速で行なってください。 ●補助者立合誘導のもとに行う。機械の周囲に子供など，人を近づけない。 ◆積込み·積降ろしは，機械から降りて行なってください。 ◆[**水平自動制御仕様**]は，自動スイッチを「切」にして，機体を一番下げた状態で行なってください。 ◆[**方向自動制御仕様**]は，自動スイッチを「切」にして行なってください。	万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにする。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。 

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

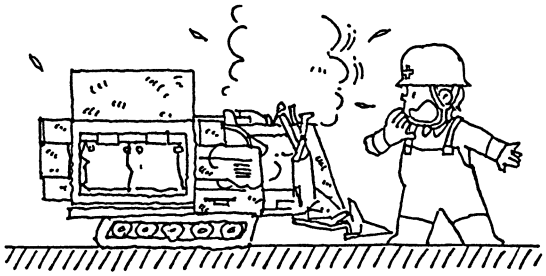
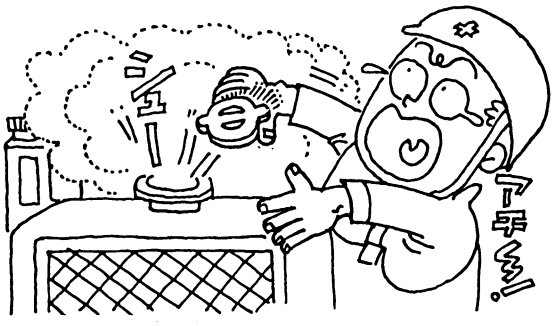
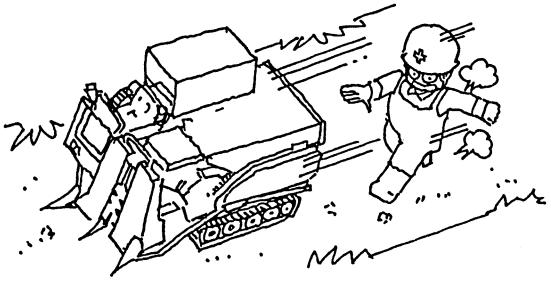
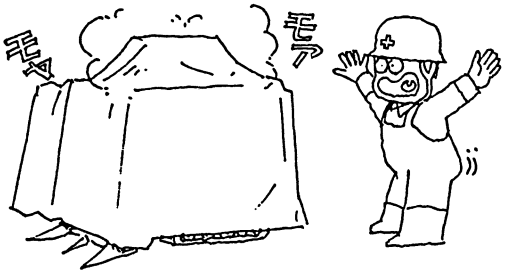
⚠警告 ◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使い機械から降りて行なってください。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ●アユミ上では，進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆あぜ越えは，変速を《低速》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●機械から降りて行う。 ●あぜが崩れないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，作業機・刈取クラッチを入れるときは，ホーンで合図する。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行う。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ●手袋は，使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は，走行を停止して刈取クラッチを《切》にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。 

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まりなどの除去をするときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。 ●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。 ●エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行う。 ●こぎ胴部を開いたときは，ストッパをかける。	傷害事故を引起こすことがあります。 
⚠警告 ◆補助者は，作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は，機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，作業機クラッチ操作をしてください。 ●カッタでの事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておく。 ●エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。 ●補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。 ●作業中は，機械に人を近づけない。 ●運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をする。 ●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には，作業中は近づかない。 ●ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さない。 ●運転者と補助者は，常に「合図」し合いながら作業する。	傷害事故を引起こすことがあります。   

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときは，エンジンを停止する。 ●カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。		カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。 
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止める。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。		マフラの排気で火災になることがあります。 
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。		火災の原因となることがあります。 
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には，手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。		ラセンに巻込まれたりして，負傷することがあります。排出オーガが周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。 

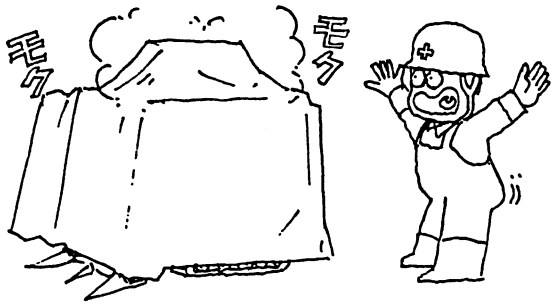
⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてからエンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。 
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，ヤケドすることがあります。 
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを《倒伏》に入れ，駐車ブレーキをかける。 ●スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。 

⚠長期格納するときは……

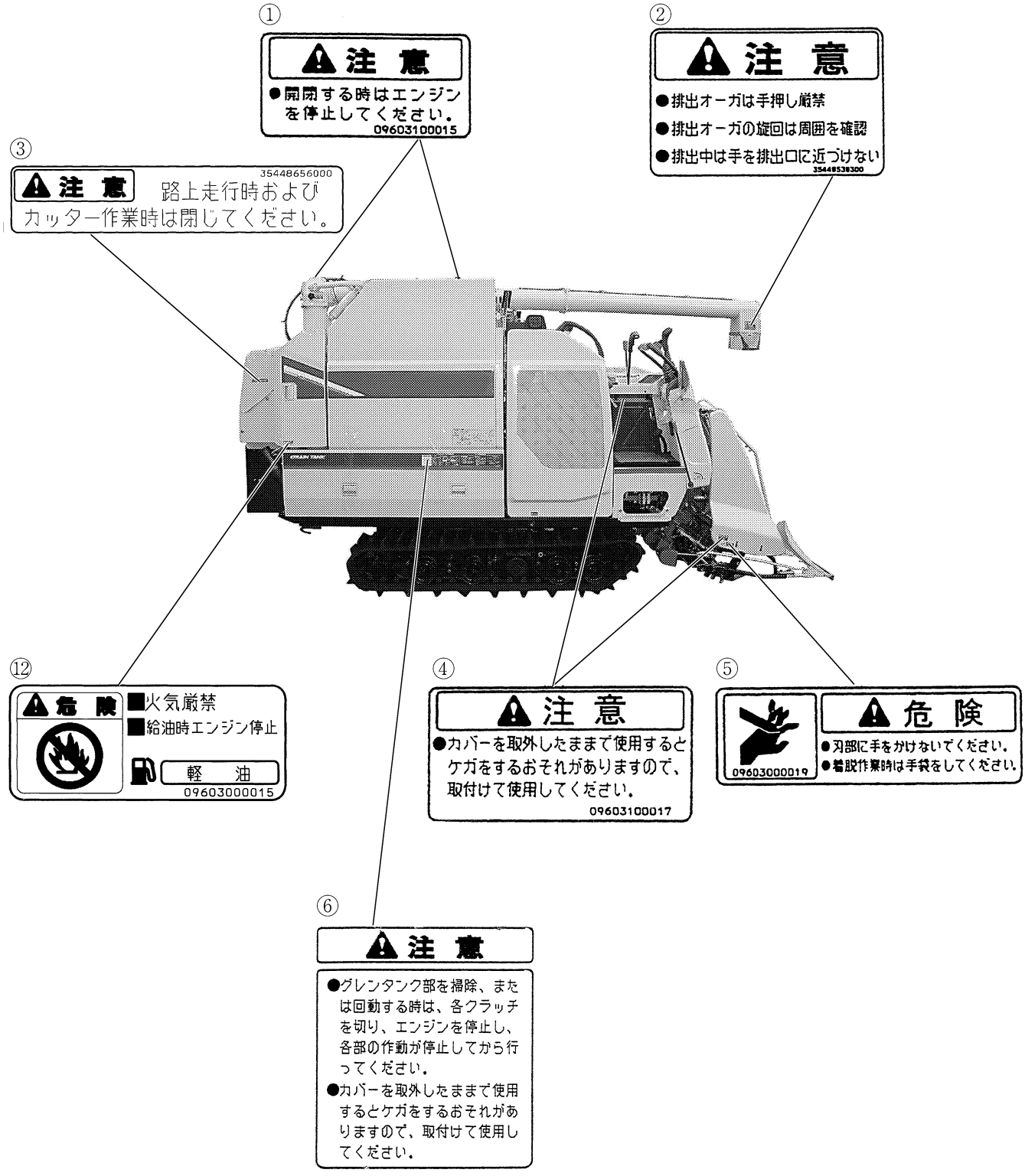
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外してください。 ● 1ケ月に1回程度補充電をする。 ◆燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。 
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ● 副変速を《倒伏》に入れ，クローラに歯止めをする。 ● スタータスイッチ（始動キー）を抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。 
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ● 1年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で，純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。 ● 部品（バッテリなど），または機械を廃却するときは，**「お買いあげ先」**に相談して処理します。 	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

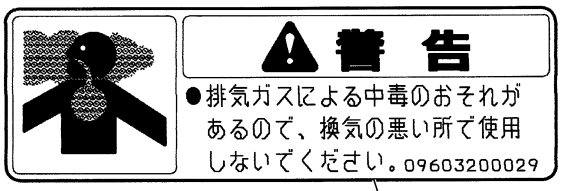
2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

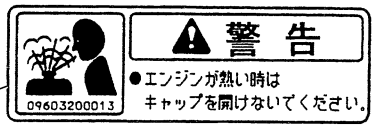
また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。



⑭

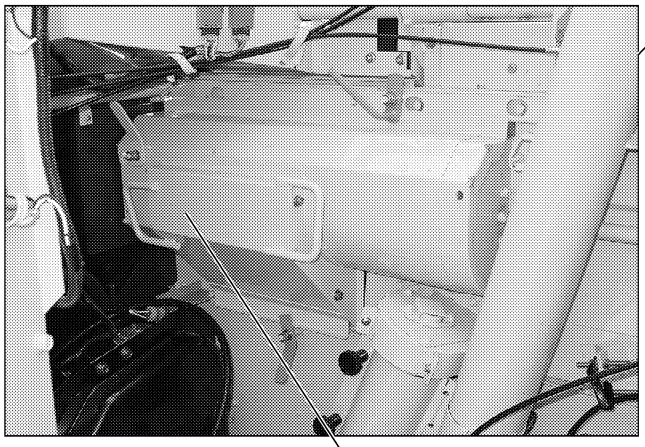

警 告
●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。09603200029

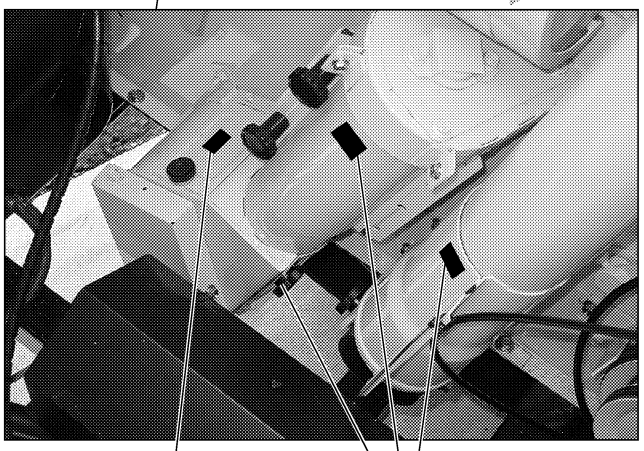
⑧


警 告
●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。
09603200013

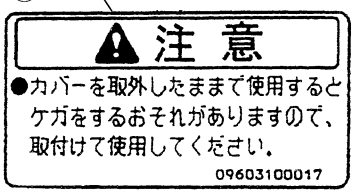




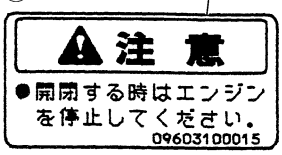




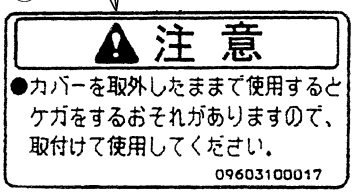
④

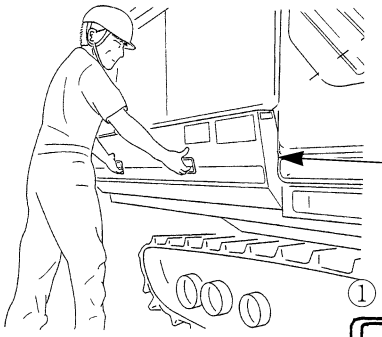

注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

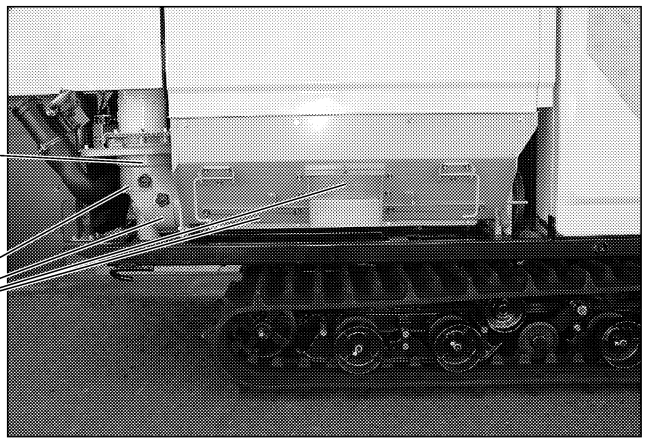
①

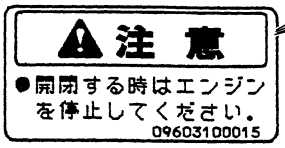

注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

④


注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017


①




注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015



②
注 意
- 排出オーガは手押し厳禁
- 排出オーガの旋回は周囲を確認
- 排出中は手を排出口に近づけない

35448538300

⑤
危 険
- 刃部に手をかけないでください。
- 着脱作業時は手袋をしてください。

09603000019

①
注 意
- 開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

⑬
警 告
- 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

09603200042

⑮
危 険
- カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
- 回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

④
注 意
- カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑳
注 意 路上走行時は収納してください。

09603100024

⑲
注 意
- こぎ胴部で手や体をはさまれて，ケガをする恐れがあります。
- こぎ胴部を開閉する時は人を近づけないでください。
- こぎ胴部の開閉はゆっくりおこなってください。

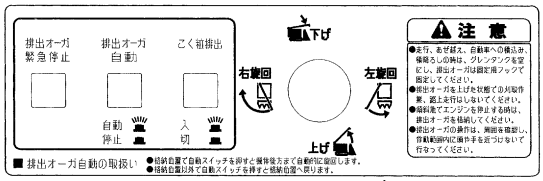
35558525100

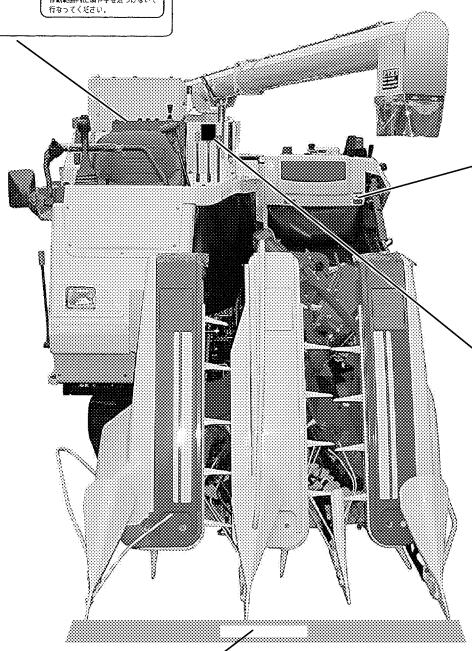
㉑
火気厳禁　メガネ着用　こども禁止　硫酸注意　説明書熟読　爆発注意

危険
- 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり・工具等でショートやスパークをさせない・充電は風通しのよい所で行う・ブースターケーブルの使用は取扱説明書に従う
- バッテリー液（硫酸）で失明ややけどの恐れあり液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける
- 爆発の恐れあり、液面はＬＯＷＥＲ以下で使用しない
- 液漏れの恐れあり、ＵＰＰＥＲ以上に補水しない

09603000017

㉒





⑦

警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

09603200034

⑩

警 告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は

●平坦な硬い場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。
●機械の周囲に人を近づけないでください。
●アユミは機械の重量に耐えられる強度で長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用し、自動車の後輪に歯止めをしてください。
●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。操向操作をすると転倒することがあります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
●自動車へ積込む場合、主変速レバー《前進－低速》副変速レバー《車両積降し(倒伏)》の位置で操作します。ステアリングレバーを《上る》に操作し、刈取部を上げます。積込みが終わったらステアリングレバーを《下る》にして刈取部を一杯下げてください。
●自動車から積降ろす場合、主変速レバー《後進－低速》副変速レバー《車両積降し(倒伏)》の位置で操作してください。



■路上走行する時は

●ナローガイドを収納してください。
●作業機、刈取クラッチレバー、自動スイッチを《切》にしてください。
●急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
●デコボコ道、下り坂では速度を落して走行してください。
●公道では、作業機など突起物となるものは装着しないでください。

35788542300

㉓

注 意 路上走行時は装着してください。

09603100023



⑨

警 告

●中立《N》位置でも動く場合がありますので、機械から離れる時は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

09603200052



⑪

警 告

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
● 機械の周囲から人を遠ざけてください。
● 各部のカバーをすべて取付けてください。
● 座席に座り(乗用)、駐車ブレーキをかけてください。
● 各操作レバーを《N》(中立)又は《切》にしてください。
● 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
● 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
● エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
● 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
● 手こぎ作業は、平坦な場所で走行を停止し、刈取クラッチを切り、刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
● 手こぎ作業中は、手・衣服を供給口に入れたり、脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
● 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
● 発進、旋回操作、究地での運転は低速で行なってください。
● 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。
● 軟弱な路肩、溝の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがありますので走行しないでください
● あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■停止する時は
● 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、刈取部を下げ、排出オーガ(グレンタンク仕様)を収納位置に戻して各操作レバーを《N》(中立)にした後、エンジンを停止してください。
その後、副変速レバーを《低》又は《倒伏》に入れてください。

■清掃・点検・整備
● エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
● 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。

09603200024 コンバイン

⑮

危 険

- カッター部点検の際は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
- 回転中は、カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

④

注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

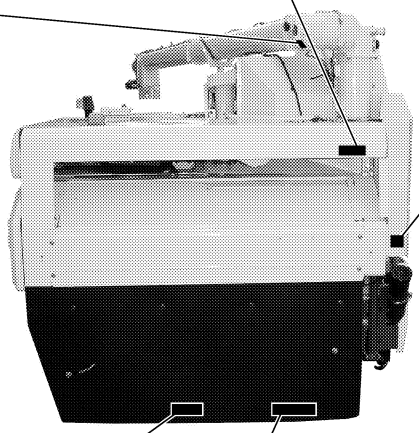
09603100017

①

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



⑯

警 告

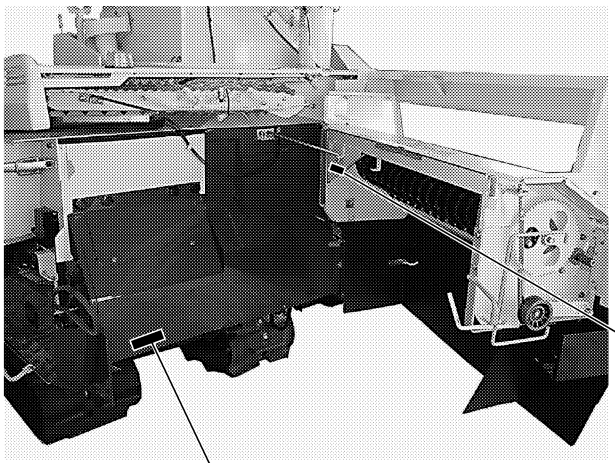
●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

⑰

注 意 回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100020



⑯

警 告

●回転中はファンに手・足及び身体を近づけないでください。

09603200041

⑱

注 意

1. カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2. カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

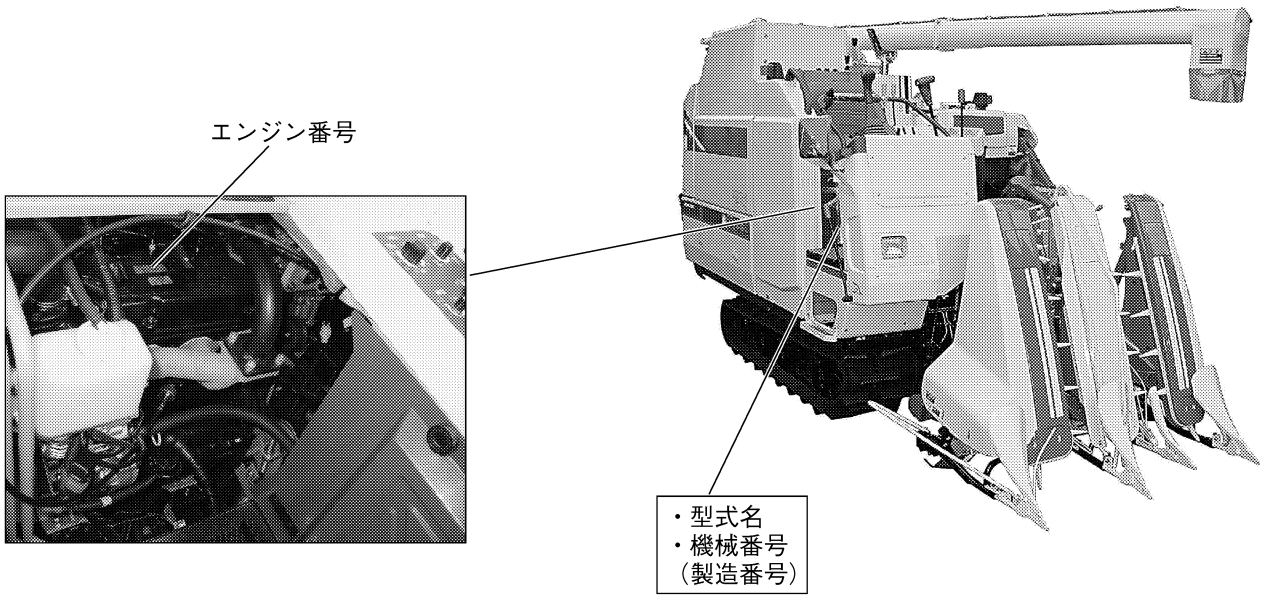
35728592000

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	チュウイラベル・カイヘイ	0960 3100 015	
②	チュウイマーク	3544 8538 300	
③	チュウイマーク	3544 8656 000	
④	チュウイラベル・カバー	0960 3100 017	
⑤	キケンラベル・カリハ	0960 3000 019	
⑥	ラインマーク	3578 8537 700	
⑦	ケイコクマーク・コギドウ	0960 3200 034	
⑧	ケイコクラベル・ラジエータ	0960 3200 013	
⑨	ケイコクラベル・ストップ	0960 3200 052	
⑩	トリアツカイマーク	3578 8542 300	
⑪	ケイコクラベル・コンバイン	0960 3200 024	
⑫	キケンラベル・ケイユ	0960 3000 015	
⑬	ケイコクラベル・チェン	0960 3200 042	
⑭	ケイコクラベル・ハイキ	0960 3200 029	
⑮	キケンラベル・カッタ	3551 8658 000	
⑯	ケイコクラベル・ファン	0960 3200 041	
⑰	チュウイラベル・カッタカバー	0960 3100 020	
⑱	チュウイマーク	3572 8592 000	
⑲	チュウイマーク	3555 8525 100	
⑳	チュウイマーク	0960 3100 024	
㉑	キケンラベル	0960 3000 017	バッテリ
㉒	チュウイラベル	3578 8555 001	車両積降ろし
㉓	チュウイラベル・バンパC	0960 3100 023	

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後 9 年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告
◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2．仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

型式名	仕様（装備）／区分	エンジン 型式	エンジン 出力（参考）	クローラ ハイラグ 400㎜	クローラ 広幅皿型 460㎜	HST＋副変速3段	マルチステアリング	緊急エンジン停止スイッチ	集中注油	可動転輪	ニューハーモニシステム	防じんカバー	ニューコンポアップ	負荷モニタ	もみ充填モニタ	増速ツインこぎ胴	リフトシャット	刈高さポジション	オーガ右旋回式	ジャストディレクタ	自動化機構 方向自動	自動化機構 こぎ深自動	自動化機構 選別自動	自動化機構 オーガ自動旋回・収納	自動化機構 フィードチェン同調	自動化機構 水平制御	グレンタンク 750ℓ	カッタ デスクカッタ 60㎜	カッタ デスクカッタ 40㎜	カッタ マルチカッタ 60／180㎜	カッタ マルチカッタ 40／160㎜	株元・穂先兼用ノッタ
三菱VS251	GC	S3L2—16C	25(PS)	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○				
	GUC				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○				
	GAC			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○				
	GACB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○			
	GACN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○				○
	GUAC				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	GUACB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○			
	GUACN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○				○
	GM			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○		
	GUM				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○		
	GAM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	GAMB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○	
	GAMN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○
	GUAM				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	GUAMB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○	
	GUAMN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○
	GLC			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLUC				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLAC			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLACB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLACN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○
	GLUAC				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLUACB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLUACN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○
	GLM			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLUM				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLAM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLAMB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		
	GLAMN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
	GLUAM				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLUAMB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		
	GLUAMN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
三菱VS281	GC	S3L2—17C	28(PS)	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○				
	GUC				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○				
	GAC			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○				
	GACB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○			
	GACN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○				○
	GUAC				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○					
	GUACB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○			
	GUACN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○				○
	GM			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○		
	GUM				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○			○		
	GAM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	GAMB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○	
	GAMN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○
	GUAM				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		
	GUAMB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○				○	
	GUAMN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○		○
	GLC			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLUC				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLAC			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLACB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLACN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○
	GLUAC				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
	GLUACB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLUACN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○
	GLM			○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLUM				○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLAM			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLAMB			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		
	GLAMN			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○
	GLUAM				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
	GLUAMB				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		
	GLUAMN				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			○

・型式記号の説明

A＝方向自動・ジャストディレクタ・防じんカバー
C＝ディスクカッタ60㎜
CB＝ディスクカッタ40㎜
G＝グレンタンク
N＝ノッタ
L＝水平制御
M＝マルチカッタ（切断長60／180㎜）
MB＝マルチカッタ（切断長40／160㎜）
U＝皿形広幅（460㎜）クローラ

取扱いのポイント

- これらの機械は工場から出荷のときは，「稲作業セット」に調整してあります。
麦作業のときは，「取扱説明書」の56ページ「麦刈り作業時の調整のしかた」の項を参考に調整しご使用ください。

3．用語について

(1) この取扱説明書に使用している「**前後・左右・右回り・左回り**」などの用語は，図示のとおりです。



(2) **型式表示**

・この取扱説明書は，VS251型GC仕様を基本に説明しています。

・区分により仕様（装備）が異なるため，取扱い方法が変わる点は，そのつど［**A仕様**］，［**L仕様**］などで表示し，追加説明しています。

型　式　名	本 文 表 示
ＶＳ２５１	［251型］
ＶＳ２８１	［281型］

(3) **マークの説明**

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄を，次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を，3段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・取扱いのポイント ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4．小型特殊自動車について

このコンバインは，「**小型特殊自動車**」に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1．小型特殊自動車の届出

❶　小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは「**市（町・村）役所**」または「**お買いあげ先**」に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（「**お買いあげ先**」で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

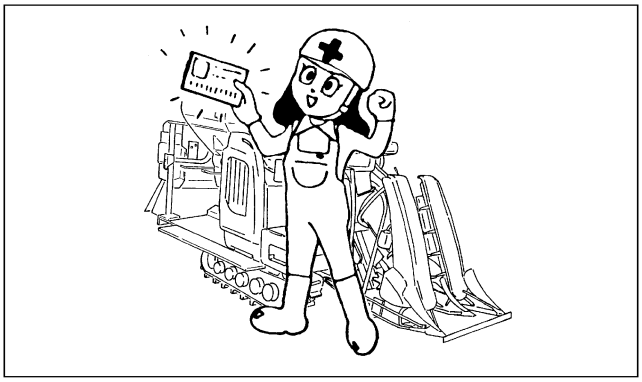
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2．公道走行するために

❶　運転免許

公道を走行するときは，「**小型特殊自動車**」の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷　「小型特殊自動車」の運転免許で運転できる自動車の基準

車体の大きさ	全　長	4.7m以下
	全　幅	1.7m以下
	全　高	2.0m以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気量		1,500cc以下

❸　指定の作業機以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

・指定作業機：カッタ

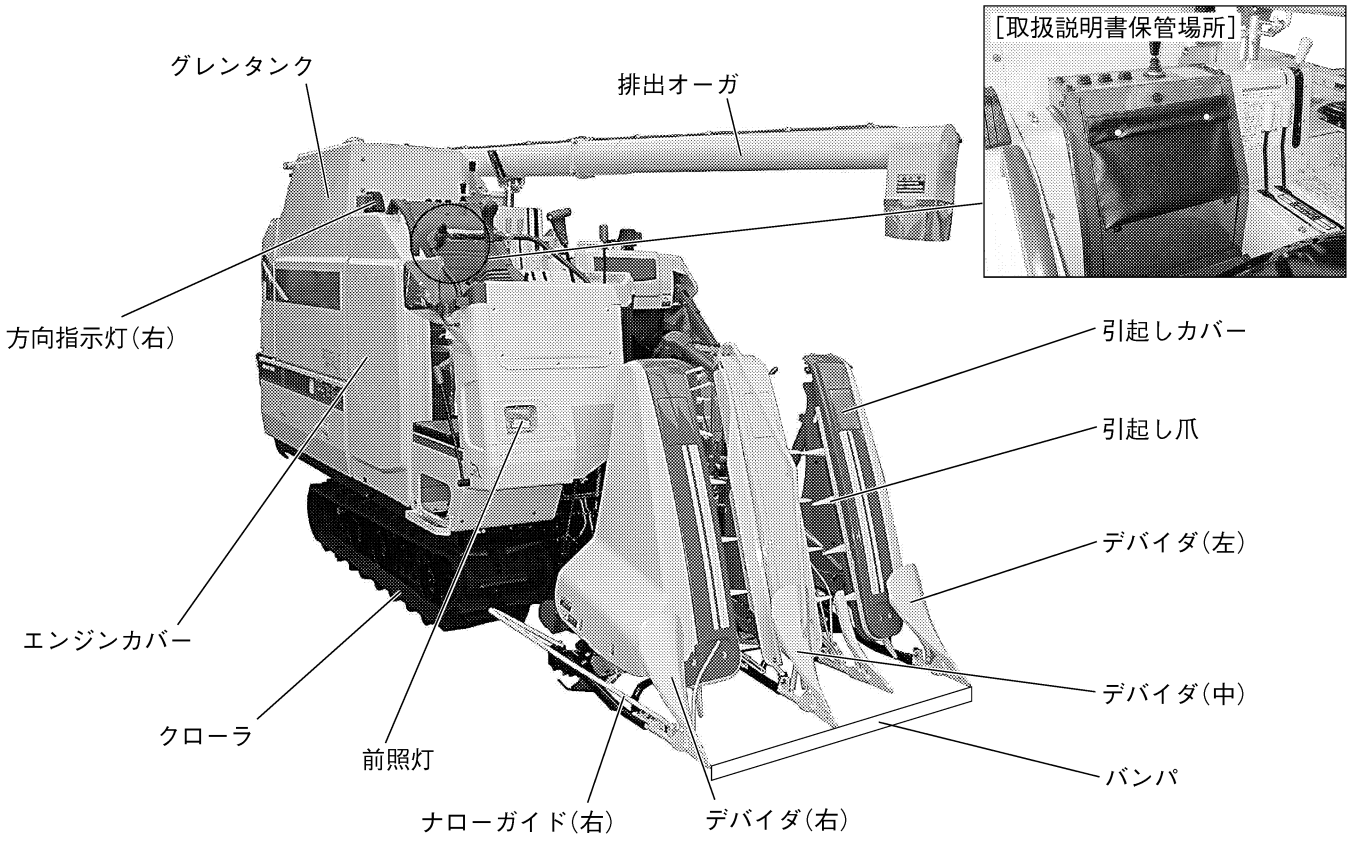
　カッタは，装着したままで走行できます。

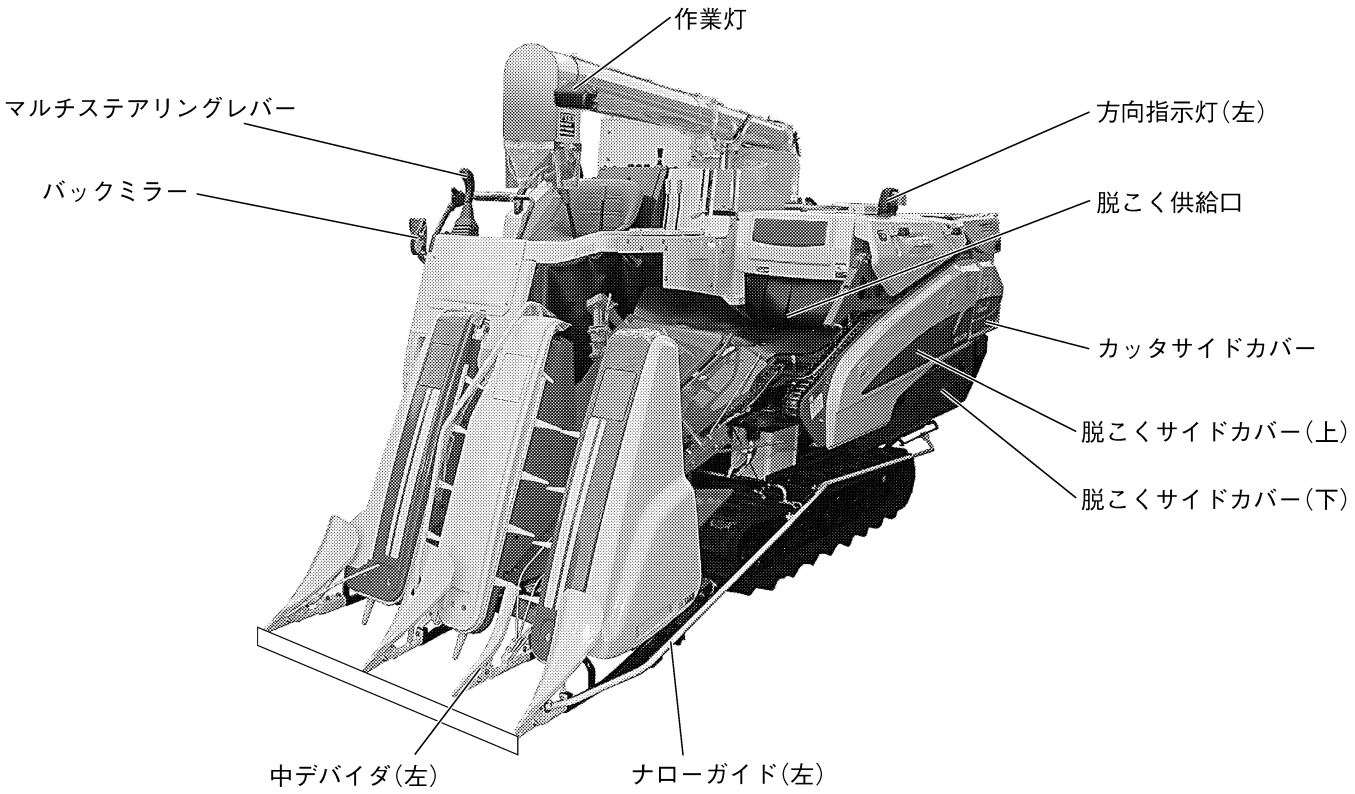
❹　任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

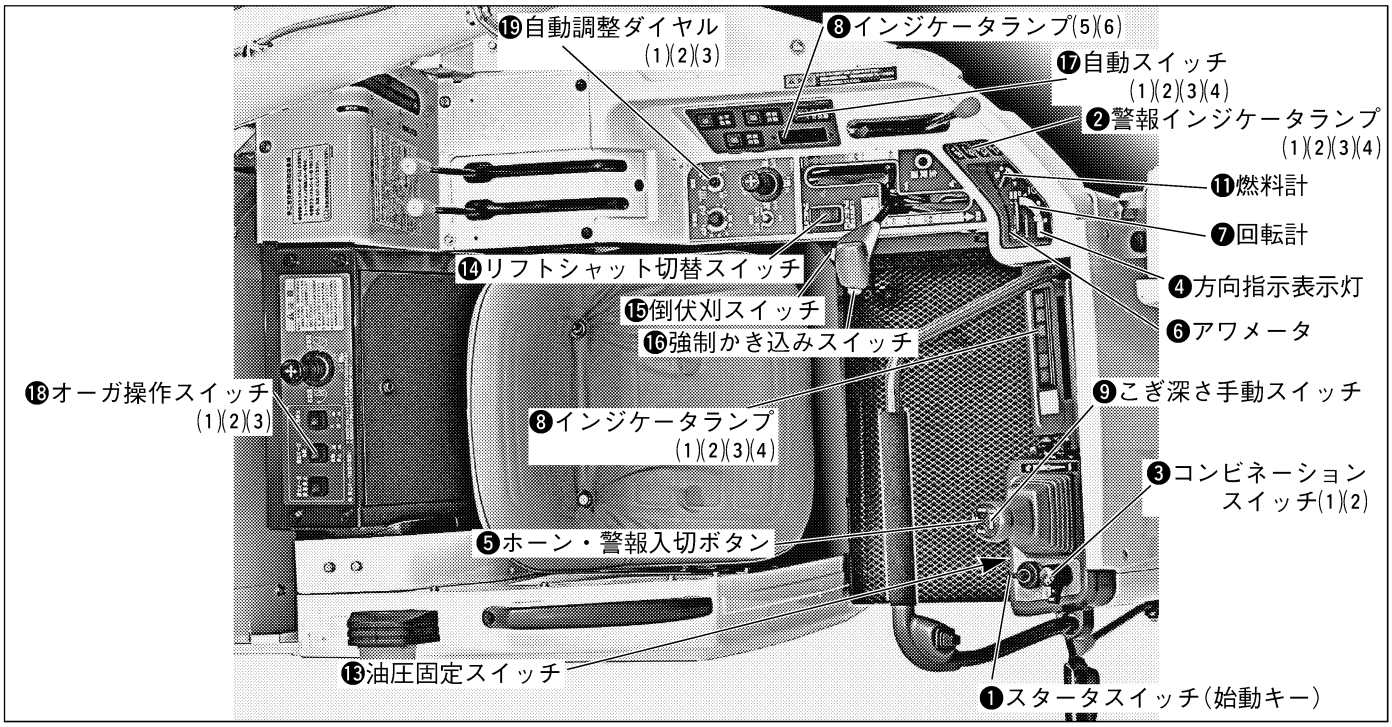
1．各部の名称





2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係



❶　スタータスイッチ（始動キー）

《 **切**》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを《 **切**》にするとエンジンが停止します。

《 **入**》……電源入（運転中・予熱）

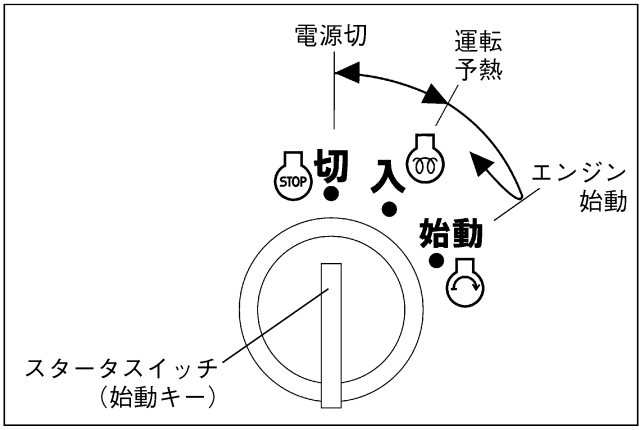
スタータスイッチを《 **入**》にすると，メータ内の予熱インジケータランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約 3 秒後に消灯して，予熱が完了します。

《 **始動**》……エンジン始動

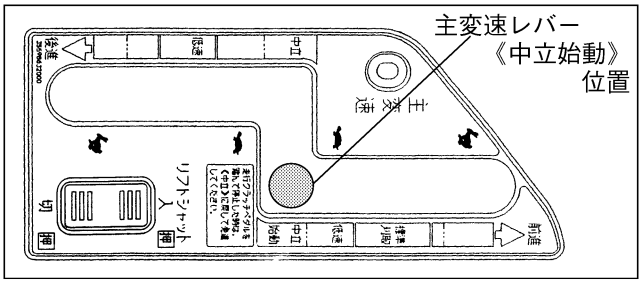
スタータスイッチを《 **始動**》位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に《 **入**》位置に戻ります。



取扱いのポイント

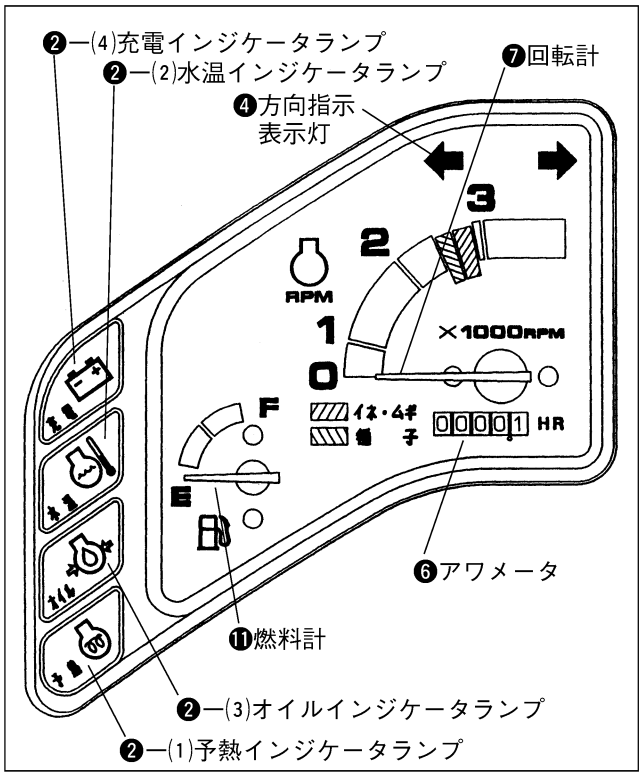
● 主変速レバーを《中立始動》（前進側中立位置）位置にし，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。



❷ 警報インジケータランプ

(1) 予熱インジケータランプ

スタータスイッチを《 入》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。約3秒後に消灯し予熱が完了します。



(2) 水温インジケータランプ

エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）すると，「点灯」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- 運転中にランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。(警報ブザーは連続音から断続音になります)
- 冷却水温度が下がり，ランプが消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィン等のラジエータ吸気部のゴミ付着(82ページ参照)・エンジンファンベルトの張り（129ページ参照)，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。

(3) オイルインジケータランプ

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「点灯」します。

正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- 運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（72ページ参照）
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

(4) 充電インジケータランプ

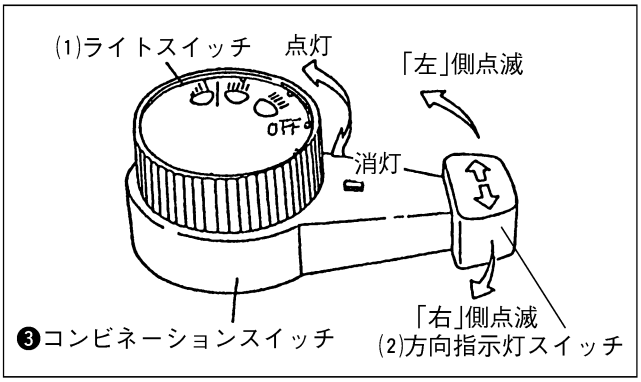
エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《 入》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。(129ページ参照)
- エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

❸ コンビネーションスイッチ



(1) **ライトスイッチ**

《ＯＦＦ》……消灯

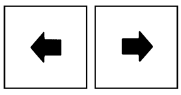
《 ≡D 》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《 ≡D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯およびすべての作業灯が点灯します。（排出オーガ部の作業灯には，スイッチがありますので，必ず《ＯＮ》（入）の状態にしておきます）

(2) **方向指示灯スイッチ**

スイッチを前後へ操作すると，機械の左側または右側の方向指示灯，およびパネル内の方向指示表示灯が点滅します。

❹ 方向指示表示灯



方向指示灯スイッチに合わせ，方向指示表示灯が点滅します。

❺ ホーン・警報入切ボタン



・スタータスイッチを《 入》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

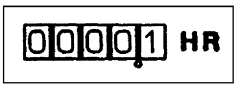
・モミ処理インジケータランプの点灯（タンク満杯），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。下記の方法で警報を解除してください。

警報機能	解除方法
・水温インジケータランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し，スタータスイッチ（始動キー）を《 切》位置にする。
・ワラ処理インジケータランプ点灯（排ワラ詰まり，脱こく搬送詰まり）ランプ点滅（ノッタひも切れ）	作業機クラッチレバーを《切》位置にする。
・エンジン回転負荷インジケータランプ点滅（9ページ参照）	走行速度を下げる。
・倒伏刈インジケータランプ点滅	刈取部またはフィードチェン搬送部の前部の詰まりを取除きます。

❻ アワメータ



エンジンの積算時間を示します。

積算時間を目安に定期点検整備を行います。

❼ 回転計

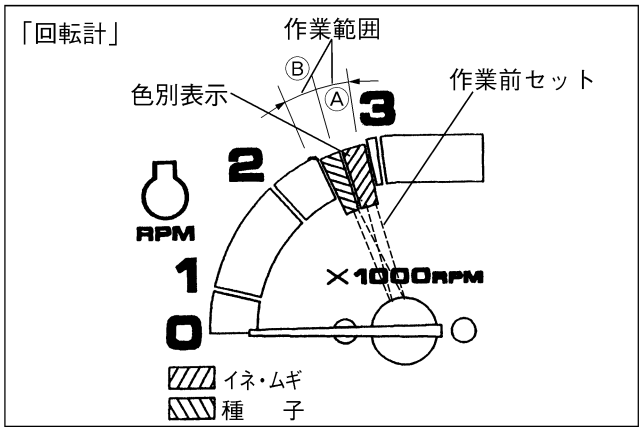
１分間のエンジン回転数を示します。

回転数は，イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦），種子など，刈取る作物によって変えます。

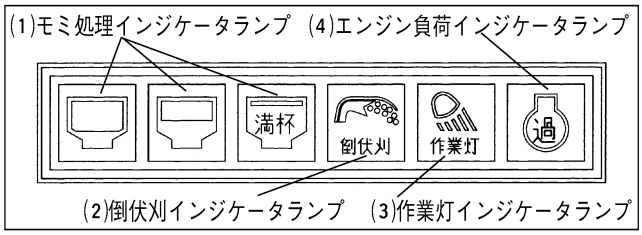
・こぎ胴回転数の調整は，エンジンを始動し，作業機クラッチレバーを入れ，回転計を見ながら**「色別表示」**の上限まで徐々にエンジンコントロールレバーで調整します

・刈取り作業中は，回転計の針が常時**「色別表示」**の範囲内に位置するように，主変速レバーで作業速度を調整して使用します。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……Ⓐの範囲
・種子の場合……Ⓑの範囲



❽ インジケータランプ



(1) モミ処理インジケータランプ

グレンタンク内のこく粒量を表示するランプで，こく粒量が増していくと，インジケータランプも → → の順に点灯します。

満杯時には，ランプと警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると，グレンタンク上側からオーバーフローし，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーは，マルチステアリングの警報入切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **グレンタンクからモミがオーバーフローし，エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立始動》位置にし，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒を排出してください。**

(2) 倒伏刈インジケータランプ



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《**入**》にすると，倒伏刈インジケータランプが点灯し，前処理の速度が通常より速くなります。

前処理または脱こくフィードチェン搬送部の前部に詰まりが発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **通常の刈取りで前処理速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》としても，それ以上は速くなりません。**
- **搬送部に詰まりが発生した場合は，スタータスイッチを《 STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**

(3) 作業灯インジケータランプ



スタータスイッチを《 ON 入》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。

(4) エンジン負荷インジケータランプ

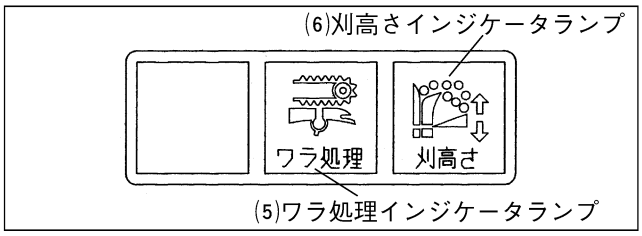


エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，モニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**

(5) ワラ処理インジケータランプ



脱こくフィードチェン終端部または排ワラチェン終端部に詰まりが発生すると，ワラ処理インジケータランプが点灯し，警報ブザーの連続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

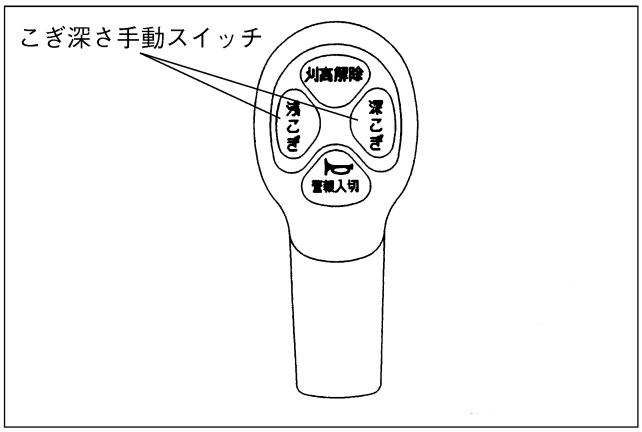
- **エンジンが停止したら，スタータスイッチを《STOP 切》位置にし，詰まりを取除いてください。**
- **主変速レバーを《中立始動》位置にし，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。**

(6) 刈高さインジケータランプ

刈高さコントロールダイヤルの《**切**》位置以外の位置のとき点灯し，刈高さポジションコントロールが使用可となります。《**切**》位置ではランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは使用できません。

❾ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を，手動で調整するスイッチです。



❿ エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時などのトラブル発生時に，このスイッチを押すと，エンジンが停止します。



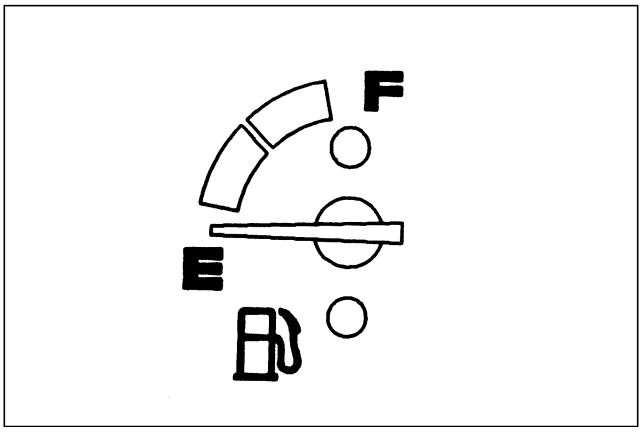
取扱いのポイント

- **エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《STOP 切》位置にしてください。そのまま放置すると，バッテリが放電します。**

⓫ 燃料計



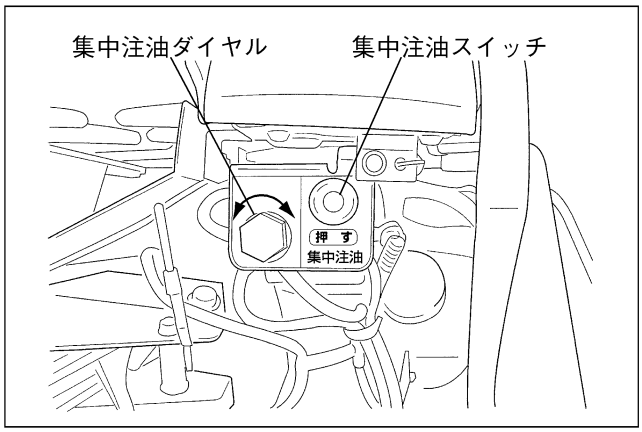
スタータスイッチが《ON 入》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《**F**》は満量（約30Ｌ），《**E**》（ラベル下限）では約５～６Ｌの油量を示します。



取扱いのポイント

- **燃料計が《E》近くになったら早目に燃料を補給してください。**

⑫ 集中注油スイッチ（集中注油ダイヤル）



・集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し、刈刃やチェン類に注油します。
・集中注油ダイヤルを回し,注油個所(脱こくチェン・刈刃・刈取搬送チェン・引起しチェン）の切換えを行います。(詳細は，81ページ参照)

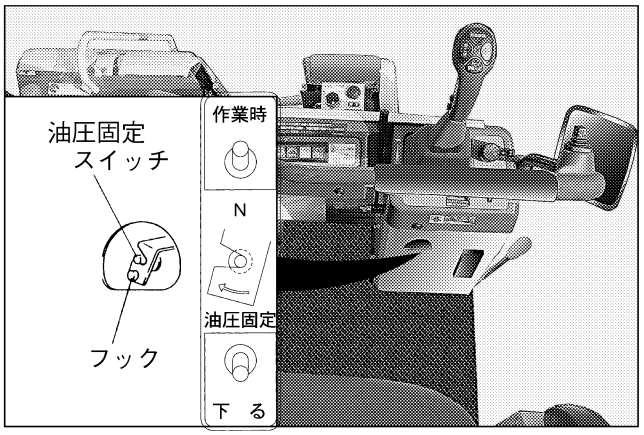
⑬ 油圧固定スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。
◆油圧固定スイッチを《下る》の位置にすると，マルチステアリングレバーの操作に関係なく,刈取部は下がります。通常はスイッチを《下る》の位置にしないでください。
◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

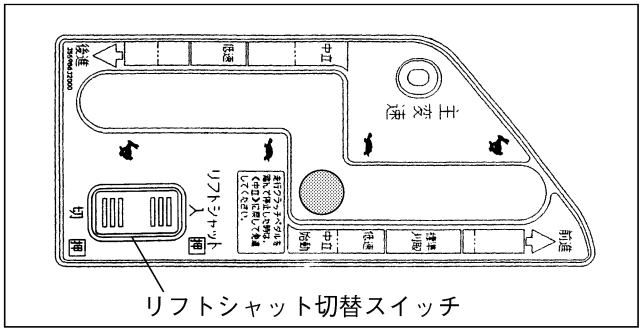
刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。
・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置では，フックをかけて使用します。
路上を走行するときは,《**油圧固定**》位置で使用します。

・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業時**》の位置で使用します。
・刈取部全体を取外すときには，油圧固定スイッチを《**下る**》の位置で使用します。



⑭ リフトシャット切替スイッチ

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャット切替スイッチの《**入**》《**切**》操作でリフトシャットの《**入**》《**切**》の切替を行います。



取扱いのポイント

- **あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**



⓯　倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，前処理の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルのインジケータランプが点灯します。

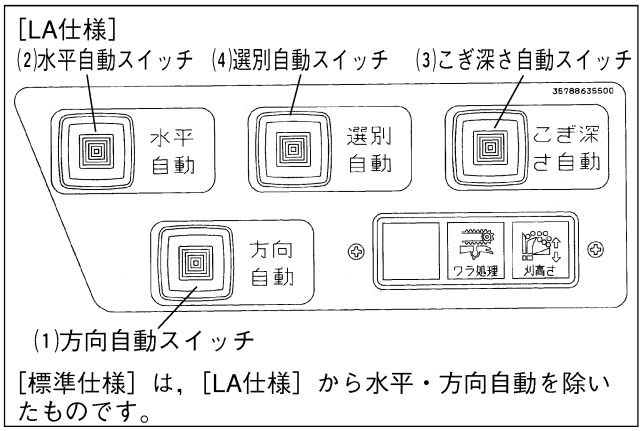
⓰　強制かき込みスイッチ

走行停止状態または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。

取扱いのポイント

●刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。

⓱　自動スイッチ



[標準仕様] は，[LA仕様] から水平・方向自動を除いたものです。

⑴　**方向自動スイッチ［A仕様］**

方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，58～59ページ参照）

⑵　**水平自動スイッチ［L仕様］**

水平自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にしたら，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。（詳細は，61～62ページ参照）

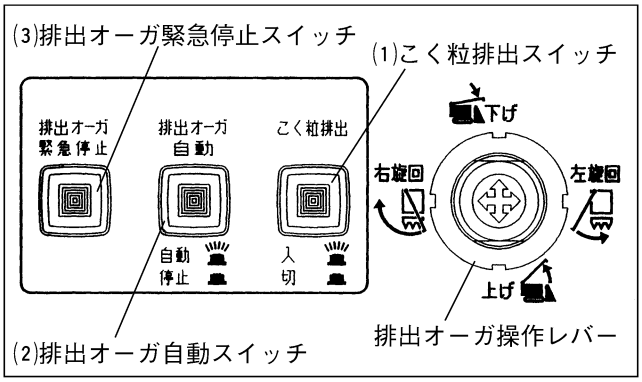
⑶　**こぎ深さ自動スイッチ**

スタータスイッチを《 **入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
（詳細は，57～58ページ参照）

⑷　**選別自動スイッチ**

スタータスイッチを《 **入**》位置にすると，ランプが点灯し，選別自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
（詳細は，63ページ参照）

⓲　オーガ操作スイッチ



⑴　**こく粒排出スイッチ**

グレンタンク内のこく粒を排出するスイッチです。

取扱いのポイント

●こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。回転が低いと，詰まりの原因となります。

(2) **排出オーガ自動スイッチ**

・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機体後方まで，自動的に旋回します。

・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

取扱いのポイント

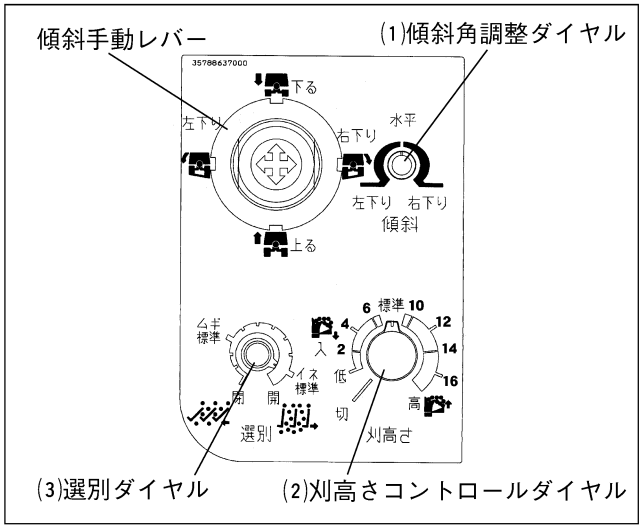
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか，確認してください。**
- **自動旋回および収納が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

(3) **排出オーガ緊急停止スイッチ**

・排出オーガが自動旋回中，または自動収納途中での，排出オーガ停止に使用します。

⑲ 自動調整ダイヤル

各自動制御の調整ダイヤルが，装備されています。



(1) **傾斜角調整ダイヤル**

傾斜角調整ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた，制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下り**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左下り**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。

(2) **刈高さコントロールダイヤル**

・刈高さの調節は，刈高さコントロールダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。

・刈高さコントロールダイヤルは，通常《**標準**》位置で使用します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。(モニタランプを消灯してください)**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さコントロールダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さ自動が設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

(3) **選別ダイヤル**

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《**ムギ標準**》－通常のムギ刈り作業は，この位置で行います。

《**イネ標準**》－通常のイネ刈り作業は，この位置で行います。

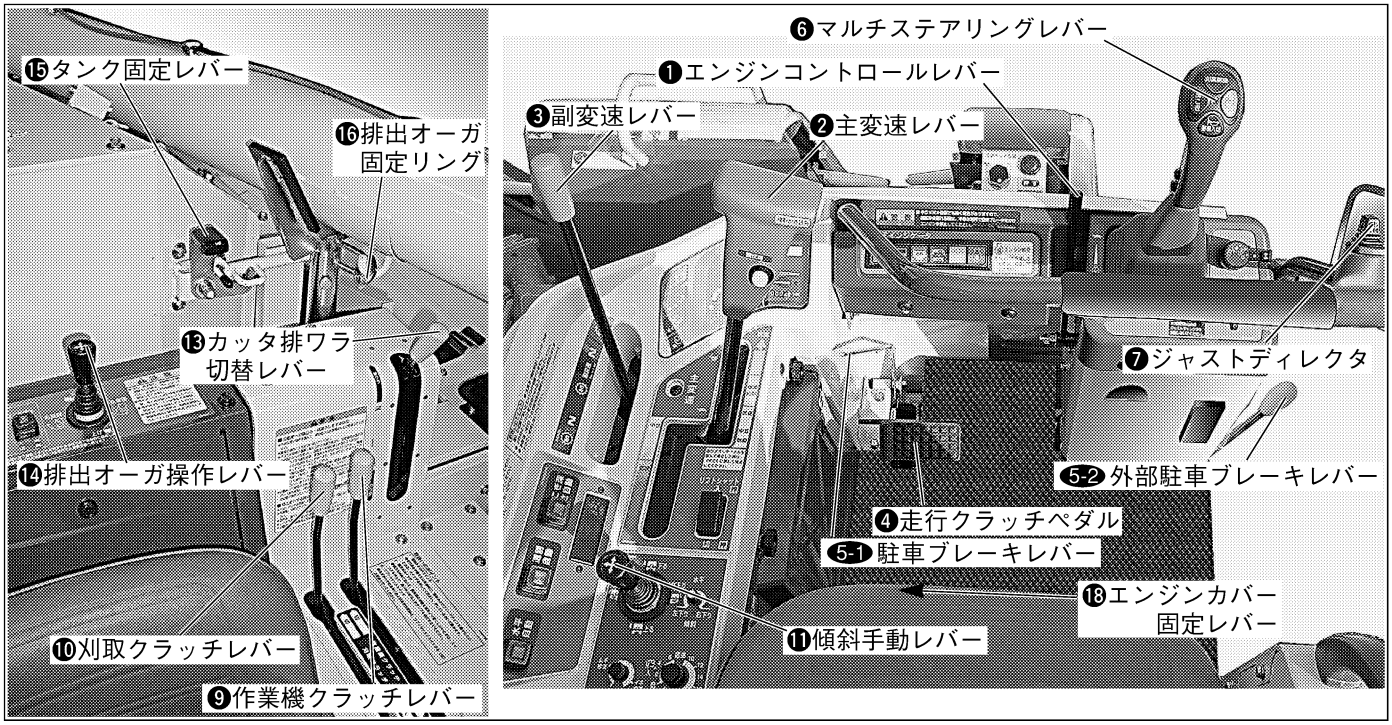
取扱いのポイント

- **選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯) 状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯) 状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」(ランプ消灯) の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《 入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

取扱いのポイント

- **⑰，⑱の詳細は，自動装置についての項 (57～65ページ) を参照してください。**

2．ペダル・レバー関係



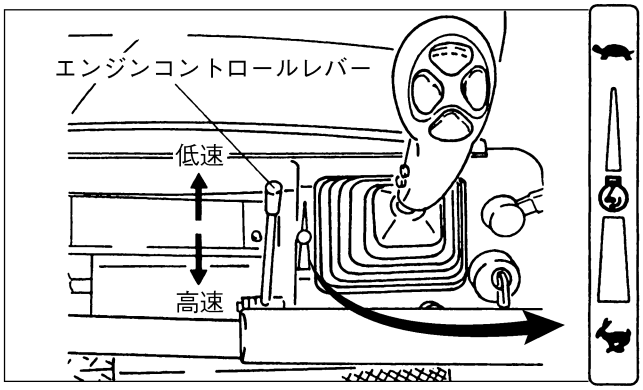
❶　エンジンコントロールレバー

エンジンを加速・減速するレバーです。

・「**始動**」のときは……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《 》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」のときは……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」のときは……《 》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



❷　主変速レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

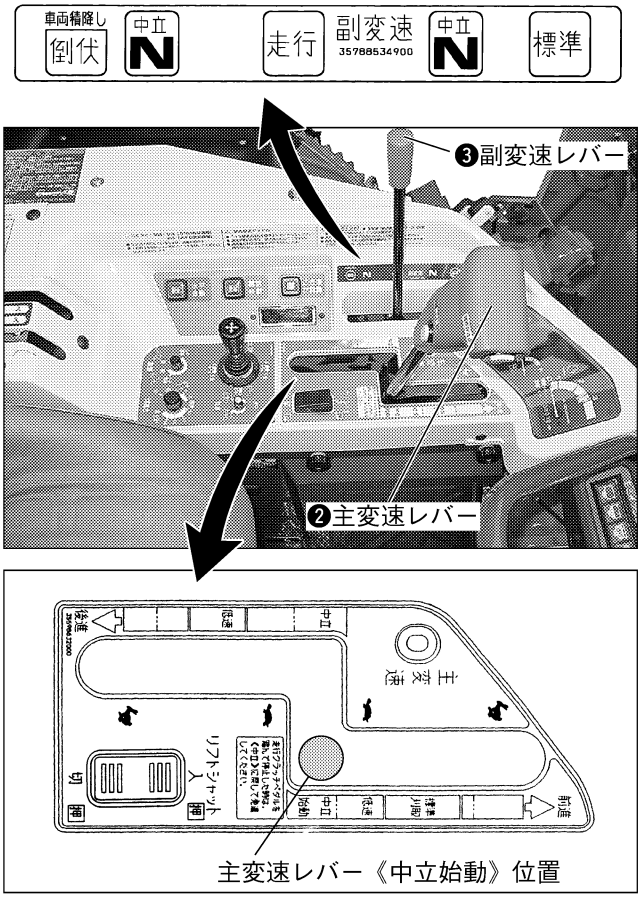
◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。

◆前後進の切替えは，機械が停止してから行なってください。

◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンを始動する時は，主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**) 位置にし，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。



作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	車両積降し 倒伏	[中立]から[前進・低速]
積降ろし		[中立]から[後進・低速]
路上，ほ場走行(前進)	倒伏 標準 走行	[中立]から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	倒伏　標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	[中立]から[標準刈取]
倒状刈取り	倒伏　標準	[中立]から[低速]または[標準刈取]
集中注油	N［中立］	[中立]から[標準刈取]

取扱いのポイント

- **副変速レバー《走行》で急旋回すると，主変速レバーが戻ることがありますので，《走行》では急旋回しないでください。**

❸　副変速レバー

作業目的や刈取り条件により《**車両積降し・倒伏**》(**低速**)，《**標準**》(**中速**)，《**走行**》(**高速**) の 3 段に変速ができます。

- 副変速レバー操作は，主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
- 自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**車両積降し・倒伏**》位置で行います。
- 刈取り作業は《**車両積降し・倒伏**》，または《**標準**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はできません。
- 見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**車両積降し・倒伏**》または《**標準**》で走行します。

❹ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《中立》に戻してください。戻さないで発進すると，急発進することがあります。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱい踏込むと，トランスミッションへの動力が断たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

つぎの操作を行うときには，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで行います。

・エンジンを始動するとき。

主変速レバーを《**中立始動**》（**前進側中立位置**）にし，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。

・副変速レバーを操作するとき。

取扱いのポイント

●走行クラッチペダルを半クラッチ状態で使用すると，走行ベルトが焼損する恐れがあります。

❺-1 駐車ブレーキレバー

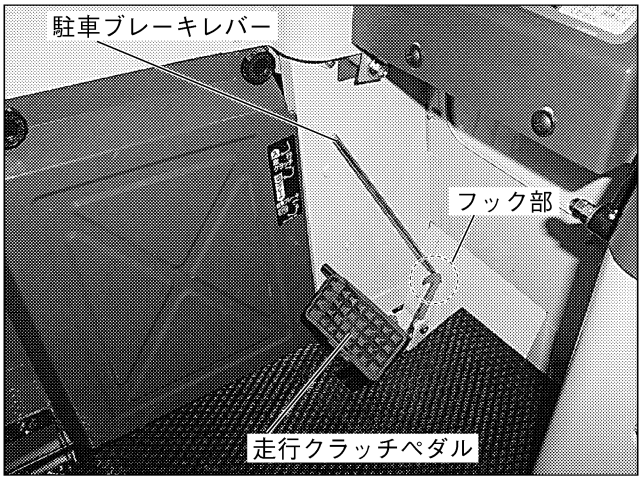
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をします。

◆駐車ブレーキは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，レバーを操作してペダルに駐車ブレーキレバーのフック部をかけます。

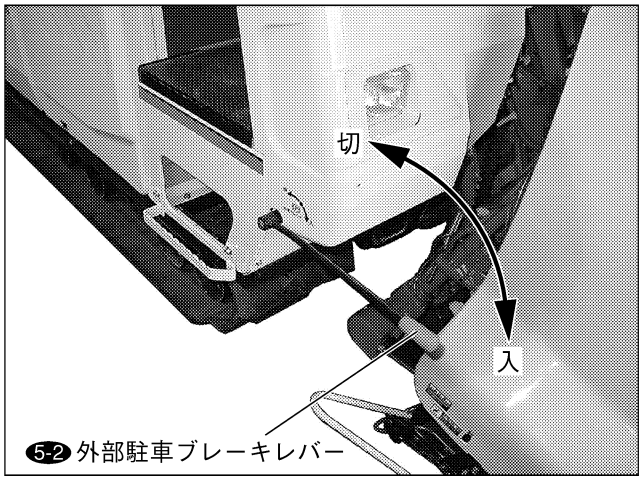
解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的に駐車ブレーキフックが外れます。



❺-2　外部駐車ブレーキレバー

外部より駐車ブレーキをかけるときに使用します。

・外部駐車ブレーキレバーを前方（《**入**》方向）に倒すと駐車ブレーキがかかります。
・外部駐車ブレーキレバーは運転席から降りて，機械の停止操作を行うときに使用します。



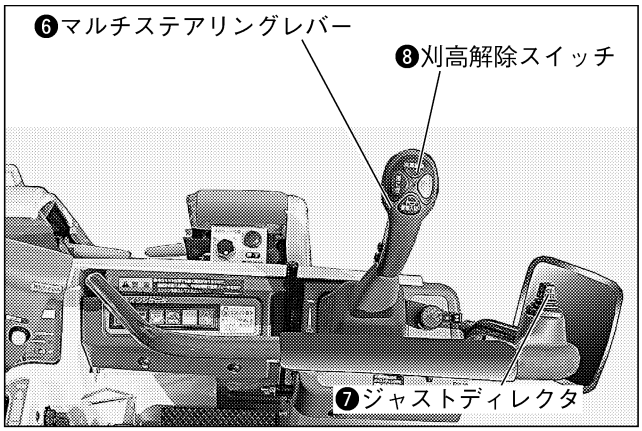
取扱いのポイント

●機械を駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキフックレバーを「固定」方向に倒してください。
外部駐車ブレーキレバーは，外部より駐車ブレーキをかけるときに使用してください。

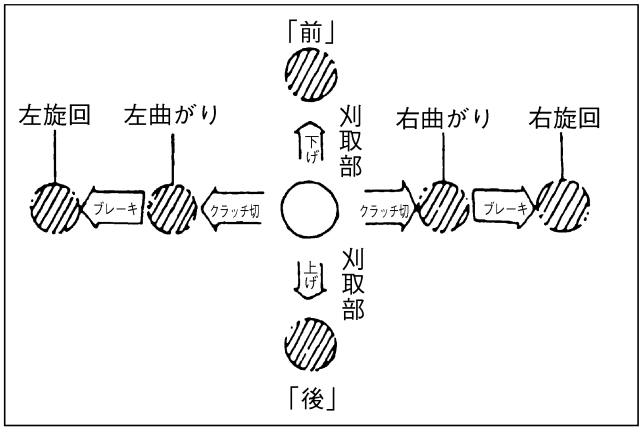
❻　マルチステアリングレバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行なってください。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。



・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。

取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

機械の進行方向を微調整するスイッチです。

・ジャストディレクタを《**左**》に倒すと左方向に，《**右**》に倒すと右方向に機械の進行方向を修正します。

・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

- **ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。**
- **ジャストディレクタは旋回力が小さいので，旋回には使用しないでください。**

❽ 刈高解除スイッチ

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを，解除するスイッチです。

刈高解除スイッチを押しながら，マルチステアリングレバーを《**下げ**》にすると，刈取部は刈高さポジションコントロール位置に関係なく，通常のマルチステアリングレバー操作の「**下げ**」となります。

取扱いのポイント

- **レバーの刈高解除スイッチの操作については，「刈高さポジションコントロール」(60〜61ページ）を参考に取扱いをしてください。**

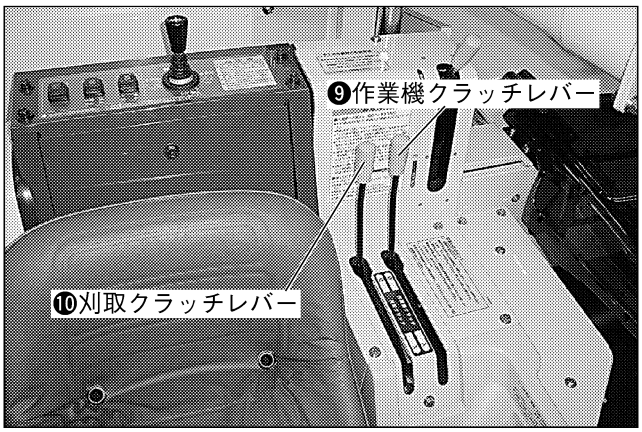
❾ 作業機クラッチレバー
❿ 刈取クラッチレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業機クラッチレバー，または刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆エンジンを始動する場合は，作業機クラッチレバー，または刈取クラッチレバーを《切》にしてください。

・**作業機クラッチレバー**は，脱こく部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。



取扱いのポイント

- **刈取り作業を行うとき，作業機クラッチレバーは回転計のそれぞれの「色別表示」（作業範囲）以下では《入》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

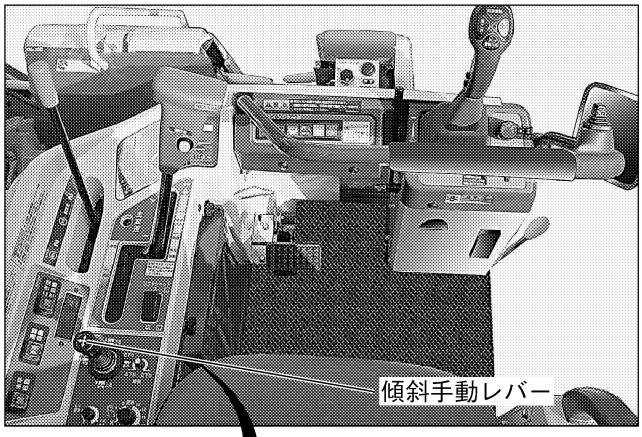
・**刈取クラッチレバー**は，刈取部の運転・停止を操作するクラッチレバーです。

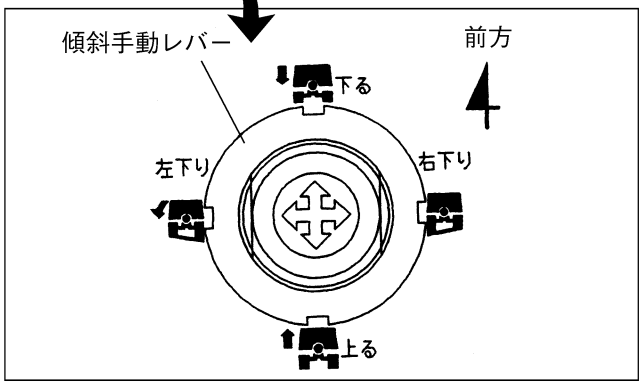
刈取クラッチレバーを《**入**》にすると，作業機クラッチレバーも連動して《**入**》となります。また，作業機クラッチレバーを《**切**》ると，刈取クラッチレバーも連動して《**切**》となります。

⓫ 傾斜手動レバー［L 仕様］

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右下げ**」「**左下げ**」をします。

・レバーを《**上る**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下る**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右下り**》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。
・レバーを《**左下り**》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。

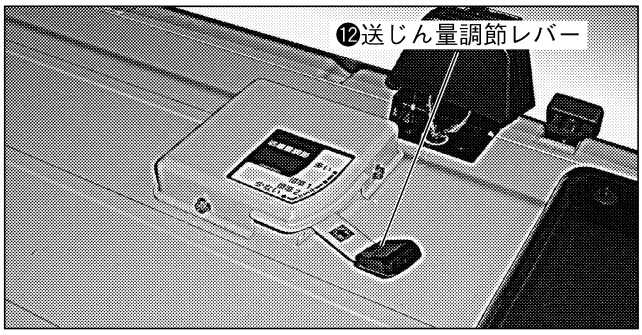


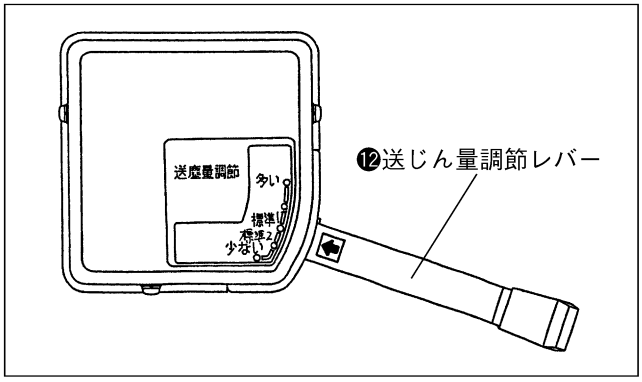


取扱いのポイント

●刈取り作業時以外は，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて使用してください。

⓬ 送じん量調節レバー





こぎ室内の送じん量を調節します。

《**標準 1**》位置で作業を始め，作業の状態に合わせて調節します。

・モミに枝梗付着があるときは，《**標準 2**》位置で使用します。
・モミに枝梗付着が多いときは，《**少ない**》側で使用します。
・こぎ室内でゴトゴト音がして送じんがスムーズでないときは，レバーを《**多い**》側で使用します。（倒伏時など）

⓭　カッタ排ワラ切替レバー

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送途中にないことを確認してから行います。





《**カッタ**》……ワラをカッタで切断します。

《**排ワラ**》……ドロッパ作業，ワラをそのまま排出する作業。

⓮　排出オーガ操作レバー

> ⚠警告　傷害事故防止のために
>
> ◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

排出オーガを《**上げ**》,《**下げ**》および《**左**》旋回,《**右**》旋回させるレバーです。

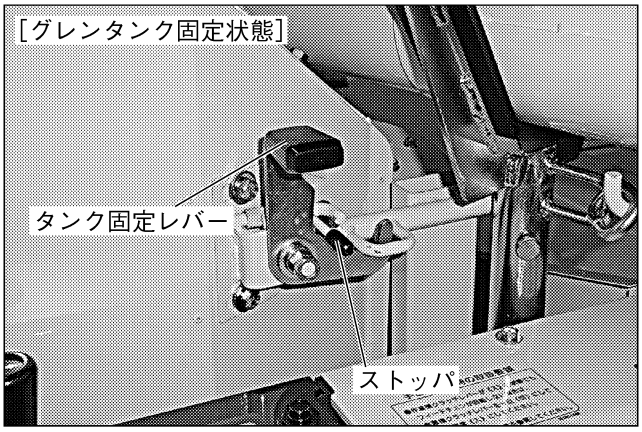


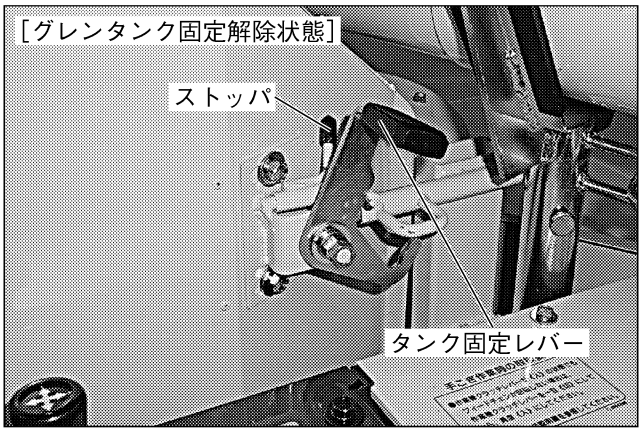
・排出オーガを旋回するときは,排出オーガを《**上げ**》てから行います。

⓯　タンク固定レバー

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（オープン）するときは，ストッパを解除し，タンク固定レバーのロックを解除します。



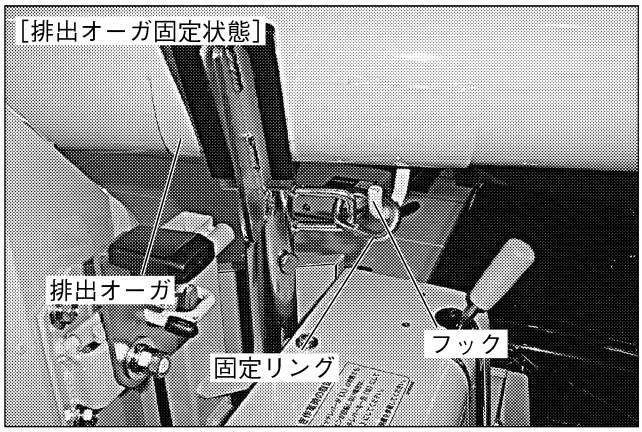


グレンタンク回動（オープン）以外のときは，タンク固定レバーを固定状態とし，ストッパをかけ，タンクを固定状態にしておきます。

⑯ 排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

排出オーガを操作する前に，固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定リングをフックにかけておきます。

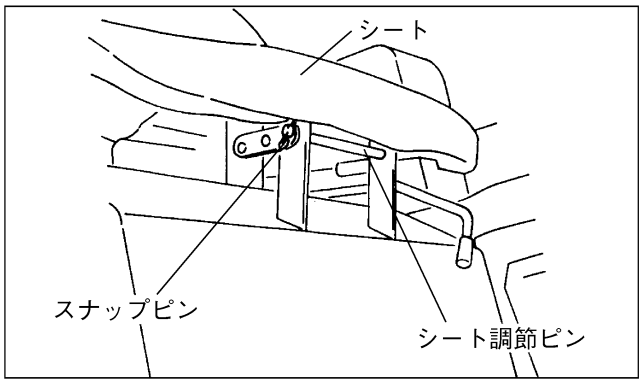




⑰ シート調節ピン

運転者の体格に合わせ着座位置が，シート調節ピンで3段階に調節できます。

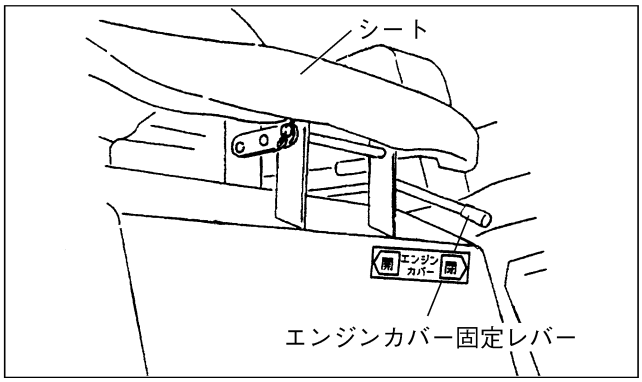
スナップピンを外し，シート取付穴の位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



⑱ エンジンカバー固定レバー

エンジンカバーを開く時に使用します。

(1) エンジンカバー固定レバーを機体右方に引き，固定を外します。

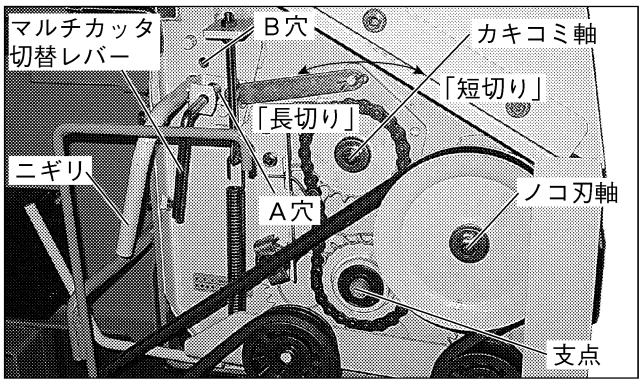


(2) エンジンカバーをゆっくり外側に開きます。



⑲ マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］

マルチカッタ切替レバーとニギリを同時に握ることで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，自由に回動します。この状態で，「A穴」または「B穴」にマルチカッタ切替レバー位置を合わせて，差し込むことにより「短切り」，「長切り」に切替え操作ができます。



3．電装関係

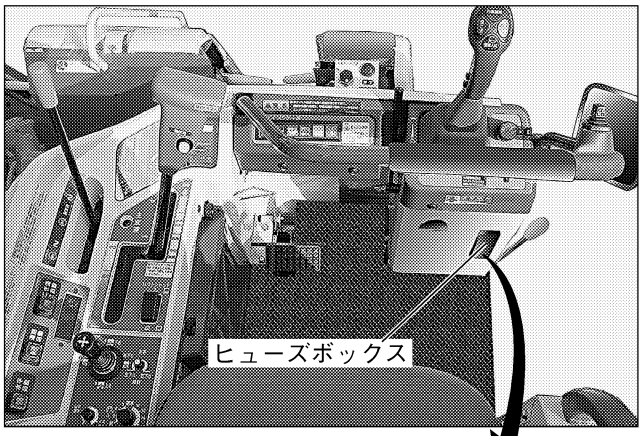
⚠警告　火災防止のために

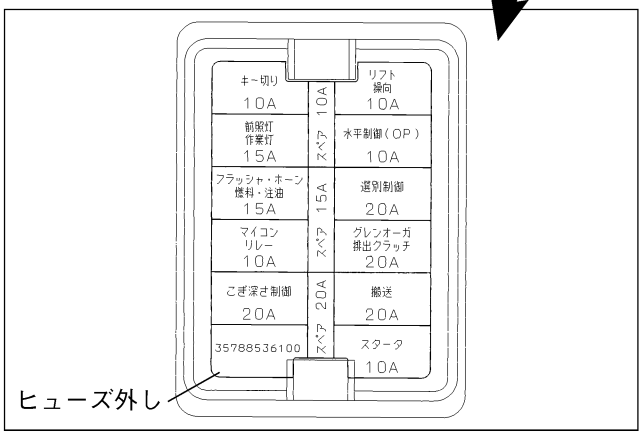
◆取付けてあるヒューズと,同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

運転中,電気系統の異常を確認したときは,ヒューズの状態をチェックします。

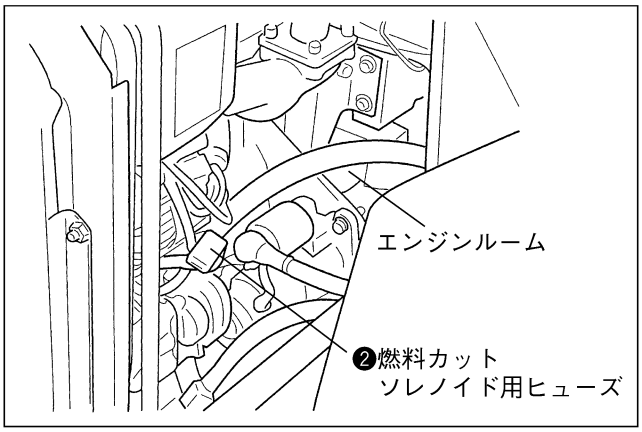
❶　ヒューズボックス内の各種ヒューズ





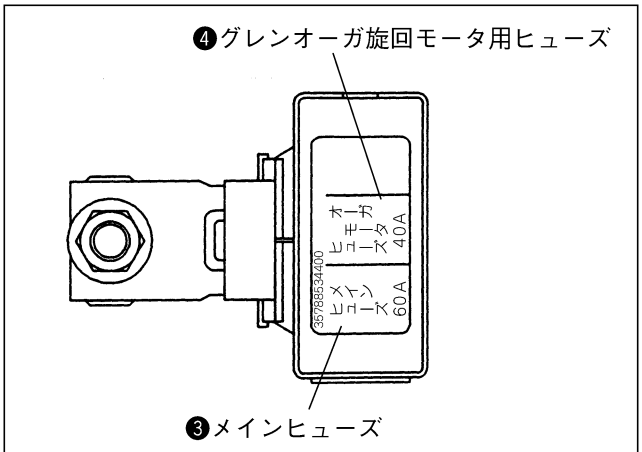
❷　燃料カットソレノイド用ヒューズ（50Ａ）

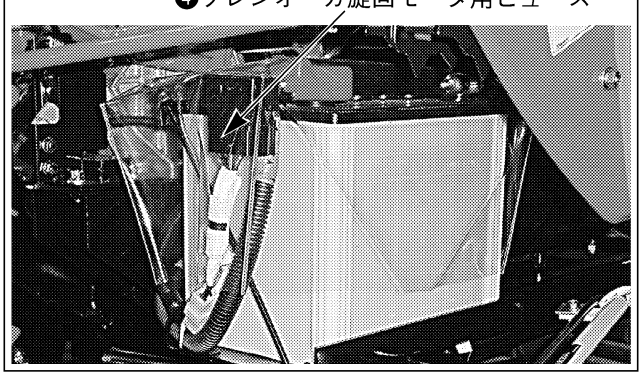
始動時に，燃料供給するためのソレノイド起動用ヒューズです。このヒューズが切れると，エンジン始動ができなくなります。



❸　メインヒューズ（60Ａ）

全ての電気回路の保護ヒューズです。このヒューズが切れると全ての電気回路が使用できなくなります。





❹ グレンオーガ旋回モータ用ヒューズ（40A）

オーガ旋回モータ用保護ヒューズです。

❺ ヒューズの交換

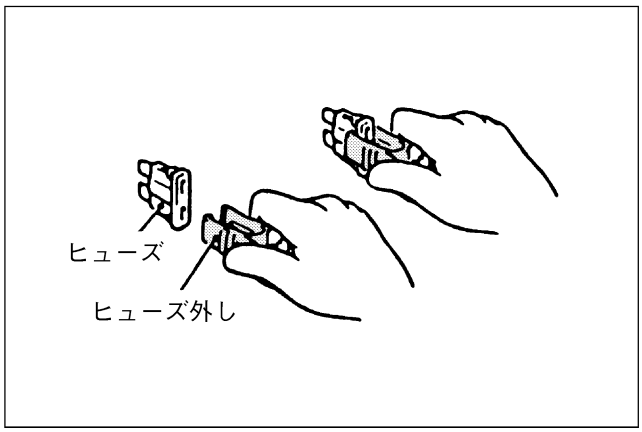
(1) ブレード（板）ヒューズの交換

❶ヒューズボックス内の各種ヒューズは,ブレードヒューズを使用しています。

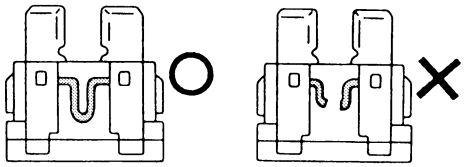
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは,次のように処置してください。

① スタータスイッチを《切》位置にします。

② ヒューズボックスの蓋を開き，ヒューズ外しを使って，ヒューズを引抜きます。(ヒューズ外しは，ヒューズボックスの中に入っています)



③ ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



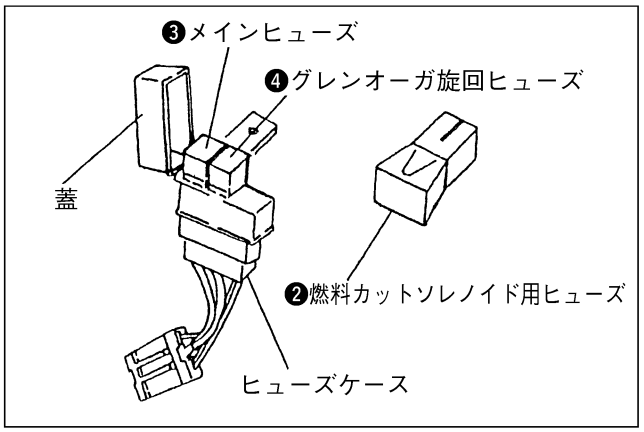
(2) ヒューズ（大電流用）の交換

❷燃料カットソレノイド用ヒューズ，❸メインヒューズ，❹グレンオーガ旋回モータ用ヒューズは，大電流用ヒューズを使用しています。

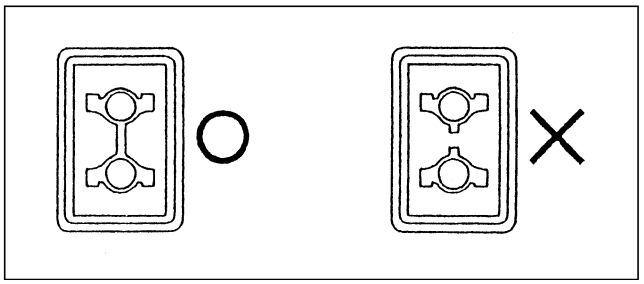
① バッテリ（−）端子を外します。

② ❸メインヒューズ，❹グレンオーガ旋回モータ用ヒューズは，ヒューズケースの蓋を開きます。

③ ❷燃料カットソレノイド用ヒューズは，テープをはがして配線から外し，ヒューズケースを開きます。



④ ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであれば,ヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



取扱いのポイント

- **交換してもヒューズが切れるときは,「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❻ ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

収納個所	影響の出る機能 ／ ヒューズの種類と容量	エンジン始動	計器類のモニタランプ	前照灯・作業灯	ホーン	バックブザー	燃料の供給	マルチステアリングレバー	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	選別自動制御	水平自動制御(OP)	こぎ深さ自動制御	方向自動制御(OP)	刈高ポジションコントロール	方向指示器	こぎ深さ手動操作	傾斜手動操作(OP)	刈取・フィードチェン駆動	エンジン自動停止	エンジン停止スイッチ	ジャストディレクタ	エンジン回転負荷モニタ	こく粒排出	集中注油	予熱ランプ
ヒューズボックス内	スタータスイッチ 10A	×																								
	キー切り 10A	×																								
	前照灯･作業灯･パイロットランプ 15A		×	×																			×			×
	フラッシャ･ホーン･燃料ポンプ･集中注油モータ 15A				×	×	×									×									×	
	マイコン・リレー 10A				×	×		×	×	×	×	×	×	×	×		×	×		×	×	×	×	×			
	リフト・操向 10A							×		×		×		×	×			×					×				
	水平自動制御 10A											×						×									
	こぎ深さ自動制御 20A												×				×										
	搬送自動制御 20A																		×								
	選別自動制御 20A										×																
	グレンオーガ･排出クラッチ 20A									×															×		
ヒューズケース内	燃料カットソレノイド 50A	×																									
	メイン 60A	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	グレンオーガ旋回モータ 40A								×																		

（OP……オプション）

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠危険 火傷や火災防止のために

◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行なってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行なってください。

「**運転まえの点検表**」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー および金網 ラジエータフィン オイルクーラフィン	・金網の目詰まりはありませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	82
マフラやエンジン回り， サイドカバー（上）（下）	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	―
油漏れ	・各給油個所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	70～81
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	121
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	85

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	82〜83
エンジンオイル (エンジンクランクケース)	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	72〜73
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。 （給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	73〜74
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	—
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。 タンク容量：30 L	72
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	22〜24
方向指示灯などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	22〜24
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「**後進**」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	22〜24
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・バッテリを充電する。 ・異常個所を調べ，処置する。	72〜73 86〜88
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・異常個所を調べ，処置する。	—
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・異常個所を調べ，処置する。	—
走行クラッチペダル	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に作動しますか。	・異常個所を調べ，処置する。	126
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	129〜139

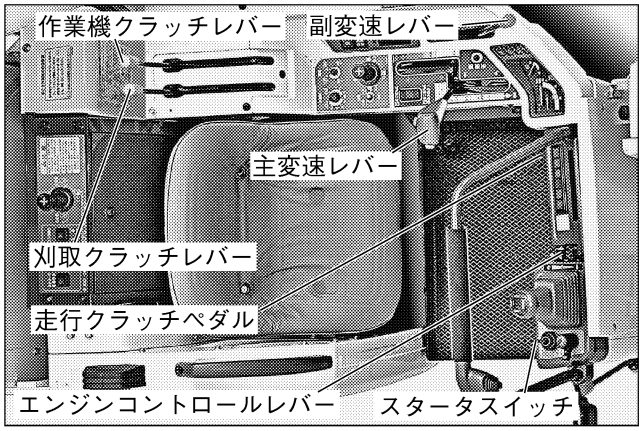
2．エンジンの始動と停止

⚠警告　傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。
◆変速レバーが《N》《中立》，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動は座席に座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー,副変速レバー《N》《中立》にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバー《切》で駐車ブレーキをかけて行なってください。運転者はエンジンをかけた状態では，機械の周囲から離れないでください。
◆空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。
◆カバー類は，すべて取付けてください。

1．エンジン始動のしかた

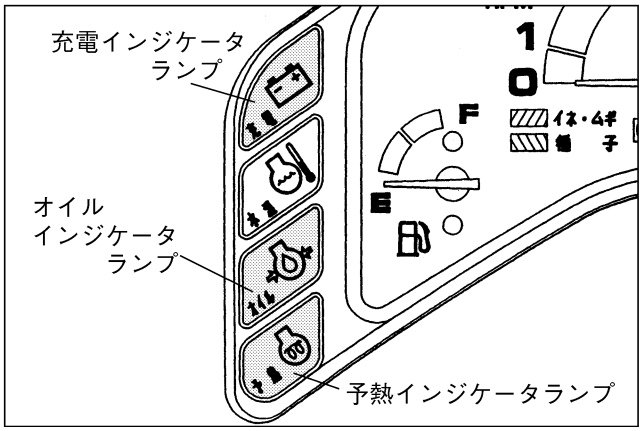
❶　主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**)，副変速レバーを《**N**》(**中立**) にします。



❷　作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《**切**》位置にあることを確認します。

❸　エンジンコントロールレバーを《 》(**高速**) 位置にセットします。

❹　スタータスイッチを《 **入**》位置にし，「**オイル**」「**充電**」「**予熱**」のインジケータランプが点灯することを確認します。



❺　「**予熱インジケータランプ**」が消えるまで待ちます。(約 3 秒)

❻　走行クラッチペダルをいっぱい踏込み,スタータスイッチを《 **始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❼　始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

●**主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置) にし，作業機クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
●**エンジン始動後,「オイル」「充電」のインジケータランプが消灯することを確認してください。**
●**スタータスイッチは，５秒以上の連続使用はしないでください。**
セルモータは短時間に大きな電力を消費します。５秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となりますので避けてください。

2．エンジン停止のしかた

❶　エンジンコントロールレバーを《 》(**低速**) にします。

❷　スタータスイッチを《 **切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3．走行・停車のしかた

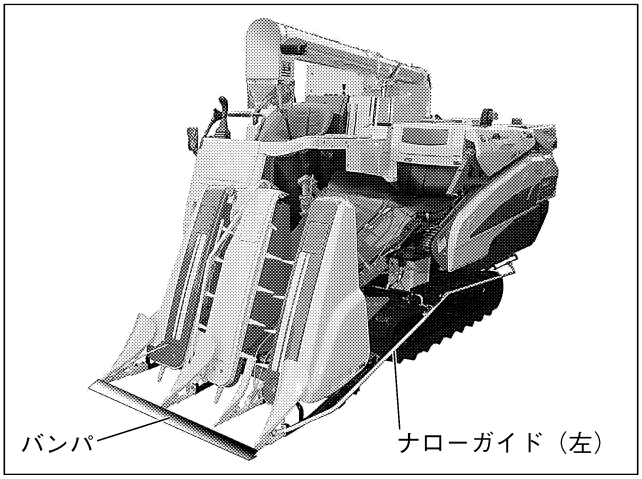
1．走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

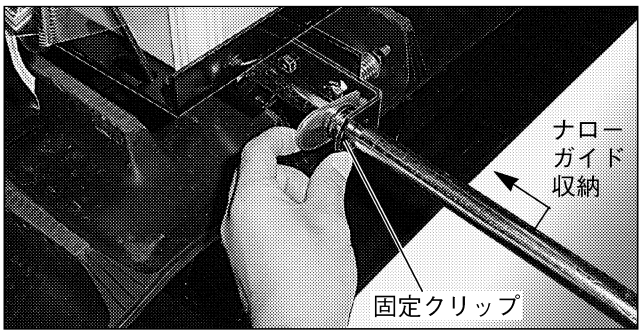
◆公道走行は，交通法規を守って運転してください。
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●排出オーガ受を「下セット」にします。
◆走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは，周囲を確認し速度を落としてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてください。［L 仕様］
◆方向自動スイッチを「切」にしてください。［A仕様］
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は，走行しないでください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械に乗せないでください。
◆走行中に走行クラッチペダルを踏んで停止するときは，主変速レバーを《中立》に戻し，発進するときは，低速から徐々に速度を上げてください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物などに当てないようにしてください。

次のことを守り，運転をします。

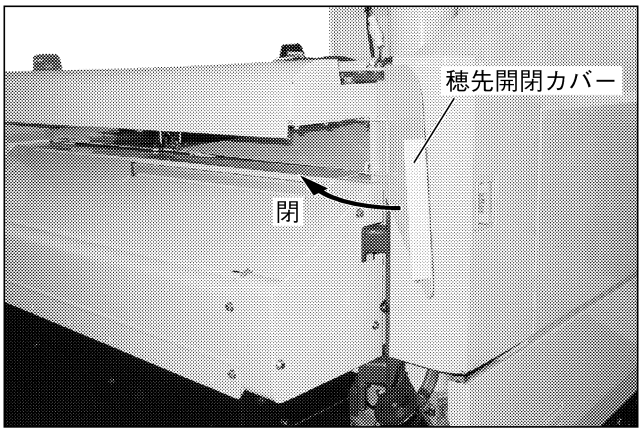
❶ デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けます。



❷ 「**ナローガイド（左）**」を内側に収納します。

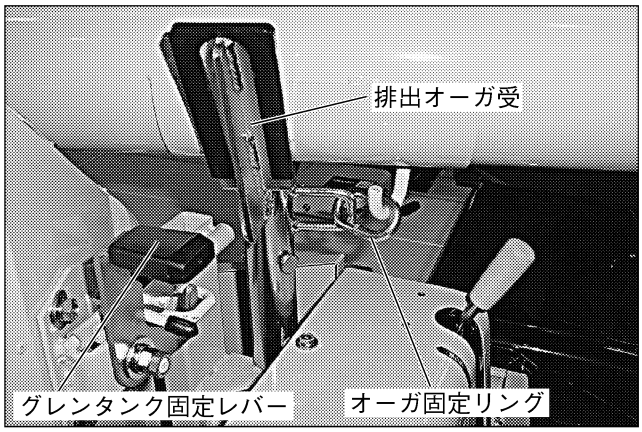


❸・公道を走行するときは，カッタ以外のアタッチメントを取外します。
・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。



❹　グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❺　排出オーガ受を「**下セット**」にします。（36ページ参照）排出オーガ，グレンタンクの「**固定レバー**」がかかっていることを確認します。

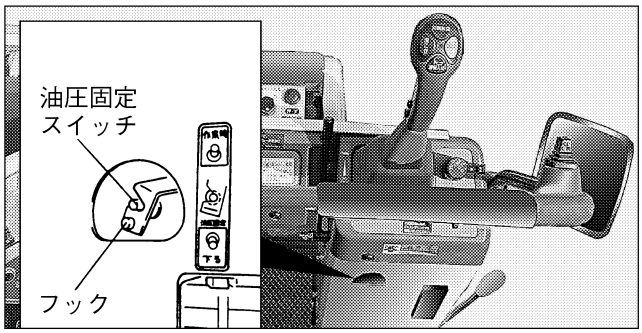


❻　作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**切**》にし，自動スイッチをすべて「**切**」にします。

❼　エンジンを始動し，エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❽　マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**30㎝**」程度上げます。

❾　油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ刈取部を固定します。



❿　「**L仕様**」は，水平自動スイッチを「**切**」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

⓫　副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓬　主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓭　路上走行で方向を変えるときは，方向指示灯を点灯し合図をします。

⓮　発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンで行います。

⓯　路上走行時，作業灯は消灯します。

2．停車のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げ，排出オーガを収納位置に戻して，各操作レバーを《N》《中立》に入れてください。エンジン停止後，副変速レバーを《倒伏》に入れてください。

◆機械を燃えやすいものの近くには，止めないでください。

◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。

❶　主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

❷　駐車ブレーキをかけます。

❸　エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，5分間程度空運転を行います。

❹　エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にして，エンジンを停止します。

❺　副変速レバーを《**倒伏**》に入れて，駐車ブレーキレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- **駐車ブレーキを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。**
- **走行クラッチペダルは，半クラッチでは使用しないでください。走行ベルトが焼損する恐れがあります。**

4．自動車への積込み･積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で固い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，次のことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車を停車し，アユミを自動車にセットするときは，アユミが傾いたりしない平坦で固い場所を選び，自動車は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

●アユミは，強度，長さ，幅とも基準を満たしたすべり止め・フック付きのものを使用します。

●アユミのフックは段差のないように，また外れないように荷台に平行にかけます。

◆機械は積込む前に，グレンタンク内のこく粒はすべて排出してください。

●［L仕様］は，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

●［A仕様］は，方向自動スイッチを「切」にします。

◆積込み・積降ろしは，補助者立会誘導のもとに行なってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように,左右のクローラをアユミの中央に真直ぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が６㎝以上ある場合は，段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。

◆自動車への積込み・積降ろし中は，次の操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

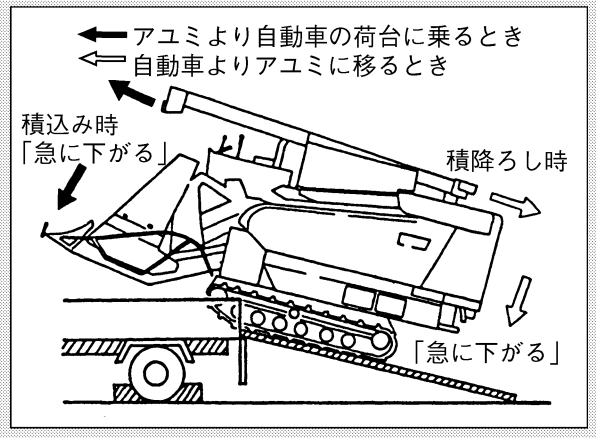
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・駐車ブレーキレバー
・ジャストディレクタ

は，アユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，低速で行なってください。

◆機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づいてください。



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆防じんカバーが開いていると，風圧で防じんカバーが破損・脱落の恐れがありますので，閉じてロープなどで浮上がりを防いでください。［A仕様］

◆積込みが終わったら機械のフレームの４隅のフックに，ロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは，他の物のけん引には使用しないでください。

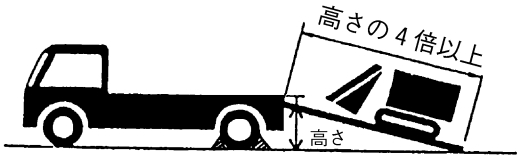
1．自動車・アユミについて

❶　最大積載量2,000kg以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。

・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

❷　自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**歯止め**」をします。

❸　アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	50㎝以上
数量	２枚
強度	１枚が1,500kg以上の重量に耐えるもの

❹　アユミは，機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**外れ**」たりしないようにセットします。

❺　機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶　ナローガイドを収納します。（28ページ参照）
グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。

❷　エンジンを始動して，エンジンコントロールレバーでエンジン回転を「**2000回転**」程度にします。

❸　刈取部をいっぱい上げます。

❹　積込みは，主変速レバー《**前進・低速**》，副変速《**倒伏・車両積降ろし**》で行います。

❺　積降ろすときは，主変速レバー《**後進・低速**》，副変速《**倒伏・車両積降ろし**》で行います。

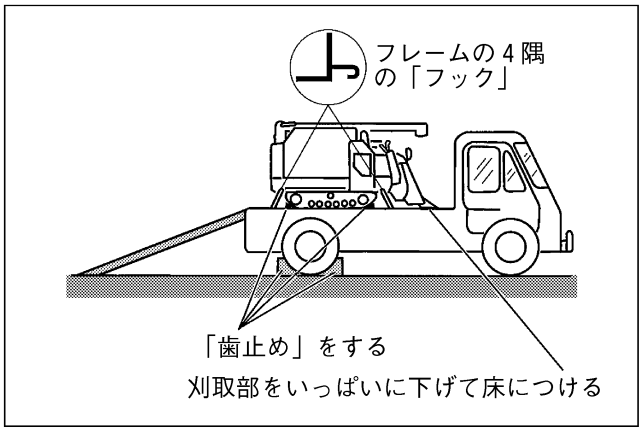
❻　積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❼　積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。

❽　補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾　自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**歯止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ，またはワイヤをかけて固定します。

❿　刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，深こぎ側へいっぱいに下げておきます。

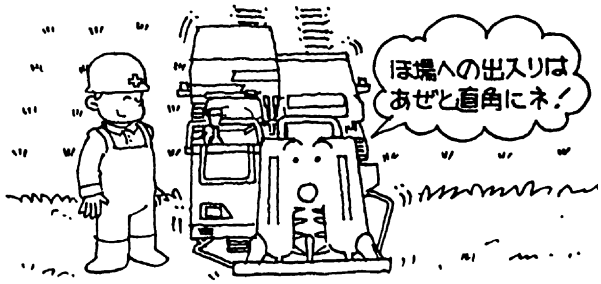


5．ほ場への出入り

⚠警告　傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行なってください。
◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆［L仕様］は，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてください。
◆［A仕様］は，方向自動スイッチを「切」にしてください。
◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行なってください。

1．ほ場への出入りのしかた



❶　刈取部を上げ，エンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《**倒伏・車両積降ろし**》，主変速を《**低速**》または《**後進・低速**》にしてあぜに直角に走行します。
❷　アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

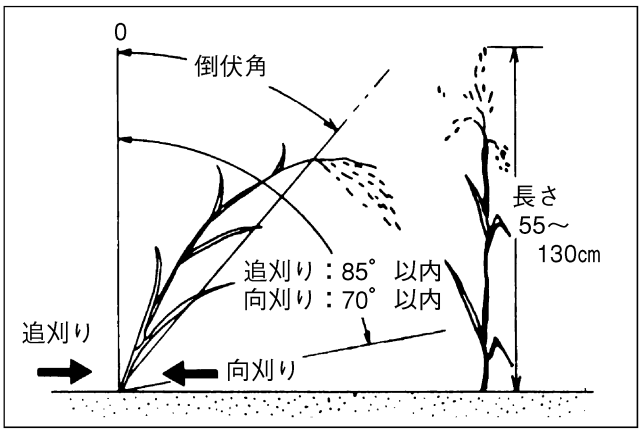
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物(雨あがり・朝露)の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は「手刈り」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

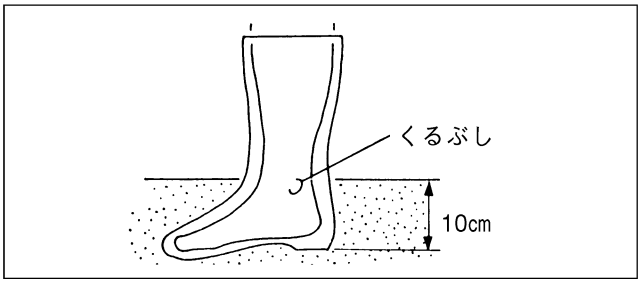
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

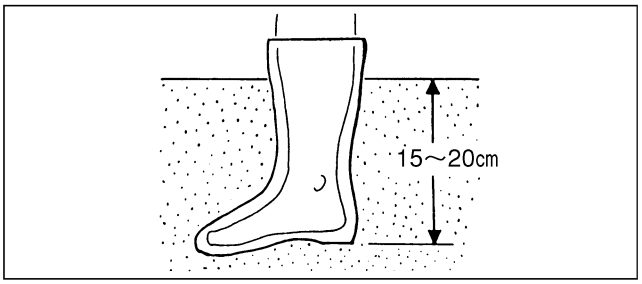
2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「くるぶし」（10㎝）までは作業ができます。



・［L仕様］は沈下量が「15～20㎝」までは作業ができます。

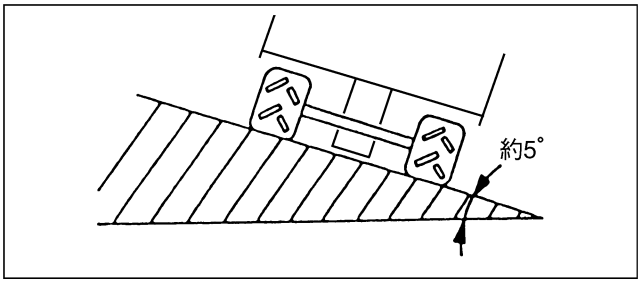


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡は，なるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度5°以上では，刈取り作業はできません。



取扱いのポイント

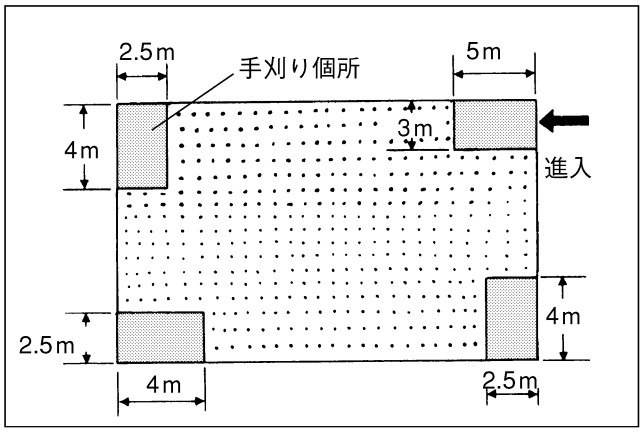
●適応範囲を越えての作業はできません。行わないでください。

●ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3．ほ場の準備

手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



取扱いのポイント

- ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。
- カマ差しは，脱こく部の上面にあります。



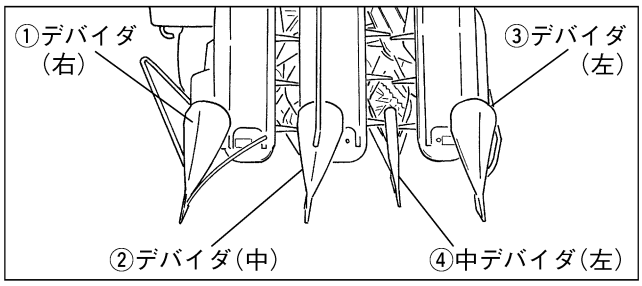
4．機械の準備

❶ デバイダの上下調整

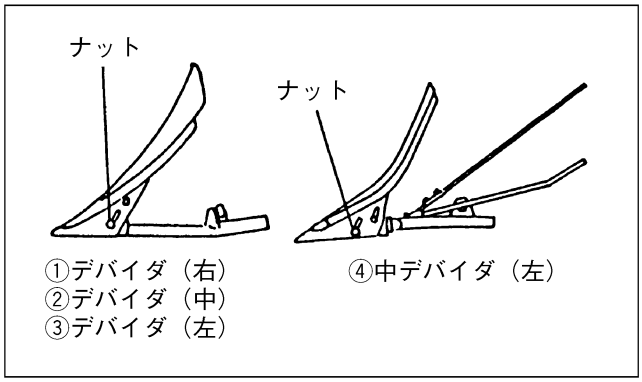
次のような場合は，デバイダを「下側」にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットをゆるめて，デバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。



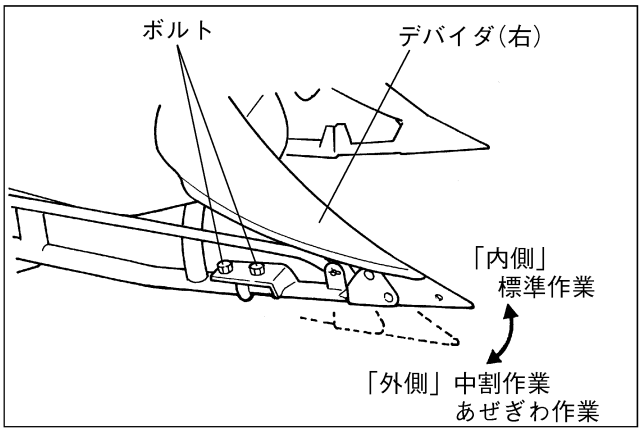
取扱いのポイント

- デバイダは，すべて同じ高さになるようにセットしてください。

❷ デバイダ（右）の調整

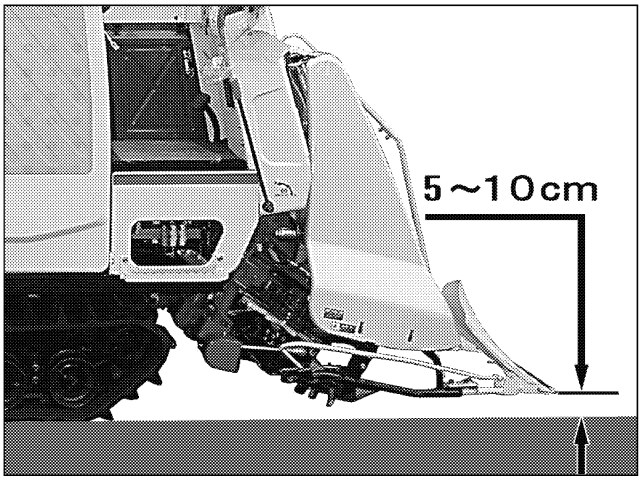
・デバイダ（右）は「**内側**」位置が標準です。

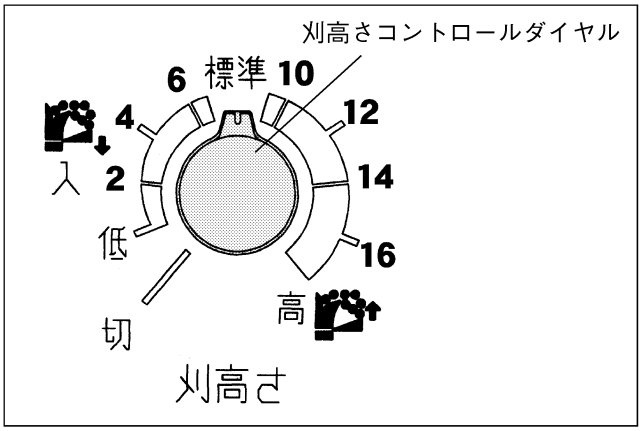
・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，２本のボルトをゆるめて「**外側**」の位置にいっぱい広げ，締付けて固定します。



❸ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「５～10cm」になるように刈高さコントロールダイヤルで調整します。



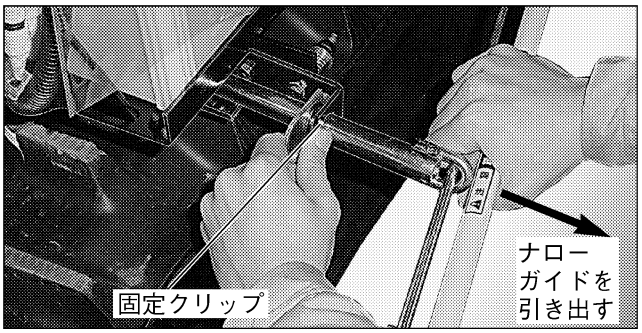


・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❹ ナローガイド（左）の調整

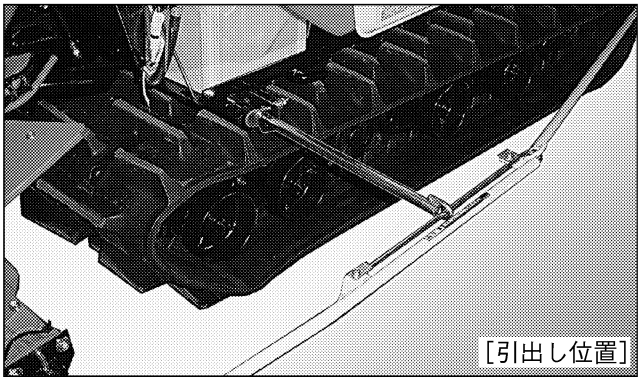
通常作業位置への開きかた

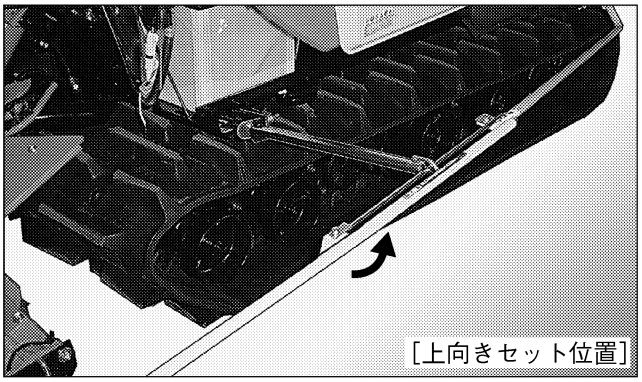
ナローガイド（左）の固定クリップを指で強くつまんで，ナローガイドの固定を外し，ナローガイドを引出し，作業状態にします。



取扱いのポイント

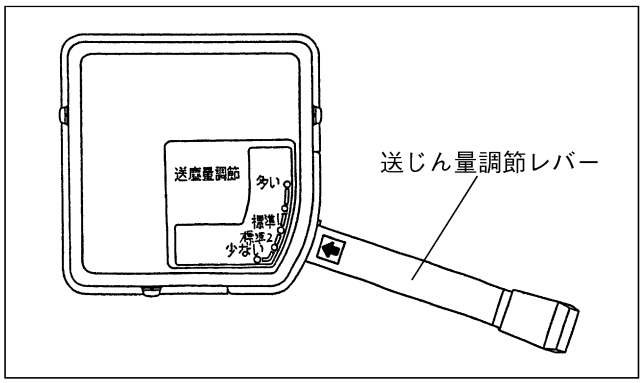
- **長稈材等で未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。**
- **ナローガイドを引出した状態で上に引き上げます。こうする事で，ナローガイドは上向きになったまま固定されています。（上向セット）**





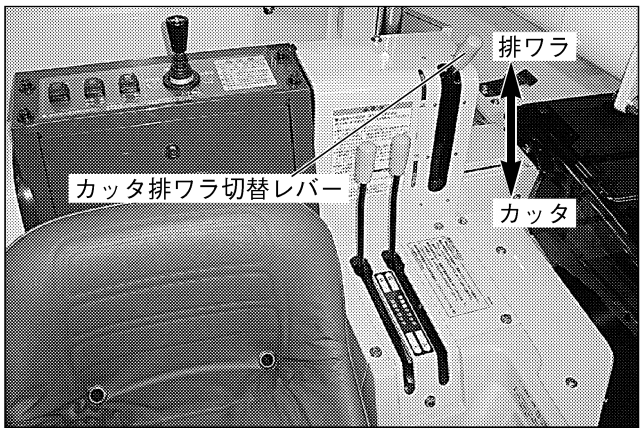
❺ 送じん量調節レバーの調整

送じん量調節レバーを《**標準１**》位置にします。

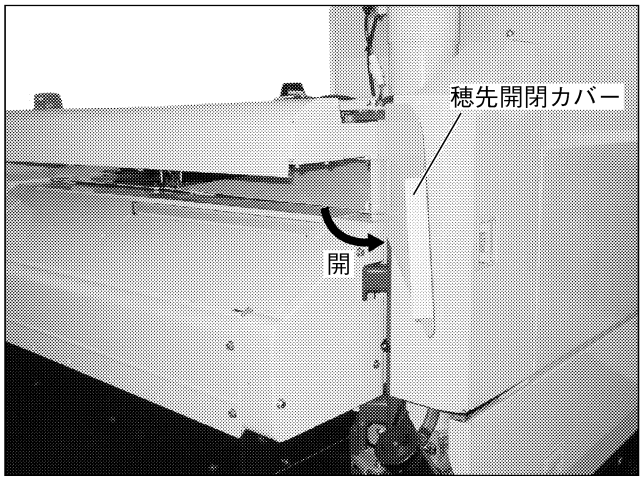


❻ カッタ・排ワラ切替レバーの調節

⑴ 作業内容に合わせて，切替レバーで《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切替えを行います。



⑵ 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❼ 排出オーガ受のセット

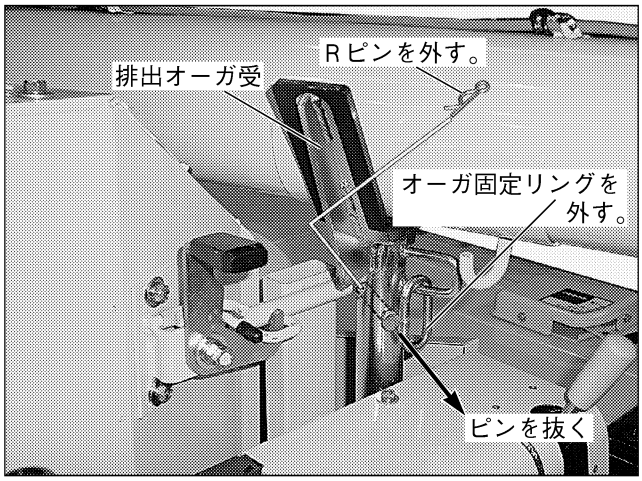
> ⚠注意 ◆刈取り作業時には，排出オーガを固定リングで，固定してください。
> ◆路上走行時は，排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は，「**下セット**」で出荷されています。

⑴ オーガ固定リングを外し，排出オーガを《**上げ**》ます。(44ページ参照)

⑵ 排出オーガ受を止めているピンのＲピンを抜き，ピンをブラケットから抜きます。

「**出荷状態（下セット）**」

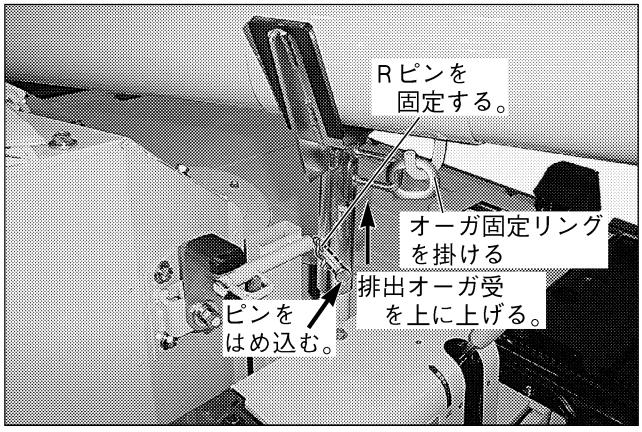


⑶ 排出オーガ受「**上位置**」のセット穴と，ブラケットの穴を合わせます。

⑷ ピンを差込んで，Ｒピンで止めます。

⑸ 排出オーガを《**下げ**》フックにオーガ固定リングを掛けます。

「**上位置セット**」



2．刈取り作業のしかた

麦刈り作業時の調整のしかたは，56ページを参照してください。

1．刈取り操作の手順

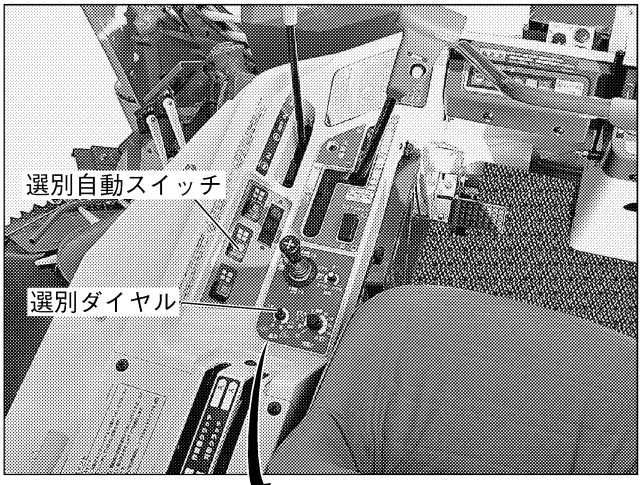
⚠警告 傷害事故防止のために

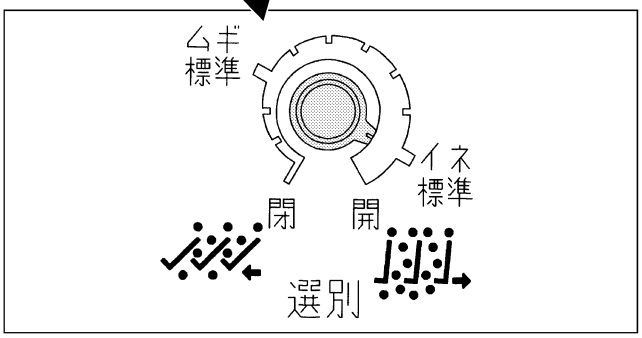
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを《中立》に戻してください。発進するときは，低速から徐々に速度を上げてください。

❶ エンジンを始動し，刈高・こぎ深・選別自動スイッチが点灯していることを確認します。

❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。

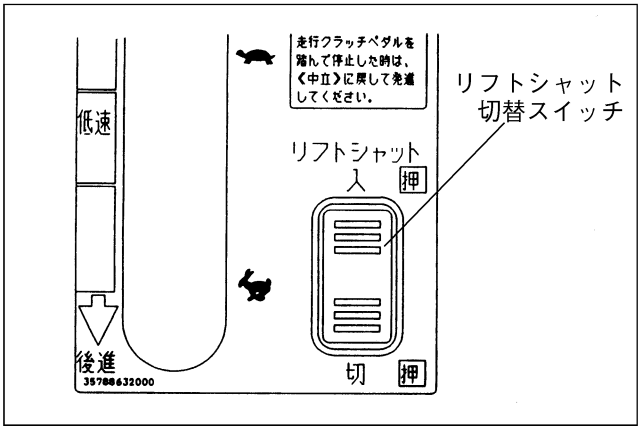




・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項63ページを参照。

各自動装置の取扱いは57～65ページを参照します。

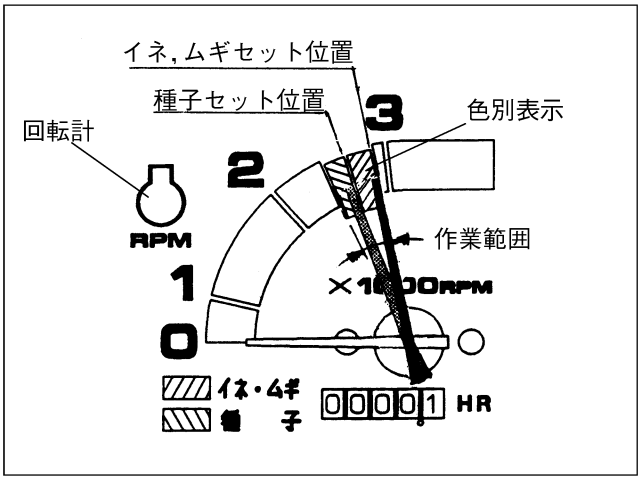
❸ リフトシャット切替スイッチを《**入**》位置にします。（取扱い方法は47ページ参照）



❹ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。（39ページ参照）

❺ エンジン回転を調整します。

作業機クラッチレバーを入れ，回転計の指針が「**色別表示の上限**」になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。



取扱いのポイント

- **刈取り作業中は，「色別表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。

❻　作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》位置にします。

取扱いのポイント

- **作業機クラッチレバーを《切》→《入》としますと，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **刈取クラッチレバーを《入》にしますと，前処理搬送とフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。（走行停止状態では前処理およびフィードチェン搬送は停止します）**
- **前処理，フィードチェン搬送停止時に，刈取クラッチレバー《入》→《切》としても，安全のため，フィードチェン搬送も停止したままとなります。**
  手こぎ等でフィードチェンを回転させたいときは作業機クラッチレバーを一旦，《切》としてから再度《入》としてください。

手こぎ作業のポイント	
作業機クラッチ《**入**》 刈取クラッチ《**入**》 から作業する場合	①刈取クラッチ《**切**》
	②作業機クラッチ《**切**》
	③作業機クラッチ《**入**》（入れ直す）
	④脱こくフィードチェンのみ回転
作業機クラッチ《**切**》 刈取クラッチ《**切**》 から作業する場合	①作業機クラッチ《**入**》
	②脱こくフィードチェンのみ回転

❼　最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。（作業速度の選びかた39ページ参照）

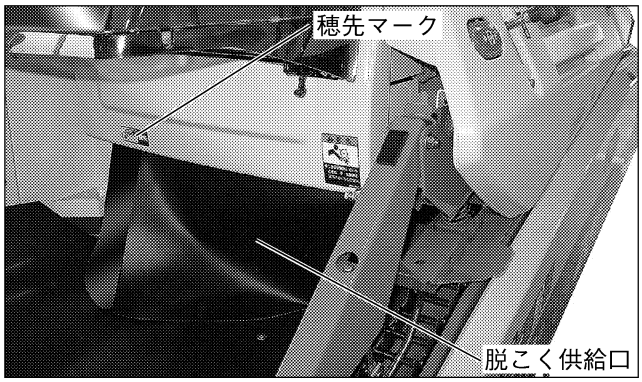
❽　方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

［A仕様］

・方向自動制御を使用する場合は，「**方向自動制御の取扱い**」の項58～59ページを参照。
・**ジャストディレクタ**で方向修正を行うとスムースに修正できます。

❾　**適正こぎ深さの調整**

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が「**穂先マーク**」の位置になるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。



取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項57～58ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❿　作業中は，回転計の指針が，「**色別表示の範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

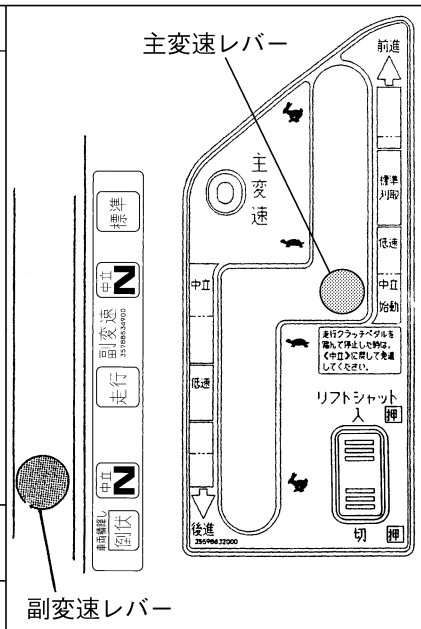
刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷インジケータランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。（14～15ページ参照）

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。**
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。

2．作業速度の選びかた

・作物の状態など，作業内容に合わせて，主変速レバー，副変速レバーで速度を選び，最適な状態で作業をします。

作業内容	変速レバー位置			
	副変速	主変速	倒伏刈スイッチ	
積込み，あぜ越え	車両積降し 倒伏	[中立]から[前進・低速]	切	
積降ろし		[中立]から[後進・低速]		
路上，ほ場走行(前進)	倒伏 標準 走行	[中立]から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。		
路上，ほ場走行(後進)	倒伏 標準			
刈取時の後進				
標準刈取り	標準			
倒伏刈取り	標準		入	
	倒伏		(状況に応じて) 入，切	

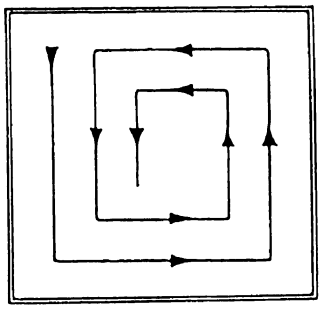
3．ほ場での刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

・この機械での刈取りは，「**左回り刈り**」が基本です。

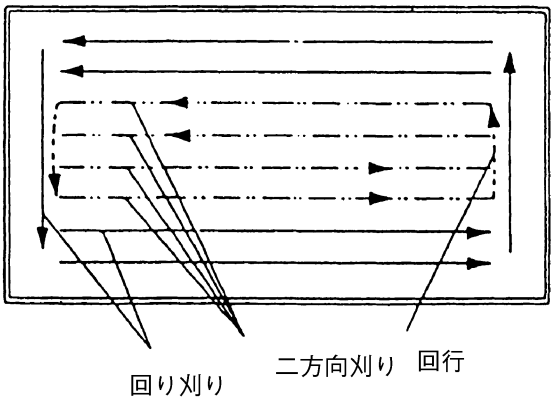
ほ場の形状・大きさにより，次のような刈取りをします。

(1) 正方形に近いほ場



(2) 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い二方向のみ刈取ると能率的です。

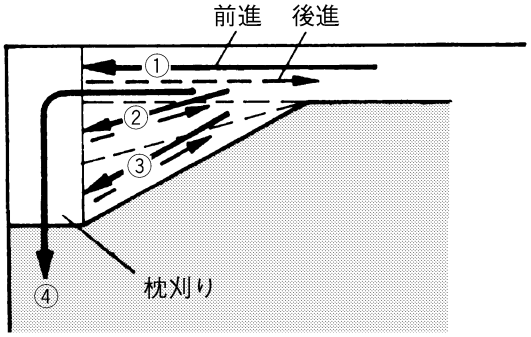


(3) あぜぎわ刈り

あぜの草などにより，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時，機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

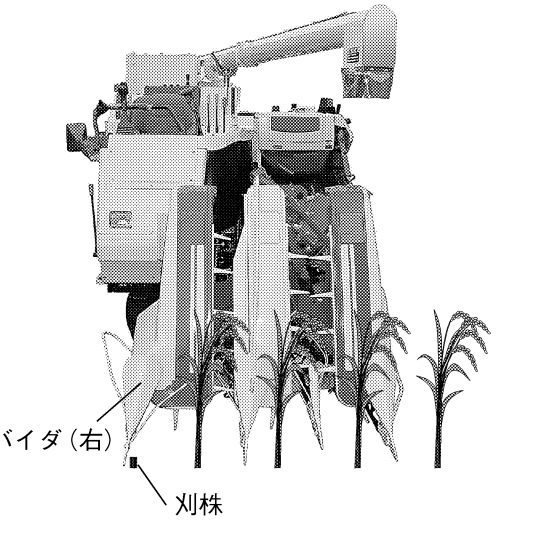


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に，方向修正しないでください。途中で方向修正すると，稈が倒れ稈長が不揃いになり，こぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや，湿田では斜め刈りの回数をふやして，刈取りしてください。**

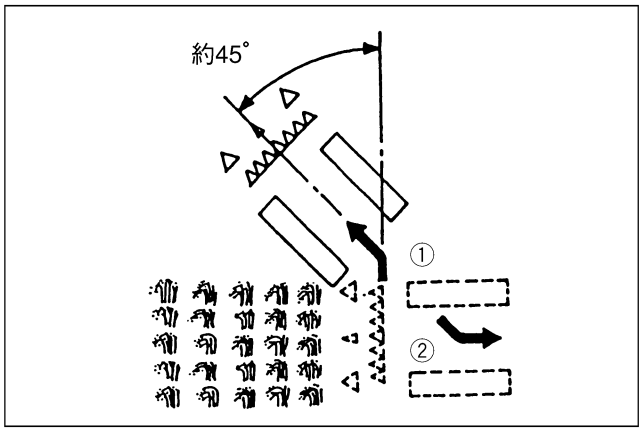
⑸ 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に刈株の**外側**に合わせ，**「左回り」**で刈残しのないように刈取りします。



⑹ 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら，刈取部を40㎝程度上げます。
　作業機クラッチレバーを《**切**》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回します。（湿田では，大きく旋回します。）
・左に**「約45°」**向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように**「条合わせ」**をします。

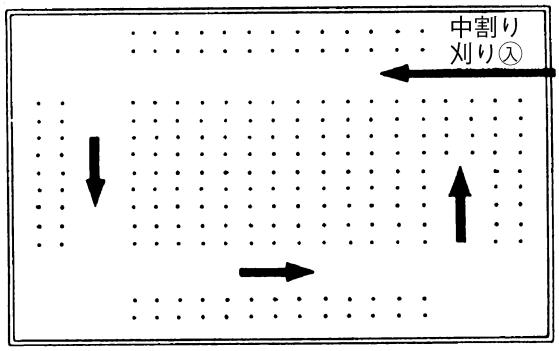


取扱いのポイント

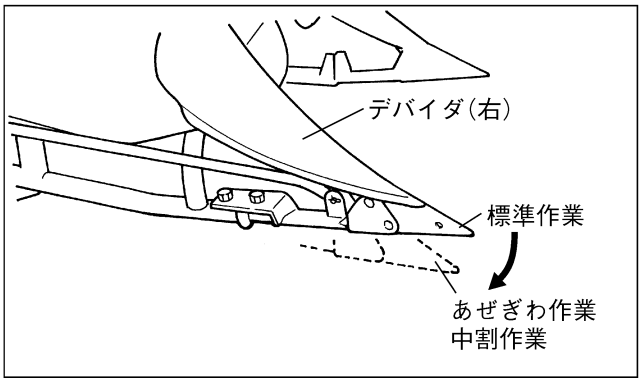
- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり，作業機クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

❷ 中割り刈り

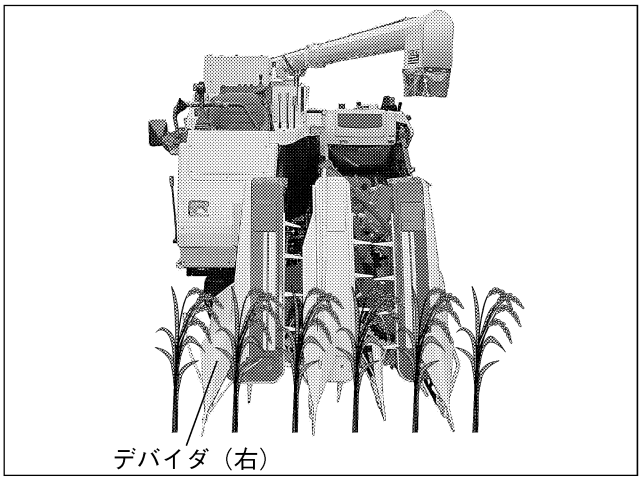
・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，「**低速**」で行います。



(1) デバイダ（右）を，中割作業位置にセットします。(35ページ参照)

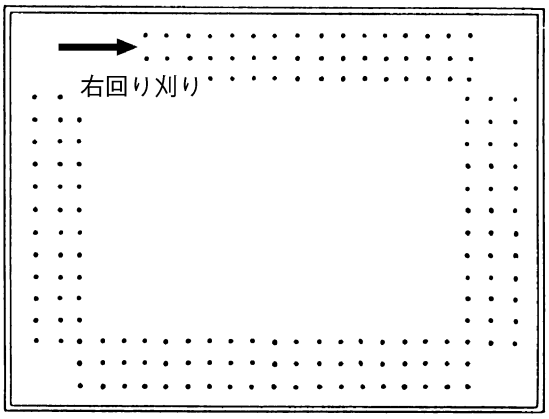


(2) デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせて刈取ります。



❸ 右回り刈り

(1) 回りのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ3条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。
(2) 残した3条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
(3) あぜぎわを「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

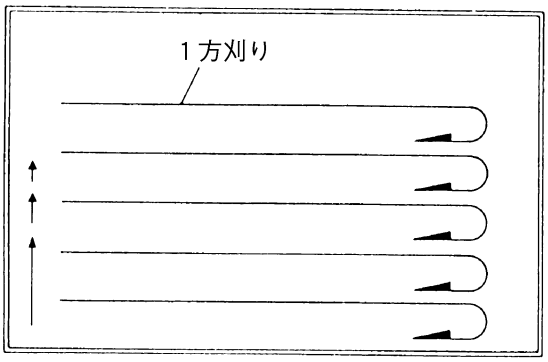


取扱いのポイント

- **ほ場の状態によっては，最初にあぜぎわを「右回り」で刈取り，次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**

❹ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



(1) 刈取り方向

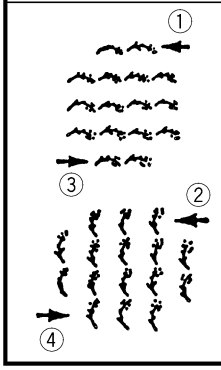
・倒伏した作物の刈取りは，次ページの図表を参考にして行います。

1．「**刈取り速度**」は，副変速《**倒伏**》，主変速《**低速**》で刈取ります。このとき倒伏刈スイッチを《**入**》にすると刈取部の速度が上がります。

2．倒伏作物を副変速《**標準**》で刈取るときは，倒伏刈スイッチを《**入**》にすると，スムーズに刈取りできます。このときに主変速を《**低速**》～《**標準**》にして作業します。

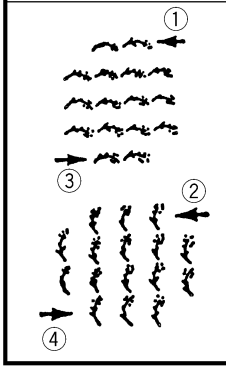
3．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈り・③追刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。

「**方向自動を使用しないとき**」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能
△走行速度を落として刈取り可能

「**方向自動で刈取りするとき**」

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

(2) スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。**
  脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。
- **倒伏した作物を刈取る際に，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業をしてください。**

4．こく粒の排出操作方法

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは,駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを「切」にしエンジンを停止してください。
◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆［L 仕様］は，水平自動スイッチを「切」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

⚠注意

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶　グレンタンクのモミ警報

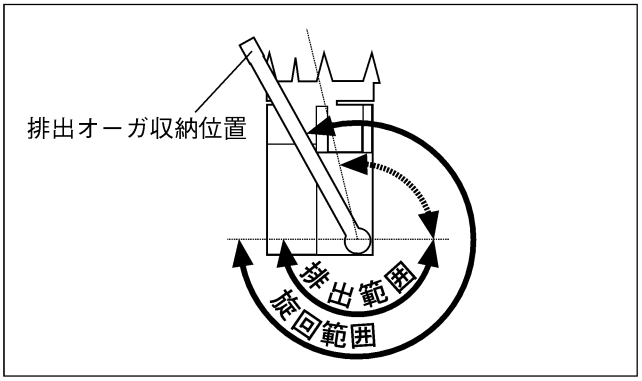
・グレンタンクにこく粒が充満すると，モミ処理インジケータランプの「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
・警報ブザーは，警報入切ボタンを押すと止まります。

取扱いのポイント

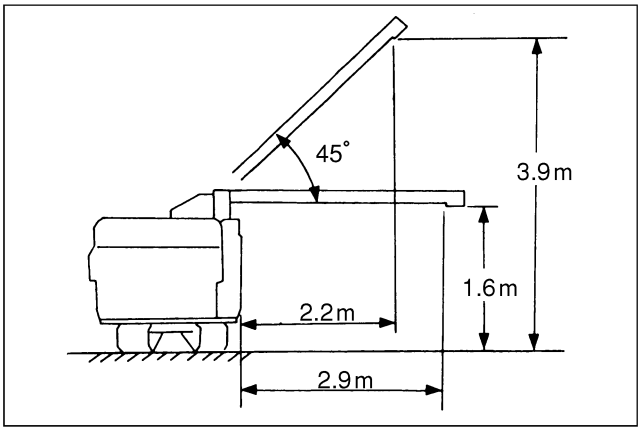
●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けると，グレンタンク上部よりオーバーフローし，警報ブザーの連続音が鳴り，自動的にエンジンが停止します。作業機クラッチレバーを《切》にしないと，エンジンの再始動はできません。

❷　こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。



「排出オーガ高さと距離」



❸ こく粒排出操作手順

① 排出オーガ固定用リングをフック部より外す。

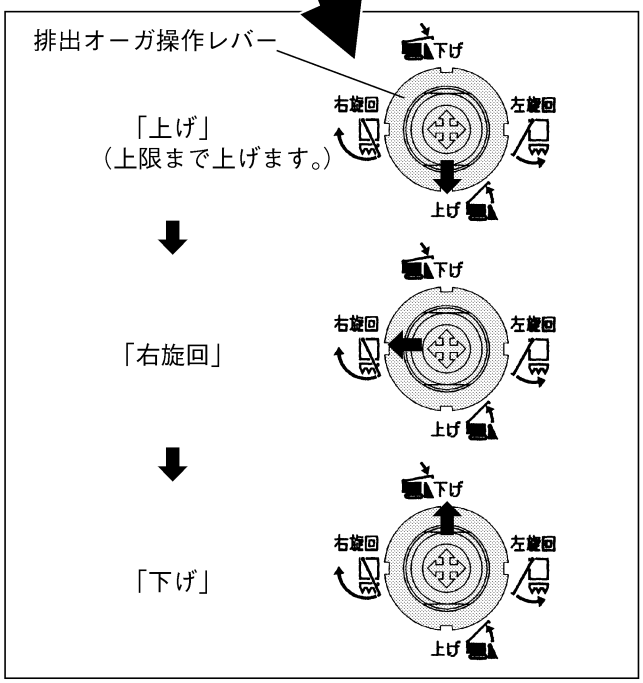


② こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，「手動」と「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき





自動操作のとき ［排出時］

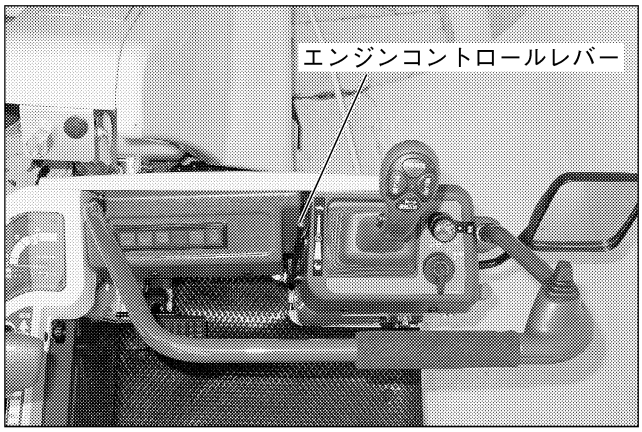
・排出オーガ自動スイッチを「押」す。

……自動旋回開始

→ 真後で停止→手動で高さを合わせる

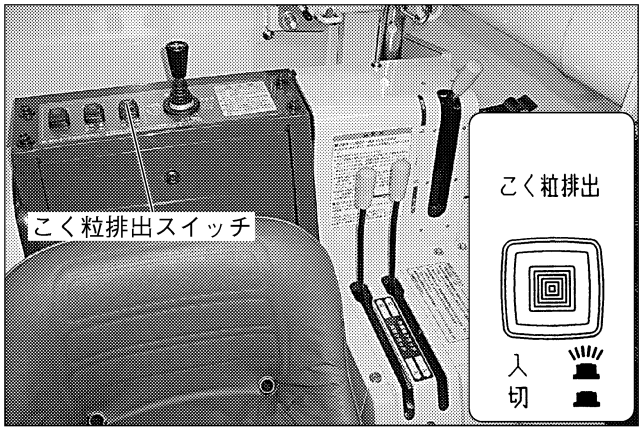


③ エンジンコントロールレバーを《🐇》（高速）にセットする。



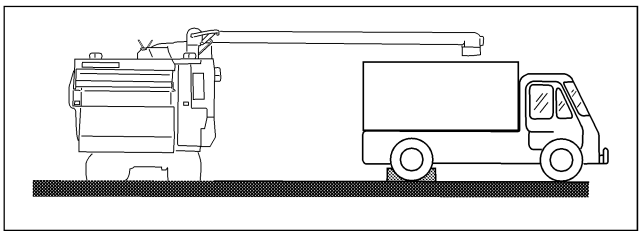
④ こく粒排出スイッチを「入」にする。

……こく粒排出開始



⑤　こく粒排出スイッチを「切」にする。

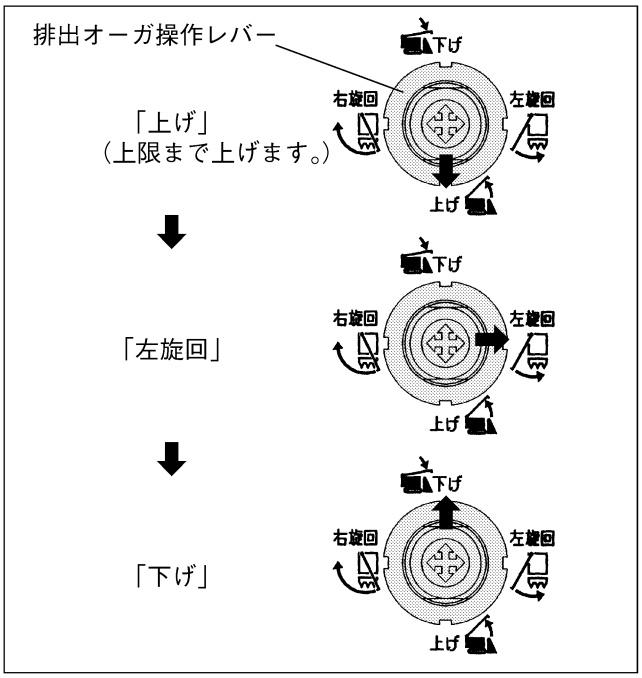
……こく粒排出終了



⑥　こく粒排出オーガを収納する。

収納する場合，「**手動**」「**自動**」の二通りの操作が可能です。

手動操作による方法



自動操作による方法　［収納時］

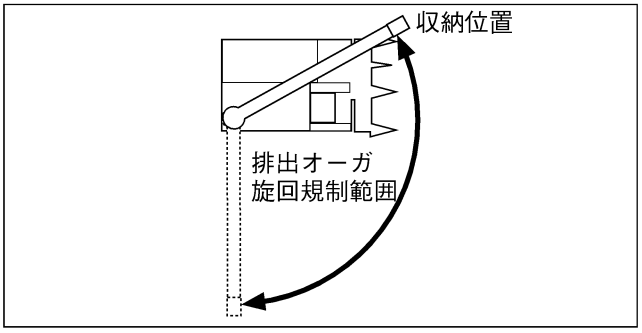
・排出オーガ自動スイッチを押し，「**自動**」にする。……自動旋回開始

→収納位置で停止→自動旋回終了

⑦　排出オーガ固定用リングをフック部にかける。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行なってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行なってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガをいっぱい上げてから行なってください。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



5．グレンタンク補助樋口の取扱い

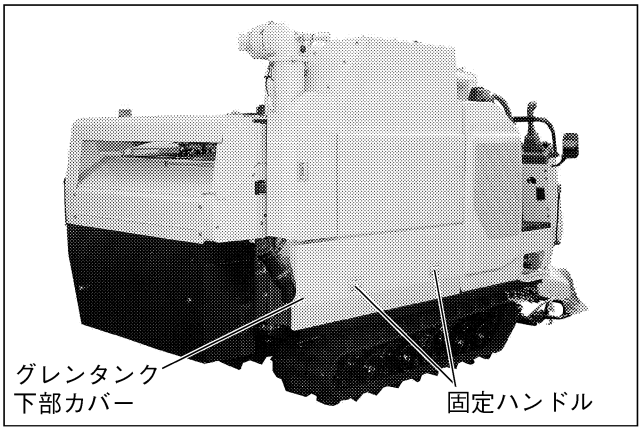
故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。

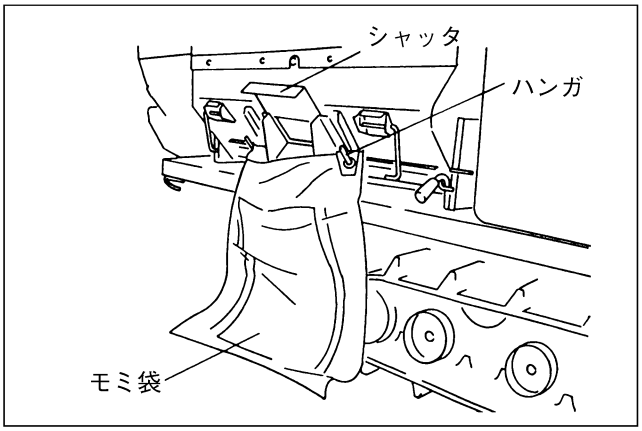
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをする恐れがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを締め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

6．ツインハーモニー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，フィードチェンが突然回転する恐れがあります。
作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》位置にしてからエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

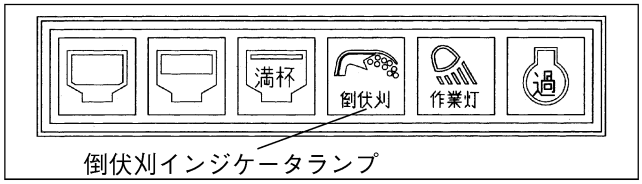
◆作業機クラッチレバーが《入》位置でフィードチェンが回転しているときに急激な刈取クラッチレバー《入》操作を行うと，刈取搬送がわずかの間作動する場合があります。
刈取クラッチレバーの急激な《入》操作は行わないでください。

◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行なってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，フィードチェンの搬送速度を同調制御します。

・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，フィードチェンは一定速で回転します。



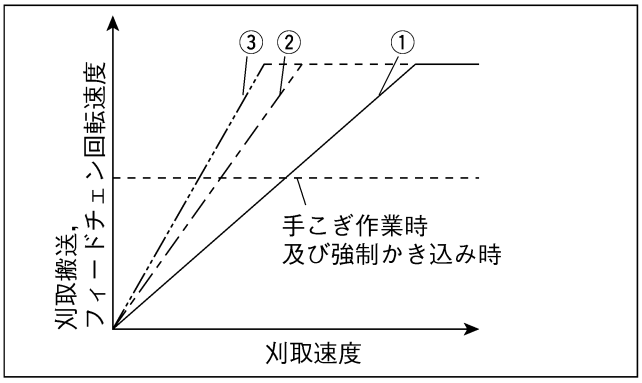


❶ 倒伏刈スイッチ

「入」……押すと倒伏刈インジケータランプが点灯し，刈取搬送，フィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

❷ 強制かき込みスイッチ

走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，フィードチェンが作動します。



	副変速レバー	倒伏刈スイッチ	作業内容
①	《標準》	《切》	標準刈取り
②	《標準》	《入》	倒伏刈取り
	《倒伏》	《切》	
③	《倒伏》	《入》	

取扱いのポイント

- 作業機クラッチレバーを《切》→《入》としますと，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- 刈取クラッチレバーを《入》にしますと，前処理搬送とフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。（走行停止状態では前処理およびフィードチェン搬送は停止します）
- 前処理，フィードチェン搬送停止時に，刈取クラッチレバー《入》→《切》としても，安全のため，フィードチェン搬送も停止したままとなります。
  手こぎ等でフィードチェンを回転させたいときは作業機クラッチレバーを一旦，《切》としてから再度《入》としてください。
- 刈取走行中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。

7．リフトシャットの取扱い

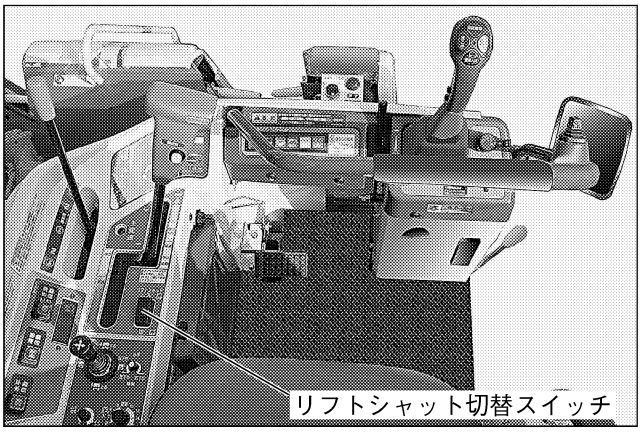
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャット切替スイッチを《入》にして作業機クラッチ，刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押す時は，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャット切替スイッチを《入》にして刈取部を上げると，作業機クラッチ・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャット切替スイッチを《切》にすると，リフトシャットは機能せず，前処理の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《切》位置で使用します。

・手刈りのしてないほ場の回り刈り作業
・あぜ越え直後からの刈取り作業
・あぜぎわなどを高刈りする場合
・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

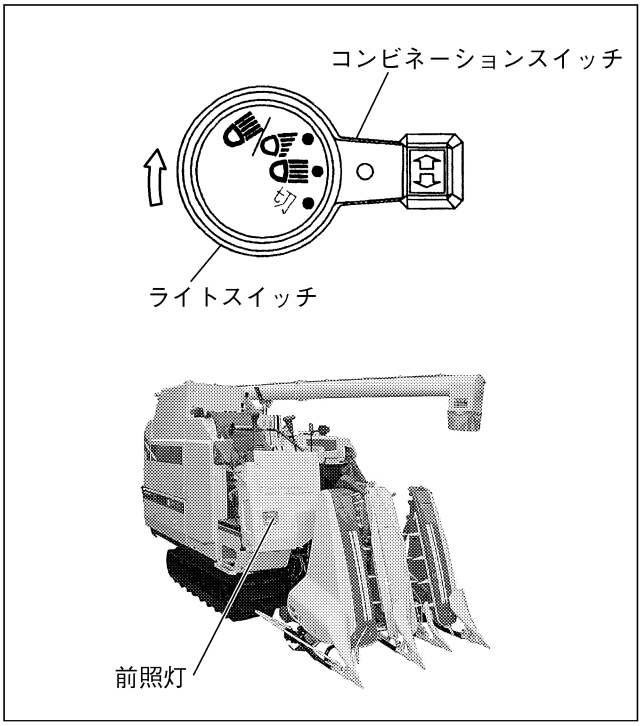
8．夜間作業

⚠警告　傷害事故防止のために

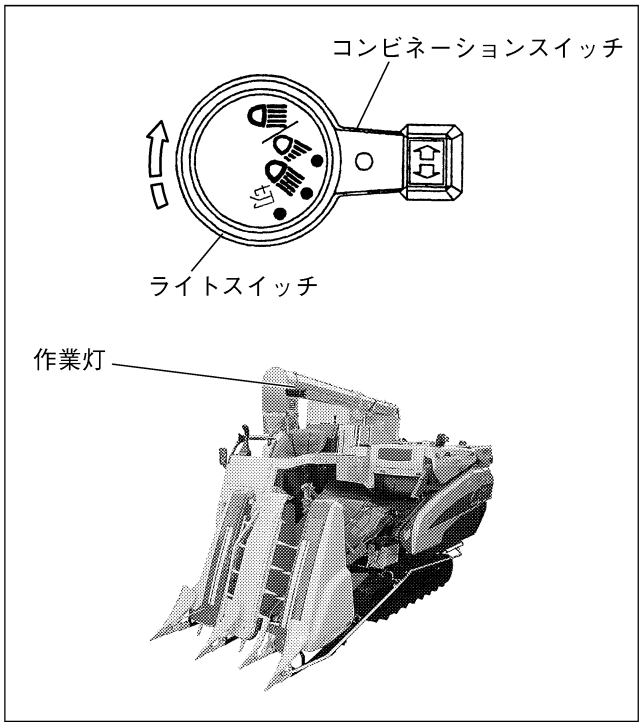
◆夜間作業をするときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆夜間，手こぎ作業を行うときは，必ず，脱こく入口部に作業灯を取付けてください。作業灯の取付けは，「お買いあげ先」に相談してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶　ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。



❷　各作業灯スイッチを《**入**》にして，ライトスイッチを２段回すと，前照灯および全ての作業灯が点灯します。

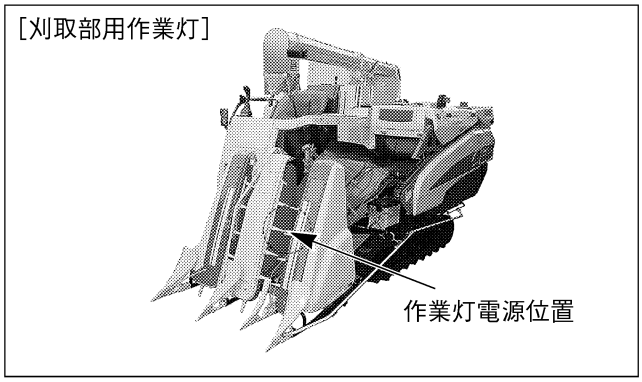


❸　作業灯の取付け

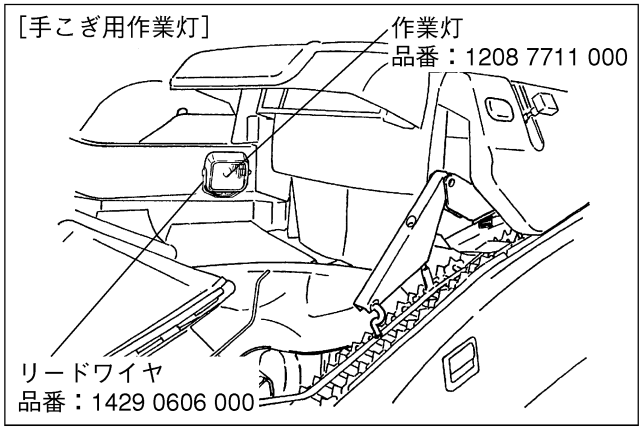
・「**お買いあげ先**」にご相談して，下記の位置に取付けて使用します。

「電源取出し位置」

［刈取部用作業灯］



［手こぎ用作業灯］



9．トルクリミッタの取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに,詰まったワラクズなどを取除く場合や搬送部の点検をする場合には,平坦な場所でエンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。

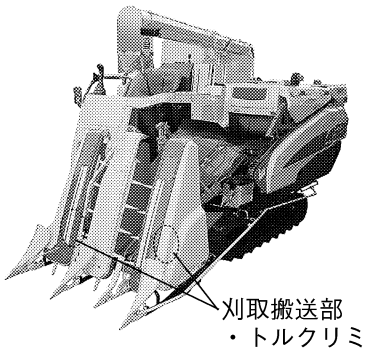
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は,刈取部が下がらないように,油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に,「固定脚」などをかませて作業してください。

⚠注意

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐため，次の個所に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。

使用個所	トルクリミッタが作動するとき
刈取搬送部 ・トルクリミッタケース（スターホイル駆動） ※左右２ヶ所	株元搬送で搬送詰まり，および異常負荷が発生したとき



刈取搬送部・トルクリミッタ

⑴　作業中，刈取部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まりなど）が発生したときは,「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

⑵　直ちに作業を中止し，刈取クラッチレバー，作業機クラッチレバーを《**切**》位置にし，エンジンを停止します。

⑶　油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にしてフックをかけ，さらに刈取部の下に「**固定脚**」または「**安全ブロック**」を噛ませ，詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷　副変速レバーを《**N**》（**中立**）にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にし，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》にし，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **動作確認中は，強制かき込みスイッチを《入》にしないでください。思わぬ所で刈取部が作動することがあります。**

10．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《STOP切》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

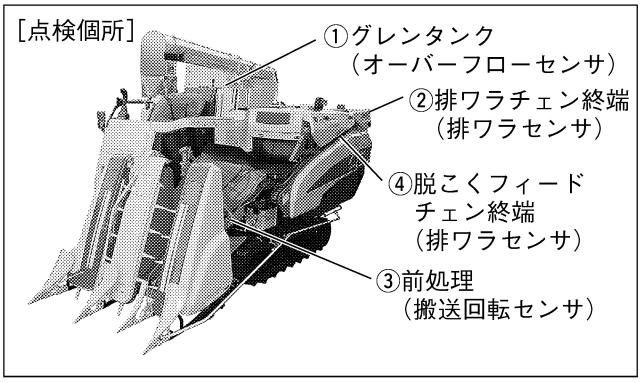
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部を持ち上げ，「カチッ」という音を確認して（こぎ胴部は自動ロックされます），ゆっくり手を離してから行なってください。

◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，カッタをオープンしてストッパをかけてから行なってください。（101ページ参照）

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，全てのカバーを取付け，こぎ胴部を閉めて，機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行なってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理インジケータランプ，またはモミ処理インジケータランプが点灯あるいは，倒伏刈インジケータランプが点滅してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	排ワラチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(排ワラチェン)
③	前処理部	詰まり	搬送回転センサ
④	脱こくフィードチェン終端	詰まり	排ワラセンサ(脱こくフィードチェン)



❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《STOP **切**》位置にして，作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを切ってから，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**N**》(**中立**)にし，エンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐢》(**低速**)にし，作業機クラッチレバーおよび刈取クラッチレバーを《**入**》位置にして，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **こぎ胴部を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから行なってください。**

11．手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は，手や衣服を脱こく供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
◆手こぎ作業をするときは，手袋を使用しないでください。
◆機械を走行しながらの手こぎ作業は，しないでください。機械の走行を停止して行なってください。
◆手こぎ作業は，刈取クラッチレバーを《切》にし，刈取部の作動停止を確認してから行なってください。
◆手こぎ作業をするときは，機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災予防）
◆作業機クラッチレバーは，周囲の人に合図してから《入》位置にしてください。

⚠注意

◆カッタの切ワラが溜まったら作業を中断し，機械を移動するか，作業機クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

❶ ［L仕様］機は，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

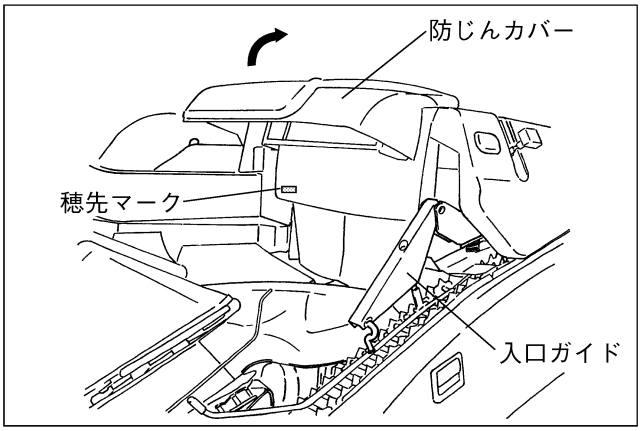
❷ 主変速レバーを《中立》および副変速レバーを《N》（中立）にし，走行を停止します。

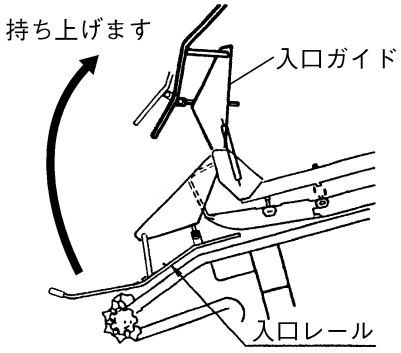
❸ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《切》にします。

❹ 刈取部をいっぱいに「下げ」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「深こぎ」側に下げます。

❺ 防じんカバーを上方に開きます。［A仕様］

❻ 入口ガイドを持ち上げます。





❼ 作業機クラッチレバーを《入》れ，エンジン回転を回転計の「色別表示の上限」（刈取る作物の回転数上限）にセットします。

❽ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

❾ 手こぎ作業が終わったら，作業機クラッチレバーを《切》にして入口ガイド，防じんカバーを元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- 防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると，防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。
- 作業機クラッチレバーを《切》→《入》としますと，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。

手こぎ作業のポイント	
作業機クラッチ《入》 刈取クラッチ 《入》 から作業する場合	①刈取クラッチ《切》
	②作業機クラッチ《切》
	③作業機クラッチ《入》(入れ直す)
	④脱こくフィードチェンのみ回転
作業機クラッチ《切》 刈取クラッチ 《切》 から作業する場合	①作業機クラッチ《入》
	②脱こくフィードチェンのみ回転

- 刈取クラッチレバーを《入》にしますと，前処理搬送とフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。(走行停止状態では前処理およびフィードチェン搬送は停止します)
- 前処理，フィードチェン搬送停止時に，刈取クラッチレバー《入》→《切》としても，安全のため，フィードチェン搬送も停止したままとなります。
  手こぎ等でフィードチェンを回転させたいときは作業機クラッチレバーを一旦,《切》としてから再度《入》としてください。

12．エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは，このエンジン停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



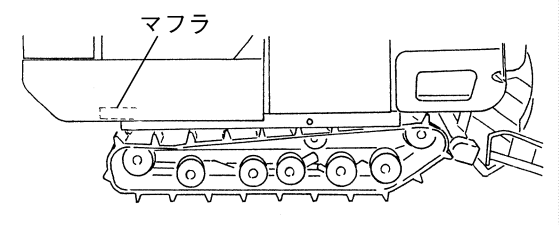
取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《 STOP 切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。

13．刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《中立》の位置にします。
❷ 刈取クラッチレバーおよび作業機クラッチレバーを《切》の位置にします。
❸ 駐車ブレーキをかけます。
❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《倒伏》に入れて停止します。
❺ **作業後の手入れ**
・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

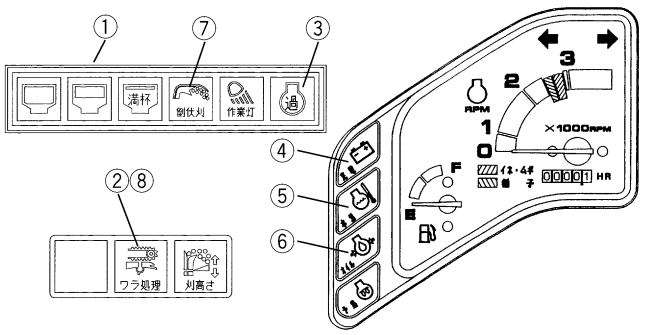
取扱いのポイント

- 作業機クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，空運転してから《切》位置にします。
- 水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，運転席前側のマイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

14. 警報装置について

次の個所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，次の処置を行います。



No.	名称	現象	警告の方法 インジケータランプ	警告の方法 ブザー	警告の方法 エンジン	解除方法	点検と処置	参照ページ
①	モミ処理	満杯	点灯	断続音の断続	－	警報切入ボタン「押す」または作業機クラッチレバー《切》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	43
		モミオーバーフロー		断続	停止			50
②	ワラ処理	排ワラ詰まり 脱こくフィードチェン終端部詰まり	点灯	連続	停止	作業機クラッチレバー《切》	排ワラチェン，脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	50
③	エンジン回転負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	－	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。 ・こぎ深さ,送じん量調節レバーの調整がよいか確認します。 ・ワラ切カマが損耗していないか確認します。	8～9
④	充電	充電不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《STOP 切》	・スタータスイッチ《START 入》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，バッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトなどを点検します。	6～7
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続	－	スタータスイッチ《STOP 切》	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。 ・エンジンを停止し,ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り,冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	7
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	－	－	スタータスイッチ《STOP 切》	・スタータスイッチ《START 入》で点灯し，エンジンを始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	7
⑦	倒伏刈	前処理またはフィードチェン部前部の詰まり	点滅	断続	停止	作業機クラッチレバー《切》	・前処理またはフィードチェン部にワラが詰まっていますので取除きます。 ・HST駆動モータ，HST回転センサの配線接続部の外れがないか点検してください。	12
⑧	ノッタひも切れ		点滅	連続	－	作業機クラッチレバー《切》	ひもが切れているか，ひもがなくなっていますので点検します。	ノッタの取扱説明書

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生し，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンして，ワラなどを取除いてください。

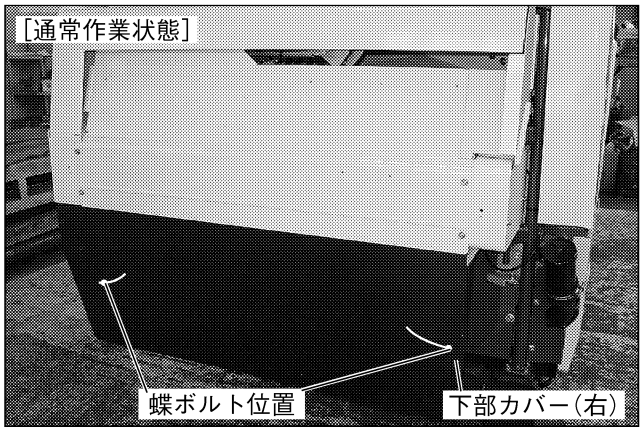
◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

取扱いのポイント

- カッタ・排ワラ切替レバー操作は，搬送経路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作は，しないでください。詰まりの原因となります。

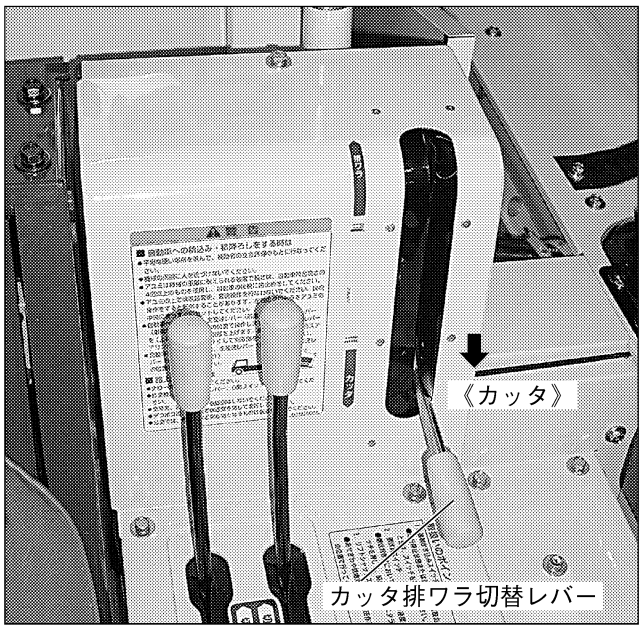
1．カッタ作業

❶　下部カバー（右）（左）を「通常作業状態」にセットします。



・各々の蝶ボルトをゆるめて,蝶ボルトを長穴いっぱい外側にカバーを開き蝶ボルトを締めます。

❷　カッタ排ワラ切替レバーを《カッタ》位置にします。



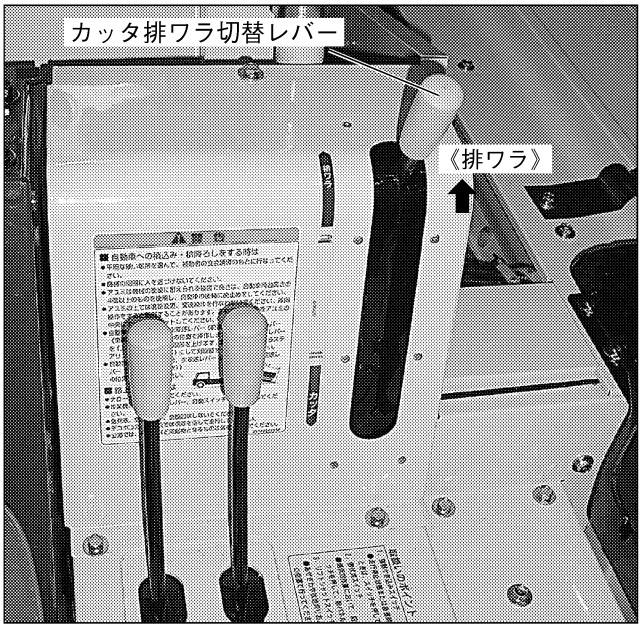
取扱いのポイント

- 刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行なってください。
- 倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。50 a（アール）作業ごとにエンジンを停止して，カッタ内を点検してください。巻付いている場合は，巻付きを除去してください。
- カッタの点検，掃除はカッタをオープンして行います。（オープンのしかたは，101ページ参照）

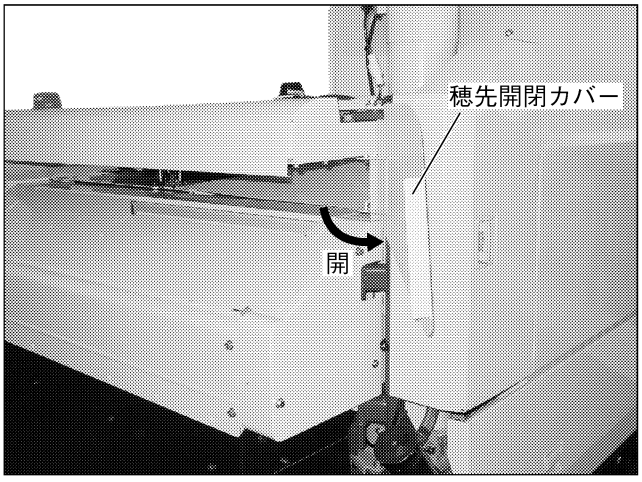
2．排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶　カッタ排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置で使用します。

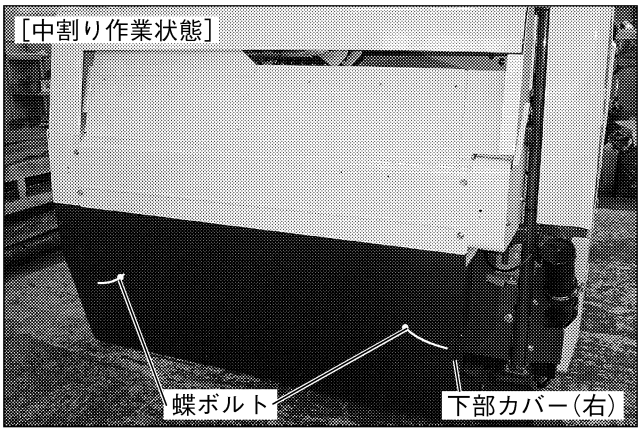


❷　穂先開閉カバーを開きます。



3．中割り作業

下部カバー（右），（左）を「**中割り作業位置**」にして行なってください。

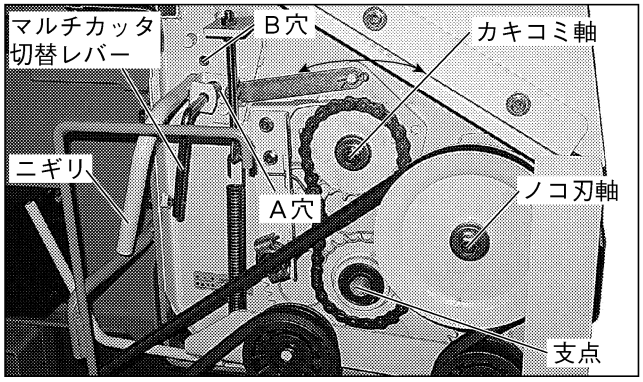


・各々の蝶ボルトをゆるめて，蝶ボルトを長穴いっぱいに内側に寄せカバーを閉じ，蝶ボルトを締付けます。

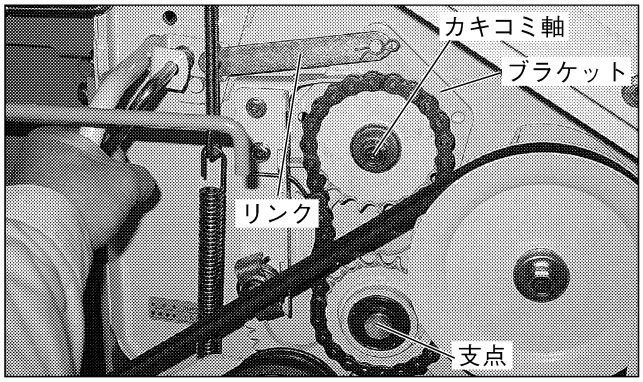
4．マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］

マルチカッタは，マルチカッタ切替レバーを「A穴」，「B穴」に差し替える事により，排ワラの長さを「短切り」，「長切り」に切り替えることができます。

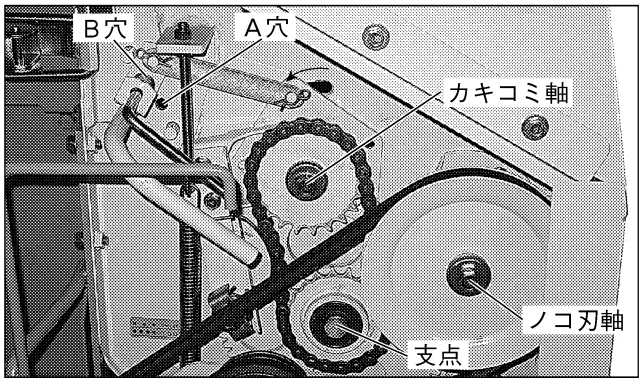
❶ 下図の様に「A穴」にマルチカッタ切替レバーを差し込んだ場合は，排ワラを「短切り」にします。

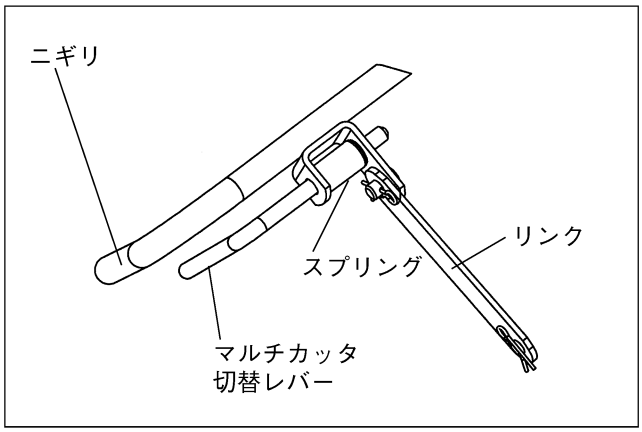


❷ マルチカッタ切替レバーとニギリを同時に握ることで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，自由に回動します。この状態で，「A穴」または「B穴」にマルチカッタ切替レバー位置を合わせて，差し込むことにより切替え操作ができます。



❸ 下図の様に「B穴」にマルチカッタ切替レバーを差し込んだ場合は，排ワラを「長切り」にします。





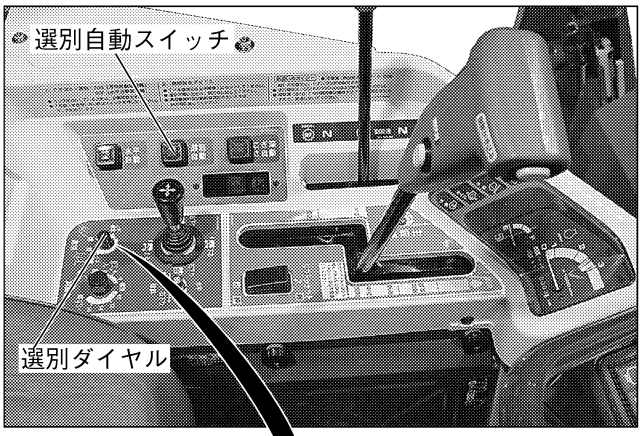
4．麦刈り作業時の調整のしかた

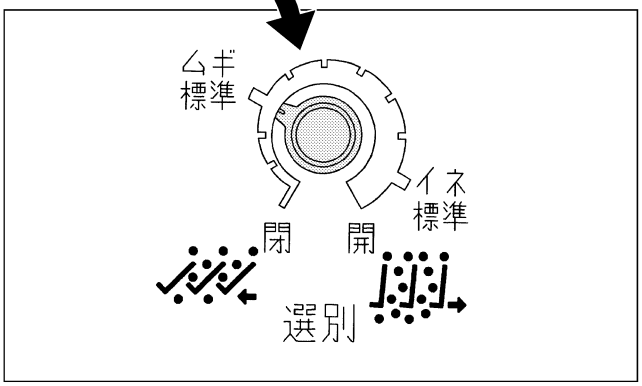
工場から出荷のときは，「稲作業セット」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，次の個所を「麦作業セット」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを《ムギ標準》位置にセットします。なお作業条件により，次のように使いわけてください。





作業内容	選別ダイヤル
通常の麦刈取り作業	《ムギ標準》
《ムギ標準》で選別が悪いとき	《ムギ標準》より《閉》側にダイヤルを回します。
高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《ムギ標準》より《開》側に回します。

取扱いのポイント

- 選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。
- 脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動が作動しない場合があります。
- 選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。
- 選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。
- 選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。
- スタータスイッチを《 入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．こぎ胴回転数のセット

こぎ胴回転数は，回転計で確認しながらエンジンコントロールレバーで調整します。(8〜9，14ページ参照)

5．刈刃の高さ調節のしかた

・出荷のときは，「上セット」になっています。

裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃のカラーを入れ替えて「下セット」にします。

・セット方法は，140〜141ページを参照します。

自動装置について

1．こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1．運転装置



こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

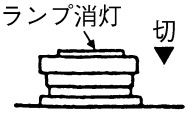
・自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。

但し，倒伏角45°以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除して，こぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

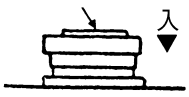
❶　こぎ深さ自動スイッチ

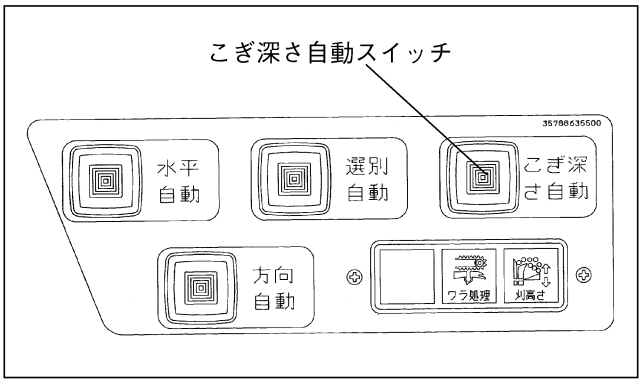
スタータスイッチを《 **入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・**「切」**……ランプが点灯しているときに，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。



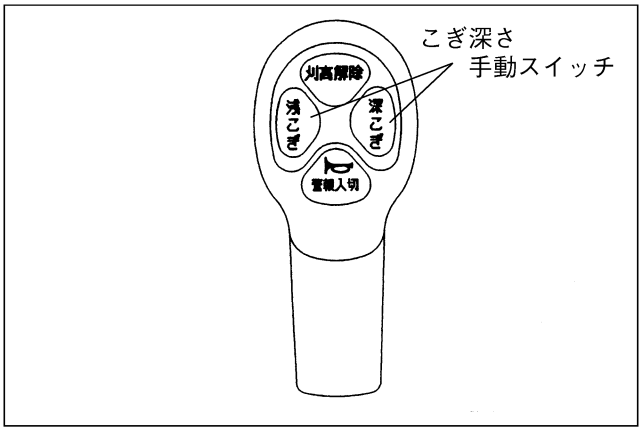
・**「入」**……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。





❷　こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。



《**深こぎ**》……《**深こぎ**》側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《**浅こぎ**》……《**浅こぎ**》側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

● 自動制御が故障のときは，こぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。

❸ ヒューズ

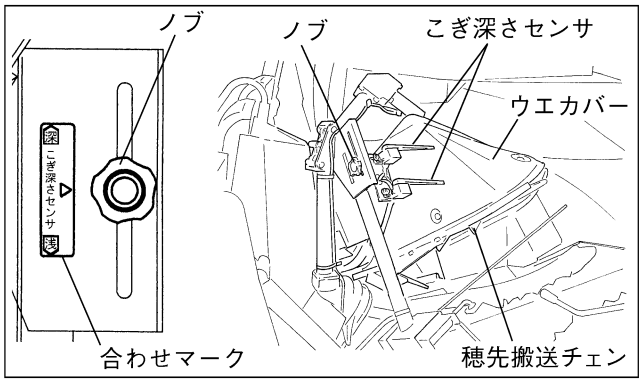
取扱い方は，22～24ページを参照します。

取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯してもこぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**

2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは，工場からの出荷のとき，「**標準**」(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを「**深く**」したいときは，センサケースを《**深**》方向へ移動します。

こぎ深さを「**浅く**」したいときは，《**浅**》方向へ移動します。

・調整後は，ノブを確実に締めます。

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

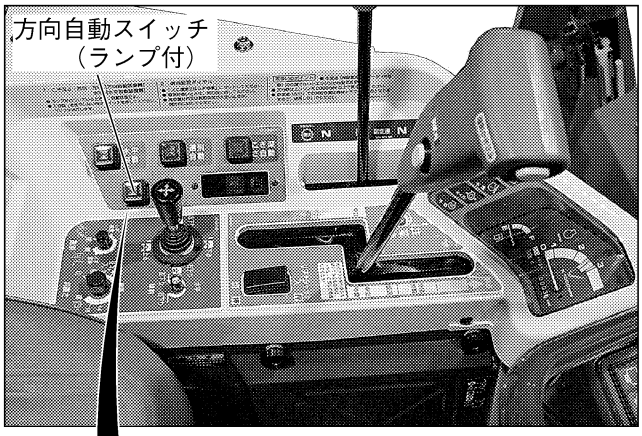
- ○**倒伏角45°以上の倒伏作物**
- ○**腐れ状態の作物**
- ○**雑草が多いとき**
- ○**作物の長さが極端に変動するとき**

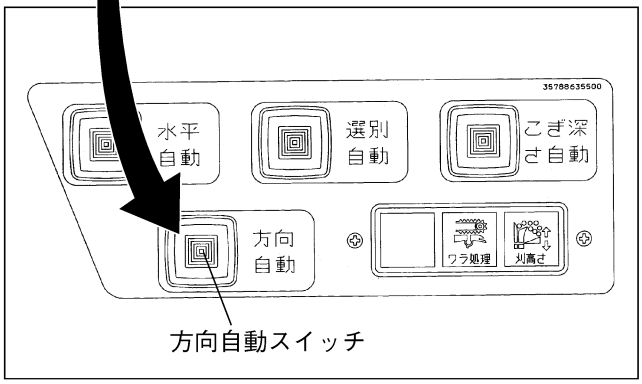
2．方向自動制御［A仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，一旦，方向自動制御は「**解除**」され，手動操作優先となります。

> ⚠注意 ◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

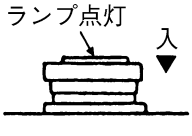
1．運転装置



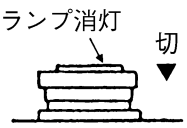


方向自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から，再び押すとランプが消え，方向自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

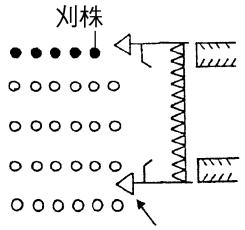
- **方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

2．作業のしかた

❶　スイッチの操作・条合わせのしかた

(1)　方向自動スイッチを「**入**」(ランプ点灯）にします。

(2)　機械が条列に真直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	標準・中割スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「**点灯**」にする	

❷　刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも,マルチステアリングレバー,ジャストディレクタを手動操作すると,「**手動優先**」で進路を変えることができます。

❸　旋回時の操作

旋回する時は，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に，方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

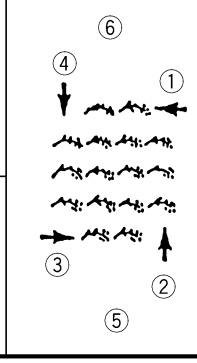
取扱いのポイント

- **条合わせは，機械が条列に真直ぐになるようにしてください。斜めになった時は，条外れすることがあります。**

3．方向自動制御の使えない条件

次の条件では，方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

- 横刈り
- 中割り
- 斜め刈り
- あぜぎわ刈り
- 雑草が多いとき
- バラまきほ場
- 湿田
- 条間および株間が極度に乱れているとき
- 稈量が少ないとき
- 欠株が多いとき
- 植付条間が28㎝未満の場合
- 植付条間が33㎝を超える場合
- 倒伏材は，「**❹倒伏作物の刈取り**」項（42ページ）を参照
- 次のような倒伏材

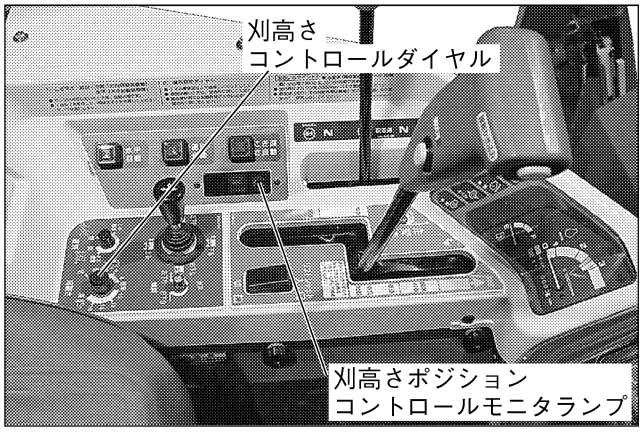
刈取り方向 ＼ 倒伏程度			倒伏程度		
			倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り		①向い刈り	×	×	○
		②右倒伏刈り	×	○	○
		③追い刈り	×	○	○
		④左倒伏刈り	×	○	○
中割刈取り		⑤右倒伏刈り	×	×	○
		⑥左倒伏刈り	×	×	○

○刈取り可能
×刈取り不可能（倒伏刈取できません。）

3. 刈高さポジションコントロール

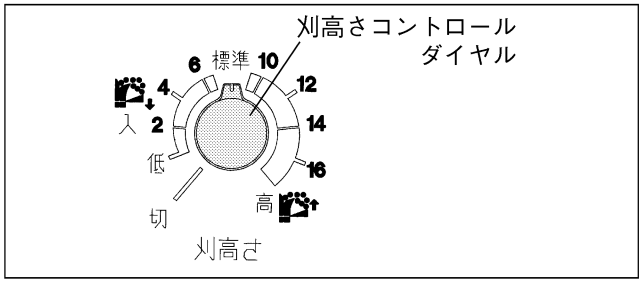
刈高さコントロールダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の高さを調節することができます。

1. 運転装置



❶ 刈高さコントロールダイヤル

・刈高さの調節は，刈高さコントロールダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



・刈高さコントロールダイヤルは通常，《**標準**》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，22～24ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，刈高さコントロールダイヤルを《切》位置で使用します。モニタランプを消灯してください。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さコントロールダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2. 自動での作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

(1) 刈高さコントロールダイヤルを《**標準**》位置にセットします。(モニタランプが点灯します)

(2) 作業機クラッチレバー《**入**》でマルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さコントロールダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

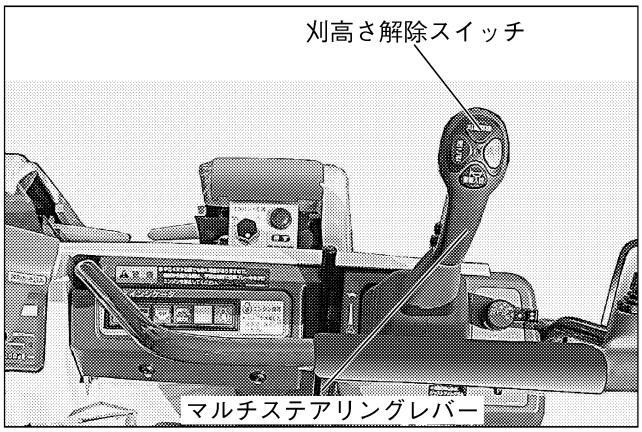
(1) 刈高さコントロールダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールモニタ内ランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても，刈高さセット位置以下には下がりません。**
- **刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

❹　刈高さ解除スイッチの使用



(1)　刈高さセット位置よりも更に刈取部を下げたいときは，刈高さ解除スイッチを押しながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。
　但し，刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

(2)　刈高さ解除スイッチの操作をやめると，約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールモニタランプが消灯している時は，上記(1)〜(2)の機能は働きません。**
- **刈高さ解除スイッチ操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
  再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。

３．手動での作業のしかた

刈高さコントロールダイヤル《**切**》位置で，モニタランプを「**消灯**」状態にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

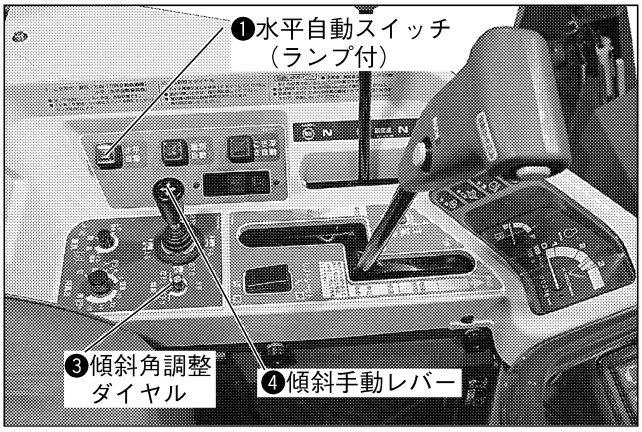
４．水平自動制御［Ｌ仕様］
（ジャストマチック）

・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**傾斜手動レバー**」で機体全体を持上げることもできます。
・あぜぎわや溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ傾斜角調整ダイヤルで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告　傷害事故防止のために

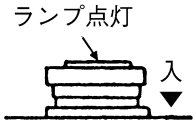
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げて行なってください。

１．運転装置

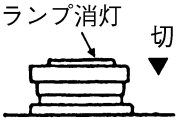


❶　水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●水平自動スイッチ内ランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

❷ ヒューズ

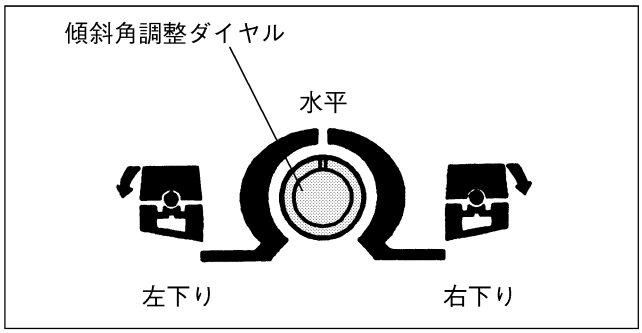
取扱い方は，22～24ページを参照します。

❸ 傾斜角調整ダイヤル

傾斜角調整ダイヤルの操作によって，機体を一定の角度に傾斜させた制御をすることができます。

・ダイヤルを《**右下り**》の方向に回すと，機体は右下がりになります。

・ダイヤルを《**左下り**》の方向に回すと，機体は左下がりになります。



❹ 傾斜手動レバー

取扱い方は，18ページを参照します。

2．作業のしかた

❶ 作業前

傾斜角調整ダイヤルで，機体をお望みの角度に調整します。

❷ 刈取り作業

作業機クラッチレバー《**入**》で，水平自動制御が作動します。

作業機クラッチレバー《**切**》のときには，水平自動制御は作動しません。

❸ 作業終了時

作業が終了したら，水平自動スイッチを「**切**」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げます。

取扱いのポイント

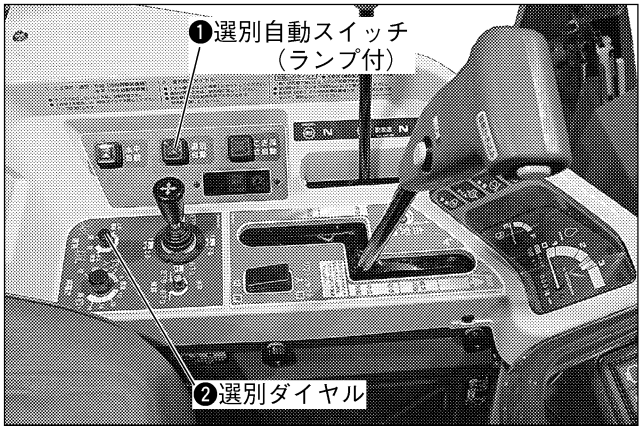
●水平自動スイッチが「入」でも傾斜手動レバーを操作すると，「手動優先」で機体の高さ，傾斜角を変えることができます。
但し，傾斜手動レバーを離すと，傾斜角は傾斜角調整ダイヤル設定位置に戻ります。

●自動制御中，機体の高さを変えたいときは，傾斜手動レバーを操作してください。

5．選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1．運転装置

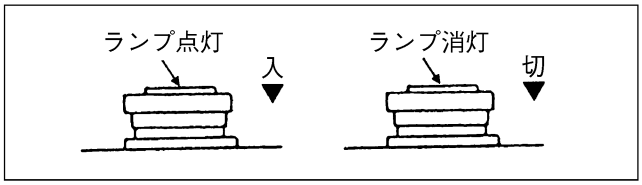


❶　選別自動スイッチ

スタータスイッチを《 入》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

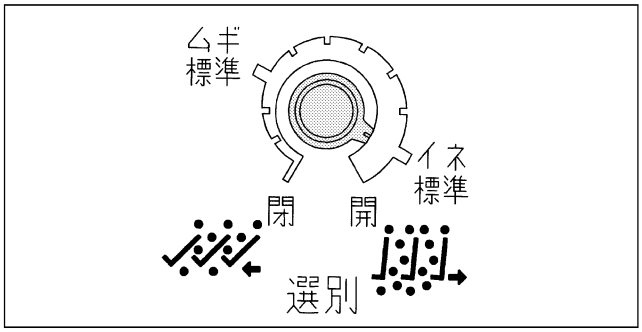
・選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。

・再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷　選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《イネ標準》
	《イネ標準》で選別が悪いとき	《イネ標準》より《閉》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《イネ標準》より《開》側に回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《ムギ標準》
	《ムギ標準》で選別が悪いとき	《ムギ標準》より《閉》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《ムギ標準》より《開》側に回します。

❸　ヒューズ

取扱い方は，22～24ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《 入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

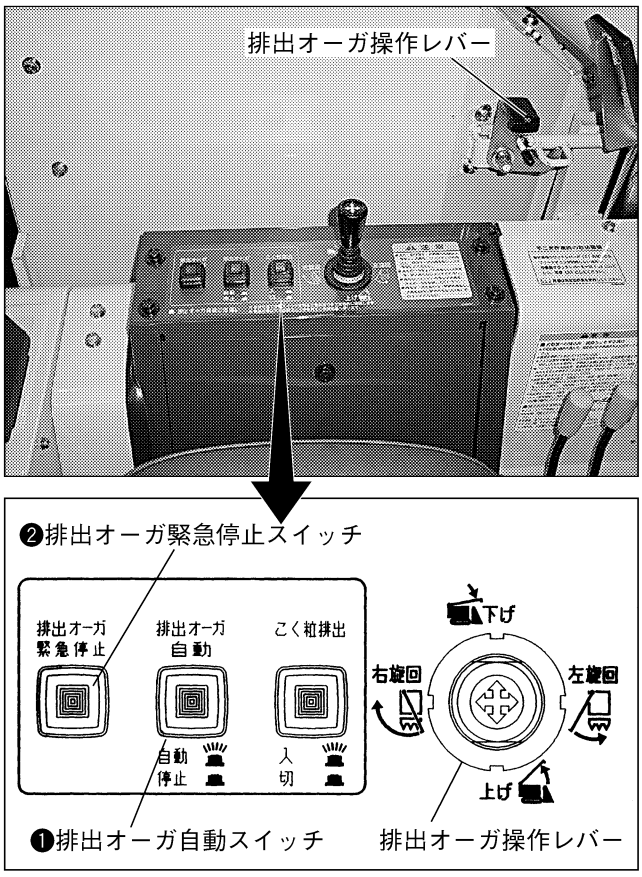
6．排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

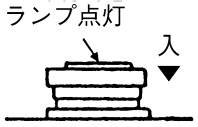
⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行なってください。
◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは,駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを「切」にして，エンジンを停止してください。
◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，排出オーガ緊急停止スイッチを押して止めてください。
旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで排出オーガを固定してから行なってください。
◆［L 仕様］は，水平自動スイッチを「切」にして，傾斜手動レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。

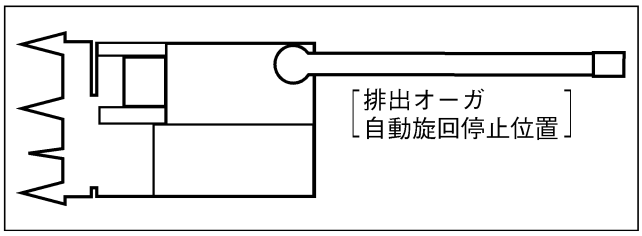
1．運転装置



❶　排出オーガ自動スイッチ

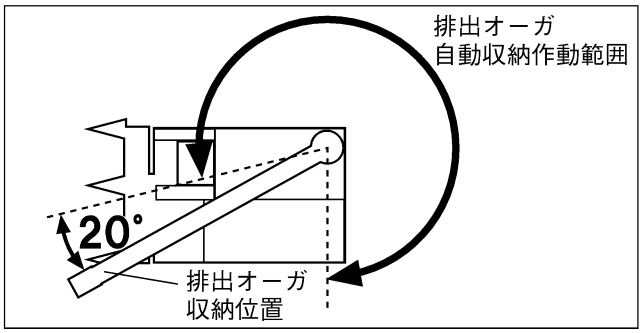


・「**入**」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。



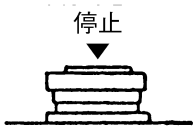
取扱いのポイント

- **自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。**



- **自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを解除してから行なってください。**
- **スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。**
- **自動が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。**

❷ 排出オーガ緊急停止スイッチ



・排出オーガが自動旋回中，および収納途中での排出オーガの旋回停止に使用します。

❸ ヒューズ

取扱い方は，22～24ページを参照します。

7. マイコン（マイクロコンピュータ）

高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

・エンジン停止制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御［A仕様］
・水平自動制御［L仕様］
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・選別自動制御
・ニューハーモニシステム
・排出オーガ自動（旋回＋収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所



❷ ヒューズ

「**マイコン**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。(22～24ページ参照)

取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは，「お買いあげ先」に相談してください。**

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
◆屋内でのエンジン始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。
◆取外したカバー類は，全て取付けてから，エンジンを始動してください。
◆エンジンオイルなどの油脂類，および不凍液を交換して廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆部品（バッテリなど），または機械を廃却するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検○，掃除○，補給○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																			備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	200	250	350	400	450	500	550	600	650	750	800	850	格納時		
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●		●	●		●		●		●	●		●			72〜73
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●	●		●		●		●	●		●			73
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○																	●		73〜74
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○						●				●				●					82〜83
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○						●			●				●			●				83
	ラジエータ防じんフィルタ，金網	点検・掃除	○	○																	○		82
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○				●						●							129
	燃料ホース	点検・交換	○	●（２年ごと）																		燃料もれ点検	121
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○																				86〜88
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○																		損傷の場合交換	85
	計器，スイッチ類	点検	○	○																			6〜13
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●			●			●					●					75〜76
	油圧ホース	点検・交換	○																			油もれ点検	121
	油圧オイルフィルタ	交換					●						●							●			76
	ＨＳＴオイルフィルタ	交換					●						●							●			76
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除						○			○				○			○					84〜85
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																				126
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●						●							●			75
	走行ベルト	点検・調整	○			○							●										129
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○		○	○		○		○		○	○		○			126
	マルチステアリングレバー	点検・調整	○	○	○																		125
	作業機クラッチレバー	点検・調整	○		○																		127
	刈取クラッチレバー	点検・調整	○		○																		127
	クローラ	点検・調整	○	○																			139
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																			［Ｌ仕様］	79
	ローラ・アイドラ・転輪	点検	○	○																			ー

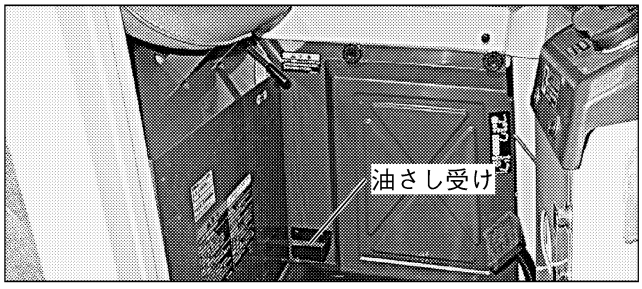
分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）													備考	参照ページ
			ｼｰｽﾞﾝ前	始業前	25	50	100	150	250	350	450	500	600	700	800	格納時	
刈取部	こぎ深さギヤケースオイル	点検・補給	○														ー
	スターホイル駆動ケース（右）オイル	点検・補給	○														77
	スターホイル駆動ケース（左）オイル	点検・補給	○														77
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○		130
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			135
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			135
	引起しチェン	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		160
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			137
	かき込み搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		136，121
	穂先搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		136，121
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○				●			●			●	○	140～141
	集中注油タンク	点検・補給	○	○													79
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		160
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○														77
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○														78
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給	○														78
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			160
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			ー
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			131
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			132
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			131
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○					●				●			133
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		138
	穂先排ワラベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●				●		133
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○													○	93
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○									●			124
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●			●			●		122～124
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●				○	91～92
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○													○	91～99
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○													○	93
グレンタンク部	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○														79
	グレンタンク	点検・掃除	○													○	100
	グレンギヤケース駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○							●					159
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○	○							●					134
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○													○	100
カッタ部	カッタ排ワラ切替レバー	点検・調整	○		○												128
	カッタ刃	点検・交換	○	●（100時間ごと）													102～120
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○							●					134

2．給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検表」**（25～26ページ）および**「定期点検整備表」**（66～69ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却するときは，油脂類廃却設備のある所で処理します。

取扱いのポイント

- **各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油差しを常備してください。**



⚠危険 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料もれがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行なってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆交換したオイルを廃却するときは，廃却設備のある所で廃却処理してください。
◆エンジンカバーを開いて点検などを行なった後は，エンジンカバーを閉じて固定レバーで固定してください。

「給油・注油・給水表」

No.	個所	種類	種類		容量（L）	備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号		
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	30	JIS 2 号（－7.5℃まで） JIS 3 号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	CD級以上	10W－30	3.7	
③	ラジエータ（補助タンク1.0Ｌ含む）	冷却水（不凍液40～45%含む）	－	－	5.6	北海道は，不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	6.7	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL－4以上	10W－30	18.0	
⑥	スターホイル駆動ケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	右側 1.0 左側 1.0	刈取搬送部左右各１ケ
⑦	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.55	
⑧	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.65	
⑨	搬送ＨＳＴギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	90	0.6	
⑩	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL－5以上	140	0.3	
⑪	集中注油タンク	エンジンオイル	－	－	1.5	

指定オイル

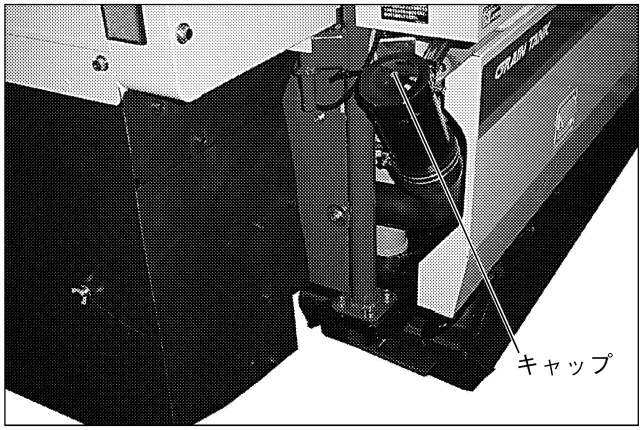
・ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 ディーゼルエンジン用オイルAPI・CD級以上，SAE・10W－30

・油圧作動油…… 純正油 または，使用オイル表（164～165ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

- 燃料タンク・集中注油タンク以外は，工場出荷時の容量です。
  交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
  但し，レベルゲージまたは検油栓のない個所は，全量交換してください。排油栓のない個所は補充してください。
- 使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（164～165ページ）を参照してください。

1．燃料の補給



・給油口のキャップを外して，補給します。

・燃料……ディーゼル軽油

JIS 2 号（－7.5℃まで）

JIS 3 号（－20℃まで）

・タンク容量……30 L

取扱いのポイント

- **燃料はフィルタを通して，ゴミや水が混入しないように給油してください。**
- **運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行なってください。（84ページ参照）**
- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますと，エンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがあります。**
  燃料タンク給油口のフィルタを通して，給油してください。
- **燃料は，雨水などがかからない場所に保管してください。**

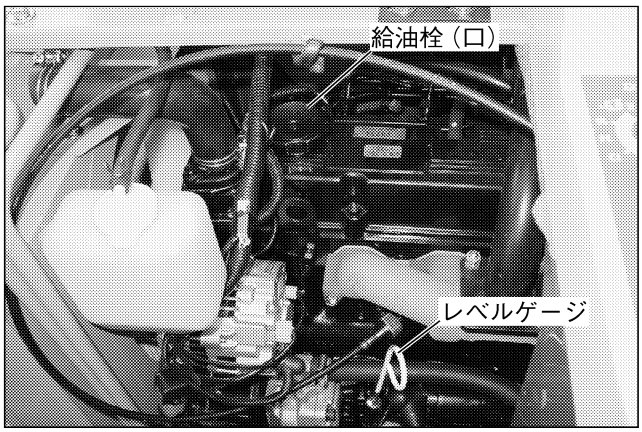
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換

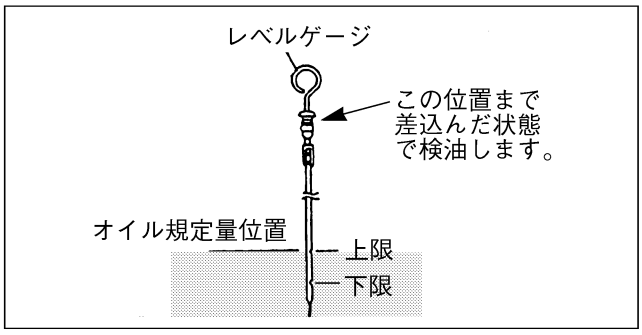
❶ エンジンオイルの点検

(1) エンジンカバーを開きます。(オープンのしかたは，「**エンジンカバー固定レバー**」取扱いの項21ページを参照ください)

(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭き取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。

(3) 作業後にエンジンカバーを閉じてください。



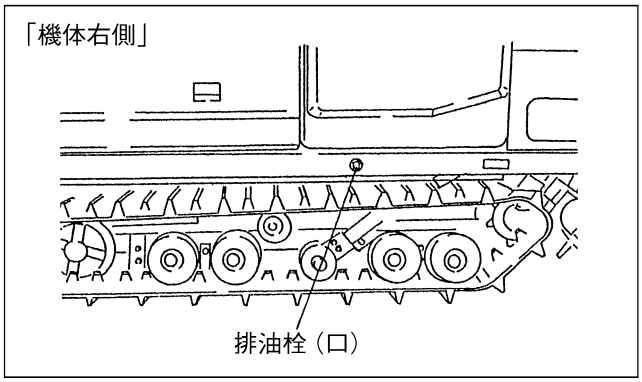


取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油口からワラクズなどが入らないよう，事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。**

❷ エンジンオイルの交換

(1) エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。



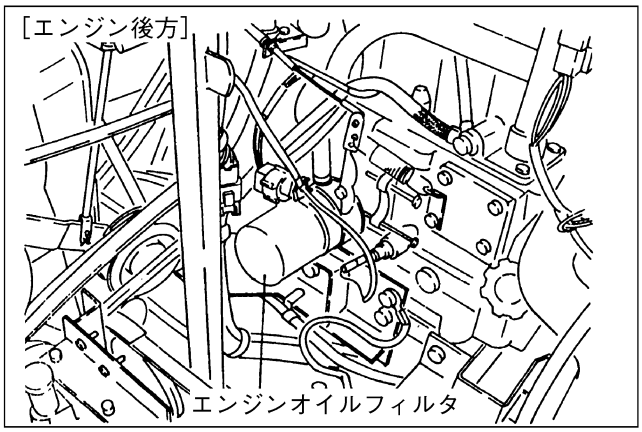
(2) オイルを抜き終わったら排油栓を締め，新しい「**純正エンジンオイル**」をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

- **ディーゼルエンジン用オイル**
  API・CD級以上，SAE・10W−30
- **オイル量……3.7 L**

(3) 交換後，エンジンを始動して，オイルインジケータランプが消えるまで低回転で運転します。(7ページ参照)

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。



(1) オイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用しています。

(2) オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

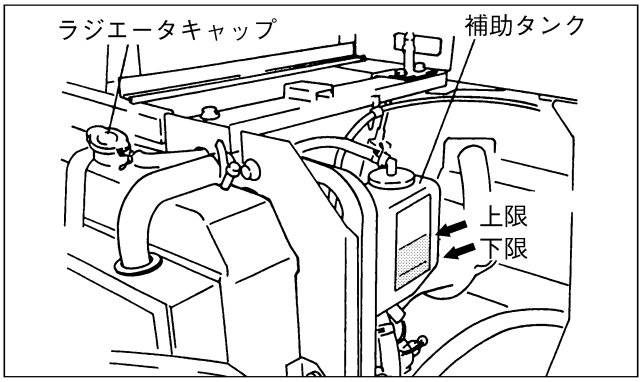
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。(21ページ参照)

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が「**給水レベルの上限と下限の間**」にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

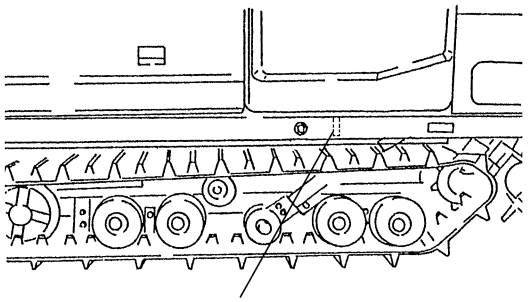
・ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。
・補助タンクの「**上限**」位置まで給水します。
- **冷却水……清水（水道水）**

取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。**

❸ ラジエータ冷却水の交換

⑴ ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓から排水します。



⑵ ラジエータ内の水が，きれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

⑶ 排水が終わったら排水栓を閉めます。ラジエータ給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めます。

⑷ **不凍液の注入**

工場出荷のときは，不凍液「**ロングライフクーラント**」（PT）が注入され「**外気温度－25℃**」の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き「**不凍液濃度基準**」を参考に入替えます。

「**不凍液濃度基準**」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液の交換は「**お買いあげ先**」にて行います。

⑸ 補助タンクの《**給水レベル**》位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐蝕を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようお奨めします。

・冷却水量（補助タンク1.0Ｌ含む）

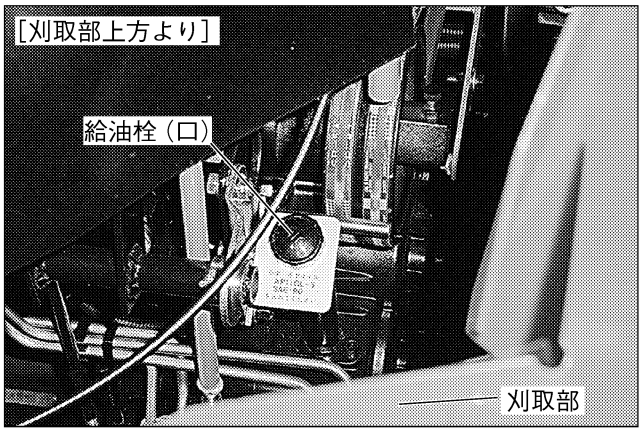
…5.6Ｌ

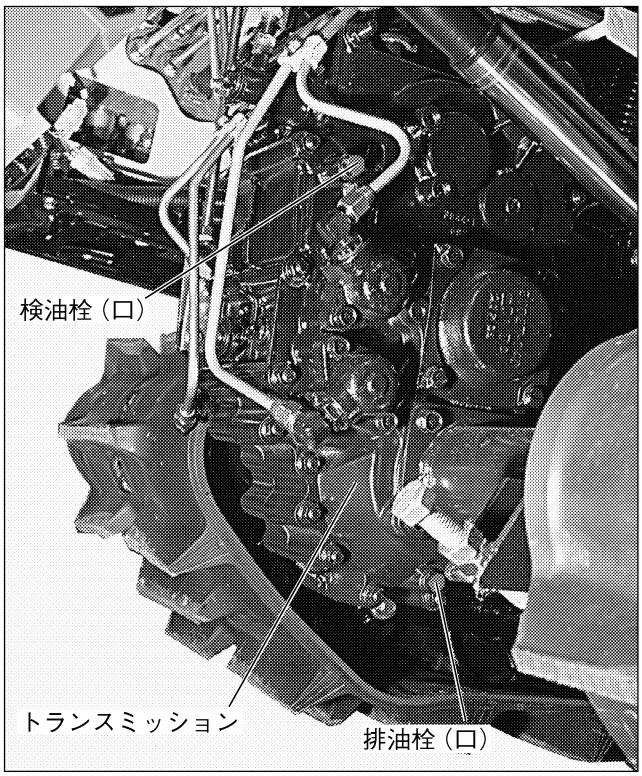
取扱いのポイント

- **冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。**
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」してください。**

4．トランスミッションケースのオイル点検･交換

オイルの点検・交換は「**お買いあげ先**」にて行います。





❶　点検

・ミッションケース横の検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

・不足しているときは，給油口より補給します。

❷　交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。

・給油するときは，検油栓まで給油します。

・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量…　6.7 L

5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機体が傾いたり，刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタを同時に交換を行います。

・油圧作動油量の点検，およびフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。

❶　油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

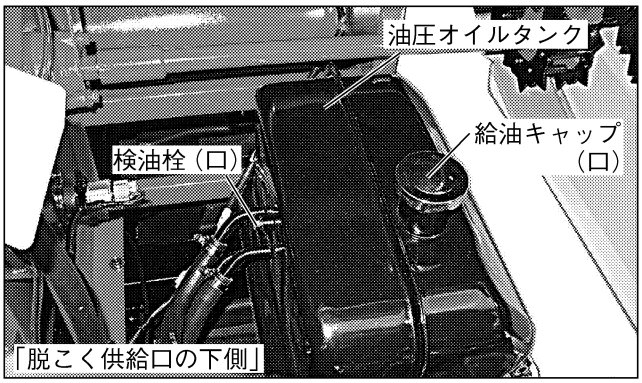
・不足しているときは，給油口より補給します。

❷　油圧作動油の交換

・油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。

・油圧作動油…（純正油）または，使用オイル表（164～165ページ）の指定オイル

・オイル量……18.0 L
（10分程度運転後のオイル補充分を含む）



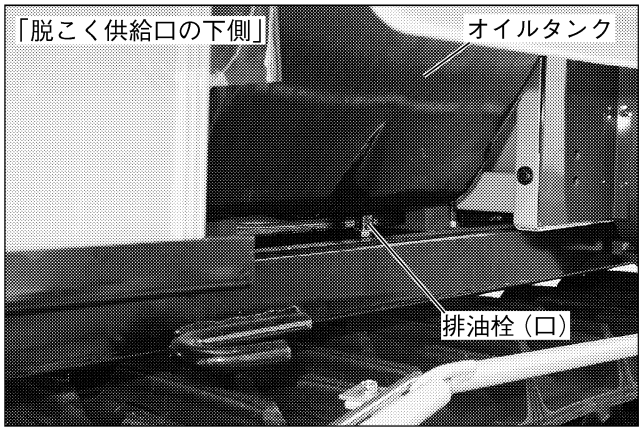
※油圧オイルタンクは保護カバーで覆われています。保護カバーの取外しは「81－1ページ」を参照します。

❸ 油圧作動油の抜取り要領

(1) エンジンを始動し，刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

(2) 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

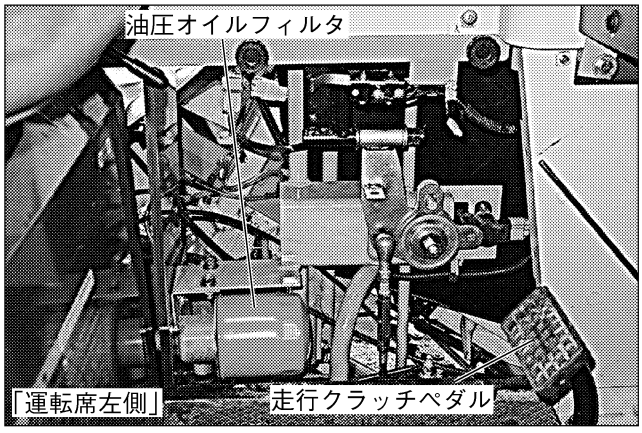
(3) オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

(1) 油圧作動油のオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，購入のうえ交換します。

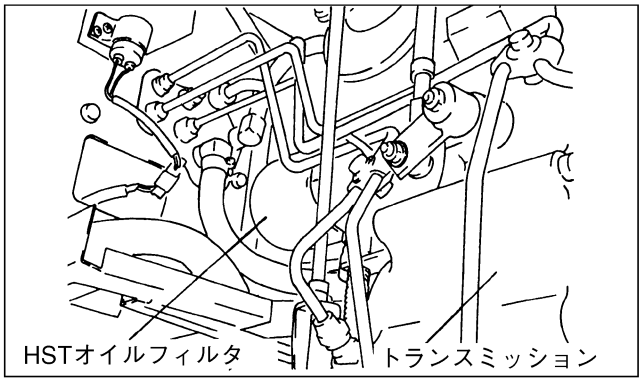
(2) 油圧オイルフィルタは，運転席の左側にあります。



❺ HSTオイルフィルタの取外し要領

(1) HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用しています。

(2) HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装着してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

(1) フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

(2) 締付けは手で行い,取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

(1) オイルタンクの給油口より，タンク右側の検油栓からオイルが出るまで給油します。

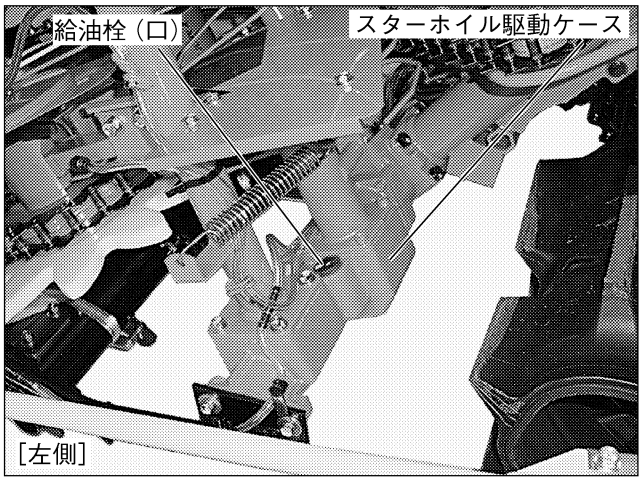
(2) エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

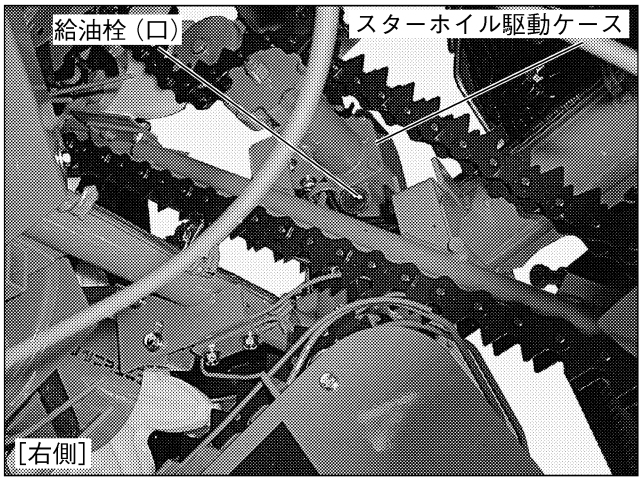
エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

6．スターホイル駆動ケース（刈取部）

オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。

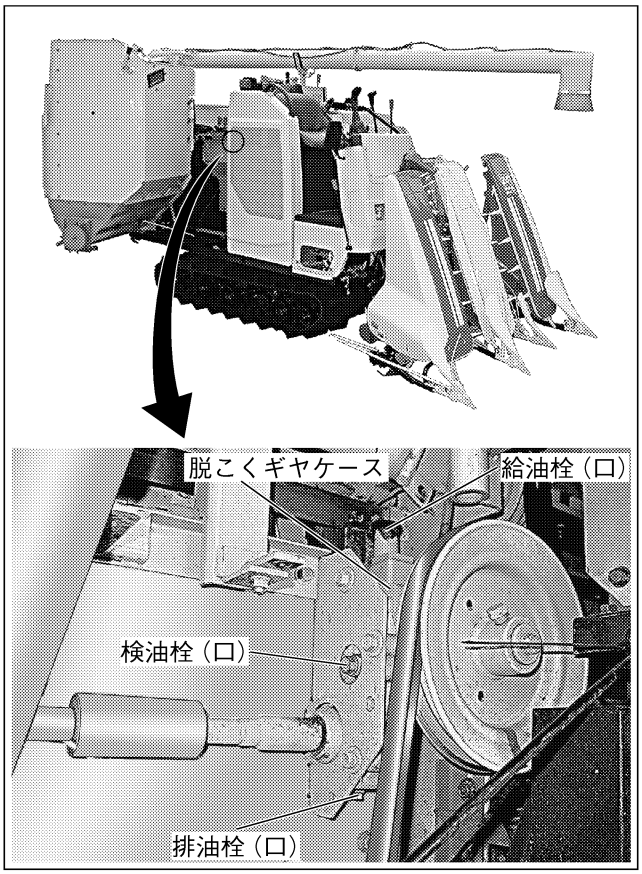




・ギヤオイル…API・GL−5以上，
SAE・140
・オイル量……1.0 L （左右共）

7．脱こくギヤケースのオイル点検・交換

オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。



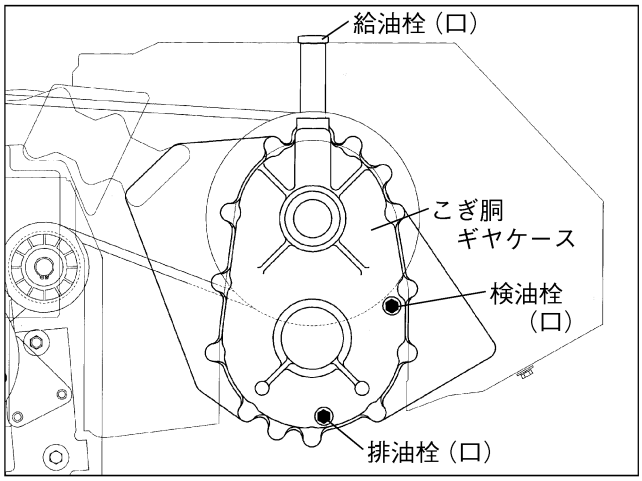
・検油栓まで給油します。
・ギヤオイル…API・GL−5以上，
SAE・90
・オイル量……0.55 L

8．こぎ胴ギヤケース

オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。



(1)　こぎ胴部の前カバーを外します。

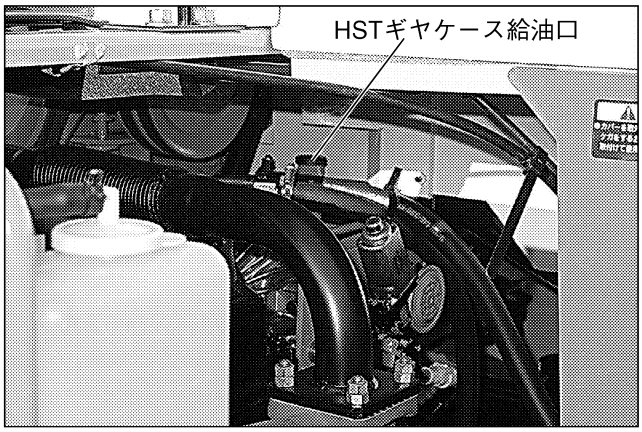


・ギヤオイル…API・GL−5以上，
SAE・90
・オイル量……0.55 L

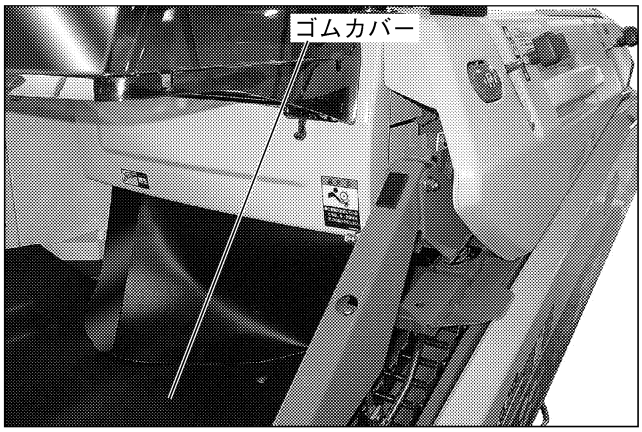
9．搬送HSTギヤケース

オイルの点検・交換は，「**お買いあげ先**」にて行います。

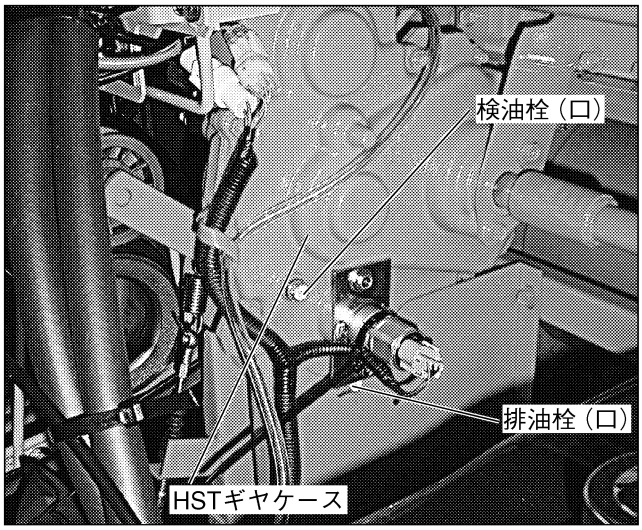
(1)　エンジンカバーをオープンします。



(2)　脱こく入口のゴムカバーをめくります。



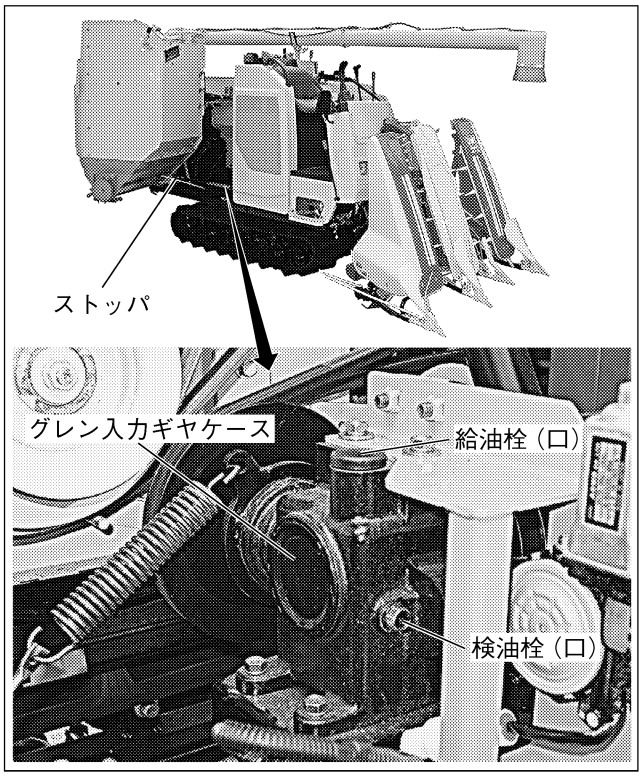
(3)　保護カバーをめくります。(81－1ページ参照)



・ギヤオイル…API・GL−5以上，
SAE・90
・オイル量……0.60 L

10. グレン入力ギヤケースのオイル点検・交換

オイルの点検・交換は,「**お買いあげ先**」にて行います。



・検油栓まで給油します。
・**ギヤオイル…API・GL−5以上,**
SAE・140
・**オイル量……0.3 L**

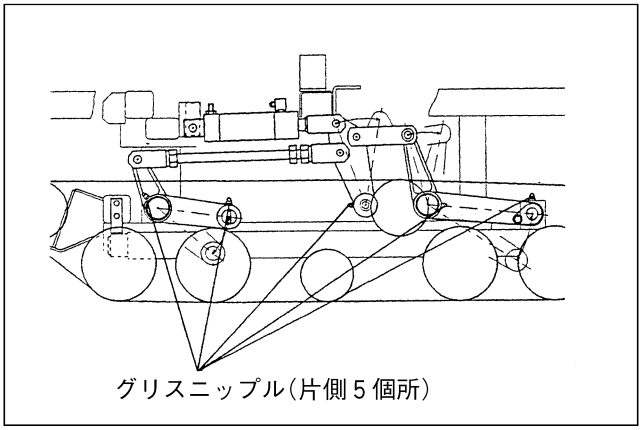
11. 集中注油タンク



・刈取部サイドカバー（右）を外し給油します。
・**エンジンオイル**
・**オイル量……1.5 L**

12. 機体水平制御リフトアーム軸受部の給脂 [水平自動制御仕様]

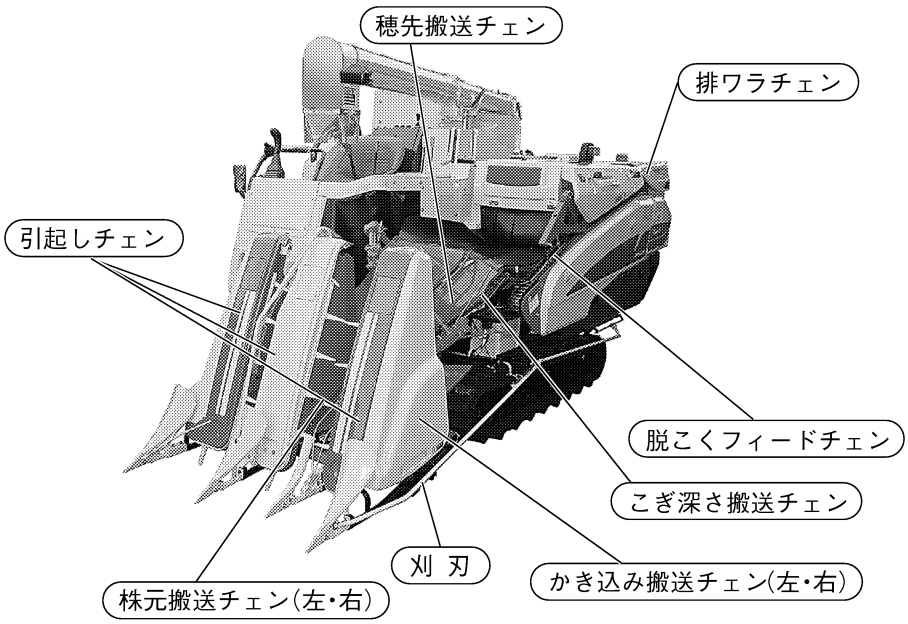
給脂は,「**お買いあげ先**」にて行います。

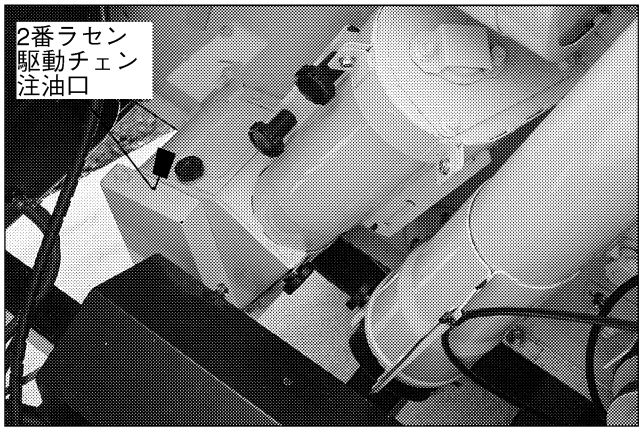


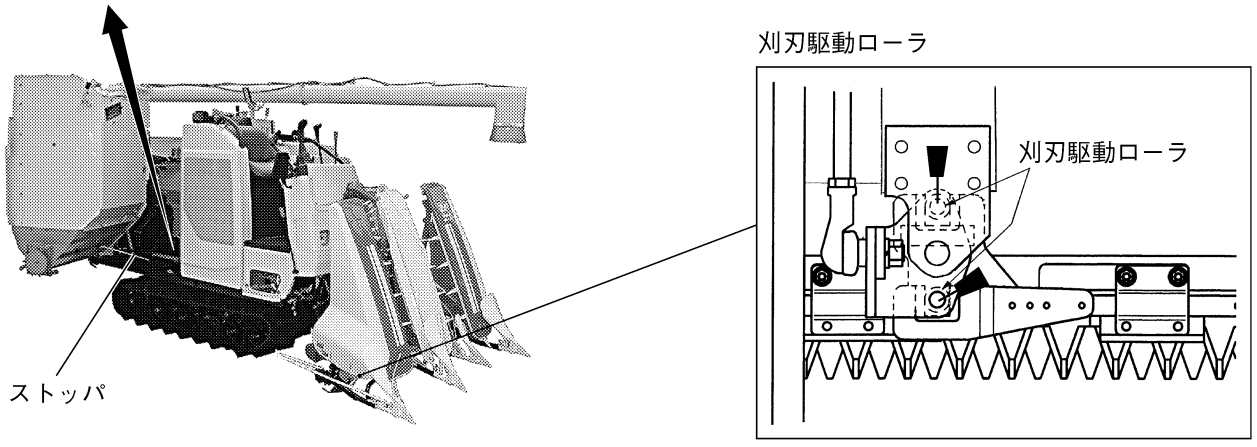
左右10個所グリースガンで給脂します。
・**リチウムグリス**
・**左右……10個所**

13. 各部の注油

各部への注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取・脱こく部関係の注油（ ）個所）は「**集中注油装置**」で注油ができます。そのほかの注油は「**油差し**」で注油します。







14．集中注油装置の使い方

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに歯止めをかけてください。

◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。

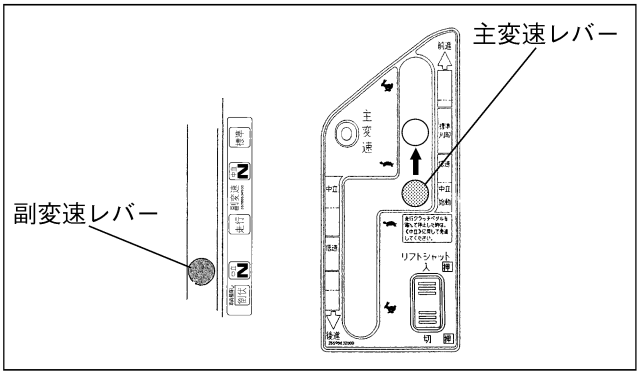
❷ 機体，刈取部をいっぱい下げます。

❸ 副変速レバーを《**N**》（**中立**）にします。

❹ エンジン回転を低回転にします。

❺ 作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》にします。

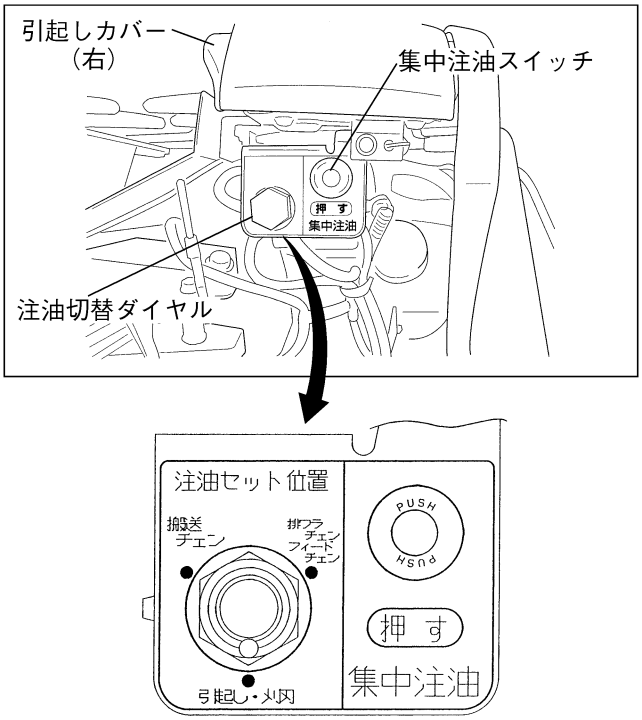
❻ 主変速レバーを《**標準刈取**》位置にして，刈取部を回転させます。



❼ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切替ダイヤルにより以下の注油個所の切替えができます。

注油切替ダイヤルを切替中に，集中注油スイッチを操作すると，故障の原因となりますので，スイッチを押さないでください。

・刈取搬送チェン部（株元搬送左右，かき込み搬送左右，こぎ深さ搬送，穂先搬送）
・引起しチェン部，刈刃部
・脱こくチェン部(フィードチェン,排ワラチェン)



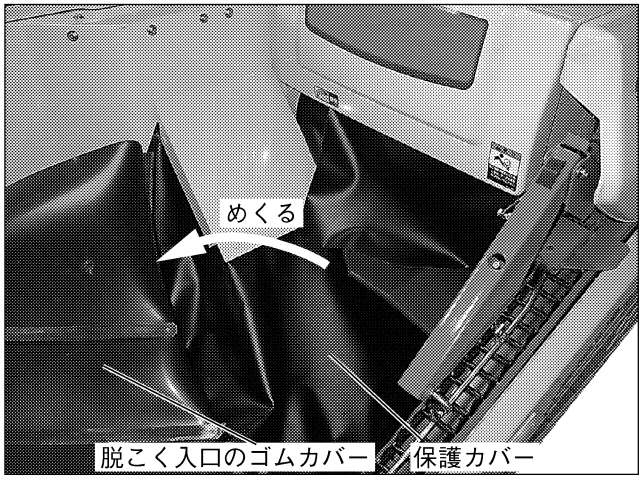
取扱いのポイント

- **注油中にオイルが流れ落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは，拭き取ってください。**
- **注油ホースの継ぎ部からオイル漏れがないか，点検確認してください。**
- **注油切替ダイヤルは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。**
- **《フラッシャ・ホーン・燃料ポンプ・注油モータ》ヒューズ（15Ａ）が溶断していると，注油はされません。(22～24ページ参照)**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースを鎌などで損傷しないようにしてください。**
- **刈刃用ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行なってください。また，エンジンは停止してください。**

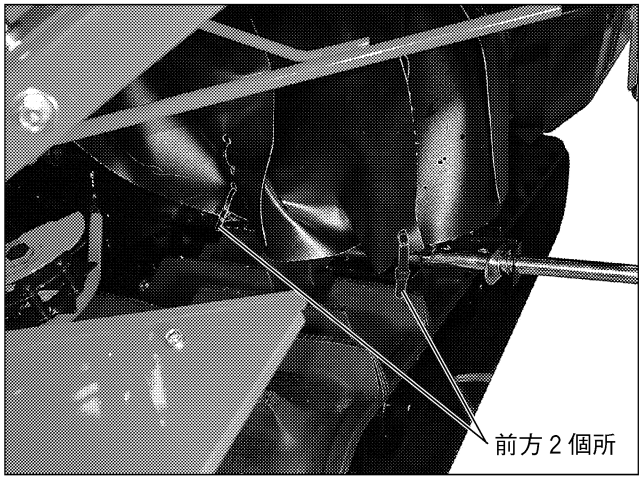
15．保護カバーの取外し

この保護カバーはバッテリ，油圧オイルタンク，搬送HSTギヤケース，刈取ベルト等を覆っています。これらの装置に関係する作業を行う時は，この保護カバーを上方に引き上げて，作業を行います。

❶ 脱こく入口のゴムカバーをめくります。

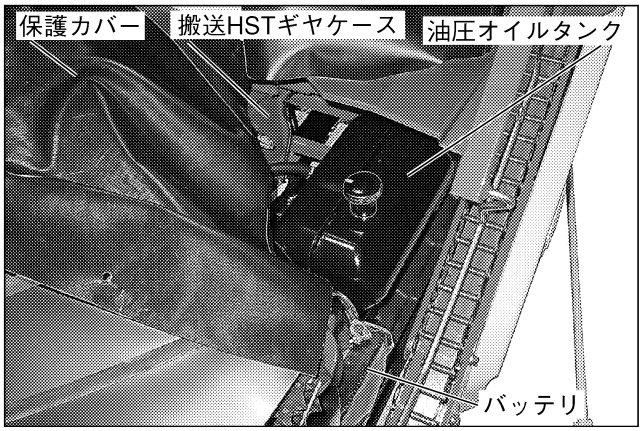


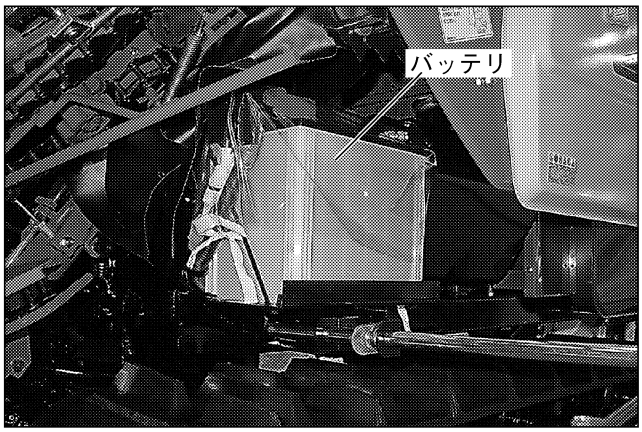
❷ 保護カバーを固定しているワイヤバンドを外します。(4個所)



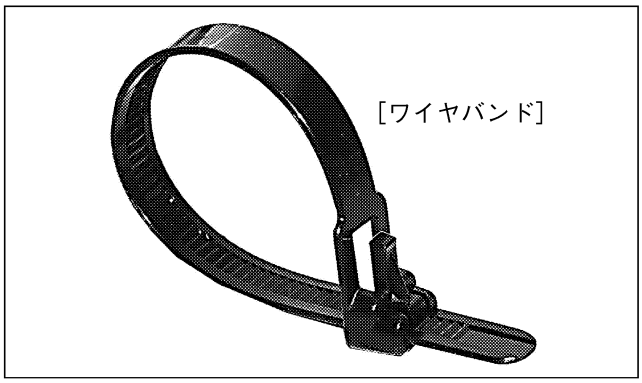


❸ 保護カバーを上方に引き上げます。(バッテリ，油圧オイルタンク，搬送HSTギヤケース，刈取ベルト等が露出します)





❹ 作業終了後は保護カバーを元通りにワイヤバンドで固定してください。



取扱いのポイント

- この頁で取外したワイヤバンドは保護カバーをめくる為に必要な個所のみ記載しています。この４個所だけでは保護カバーを完全に取外す事はできません。完全に取外すためには，保護カバーを固定している全てのワイヤバンドを取外す必要があります。

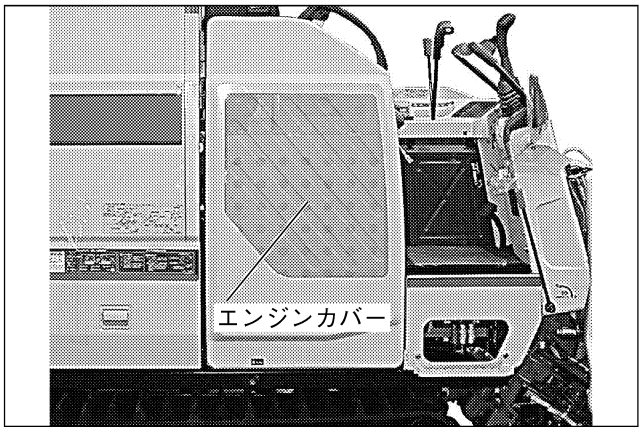
3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 障害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，エンジンを停止し，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

エンジンカバーおよび金網，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。



❶ エンジンカバーの表面のゴミを取除きます。

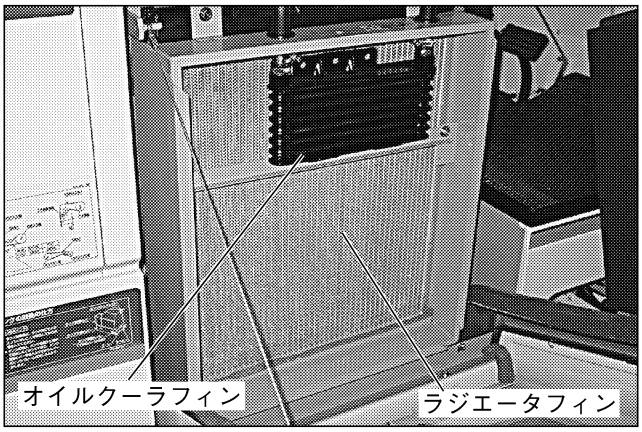
❷ 座席右下のエンジンカバー固定レバーを操作して，エンジンカバーを開き，金網を外し，ゴミを取除きます。

❸ 金網は，表面を柔らかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹きつけてゴミを取除きます。



❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部に「**ゴミ詰まり**」を生じたときは，次の方法で取除きます。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形する恐れがあります。



取扱いのポイント

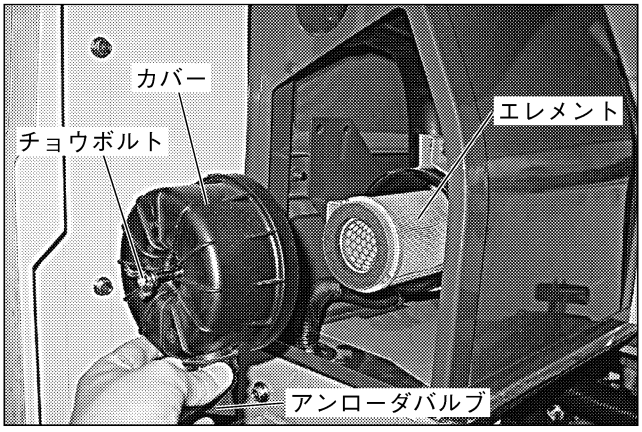
- **エンジンカバーを開けたときは，ラジエータの冷却水を確認してください。（73〜74ページ参照）**

2．エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶ エアクリーナカバーのチョウボルトを外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。



❸ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

取扱いのポイント

- **コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「588kPa（6kg f ／㎠）以下」で行なってください。**

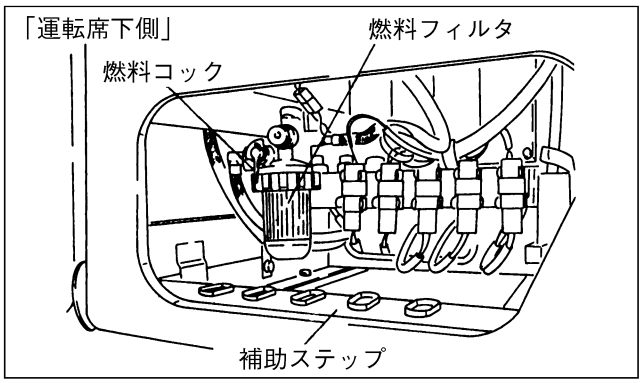
3．燃料フィルタの掃除・交換

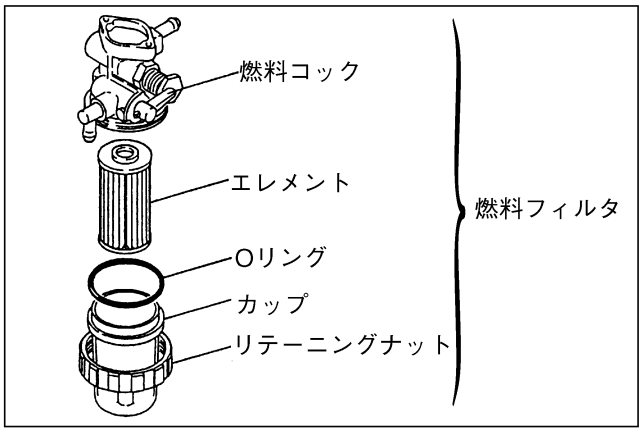
⚠危険 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行います。交換は「**お買いあげ先**」にて行い，エレメントとOリングを同時に交換します。





❶ 燃料コックを「**閉**」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❷ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❸ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❹ Oリングに注意しながら，エレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締付けます。

❺ 燃料コックを「**開**」の位置にして，エア抜き要領に従って，エア抜きを行います。

4．燃料のエア抜きのしかた

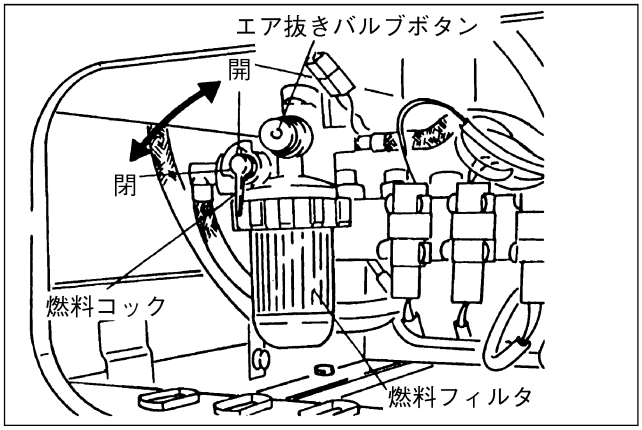
運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時は，次の手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して，燃料を給油します。

・**燃料はディーゼル軽油**

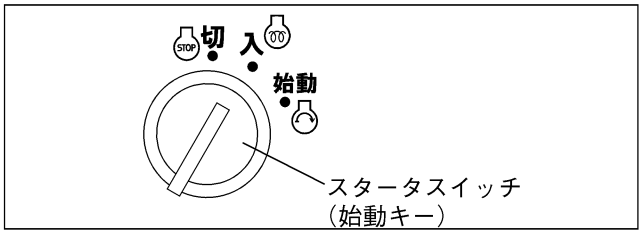
JIS 2 号（−7.5℃まで）

JIS 3 号（−20℃まで）



❷ 燃料フィルタの燃料コックを「**開**」位置にします。

❸ スタータスイッチを《 **入**》位置にします。



❹ 燃料フィルタのエア抜きバルブボタンを「**約30〜40秒間**」押し続けます。

❺ エンジンコントロールレバーを《 》(**高速**)位置にして，スタータスイッチを回してエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❹項からの操作を行います。

取扱いのポイント

- **エンジンが 1 回で始動しない場合は，バッテリやスタータモータを保護するため，スタータスイッチを《 切》位置に戻してから約30秒休止後，再び《 始動》位置に回してください。**

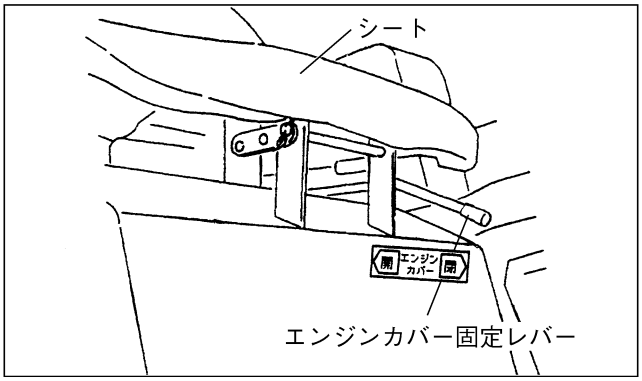
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

油圧作動油の劣化や，汚れによる作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

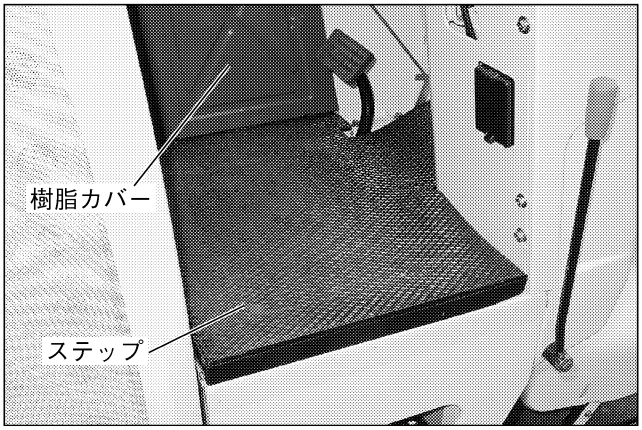
・掃除は，66〜69ページの「**定期点検整備表**」に従って「**お買いあげ先**」にて行います。

❶ **フィルタの清掃**

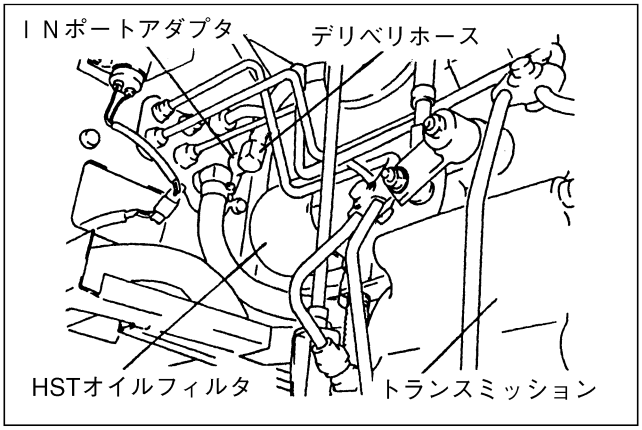
(1) 座席シート左側の固定レバーの操作によりエンジンカバーを開きます。



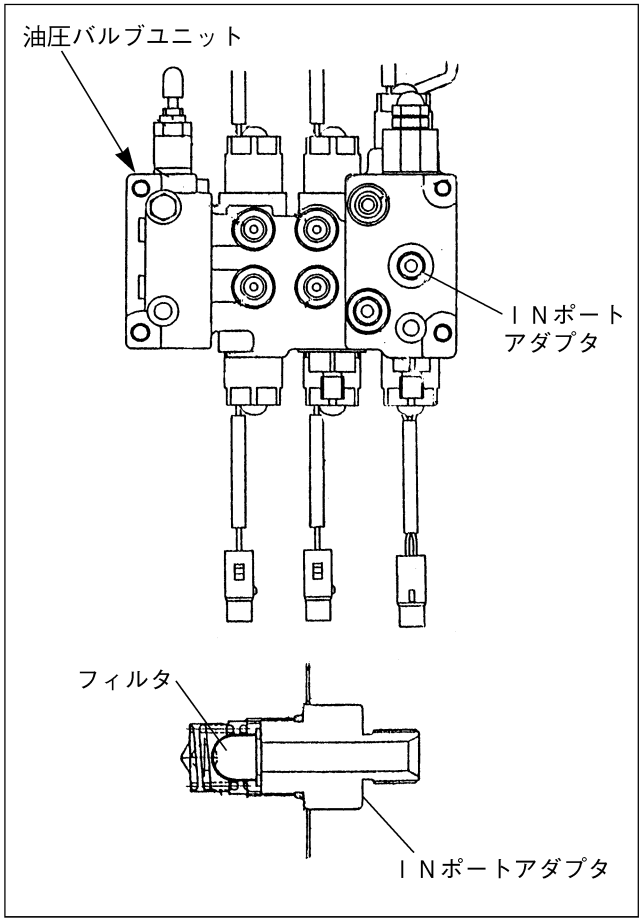
(2) 樹脂カバーステップを外し，ホコリやゴミを取除きます。



(3) デリベリホースを外します。



(4) ＩＮポートアダプタ（六角対辺30）を外し，フィルタを取外します。



(5) フィルタの内側よりエアを吹付けて，きれいに掃除します。

(6) 清掃したフィルタを，方向を間違えないように組込みます。

(7) ＩＮポートアダプタを取り付け，デリベリホースを組付けます。

❷ 組付け後の操作確認

(1) エンジンを始動し，マルチステアリングレバーにて刈取部を３～４回上下させて，カバーの取付部およびホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

(2) エンジンを停止して，オイルタンクのオイル量を点検し，不足していれば検油栓まで補給します。

６．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《 切》位置にし，バッテリコードのアース側㊀端子を外してください。

◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

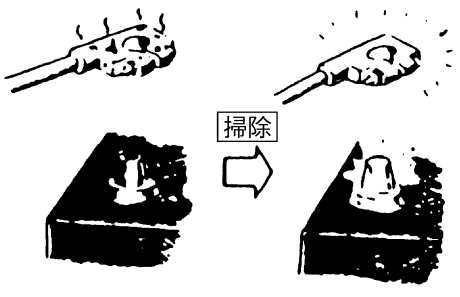
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



7．バッテリの点検と充電

バッテリの残存容量と液量を確認します。

指定バッテリ……55D23R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。

◆ブースタケーブルは，100Ah以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆⊕端子が機械に，接触しないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリは充電するとき，引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」を近づけたり，「スパーク」による電気火花が，発生しないようにしてください。

◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇物ですので，こぼさないようにしてください。火傷をすることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

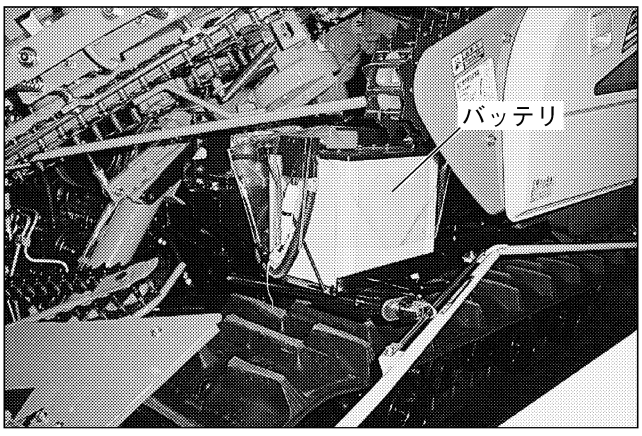
取付金具で，しっかり固定します。

取付金具等が腐蝕していれば，修理または取替えます。

❷ バッテリ着脱時の注意

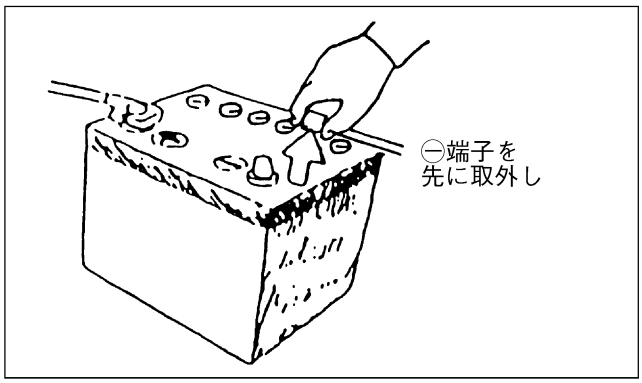
⑴ バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取り，すべての制御スイッチを《**切**》にします。

「バッテリの位置」

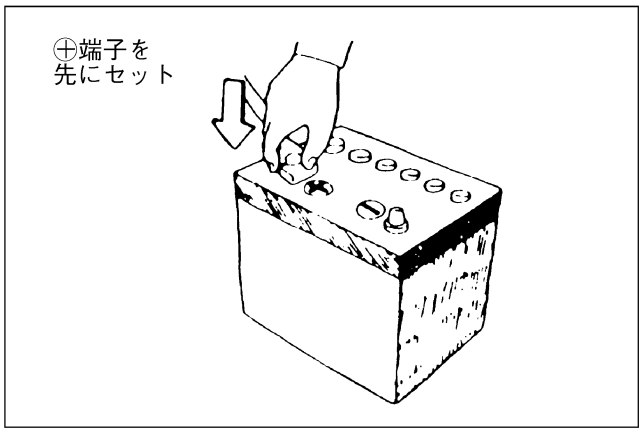


※バッテリは保護カバーで覆われています。保護カバーの取外しは「**81－1ページ**」を参照します。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは，「**アース側㊀端子**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは，「**プラス側㊉端子**」を先に取付けます。



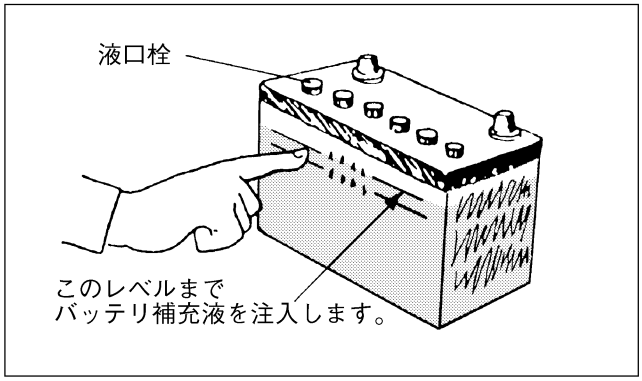
❸ 残存容量の確認

バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

❹ バッテリ液量の確認

バッテリ液が不足して，極板が空気中に露出しますと，バッテリの寿命は著しく短くなります。

減っていれば，バッテリ補充液を「**UPPER LEVEL**」（上限）まで注水補給します。

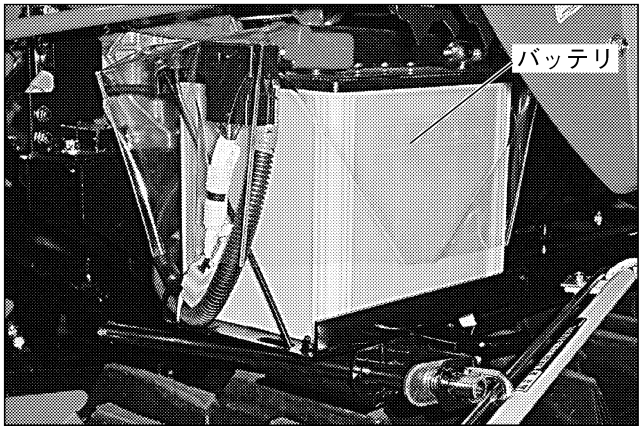


❺ ブースタケーブルによるエンジン始動

バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。

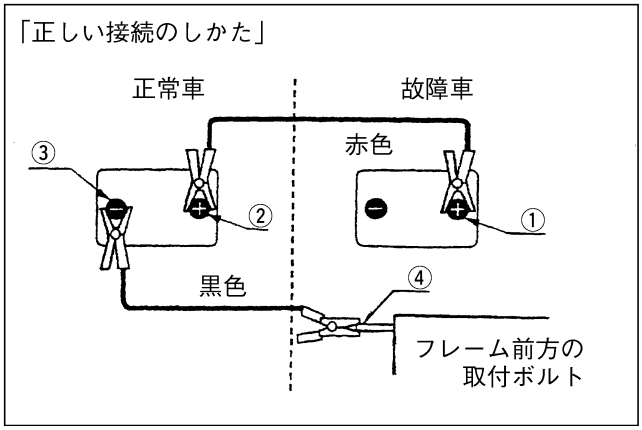
このときは，次の手順を守って行います。

「**接続の順序**」



「**ブースタケーブルの接続のしかた**」

(1) 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。



接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレーム前方の取付ボルトに接続します。

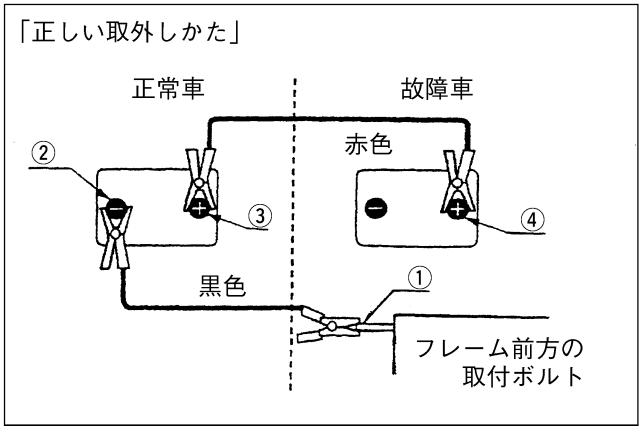
取扱いのポイント

- **ブースタケーブルをブースタ端子（十）に接続したら，ゴム板を被せておきます。**

(2) 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

(1) エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



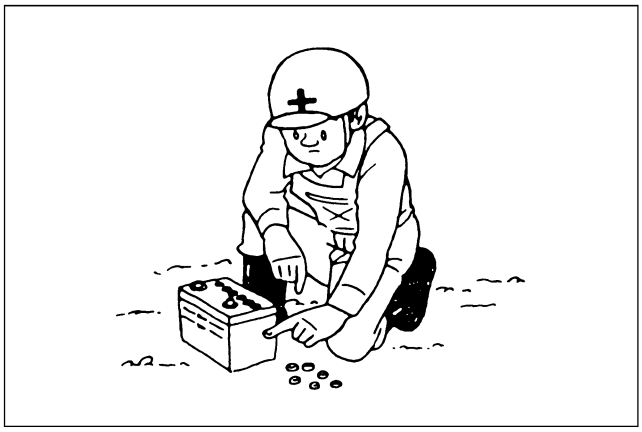
(2) 作業終了後は，ゴムブーツをブースタ端子に被せ，ゴム板を被せておきます。

❻ バッテリ単体での充電

(1) 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

(2) 機械からバッテリを取外します。

(3) **「液口栓」**をすべて取外します。

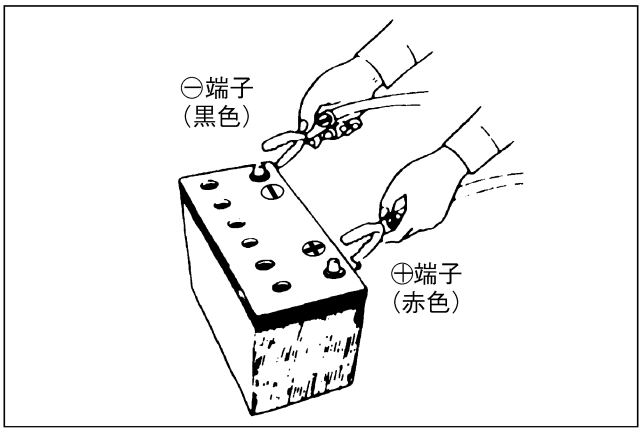


(4) 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が**「45℃」**を超えないようにします。

(5) **「水素ガス」**が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

(6) **「火気」**を近づけたり**「スパーク（短絡）」**による電気火花が発生しないようにします。

(7) 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを**「切」**にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。**
- **化学繊維製布による拭取りは，静電気が発生する恐れがありますので避けてください。**

8．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

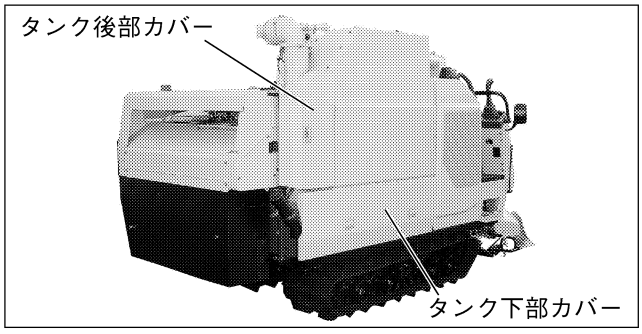
◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行なってください。

◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。

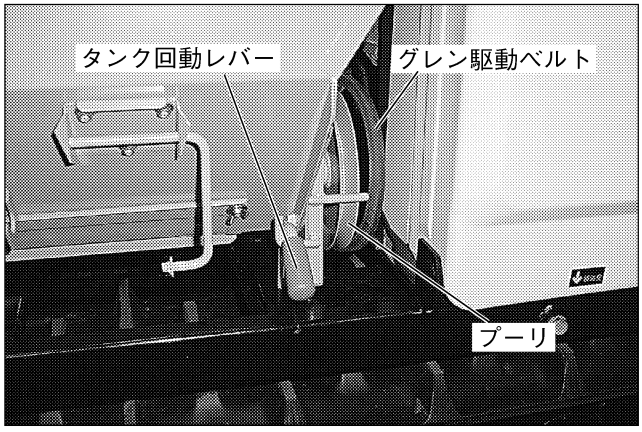
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して，ストッパをかけて行います。

❶ タンク下部カバーを取外します。

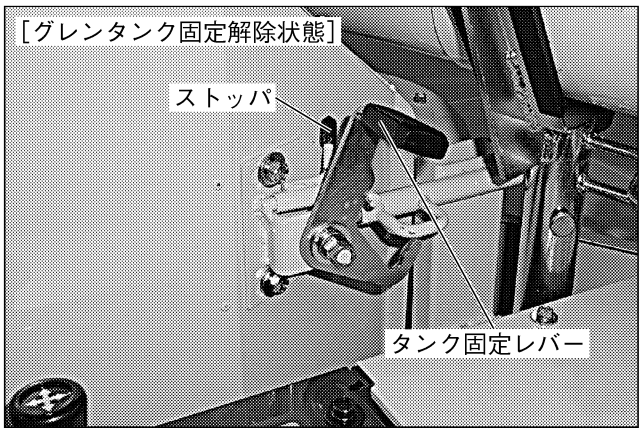
❷ タンク後部のカバーを開きます。



❸ グレン駆動ベルトを，プーリより外します。

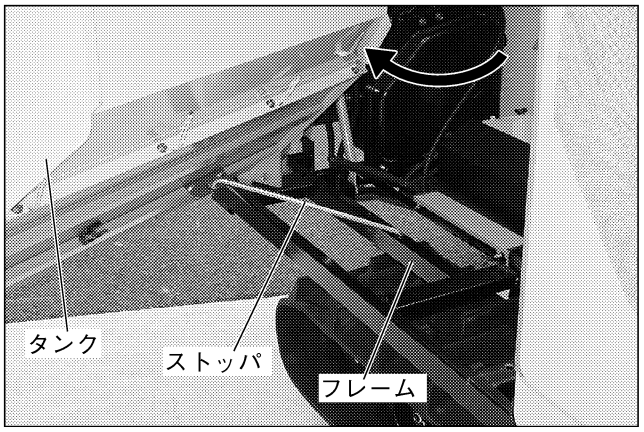


❹ タンク固定レバーのストッパを上げて，タンク固定レバーを解除します。



❺ タンク回動レバーを持ち上げながら，手前に引きタンクを回動します。

❻ タンクのストッパをフレームにかけます。



❼ 収納は逆の手順で行います。

❽ タンクを収納する途中で，タンク回動レバーのピンがフレームに当たり，回動しなくなります。この場合は，タンク回動レバーを持ち上げながら，タンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまで，タンクを押し込みます。（左下図を参照）

取扱いのポイント

- **収納後は，ベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。（134ページ参照）**
- **タンクの回動は，タンク回動レバーを持って行なってください。**

9．こぎ胴部の開きかた

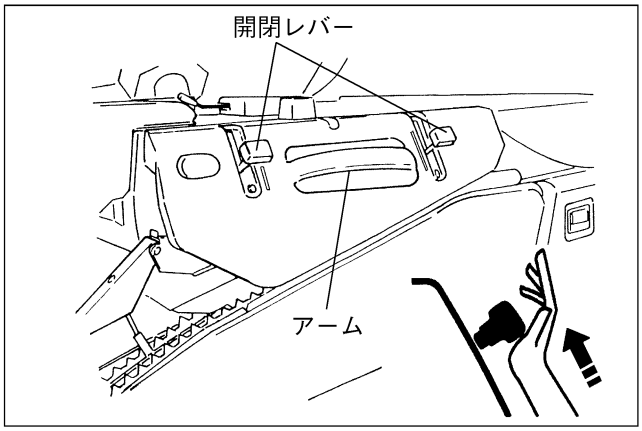
⚠警告　傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。

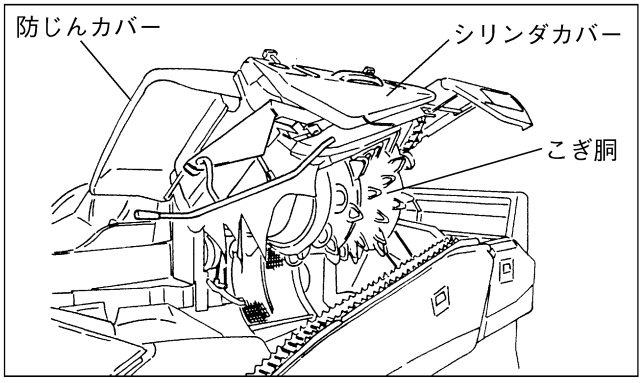
◆こぎ胴部を開くときは，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。この時，回動範囲内には，手や体を入れないでください。

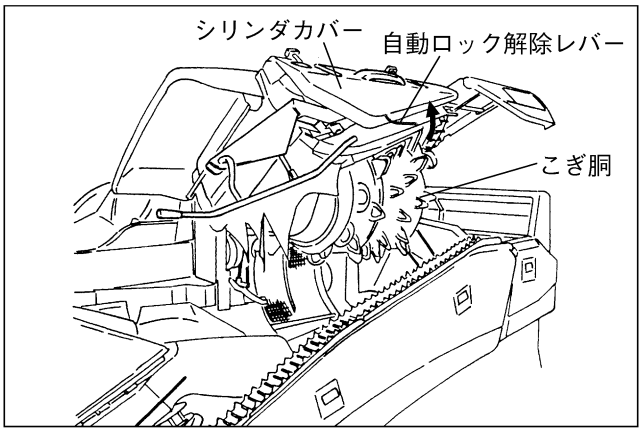
❶　2本の開閉レバーを押上げ，「**固定**」を解除します。この場合，レバーを握らず，掌で押上げてください。

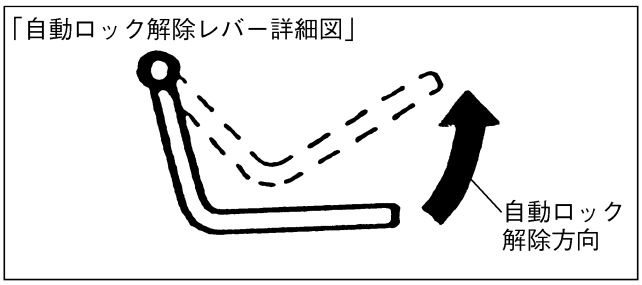


❷　A仕様は防じんカバーを閉じ，シリンダカバーの端部を持ってこぎ胴部を持上げ，「**カチッ**」という音を確認して，ゆっくり手を離します。(こぎ胴部は自動的にロックされます)



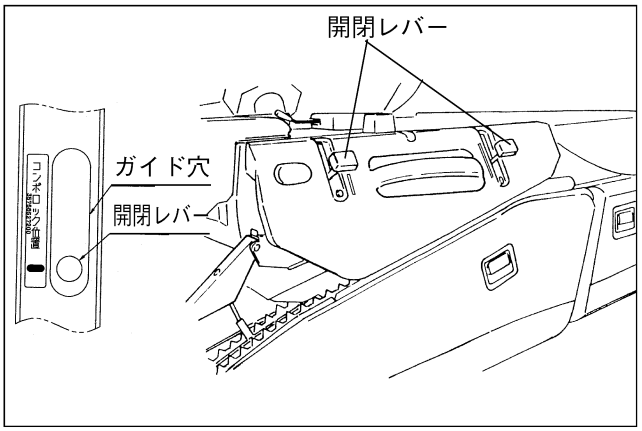
❸　こぎ胴部を閉めるときは，シリンダカバー端部を持って，こぎ胴部を一杯に持上げ，自動ロック解除レバーを矢印の方向に回動させて，ロックを解除してから，こぎ胴部をゆっくり下げます。





❹　こぎ胴を降ろすと，自動固定します。(開閉レバーを持って、こぎ胴を上げ下げしないでください)

・こぎ胴を閉めたときは，開閉レバー（2個所）を必ず下げて《**コンポロック位置**》にあることを確認します。



10．脱こく内部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは，互いに声をかけあい，安全を確認してから行なってください。
◆こぎ胴部は，自動ロック位置まで確実に持上げてください。
◆マフラカバーに触れないでください。
◆作業後はカバー類を確実に取付けてください。
◆受網（上）は，ワラ切カマが付いているので，取扱いに注意してください。

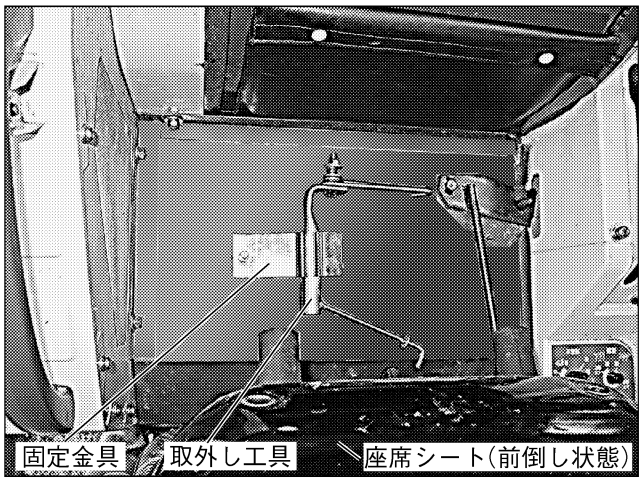
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

❶　「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

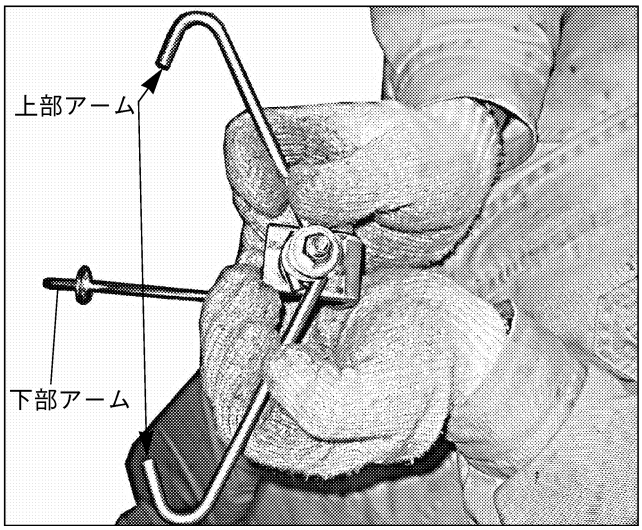
⑴　こぎ胴部をいっぱい持上げます。

⑵　受網（上）を外します。

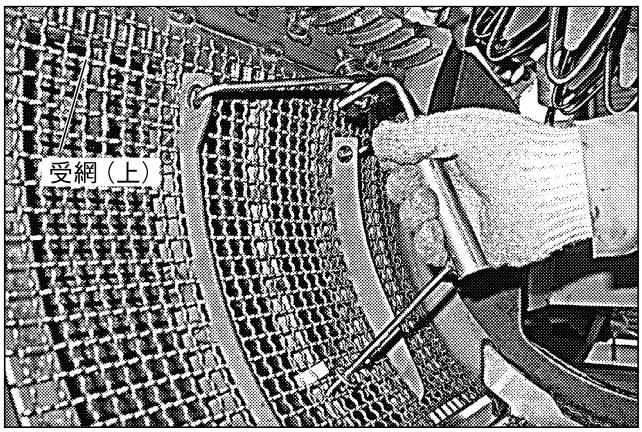
①　座席シート下に固定してある取外し工具を使用します。(お買い上げ時には取外し工具がセットされていません。付属品袋内の取外し工具を座席シート下の固定金具にセットしてください)



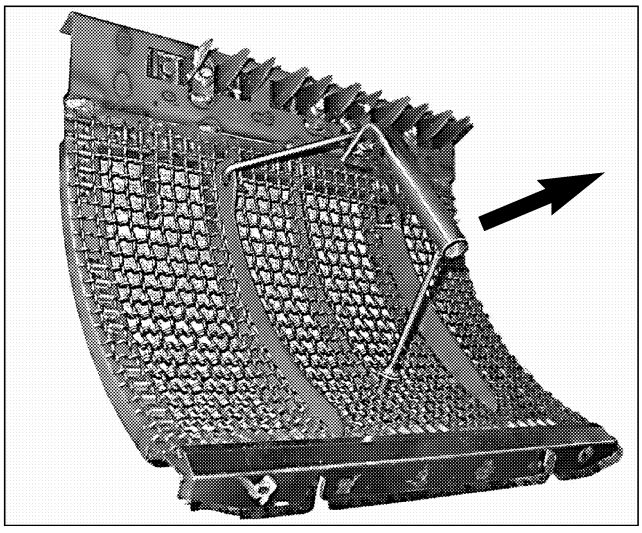
②　取外し工具の上部アームを左右に拡げます。



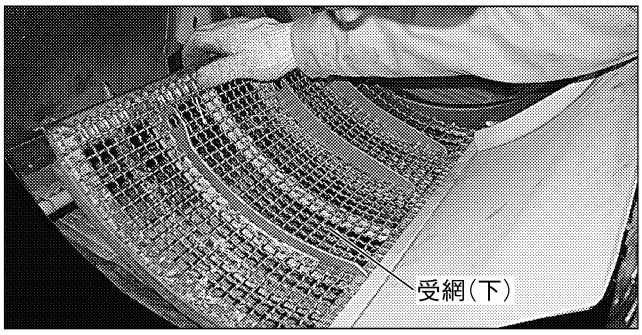
③　下の写真の位置に，アームをさし込みます。



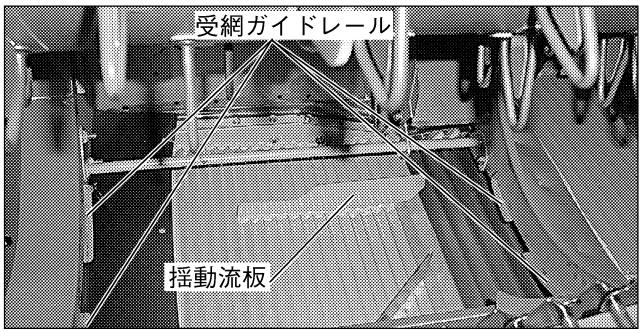
④　そのまま手前に引き出します。



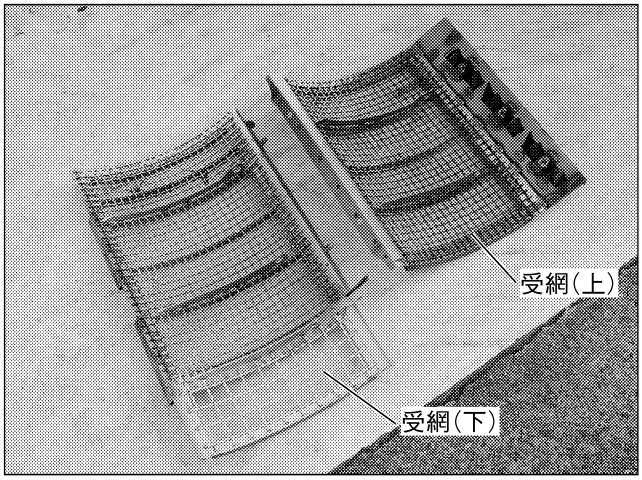
(3) 受網（下）を外します。



(4) 受網（上）・（下）を取付ける前に，受網ガイドレール（4個所）のワラクズや残粒を取除きます。



(5) 脱こく受網の取付けは，逆の順序で取付けます。



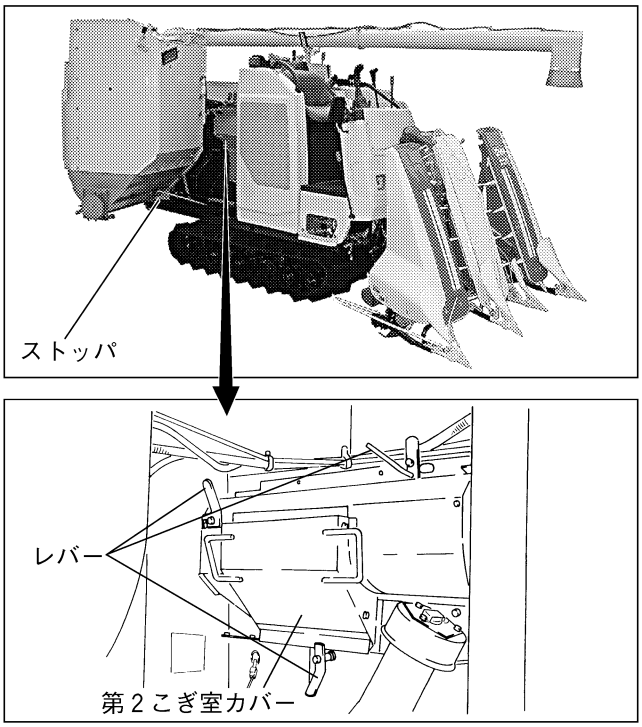
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は，取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール（4個所）に，こく粒やワラクズが溜まったまま受網をセットすると，受網が浮き上がった状態となり，こぎ歯に接当する場合がありますので，きれいに掃除してください。**

❷ 第2こぎ室の掃除

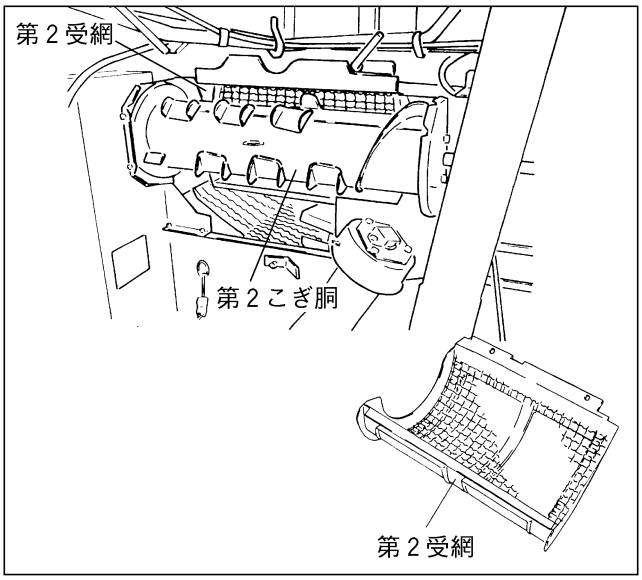
(1) グレンタンクを回動し，ストッパをかけて行います。(89ページ参照)

(2) 3個のレバーを回し，第2こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



(3) 第2受網は，受網の上側から第2こぎ胴を回すようにして，取外します。

(4) 第2受網の取付けは，逆の手順で取付けます。



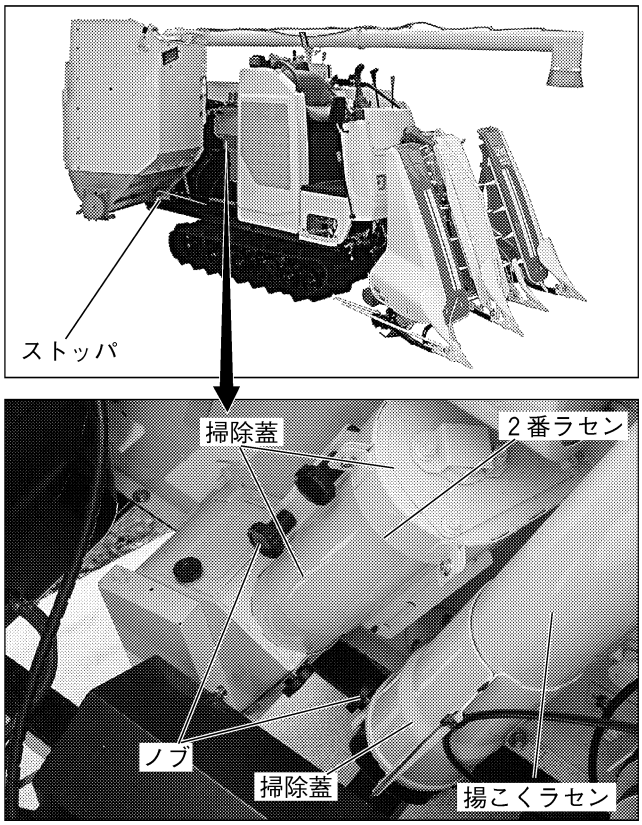
取扱いのポイント

- **長期格納前には，第2受網を取外して掃除をしてください。**

❸ 揚こくラセン部の掃除

(1) グレンタンクを回動し，ストッパをかけて行います。

(2) ノブを外し，掃除フタを取外し，内部に溜まっているこく粒を掃除します。



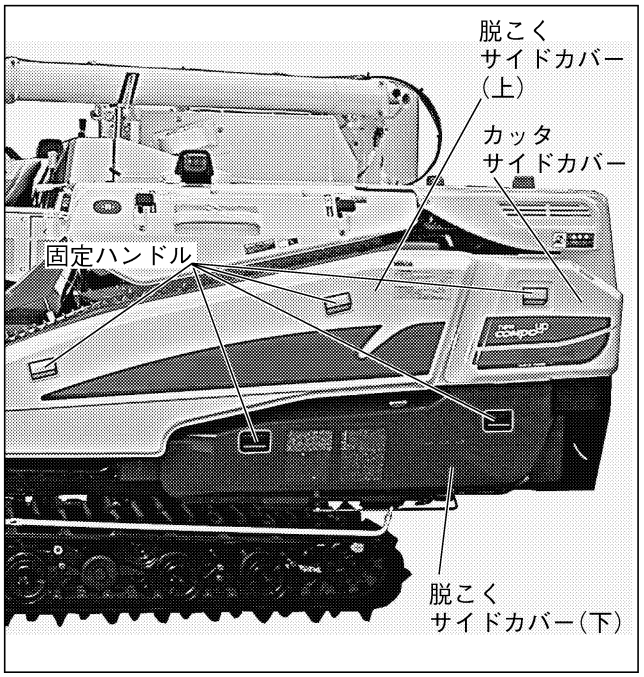
❹ 2番ラセン部の掃除

掃除は，2個所からできます。

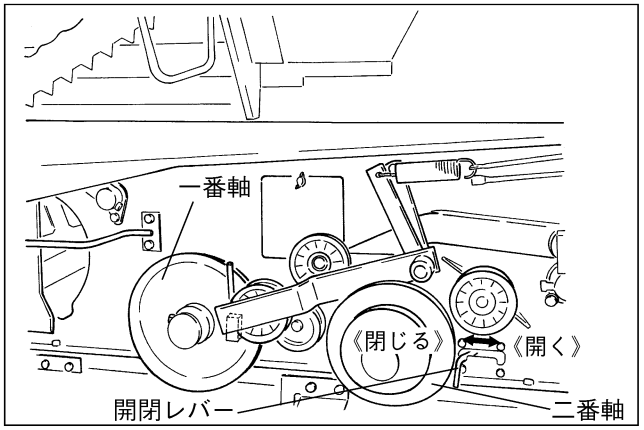
掃除蓋を取外し，内部に溜まっているこく粒を掃除します。

❺ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。



(2) 開閉レバーを《**開く**》方向に操作すると，底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。



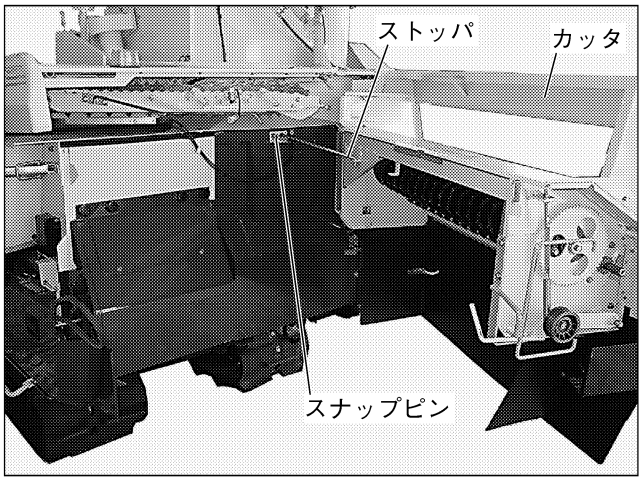
(3) 掃除後は，開閉レバーを《**閉じる**》位置に戻します。

取扱いのポイント

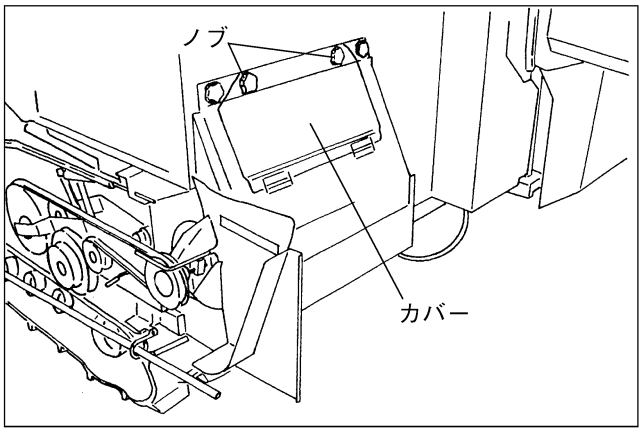
- **掃除後は，底板が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。**

❻ 排じん室の掃除

(1) カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(101ページ参照)

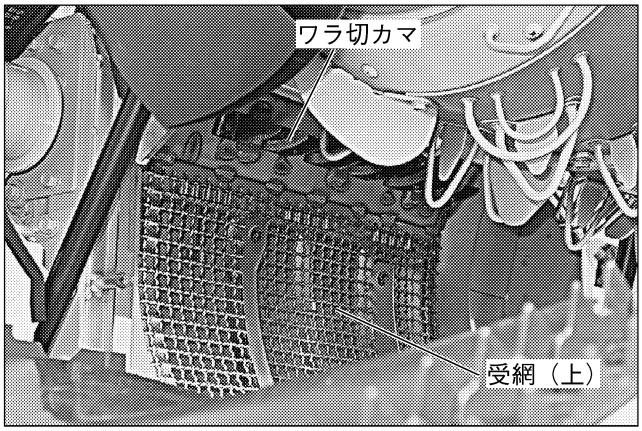


(2) ノブ2個を外し，カバーを外側に倒し，排じん室のワラクズなどを掃除します。



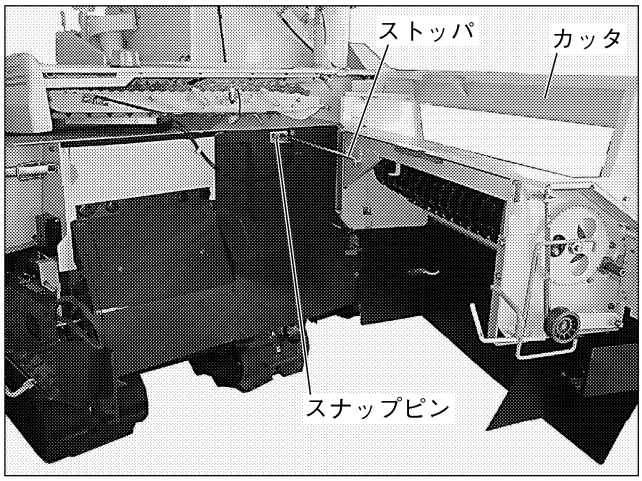
❼ ワラ切カマの掃除

受網（上）を取外し，ワラ切カマに付着している，ワラクズを掃除します。(ワラ切カマの取外しは，122～124ページを参照)



11. 脱こくファンケースの取外し・取付け

❶ カッタをいっぱい開き，ストッパをかけ，スナップピンで固定します。（101ページ参照）



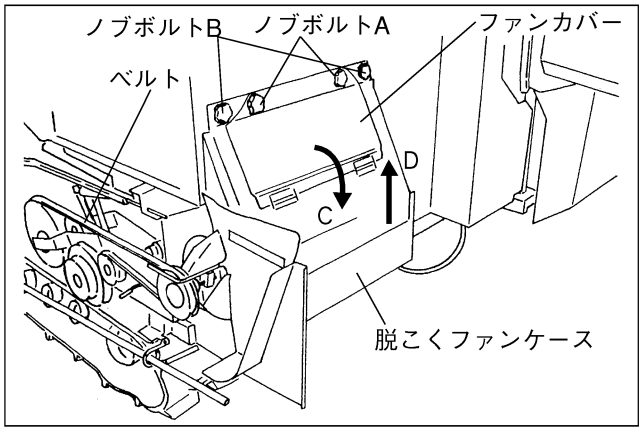
❷ 脱こくファンケースの取外し

(1) ベルトを外します。

(2) ノブボルトＡを外し，ファンカバーを開きます。

(3) 揺動流板先端のナットを外し，押え板とカバーゴムを揺動流板から外します。

ノブボルトＢを外し，脱こくファンケースを矢印Ｃ方向に回動させた後，Ｄ方向に持ち上げて外します。

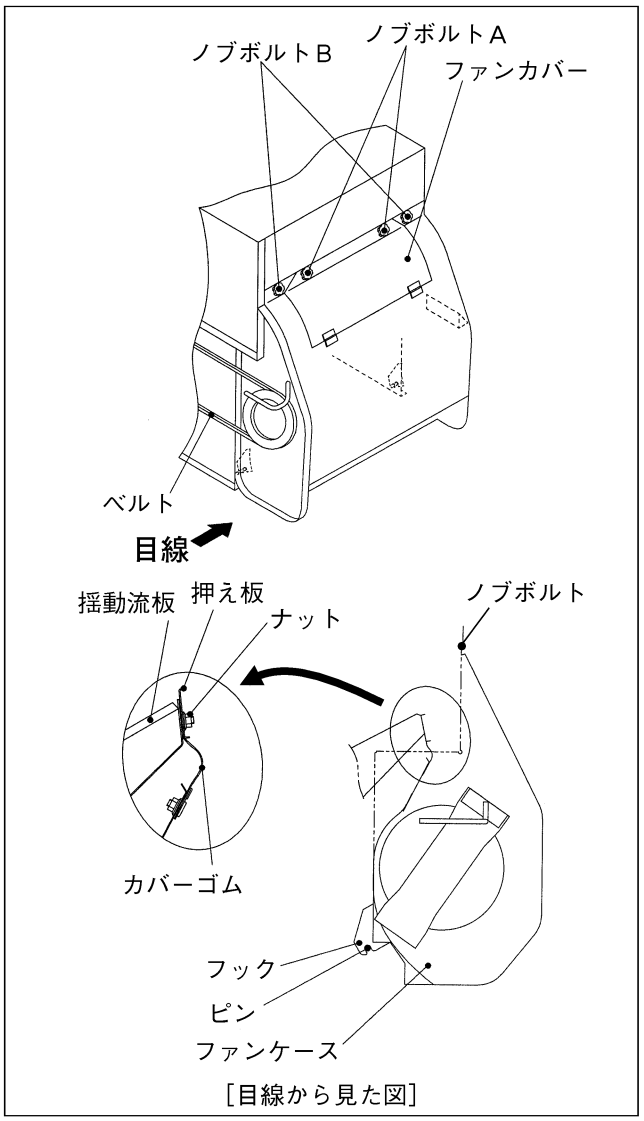


❸ 脱こくファンケースの取付け

(1) 脱こくファンケース下側のフックをピンに確実にかけたことを確認後，ファンケースをノブボルトＢで締付けます。

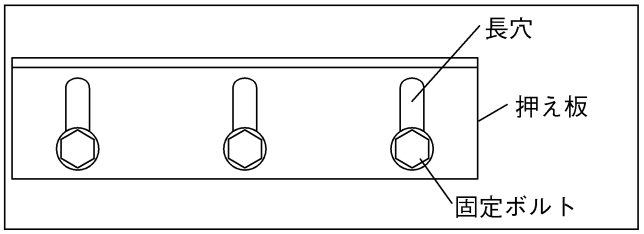
(2) カバーゴムを揺動流板先端に，押え板を介して取付け，ナットで締付けます。

(3) ファンカバーを脱こくファンケースに，ノブボルトＡで締付けます。



取扱いのポイント

- 脱こくファンケースを収納したとき，カバーゴム取付ナットの締め忘れがないか確認してください。
- カバーゴムがセットされていないと，ファンが詰まり，刈取り作業ができません。
  また，ファン破壊の原因となります。
- 押え板は，長穴いっぱい上げて組付けてください。



12．揺動流板の掃除

⚠注意

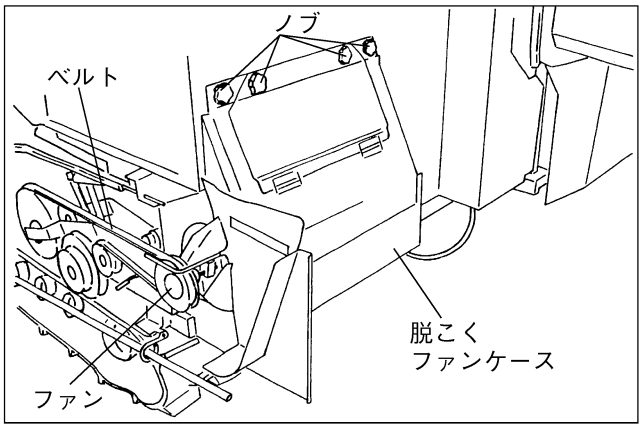
◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図をしながら行ってください。

❶ 揺動流板の取外しかた

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。次に脱こく部をオープンします。

(2) カッタをいっぱいに開き，ストッパをかけ，スナップピンで固定します。（101ページ参照）

(3) ノブ，ベルトを外した後，脱こくファンケースを取外します。（95ページ参照）



(4) 揺動流板を取外します。

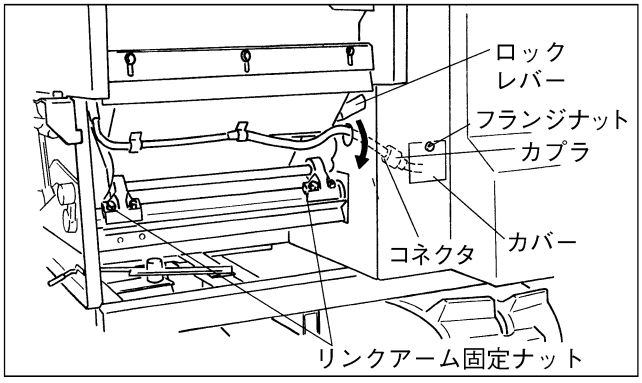
① 揺動流板前側を持ち上げられる様に，受網（上），（下）を外しておきます。（P91～92参照）

② フランジナットを外してカバーを取外します。

③ 裏側のクランプを取外しコネクタを穴より引き出します。

④ コネクタを外し，揺動流板側へ引き出します。

⑤ 揺動流板後部のリンクアーム固定ナット左右各２本を外します。

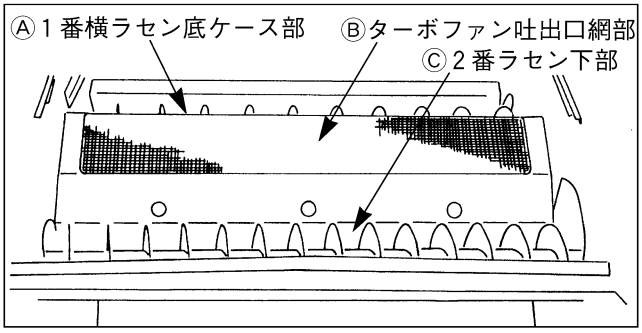


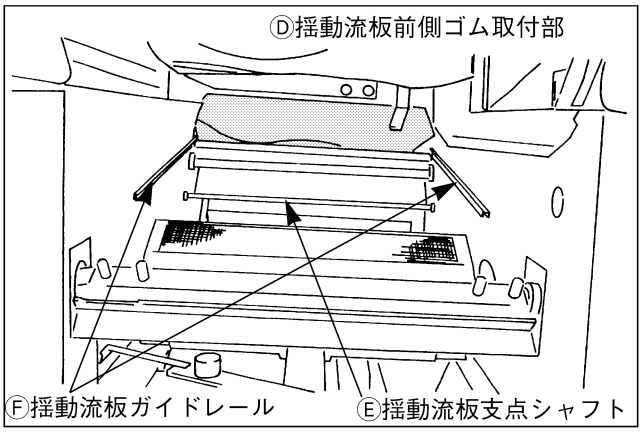
⑥ 揺動流板後方右側のロックレバーを矢印の方向に回動させます。

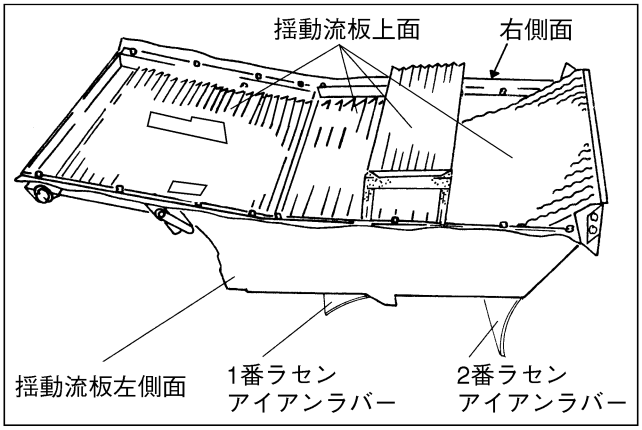
⑦ 揺動流板の前後を２人で少し持ち上げた状態で後方へゆっくり抜出します。

❷ 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を外した後の脱こく内部Ⓐ～Ⓕと，揺動流板上面，および左右側面を掃除します。

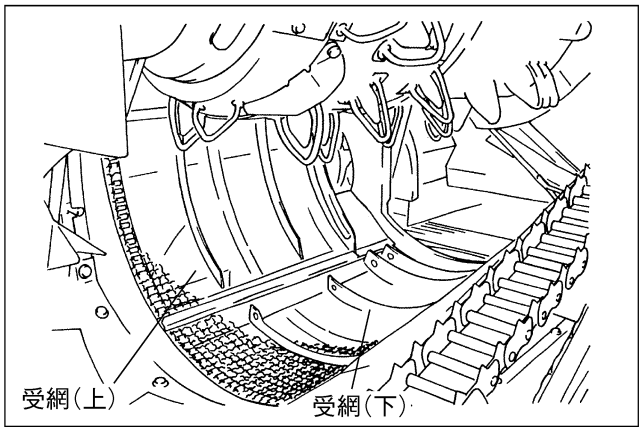




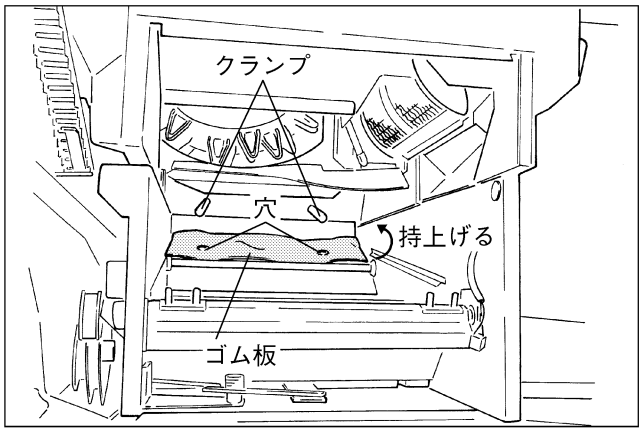


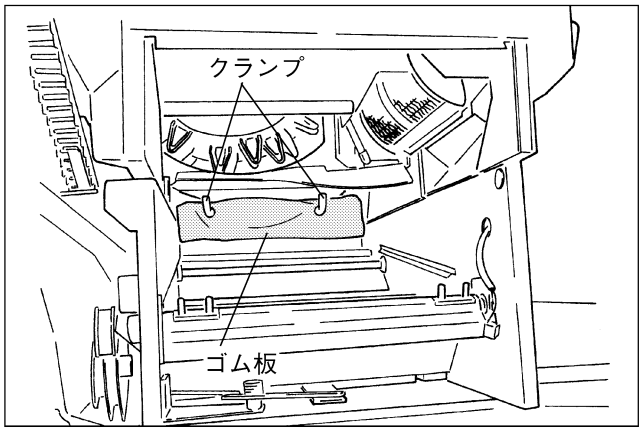
❸ 揺動流板の取付けかた

(1) こぎ胴部を開いた状態にし，受網（上）（下）を外します。



(2) 揺動流板先端のゴム板を持上げて，ゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板の噛込みを防ぐため)

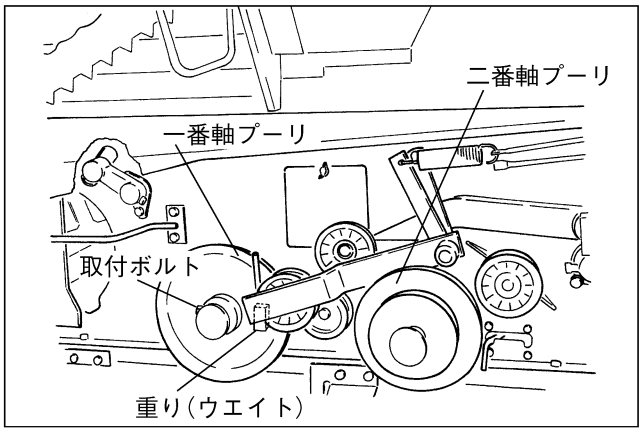




(3) 脱こくサイドカバー（上，下）を外します。(93ページ参照)

(4) 揺動流板を，組付けます。

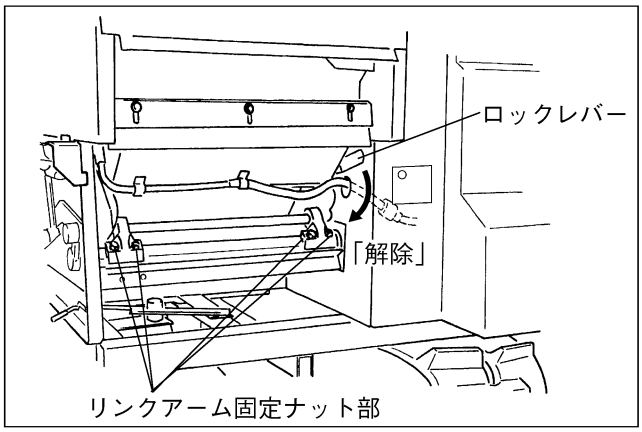
① 揺動流板後方右側のロックレバーを「解除」位置にし，一番ラセン軸（一番軸）のプーリの重り（ウエイト）を，下図の位置になるように回します。



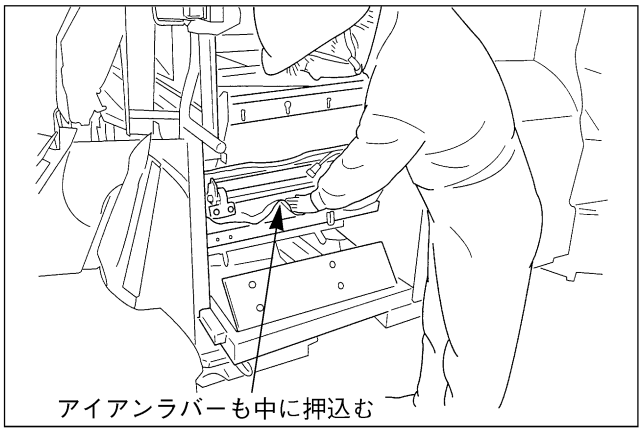
② 揺動流板の前後を２人で持ち上げながら，少しずつ押込んでください。

取扱いのポイント

- **揺動流板は，ロックレバーを「解除」方向に押さえながら，押込んでください。(ロックレバーは，揺動流板側面のストッパに当たるまで，押付けてください。)**



●揺動流板を押込むときに，2番ラセンアイアンラバーも確実に押込まれているか，確認してください。はさみ込むと，揺動流板のセットができません。



③　一番ラセン軸のプーリを回し揺動流板を奥（セット位置）まで送ります。

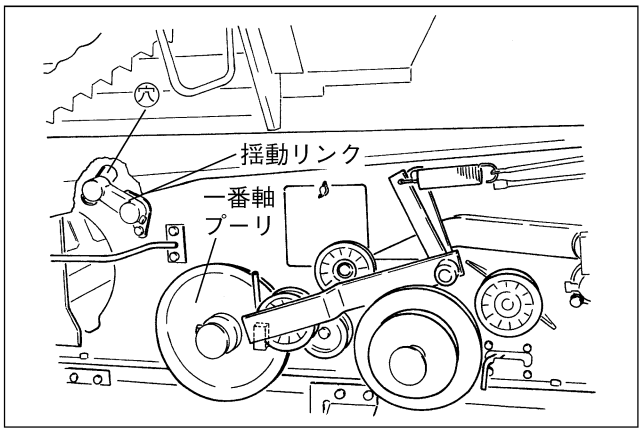
④　リンクアーム固定ナット部をボルトにはめ込み，ナットをゆるく締付けます。

⑤　ロックレバーを「固定」位置にします。

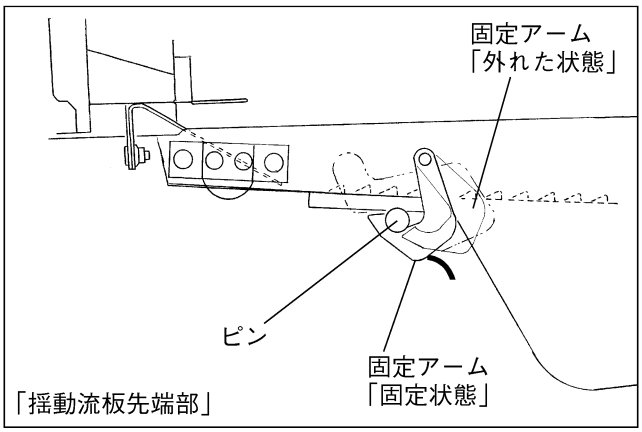
取扱いのポイント

●揺動流板が確実に入っていないときは，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーに遊びがあり，ロックできません。
この状態のときは，再度①項からセットし直してください。

⑥　揺動リンクの㋭から，内部を覗きます。（揺動流板の固定アームが見えます。）



⑦　固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を，㋭から確認します。



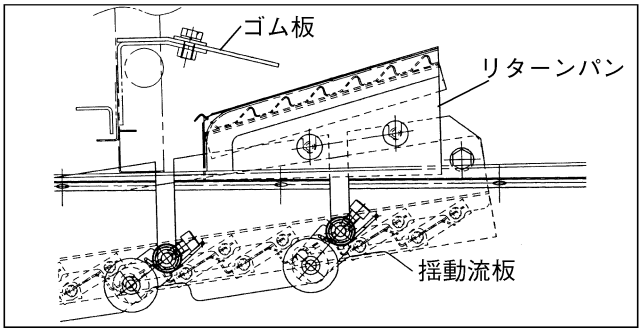
⑧　右側面についても同様に，固定アームがピンにかかっていることを確認します。（グレンタンクをオープンし，確認します。）

取扱いのポイント

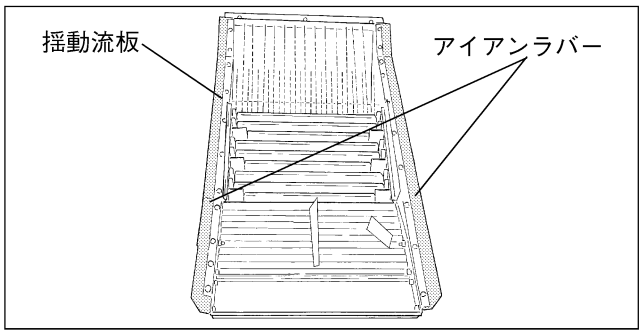
●固定アームがピンから外れている場合，または確実に固定されていない場合には，再度①項からセットし直してください。

●揺動流板が正常にセットされていないと，機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んで，ロックレバーを確実に「固定」してください。

⑨　こぎ室後側のゴム板が，揺動流板のリターンパンに挟込まれていないことを確認します。



⑩　揺動流板両面のゴム板が,噛込んで折曲がっていないことを確認します。



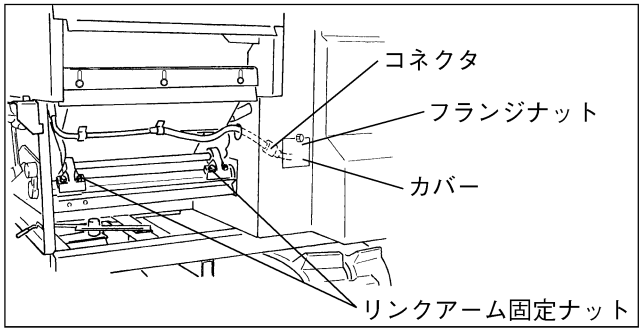
⑪　揺動下部の１番，２番ラセンアイアンラバーが折曲がっていないことを確認します。（イラストは96ページ右下を参照）

⑫　揺動後部リンク部の固定ナット左右各２ケを締付けます。

⑬　(2)で固定したゴム板をクランプから外し揺動流板の上にのせます。

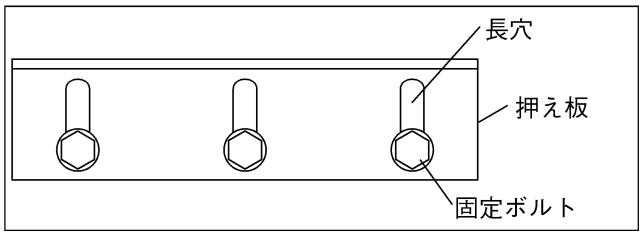
⑭　コネクタを接続します。

⑮　カバーを取付けフランジナットで固定します。



取扱いのポイント

●押え板は長穴いっぱい上げて組付けます。



⑯　脱こくファンケースを取付けます。

⑰　カッタを収納します。（閉じます）

⑱　受網（上），（下）を取付けます。

⑲　外したベルトを取付け，脱こくサイドカバー，カッタサイドカバーを取付けます。

⑳　こぎ胴部を閉じます。（コンポアップ収納）

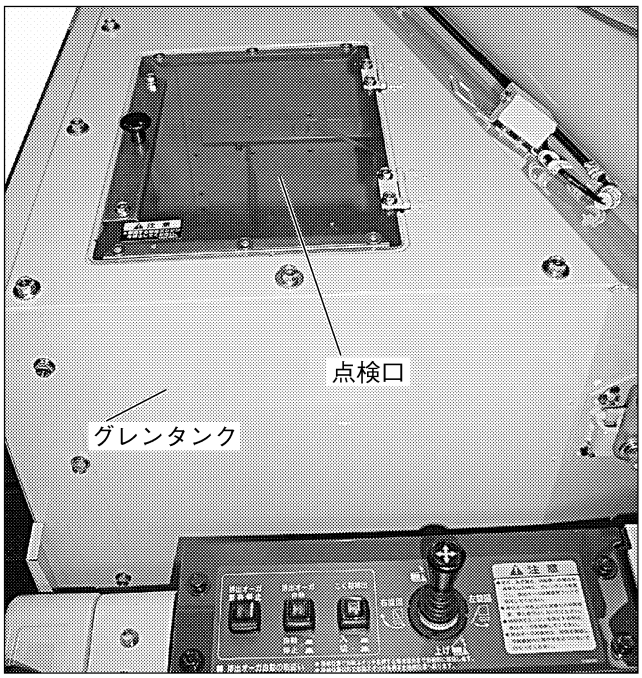
13．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をするときは，平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，各部の動きが止まってから行なってください。

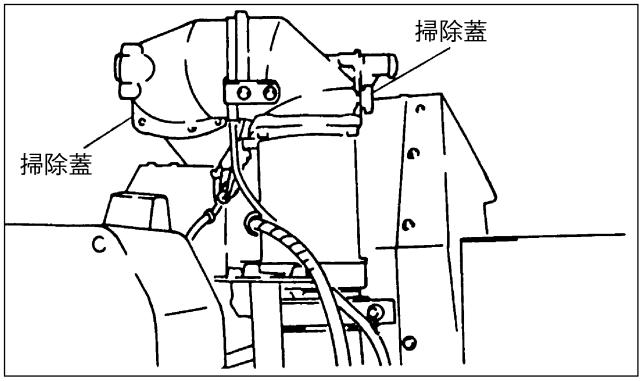
❶　グレンタンク内の掃除

グレンタンク上部の点検口より，確認し必要に応じてホウキなどでホコリを払い，取出しは，ラセンカバーを開いて行います。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

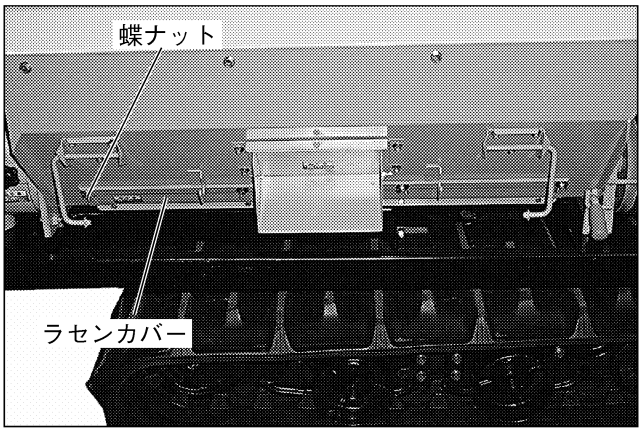
排出オーガを上げ，上部ラセン掃除蓋を開いて掃除をします。



❸　横ラセン部の掃除

(1)　グレンタンクの下部カバーを取外します。

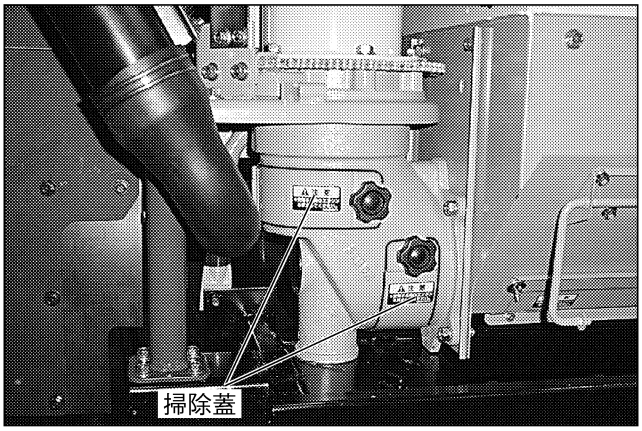
(2)　蝶ナットをゆるめて外し，ラセンカバーを開いて，掃除します。



❹　縦ラセン筒下部の掃除

(1)　グレンタンクの下部カバーを取外します。

(2)　縦ラセン下部の掃除蓋を開いて，掃除します。



取扱いのポイント

- **各掃除蓋（カバー）は，モミ噛などによる隙間がないことを確認して，確実に締めてください。**

14．カッタのオープンのしかた

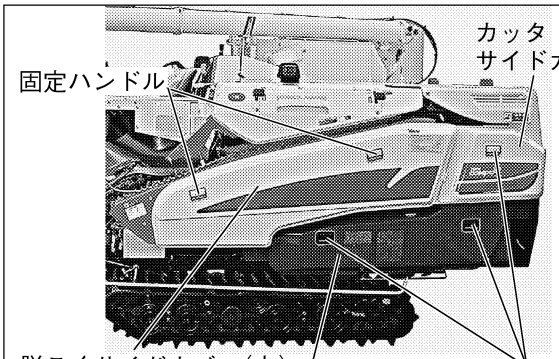
⚠警告　傷害事故防止のために

◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，各部の動きが止まってから行なってください。

◆カッタをオープンして点検作業などをするときは，ストッパをかけてスナップピンで固定してください。
ストッパをロック状態にしないと，カッタが回動して傷害事故を起こすことがあります。

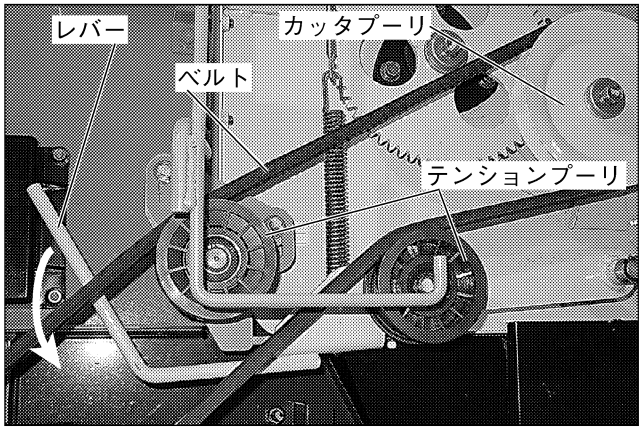
◆カッタをオープンしたときは，カッタ刃に触れないようにしてください。

❶　固定ハンドルを持上げて，脱こくサイドカバー(上)・(下)およびカッタサイドカバーを取外します。



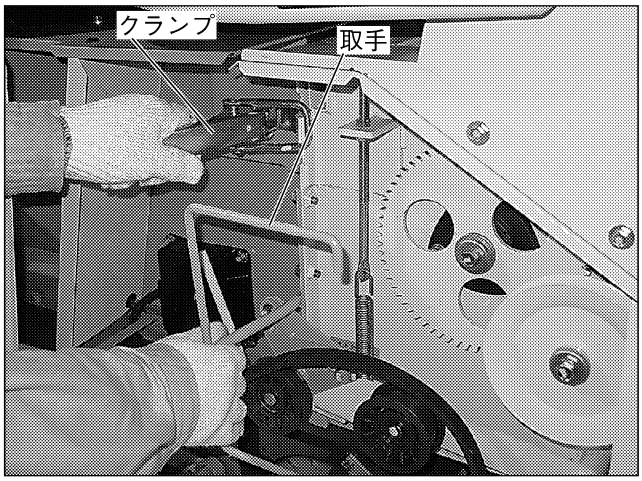
❷　レバーを押し下げテンションプーリ２個所よりベルトを外し，ベルトの張りを解除します。

❸　ベルトを，カッタプーリより外します。この時，ベルトを下のプーリから外すと容易に外すことができます。

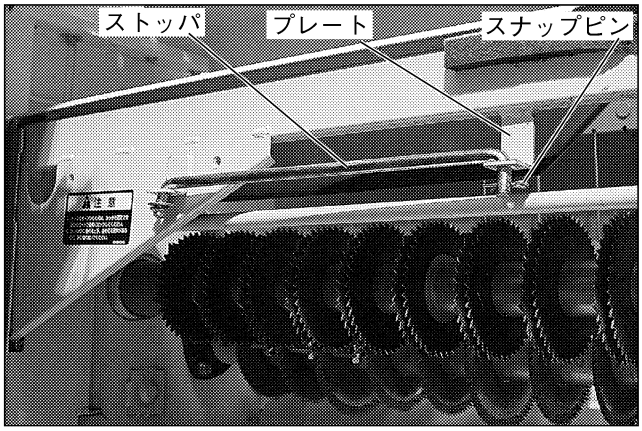


❹　クランプを手前に引き，固定（ロック）を解除します。

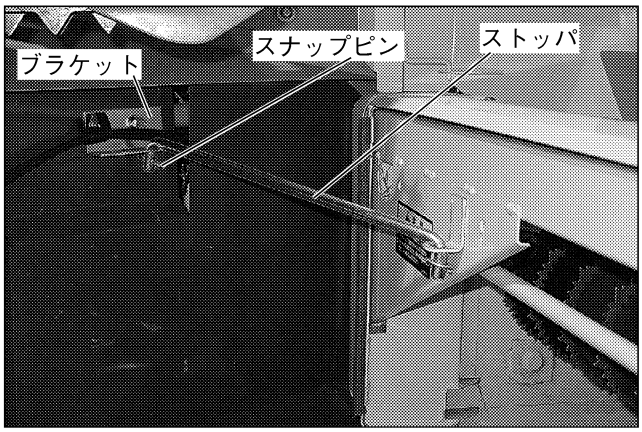
❺　カッタの取手を持って，カッタを少し上方へ持上げながら，後方へオープンします。



❻　カッタのストッパ先端についているスナップピンを抜きます。



❼　ストッパをプレートから外して矢印方向に回し，ストッパ先端をブラケットの穴に入れ，スナップピンを差込みカッタを固定（ロック）状態にします。



❽　カッタを閉じるときは，逆の手順で行います。
(❼→❶の手順)

4．各部の点検と部品交換のしかた

・各部の点検および部品交換は「**お買いあげ先**」にて行います。

1．カッタ刃組品の取外しと分解

⚠警告 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンして，カッタ刃組品の取外し分解をするときは，エンジンを停止し，平坦な場所に機械を置いてください。
◆カッタには，ストッパをかけロック状態にして行なってください。
◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し，２人作業で合図をし合って行なってください。
◆ノコ刃を交換するときは，刃に「あて布」を被せてください。

⚠注意

◆本取扱説明書は「D28－17」を基本として説明します。マルチカッタ「DMS28」と手順が異なる場合は，都度「DMS28」の手順として記載します。

❶ ノコ刃軸組品の取外し

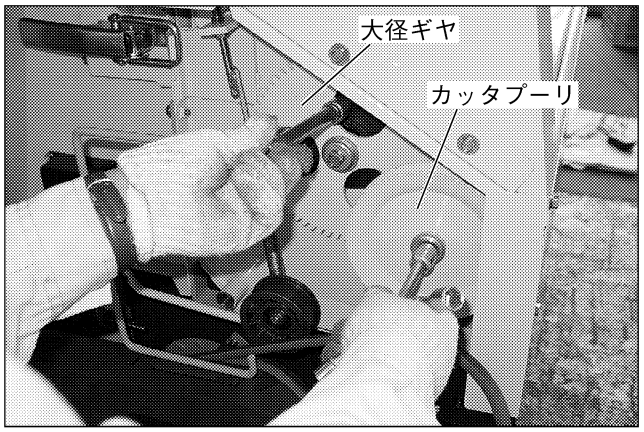
ノコ刃軸組品の取外しを行う場合，Ⓐと**Ⓑ**の二通りの方法があります。

Ⓐ「カッタ前面より行う方法」（カッタオープン状態）
……カッタ後方に作業機が着いている場合

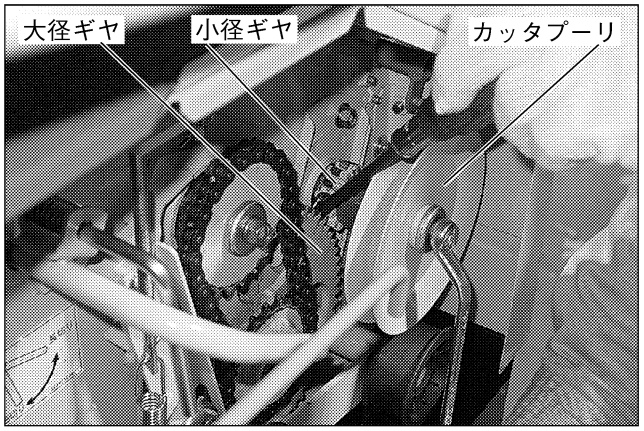
Ⓑ「カッタ後方より行う方法」
……カッタ後部に作業機がない場合

Ⓐ「カッタ前面よりノコ刃軸組品の取外しを行う方法」

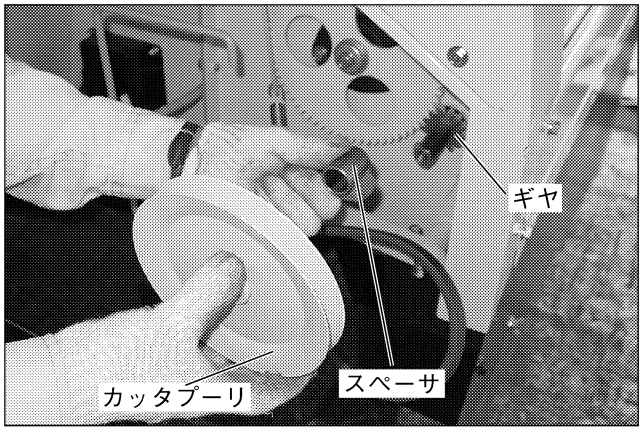
① 大径ギヤの穴にＭ８用ボックスを入れ，軸を固定し，カッタプーリを外します。



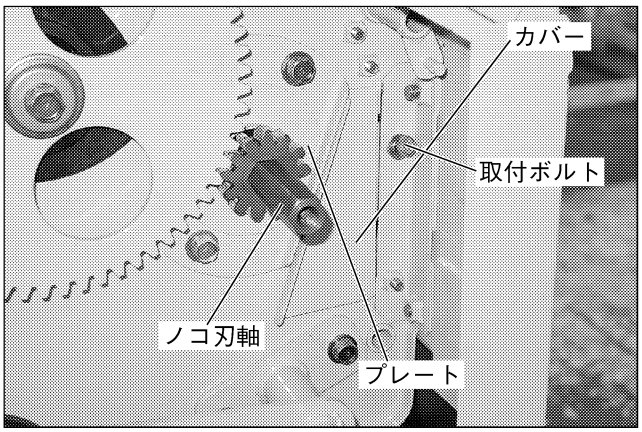
「DMS28」
※大径ギヤ，小径ギヤをロックさせ，軸を固定し，カッタプーリを外します。

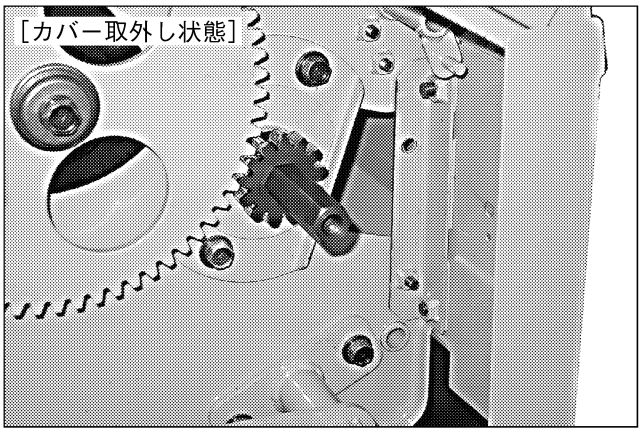


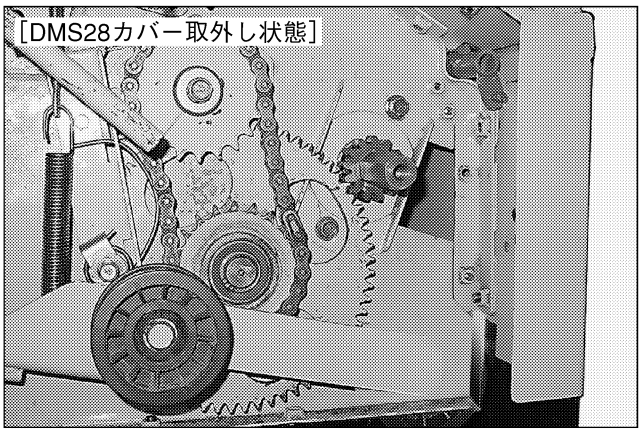
② スペーサとギヤを外します。



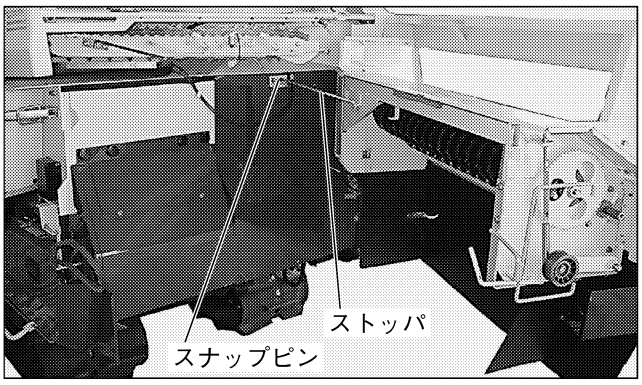
③　カバー取付ボルト（１個）を外し，ノコ刃軸後方のカバーを外します。



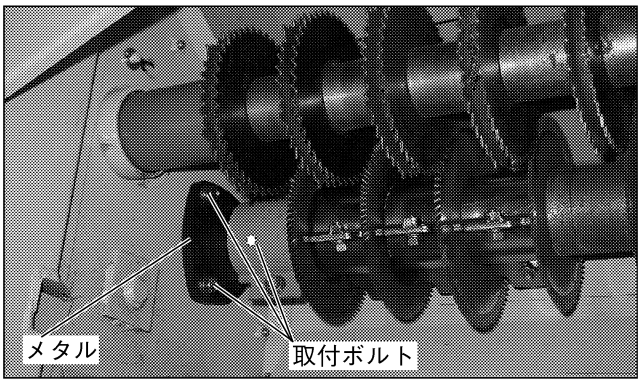


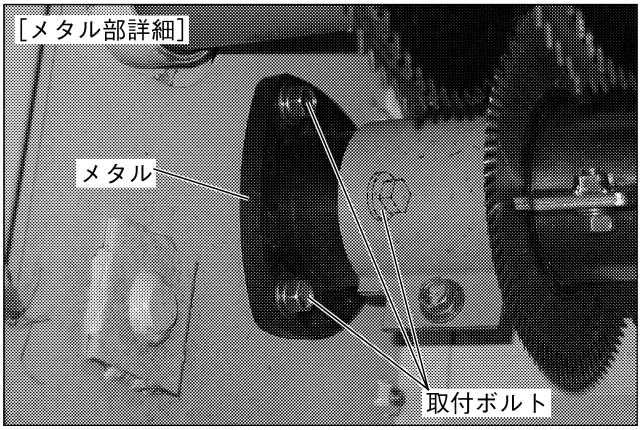


④　カッタをオープンし，ストッパをかけ，スナップピンで固定します。

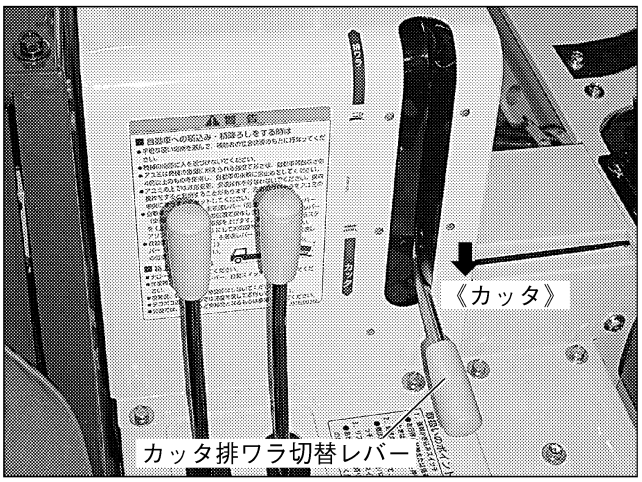


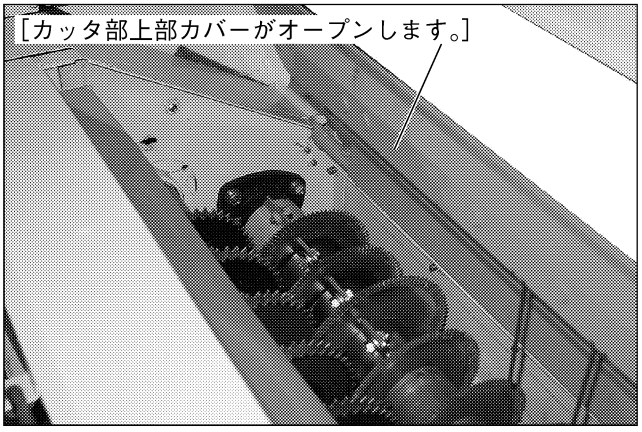
⑤　メタルの取付ボルト（３個所）を外します。





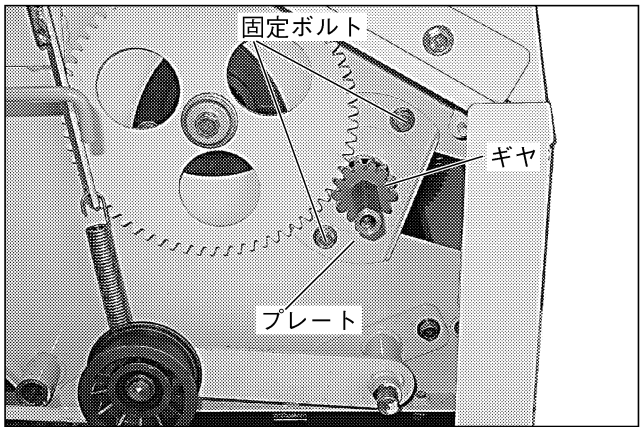
⑥　カッタ排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にします。

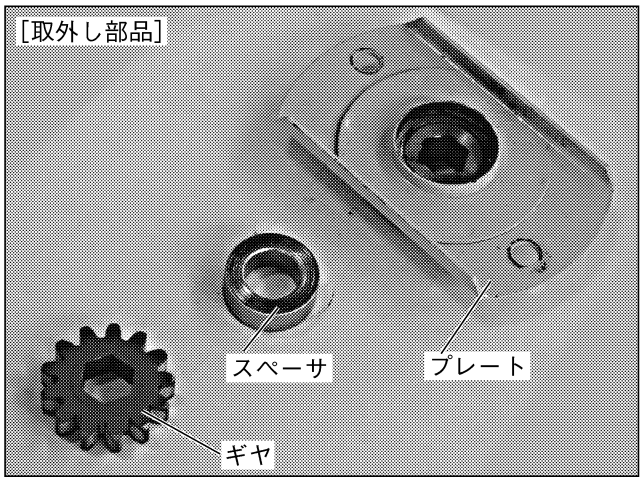




⑦［D28型カッタの場合］

固定ボルトを外して，プレート，ギヤを取外します。

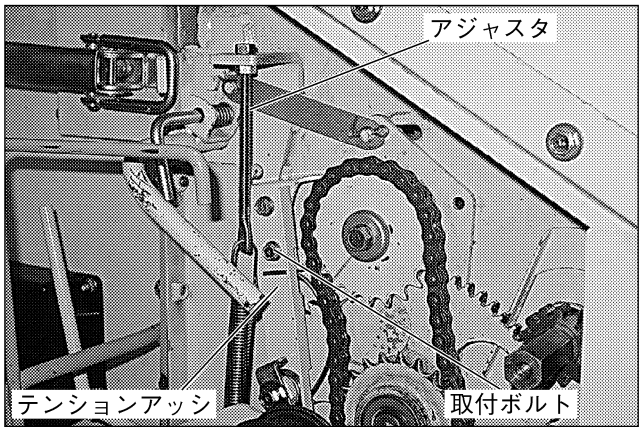


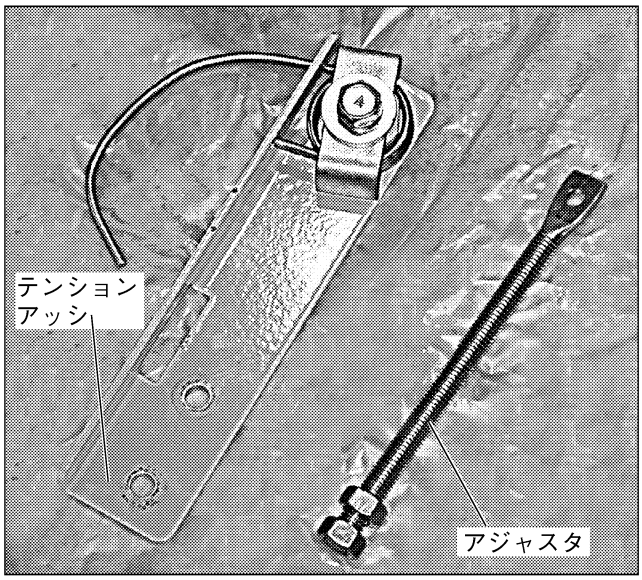


⑦［DMS28型マルチカッタの場合］

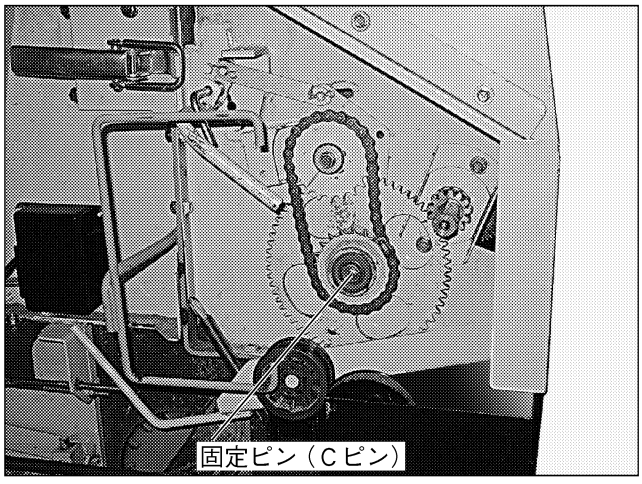
(1) テンションのアジャスタを外します。

(2) テンションアッシを外します。

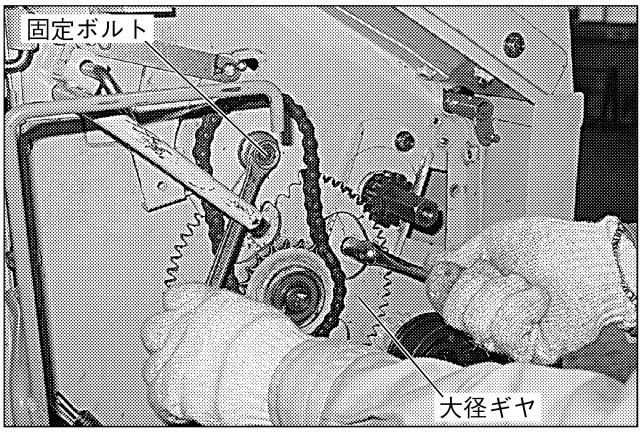


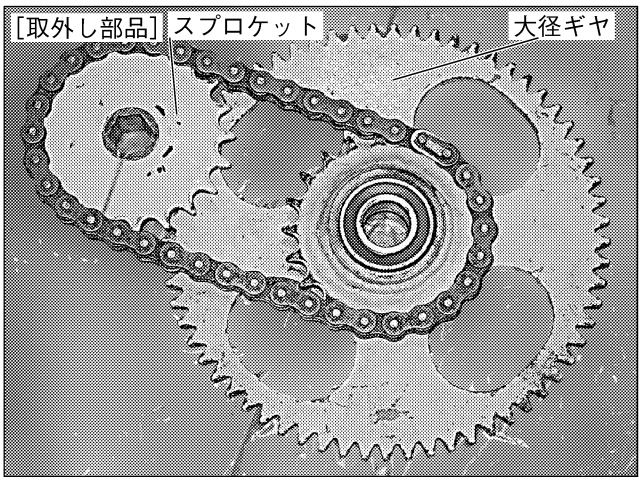


(3) ギヤの固定ピン（Cピン）を外します。

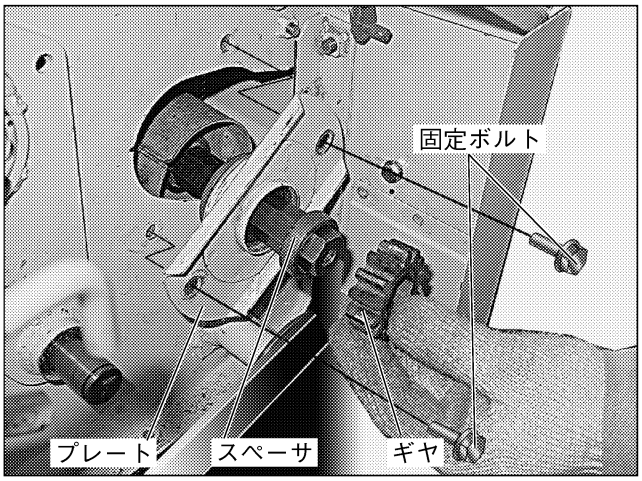


⑷ 大径ギヤが回らないように，ボックスレンチで固定しながら，スプロケットの固定ボルトを外し，スプロケット，ギヤを一緒に引き抜きます。





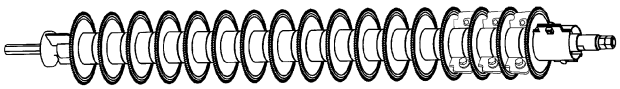
⑸ 固定ボルトを外してプレート，ギヤ，スペーサを外します。



⑧ ノコ刃軸組品を矢印方向へズラシながら取外します。

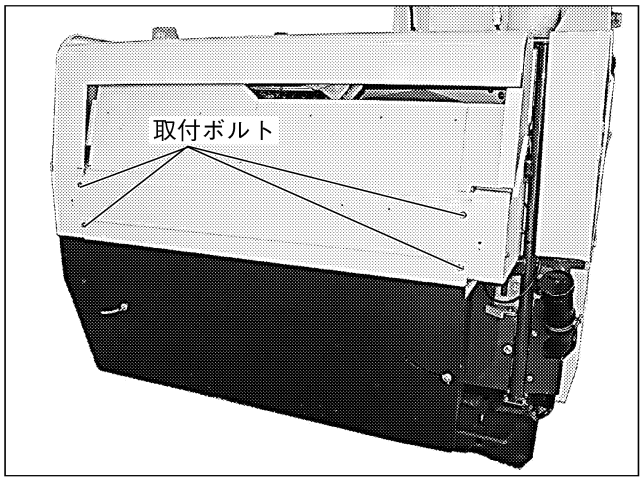


[ノコ刃軸組品]

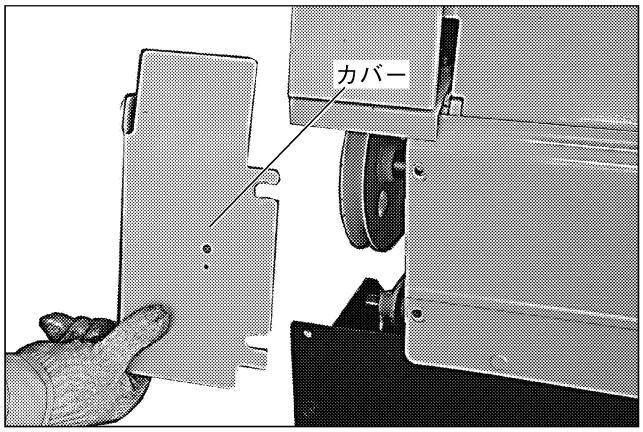


Ⓑ「カッタ後方よりノコ刃軸組品の取外しを行う方法」

① カッタ背面のカバーの取付ボルト(4個)を外します。

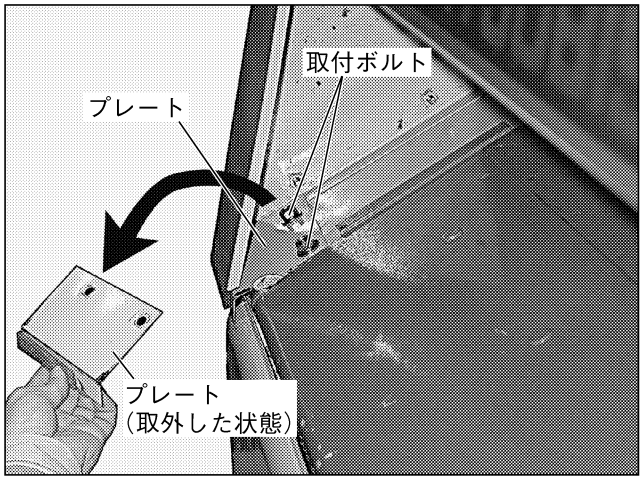


② 背面カバー左下のカバーを取外します。

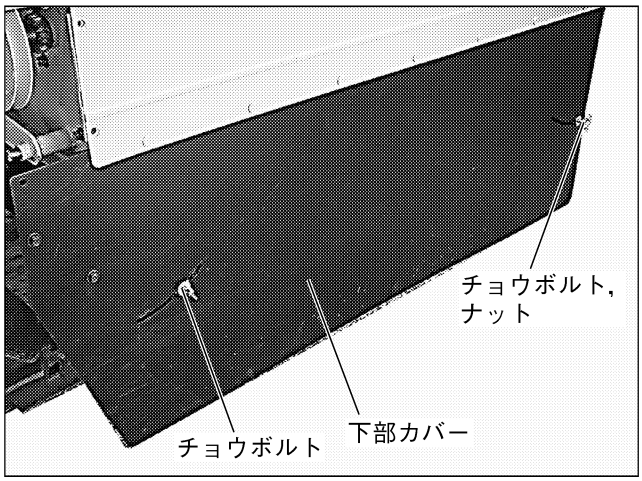


③ カッタ・排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。

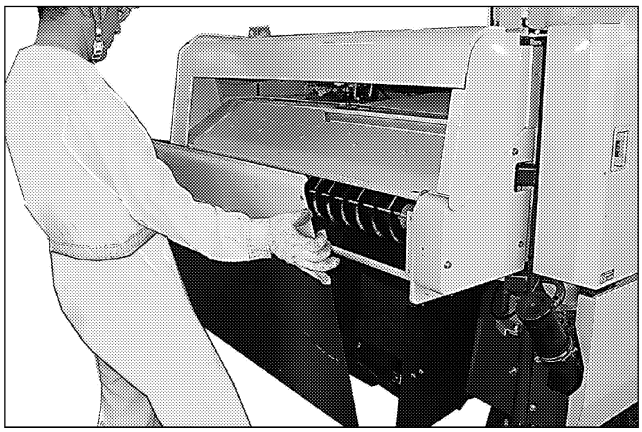
④ プレートを取外します。

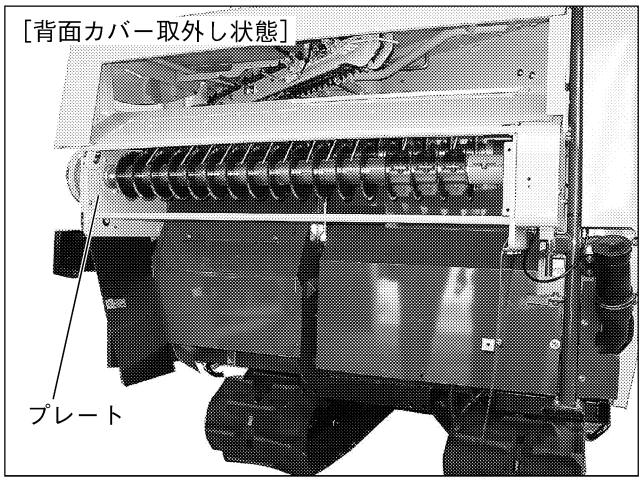


⑤ 下部カバーのチョウボルトを外します。

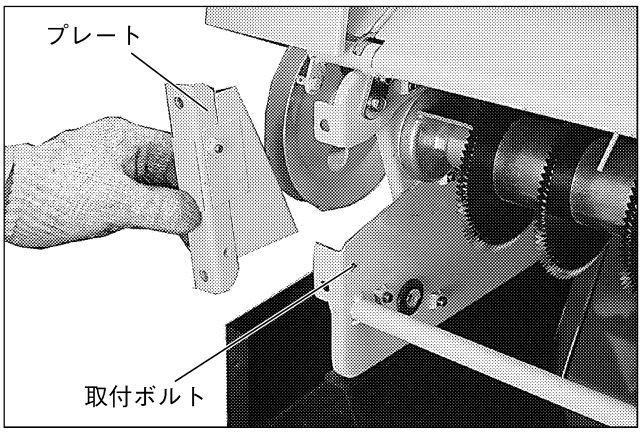


⑥ 背面カバーと下部カバーを上に持ち上げるようにすると，一体で取外すことができます。

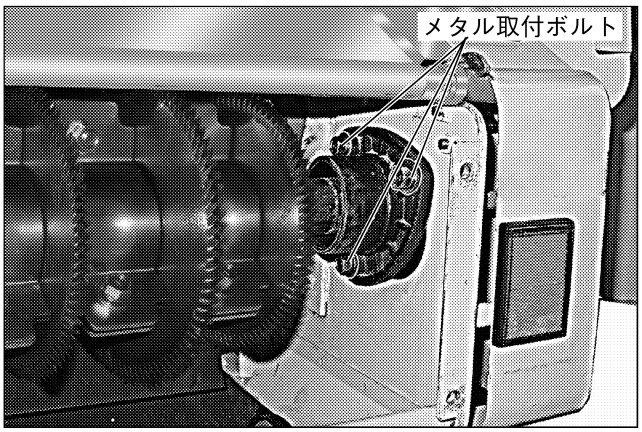




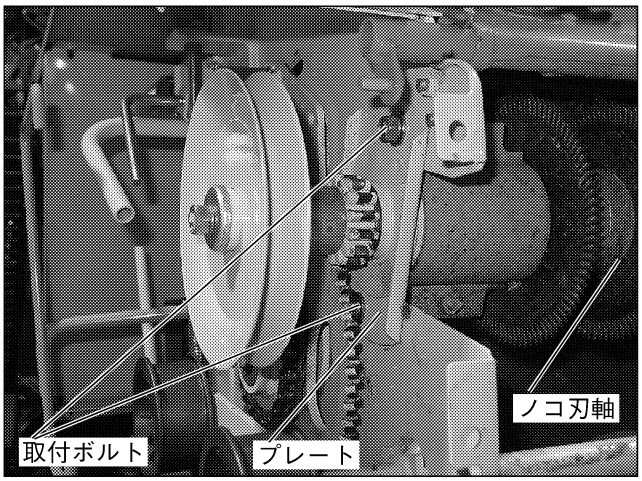
⑦　取付ボルト（１個）を外し，プレートを外します。



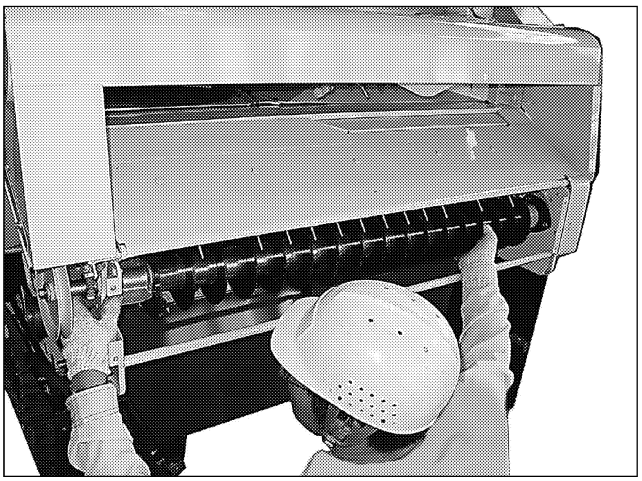
⑧　ノコ刃軸右端のメタル取付ボルト（３個）を外します。



⑨　プレート取付ボルト（２個）を外します。

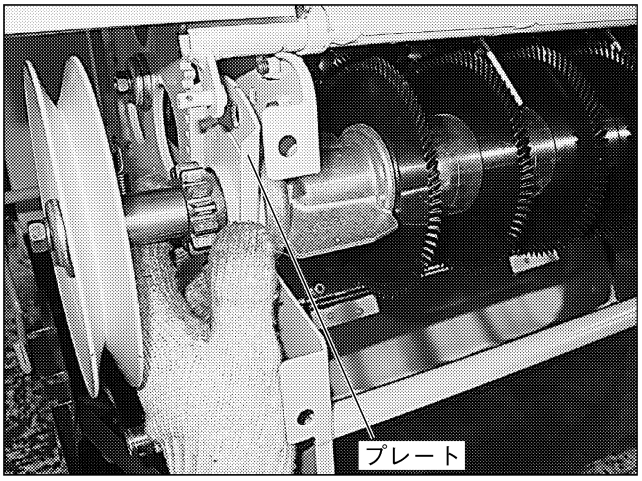


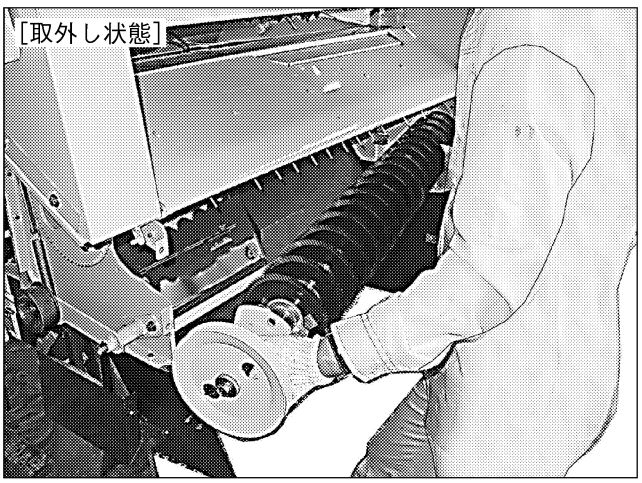
⑩　ノコ刃軸の両端を持って後方から取外します。



取扱いのポイント

●ノコ刃軸組品を外すときは，プレートを回しながら外すと，容易に外すことができます。





❷　かき込み軸組品の取外し

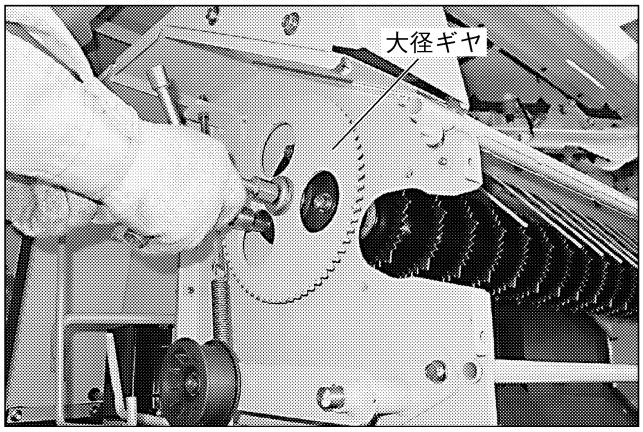
・かき込み軸組品を取外すときは，まず，ノコ刃軸組品を取外してから作業を行います。ノコ刃軸組品が組付けてある状態では，かき込み軸組品を取外すことができません。

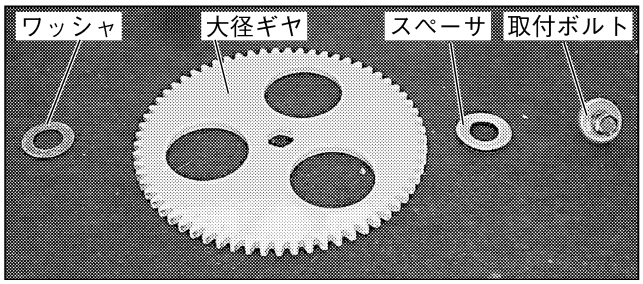
・かき込み軸組品は，カッタの前方，後方，どちらからでも取外すことができます。この取扱説明書では,「**カッタ後方よりの取外し方**」を記載しています。

●［D28型カッタのかき込み軸を取外す方法］

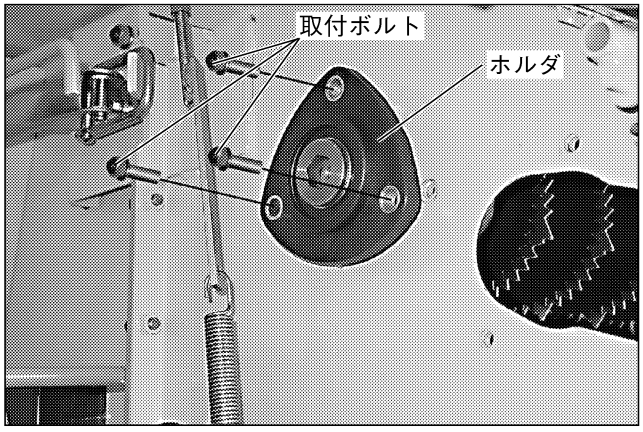
①　ノコ刃軸組品を取外します。(❶ノコ刃軸組品の取外し参照)

②　大径ギヤを取外します。

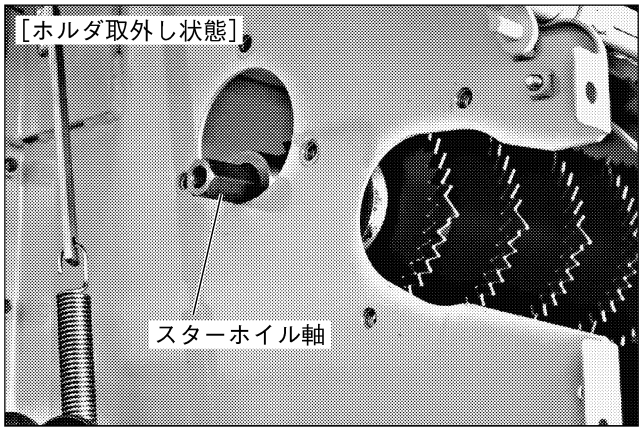




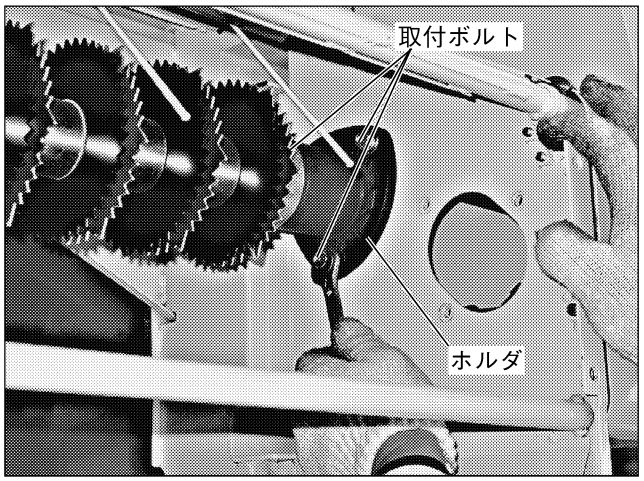
③　ホルダを外します。



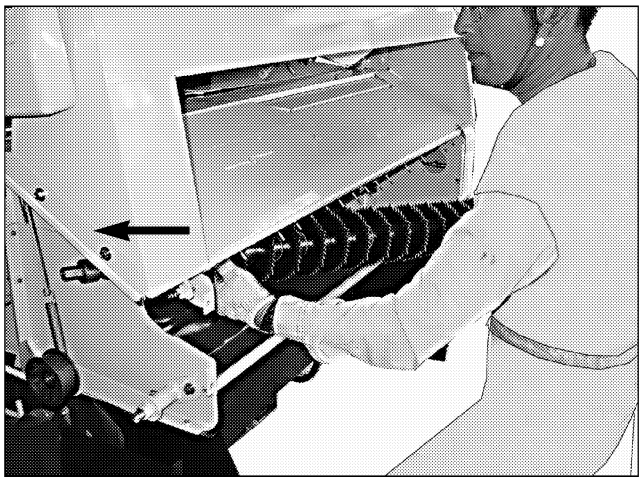
［ホルダ取外し状態］



④　右側のホルダ，取付ボルトをカッタ内側から外します。



⑤　かき込み軸組品を両手で支えながら矢印方向にスライドさせながら外します。



［かき込み軸組品］

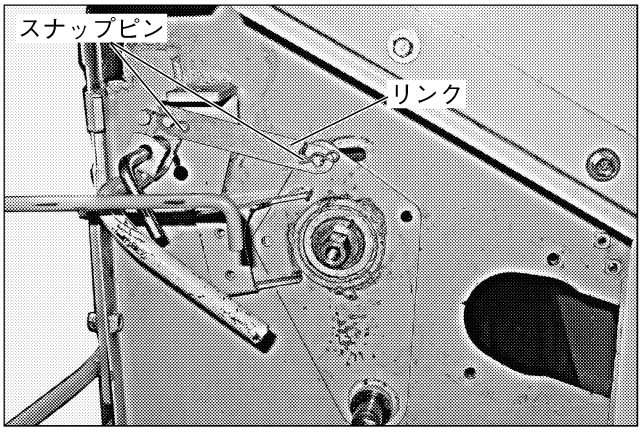


● [DMS28型マルチカッタのかき込み軸を取外す方法]

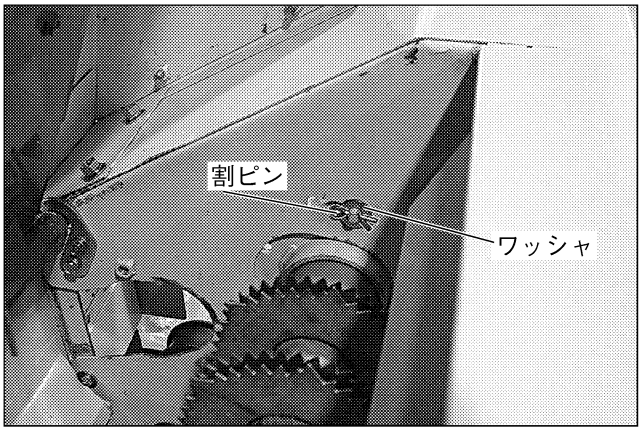
① ノコ刃軸組品を取外します。(❶ノコ刃軸組品の取外し参照)

② 切替板を《**カッタ**》状態にします。

③ スナップピンを外して，リンクを外します。



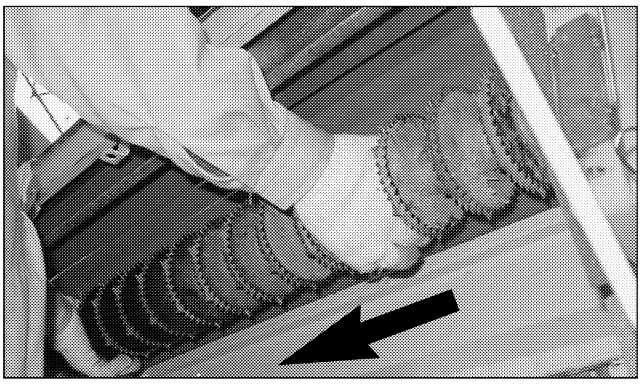
④ かき込み軸左端の割ピンを外し，ワッシャを外します。



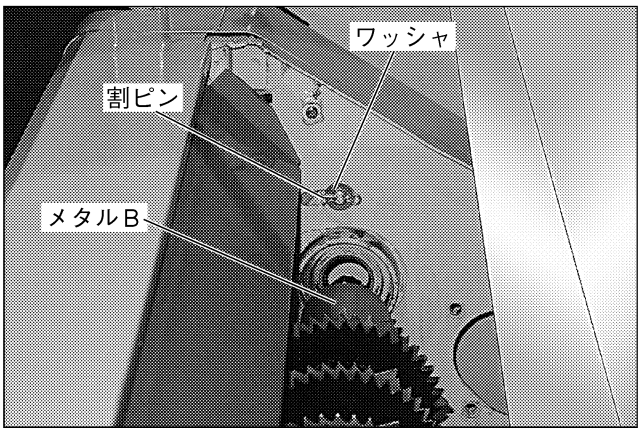
⑤ メタルＡを抜き出します。



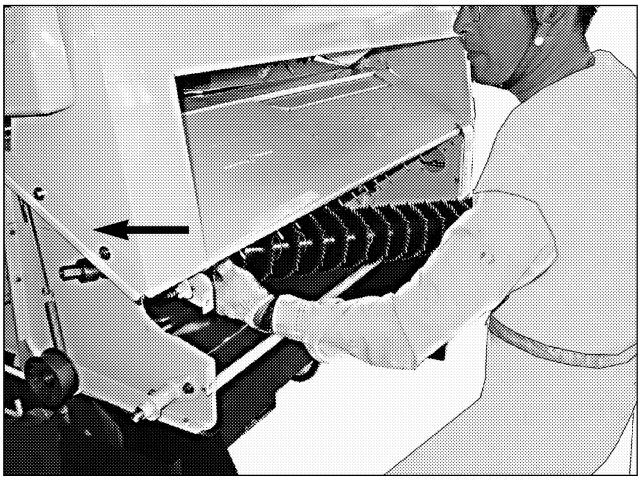
⑥ かき込み軸を矢印方向に動かして，メタルＢよりシャフトを外します。



⑦ かき込み軸右端のメタルＢの割ピンを外してワッシャを外します。(メタルＢにシャフトが引っかかる時)



⑧ かき込み軸組品を両手で支えながら矢印方向にスライドさせながら外します。



[かき込み軸組品]



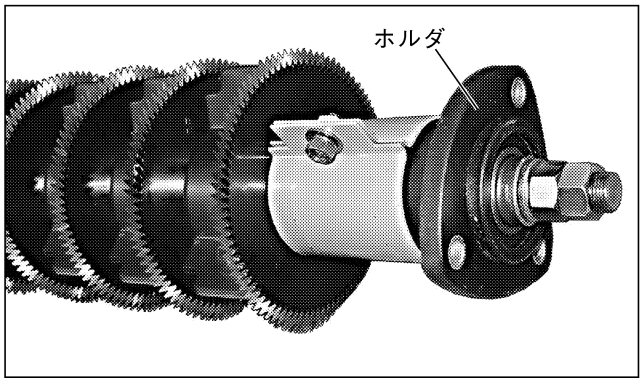
❸ ノコ刃の交換のしかた

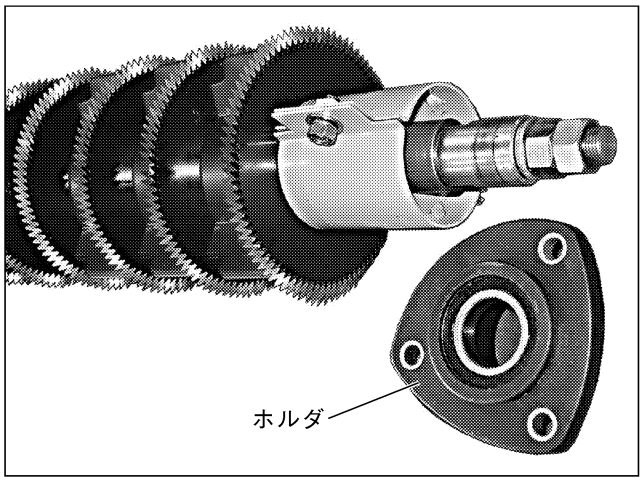
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は，２人作業で行なってください。
◆刃の交換のときは，厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。
◆刃の交換時，軸端のロックナットを締付ける際にはノコ刃に体が触れないように注意してください。

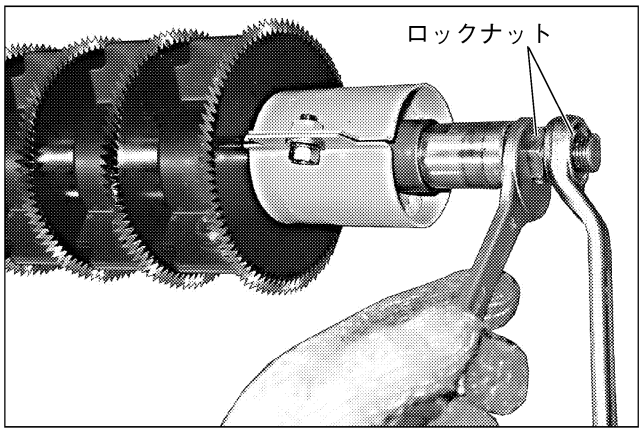
(1) 刃先を傷付けないよう，板または布を下に敷いてください。

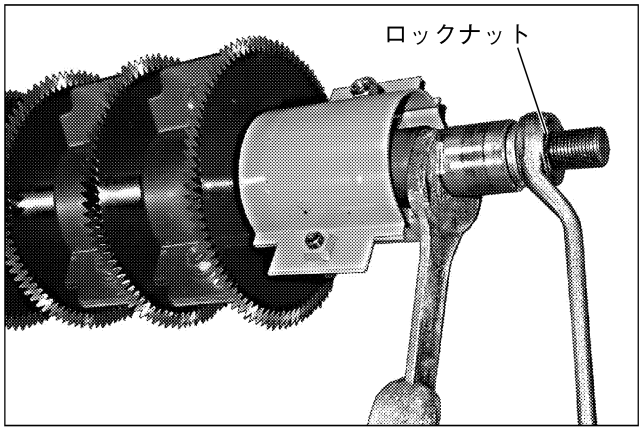
(2) ホルダを抜き出します。



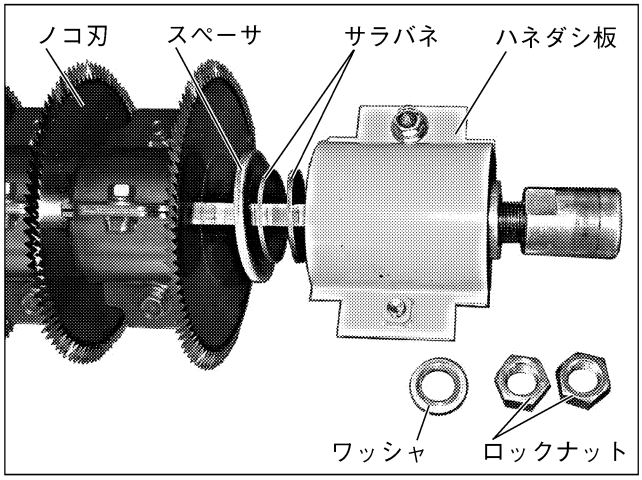


(3) ロックナットをゆるめて外します。





(4) 順番に抜き出してください。



取扱いのポイント

- カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，かき込みバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。ノコ刃がかき込みバンのほぼ中央にあるのが最適です。
- ノコ刃，かき込みバンの取付けのときは，刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。

❹ かき込みバンの交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

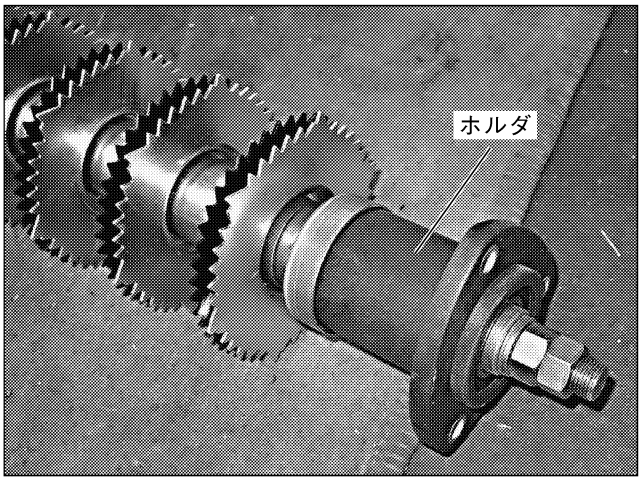
◆刃の交換作業は，２人作業で行なってください。

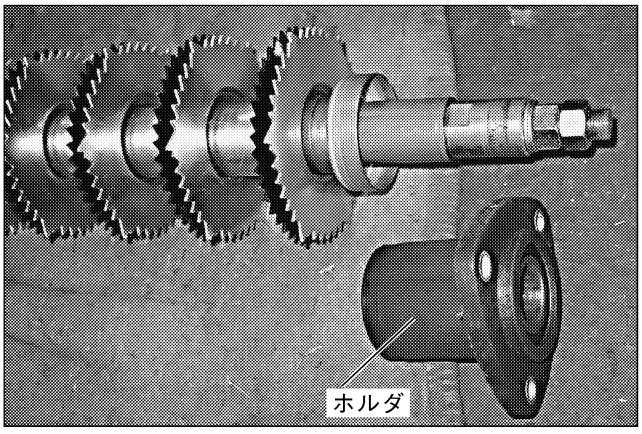
◆刃の交換のときは，厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

◆刃の交換時，軸端のロックナットを締付ける際にはかき込みバン，押えバンに体が触れないように注意してください。

(1) 刃先を傷付けないよう，板または布を下に敷いてください。

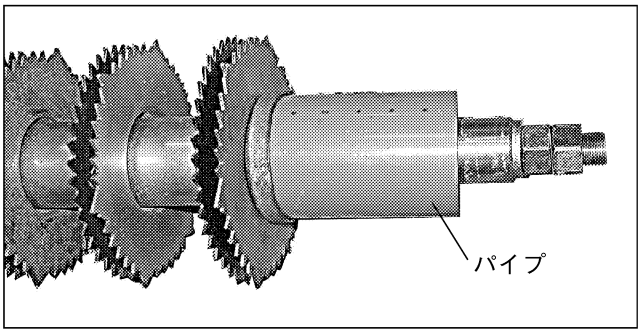
(2) ホルダを抜き出します。



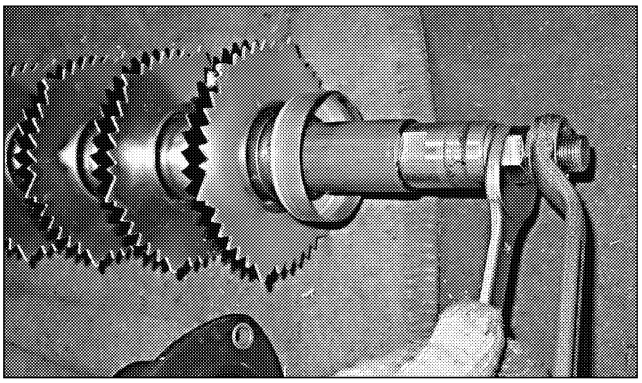


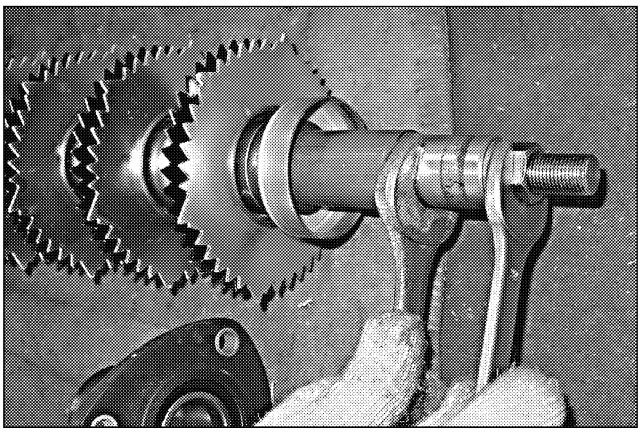
［DMS28型マルチカッタのかき込みバン］

・DMS28はホルダのかわりにパイプが付いています。それ以外はD28型と交換手順は同一です。

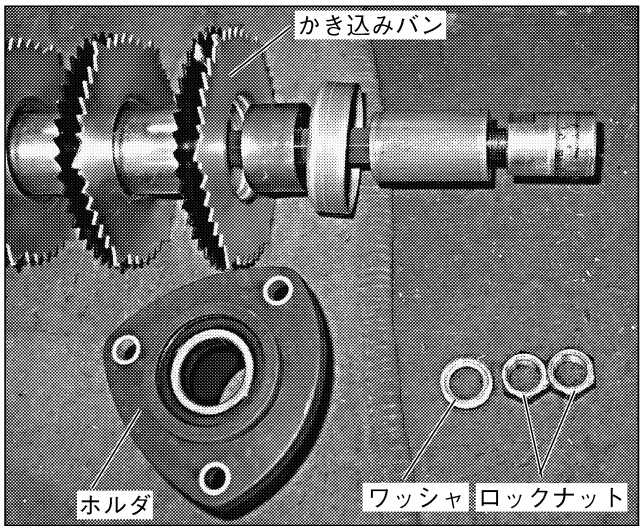


(3) ロックナットをゆるめて外します。



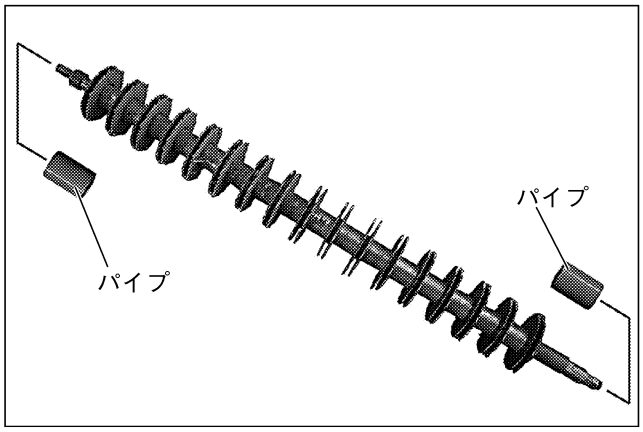


⑷ 順番に抜き出してください。



取扱いのポイント

- カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，かき込みバン・押えバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。ノコ刃がかき込み・押えバンのほぼ中央にあるのが最適です。
- ノコ刃，かき込みバンの取付けのときは，刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。
- ［DMS28型マルチカッタ］のかき込み軸は両端にパイプが付いています。簡単に外れますのでなくさないよう注意してください。また取付時には，パイプを組み込んでください。



❺ 組立詳細図

D28−17組付要領図

（部品表）

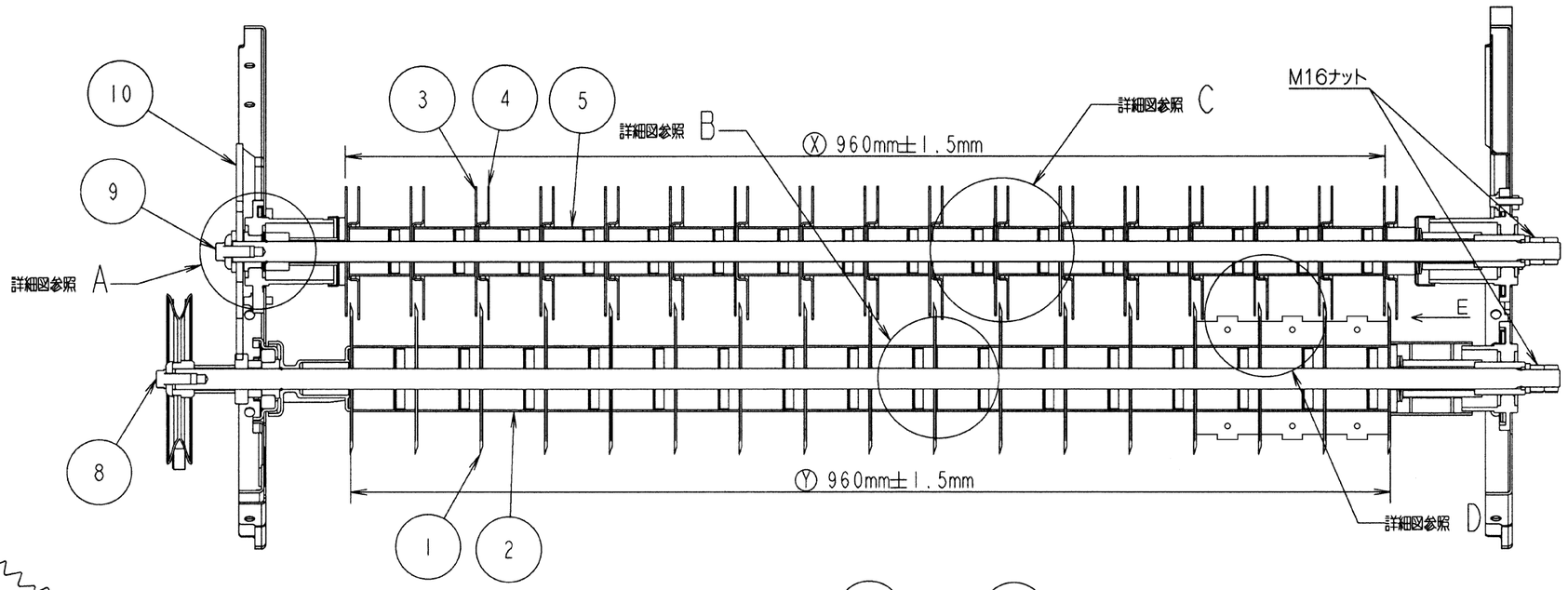
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコハ	3578 8817 000	17
2	パイプA	3572 8818 000	16
3	カキコミバン	3578 8834 000	17
4	オサエバン	3578 8836 000	17
5	パイプB　アッシ	3578 8838 000	16
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

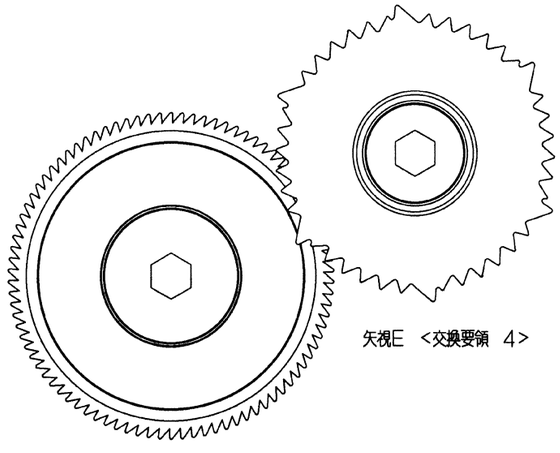
作業要領

1. ノコハおよびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

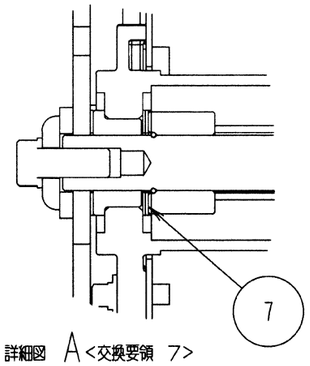
＜交換要領＞

1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコハおよび，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコハ，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコハ，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (3) カキコミバンは (4) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコハの向きにも注意してください。
5. ノコハ側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (6) ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコハと (3) カキコミバン，(4) オサエバンのスキマが2〜5㎜（ほぼ中央）になるように，(7) ライナを使用して調整します。
8. M16ナットの締め付けトルクは39〜44N・m {400〜450kgf/cm} に管理し，M16ナットでロックしてください。
9. (8) ボルト，(9) ボルトの締め付けは，(10) ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39〜44N・m {400〜450kgf/cm} に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコハとカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

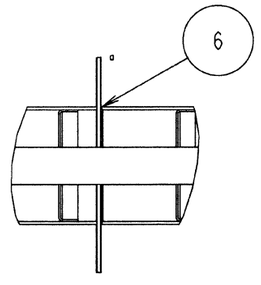




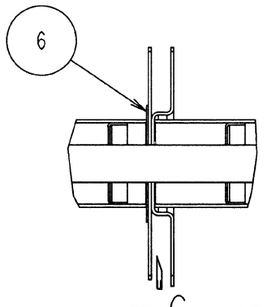
矢視E ＜交換要領 4＞



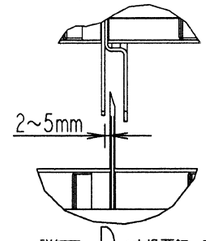
詳細図 A＜交換要領 7＞



詳細図 B＜交換要領 6＞



詳細図 C＜交換要領 6＞



詳細図 D＜交換要領 7＞

D28－25組付要領図

（部品表）

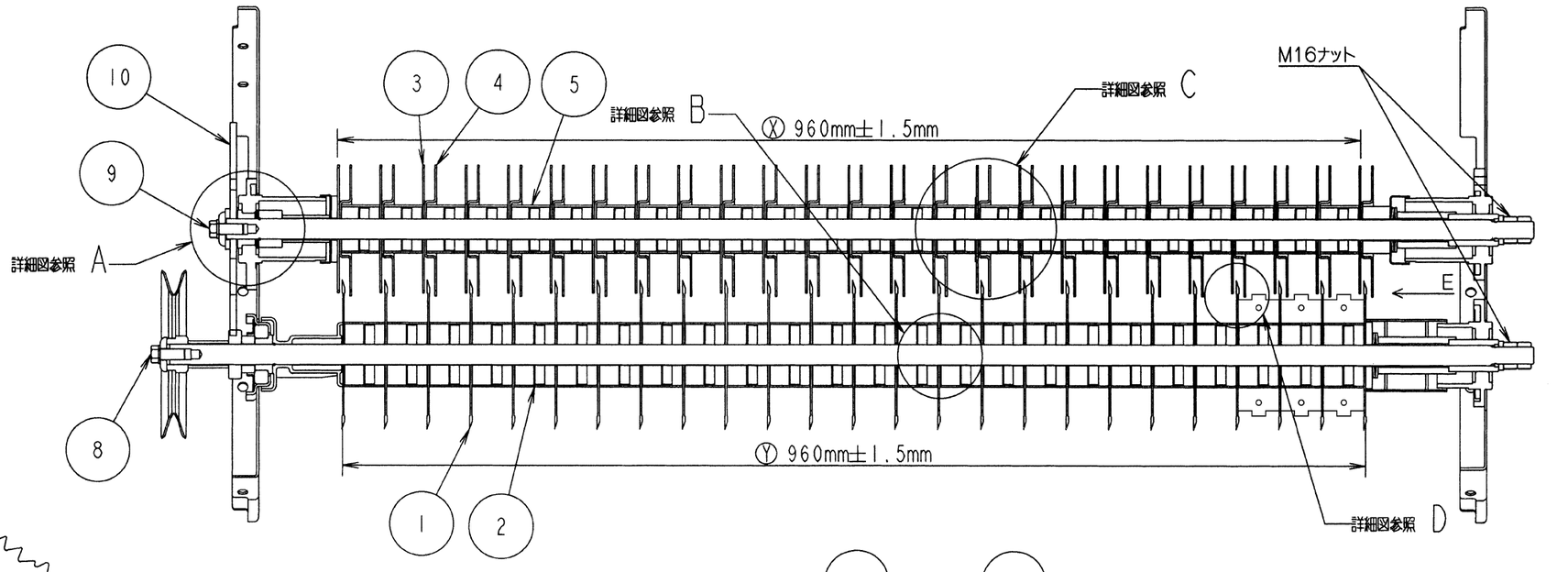
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコハ	3578 8817 000	25
2	パイプC　アッシ	3578 8819 000	24
3	カキコミバン	3578 8834 000	25
4	オサエバン	3578 8836 000	25
5	パイプD　アッシ	3578 8839 000	24
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

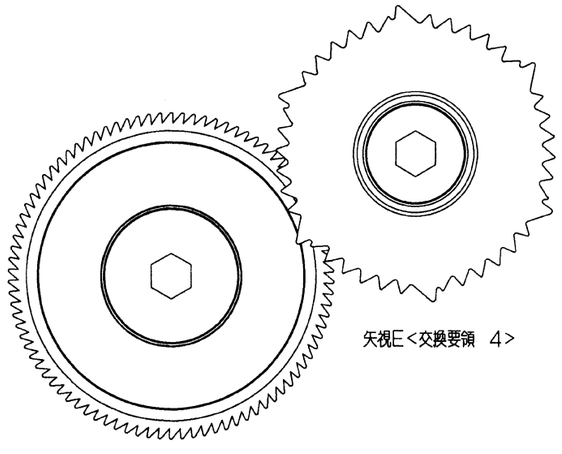
作業要領

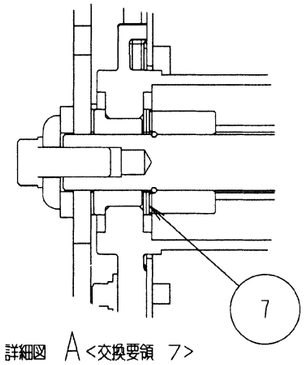
1. ノコハおよびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

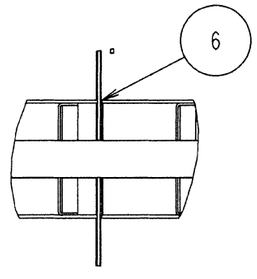
＜交換要領＞

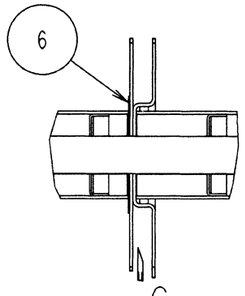
1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコハおよび，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコハ，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコハ，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (3) カキコミバンは (4) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコハの向きにも注意してください。
5. ノコハ側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (6) ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコハと (3) カキコミバン，(4) オサエバンのスキマが2～5㎜（ほぼ中央）になるように，(7) ライナを使用して調整します。
8. M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/cm｝に管理し，M16ナットでロックしてください。
9. (8) ボルト，(9) ボルトの締め付けは，(10) ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/cm｝に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコハとカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

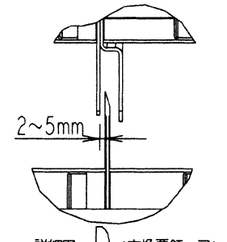












DMS28組付要領図

（部品表）

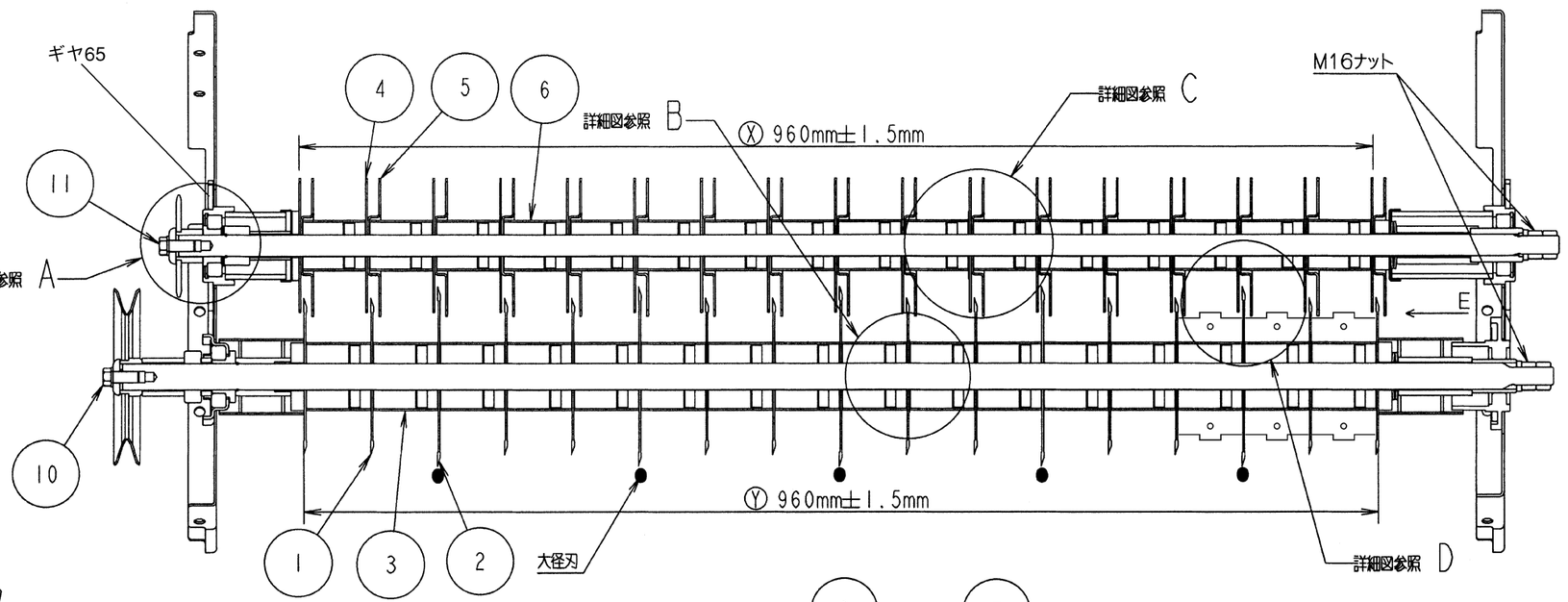
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコハ	3830 0409 000	12
2	ノコハ	3830 0415 000	5
3	パイプA　アッシ	3574 8786 000	16
4	カキコミバン	3578 8834 000	17
5	オサエバン	3578 8836 000	17
6	パイプB　アッシ	3578 8838 000	16
7	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
8	ライナ	3829 0518 000	必要に応じて使用
9	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

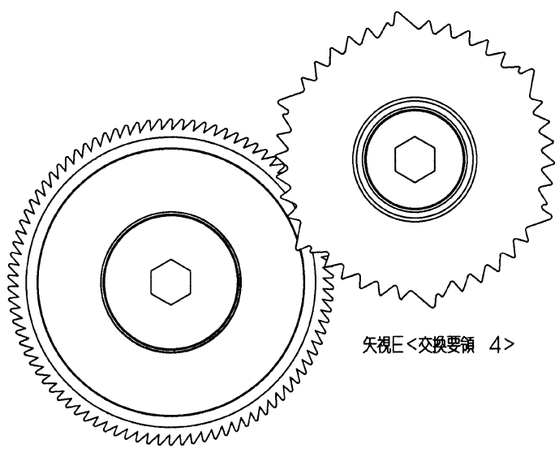
作業要領

1. ノコハおよびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

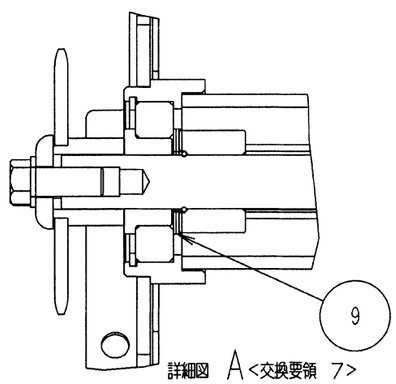
＜交換要領＞

1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコハおよび，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコハ，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコハ，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (4) カキコミバンは (5) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコハの向きにも注意してください。
5. ノコハ側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (7) (8) ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコハと (4) カキコミバン，(5) オサエバンのスキマが2～5㎜（ほぼ中央）になるように，(9) ライナを使用して調整します。
8. M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m {400～450kgf/cm} に管理し，M16ナットでロックしてください。
9. (10) ボルト，(11) ボルトの締め付けは，ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m {400～450kgf/cm} に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコハとカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

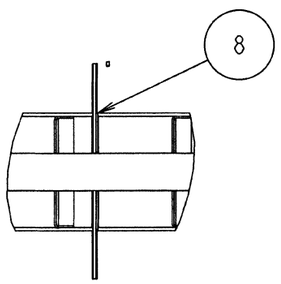




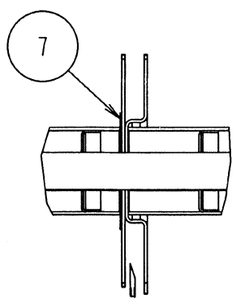
矢視E<交換要領 4>



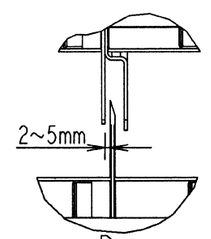
詳細図 A<交換要領 7>



詳細図 B<交換要領 6>



詳細図 C<交換要領 6>



詳細図 D<交換要領 7>

DMS28S組付要領図

（部品表）

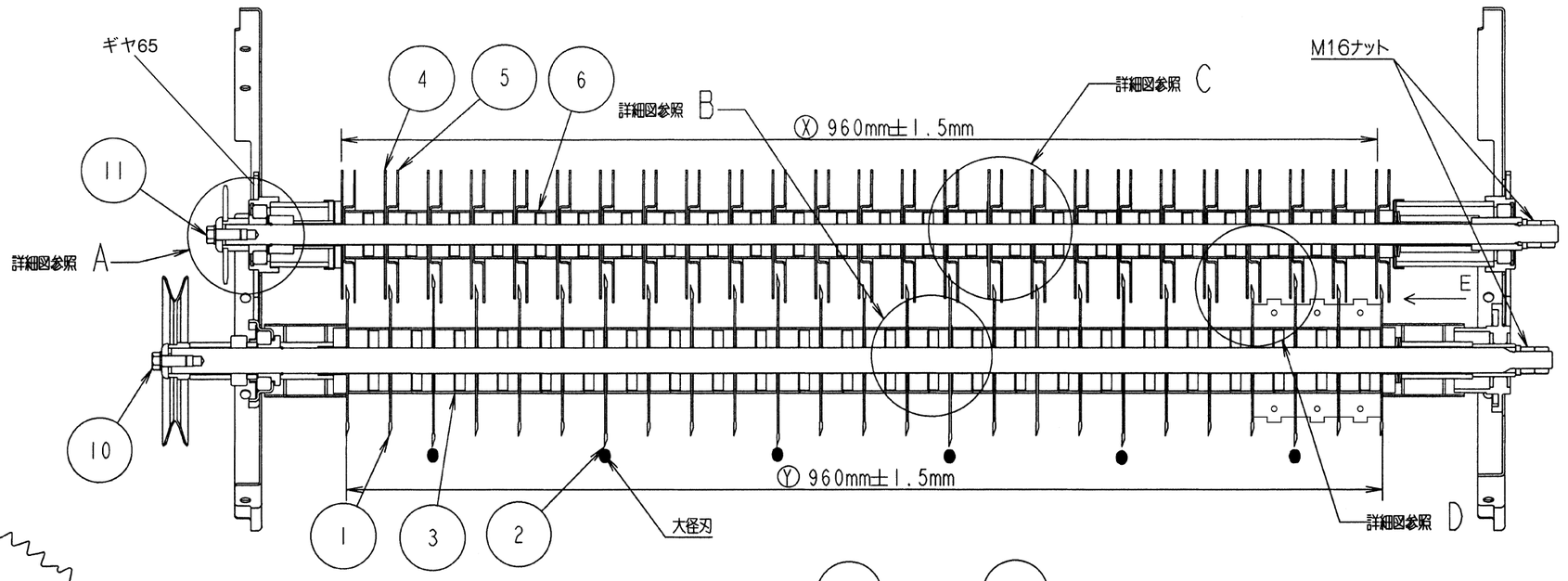
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコハ	3830 0409 000	19
2	ノコハ	3830 0415 000	6
3	パイプC　アッシ	3574 8784 000	24
4	カキコミバン	3578 8834 000	25
5	オサエバン	3578 8836 000	25
6	パイプD　アッシ	3578 8839 000	24
7	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
8	ライナ	3829 0518 000	必要に応じて使用
9	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

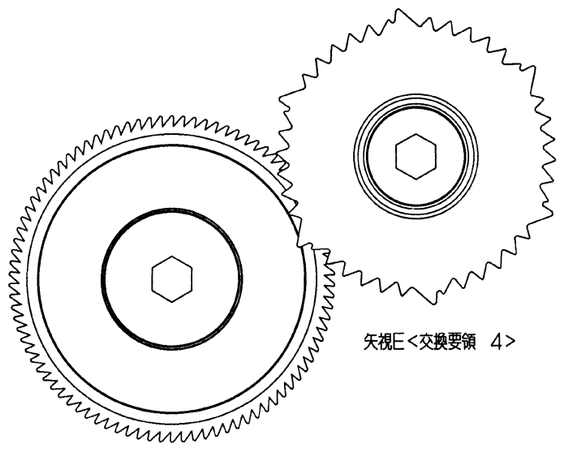
作業要領

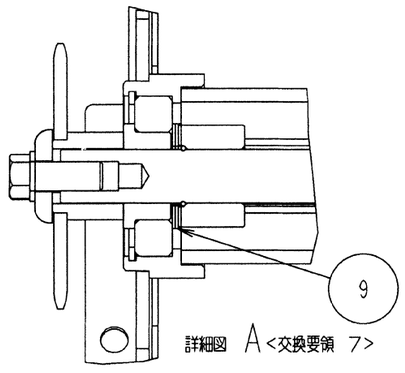
1．ノコハおよびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

＜交換要領＞

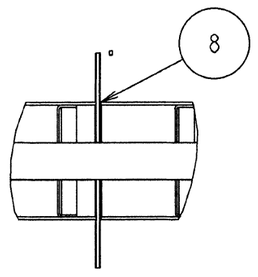
1．本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2．ノコハおよび，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3．ノコハ，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコハ，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4．(4) カキコミバンは (5) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコハの向きにも注意してください。
5．ノコハ側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6．(7) (8) ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7．(1) ノコハと (4) カキコミバン，(5) オサエバンのスキマが2～5㎜（ほぼ中央）になるように，(9) ライナを使用して調整します。
8．M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m {400～450kgf/cm} に管理し，M16ナットでロックしてください。
9．(10) ボルト，(11) ボルトの締め付けは，ギヤ65の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m {400～450kgf/cm} に管理してください。
10．組付け終了後正規回転し，ノコハとカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。



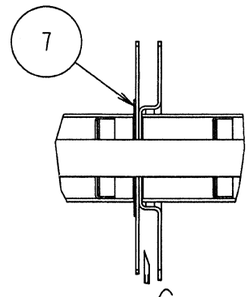

矢視E <交換要領 4>



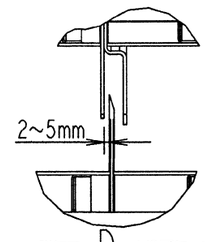
詳細図 A <交換要領 7>



詳細図 B <交換要領 6>



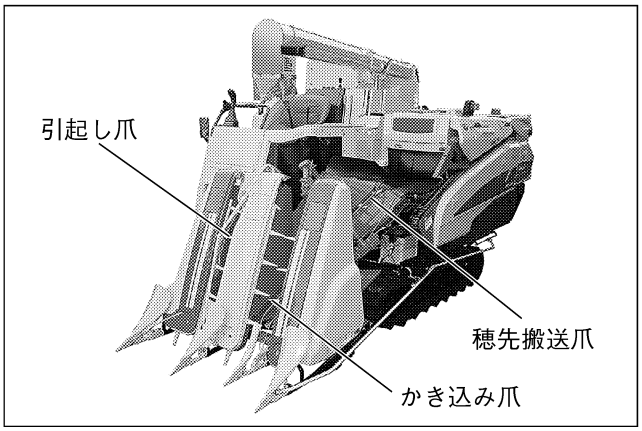
詳細図 C <交換要領 6>



詳細図 D <交換要領 7>

2．爪の交換のしかた

引起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪

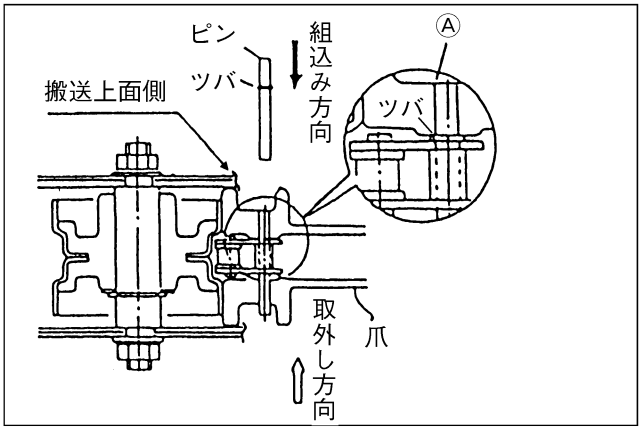


❶　爪の取外し

爪を取付けているピンを，突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。(ピンは，強く叩かなくても抜けます)

❷　爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。(図示Ⓐ部参照)



3．ホース類の点検と交換

⚠警告　火傷や火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホースなどの燃料漏れ，水漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

取扱いのポイント

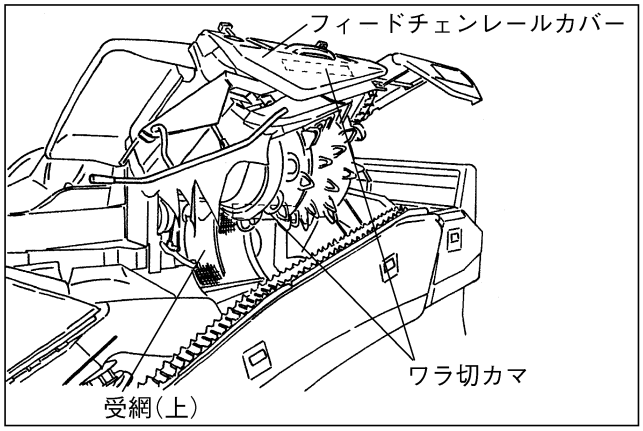
- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，2年ごとに「お買いあげ先」にて交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。(84ページ参照)**

4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

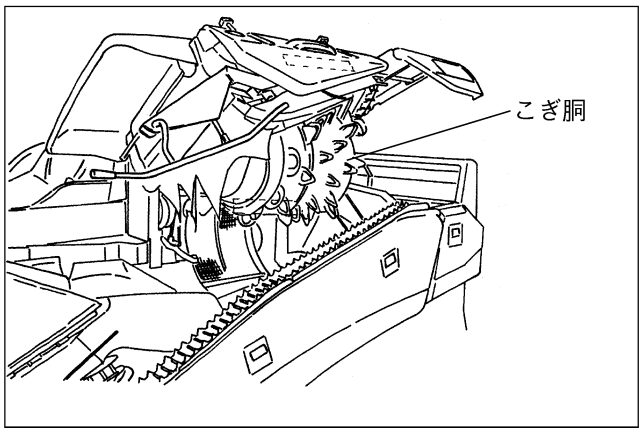
◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行なってください。
◆こぎ胴部を開くときは，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このときは，回動範囲内には，手や体を入れないでください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行なってください。
◆刃部に手をかけないでください。

こぎ胴を開けるとワラ切カマは，受網（上）の上部とフィードチェンレールカバーの裏部の 2 個所にあります。



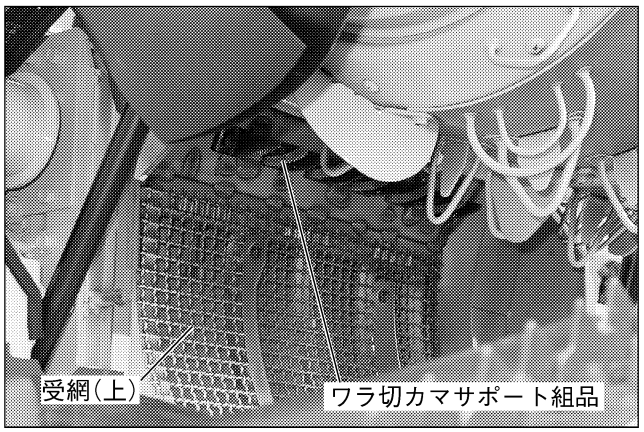
❶ ワラ切カマの取外し

(1) こぎ胴部を開きます。

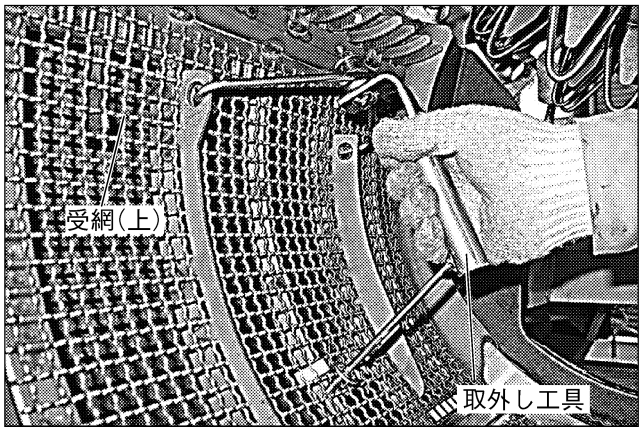


(2) ワラ切カマサポート組品を取外します。

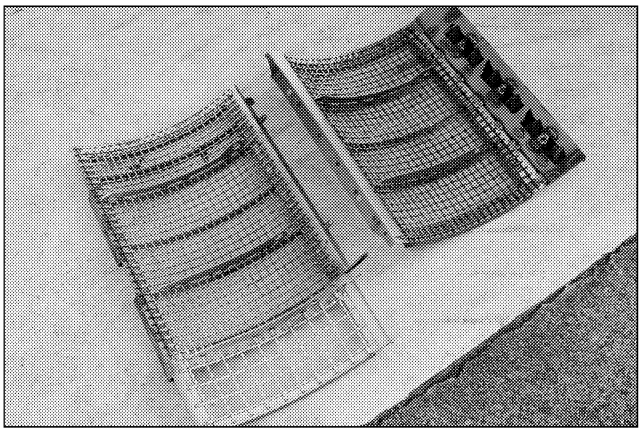
「受網（上）の上部にあるワラ切カマの場合」



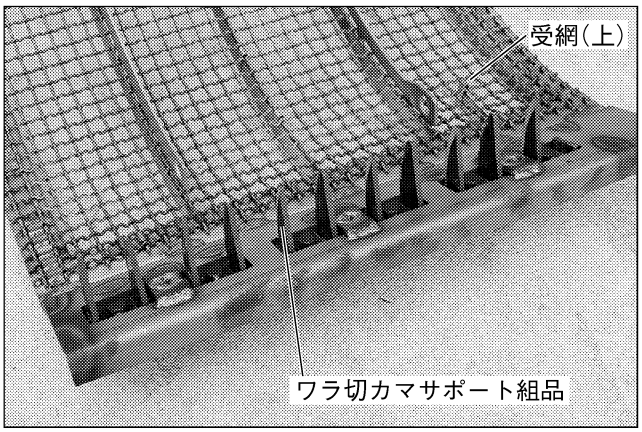
① 受網（上）の取外しは取外し工具を使用します。



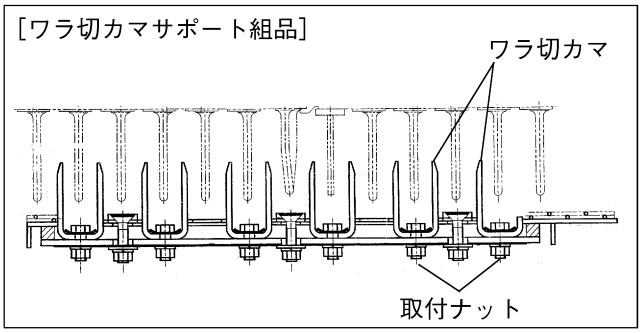
② 受網（下）を外します。



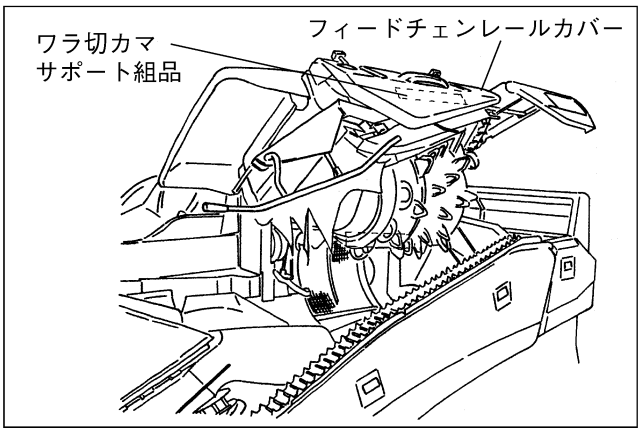
③ 受網（上）から，ワラ切カマサポート組品の取付ナット（3個）を外して，サポート組品を取外します。



④ ワラ切カマサポート組品から，取付ナットを外して，ワラ切カマを取外します。



「フィードチェンレールカバー裏部にあるワラ切カマの場合」

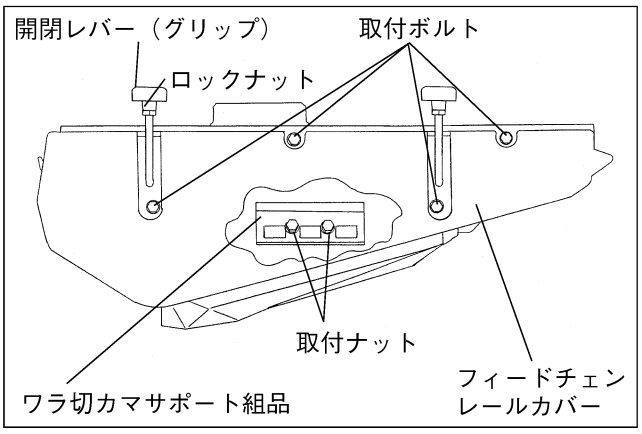


① 開閉レバーのロックナットをゆるめて，グリップを取外します。(左右2個所)

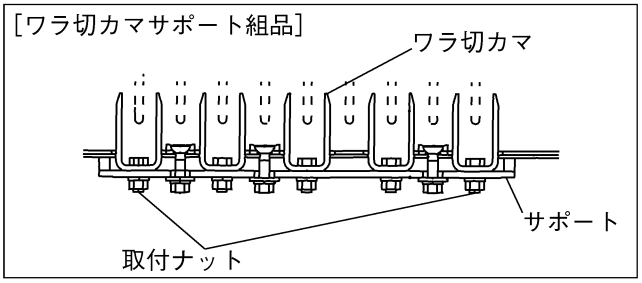
② 取付ボルト(4本)を外して，フィードチェンレールカバーを外します。

取付ボルト(4本)を外して，フィードチェンレールを外します。

③ ワラ切カマサポート組品の取付ナット（3個）を外して，サポート組品を取外します。

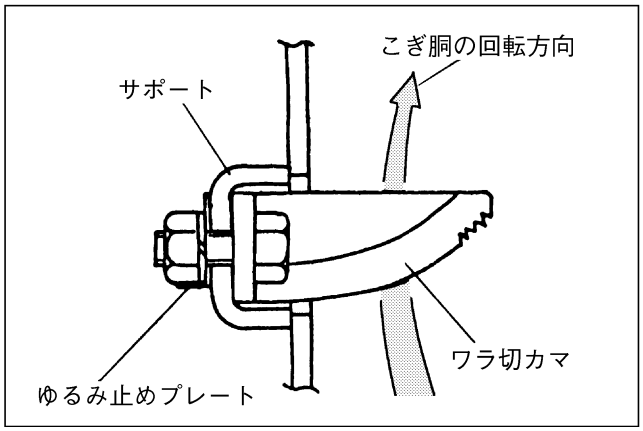


(4) ワラ切カマサポート組品から，取付ナットを外して，ワラ切カマ（5個）を取外します。



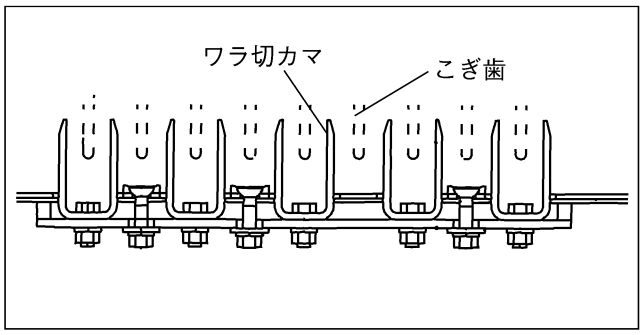
❷ ワラ切カマの取付け

ワラ切カマの組付け方向を確認して，真直ぐに締付けます。



取扱いのポイント

- **ワラ切カマが摩耗すると，ワラクズの切断性能が低下し，脱こく能率が低下します。ワラ切カマを取外し交換をしてください。**
- **こぎ歯の中央に，ワラ切カマが位置するように取付けてください。**

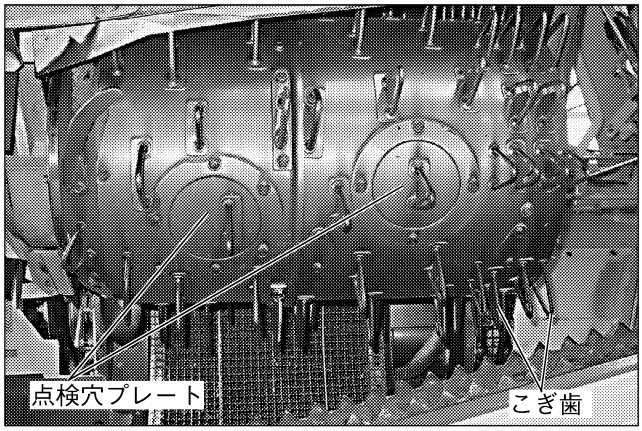


5．こぎ歯の点検と交換

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行なってください。
- ◆こぎ胴部を開くときは，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このときは，回動範囲内には，手や体を入れないでください。

❶ こぎ胴部を開きます。



❷ こぎ歯を点検します。

摩耗の激しいものは，交換します。こぎ歯の締付けがゆるんでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

取扱いのポイント

- **こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると，外せなくなりますので，ボルトの頭が摩耗し始めたときは，交換が必要です。**

5．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷時，正しく調整されていますが，使用により摩耗や伸びが生じてくることがあります。この場合は再調整を行い，損耗の限度を越えた部品は交換し，正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。
◆調整後は，異常なく作動することを，試運転で確認してください。

「レバー・ペダルの点検・調整」

1．マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

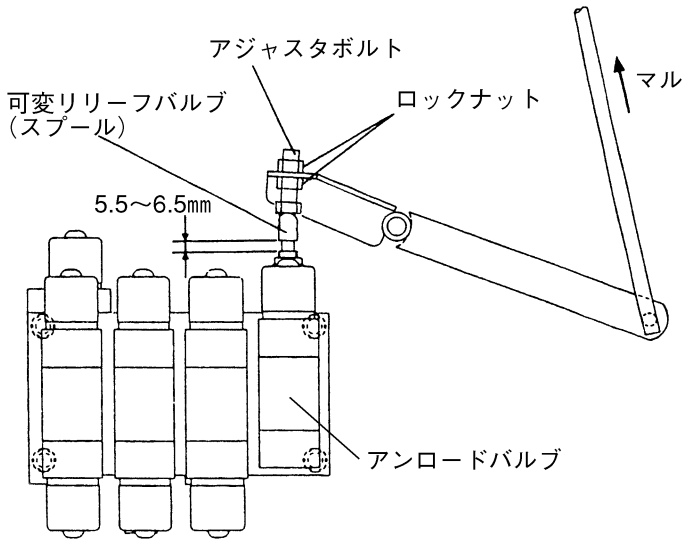
◆マルチステアリングレバーのアジャスタボルトの調整が適正でないと，旋回が悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

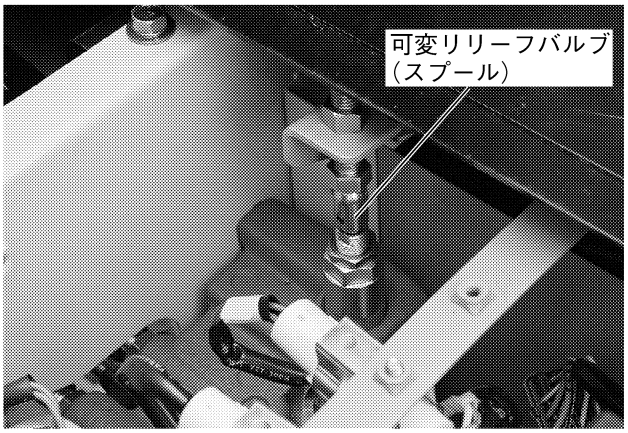
❶ 点検

エンジン停止直後，レバーを動かさずに中立状態で，可変リリーフバルブの隙間が 5.5～6.5㎜ になっていますか。

❷ 調整

運転席のステップカバーを開き，ロックナットをゆるめ，アジャスタボルトで調整します。





2. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

(1) 走行クラッチペダル先端の遊びが **30〜40㎜** になっていますか。

(2) 坂道（12°以内）で，駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。



❷ 調整

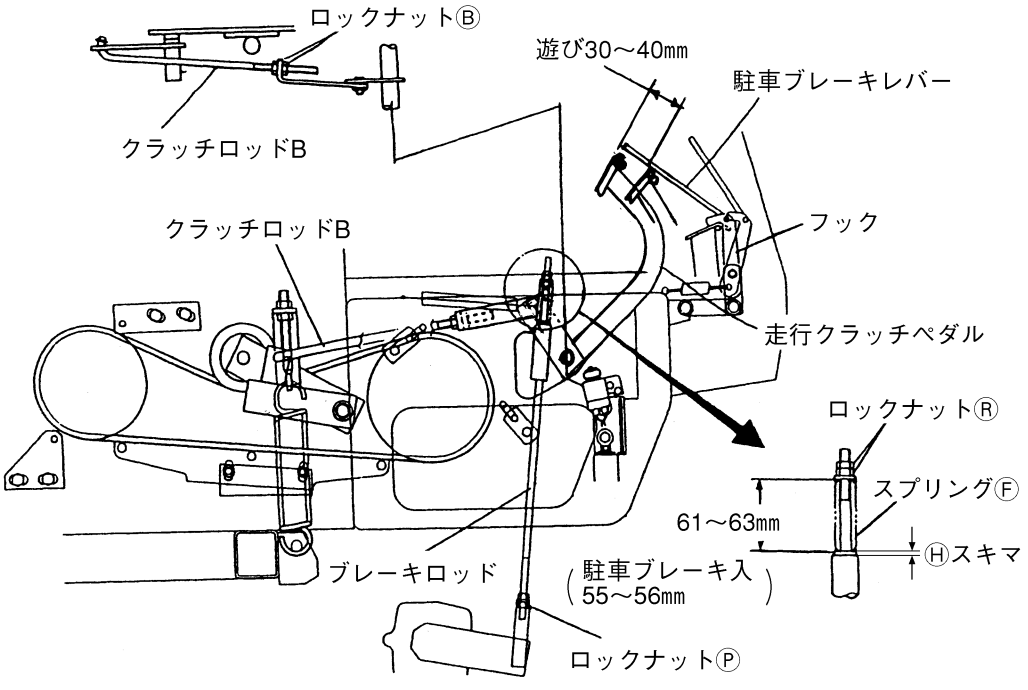
・運転席左下の樹脂カバーを外します。

(1) クラッチロッドBのロックナットⒷをゆるめて，ペダル先端の遊びを **30〜40㎜** に調整します。調整後，ロックナットⒷを締付けます。

(2) 1）駐車ブレーキの調整は，走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを **61〜63㎜** にロックナットⓇで調整します。

2）次に，走行クラッチペダルを踏んで，駐車ブレーキレバーでフックをかけた状態でスプリング長さを **55〜56㎜** にブレーキロッドのロックナットⓅをゆるめて調整します。Ⓗ部にスキマを5㎜以上確保してください。

3）調整後，ロックナットⓇ，Ⓟを確実に締付けます。



3. 刈取クラッチレバー,作業機クラッチレバー

「刈取クラッチレバー」

❶ 点検

刈取クラッチレバーが《入》のとき，スプリングⒶの寸法が 64～66mm になっていますか。

❷ 調整

刈取部を下げ，脱こく入口のゴム板を持ち上げ，保護カバーをめくります。(81－1ページ参照) ロックナットⒸをゆるめて，刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

「作業機クラッチレバー」

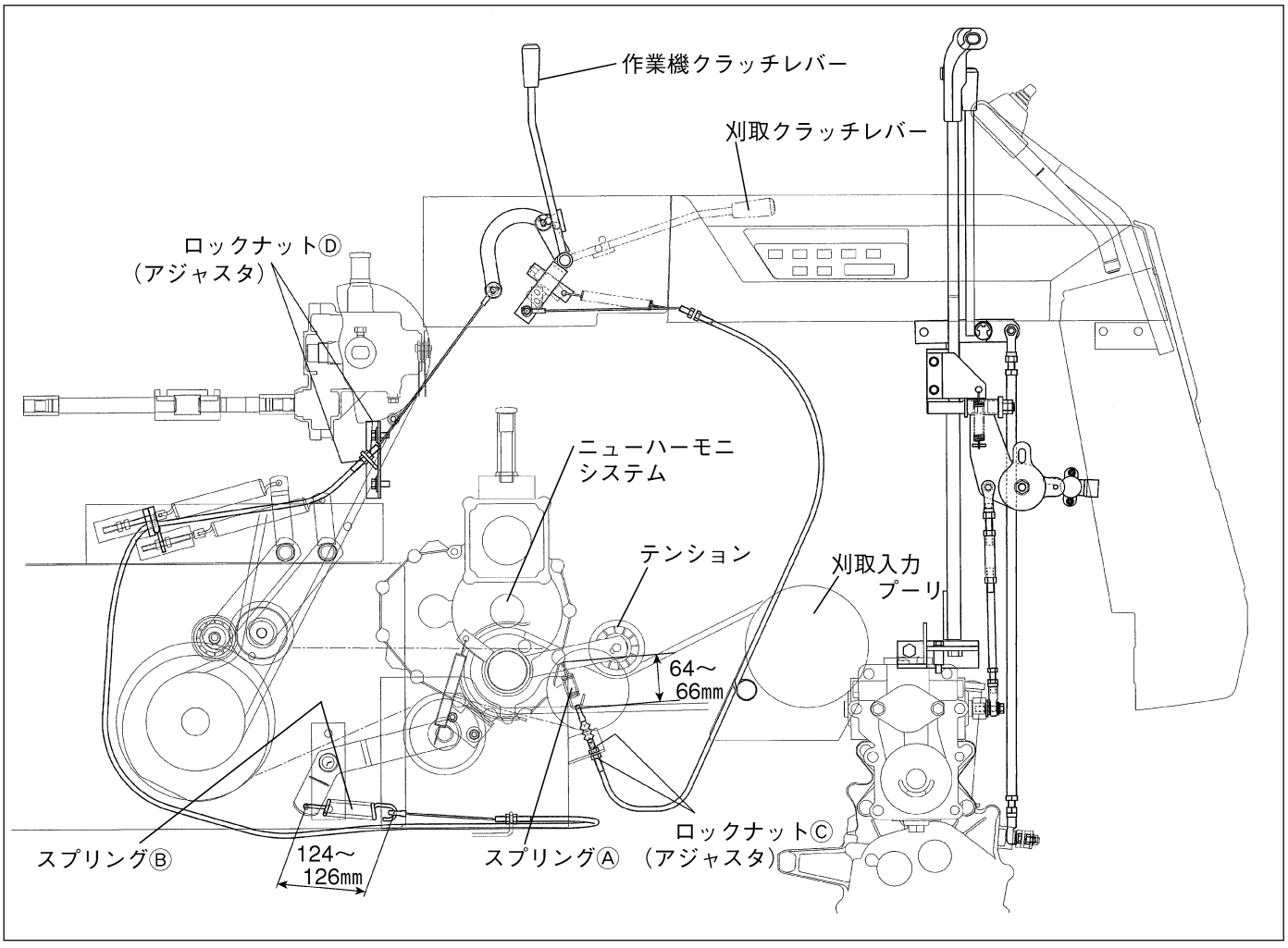
❶ 点検

作業機クラッチレバー《入》のとき，スプリングⒷの寸法が 124～126mm になっていますか。

❷ 調整

グレンタンクを回動し，ストッパを掛けます。(89～90ページ参照)

ロックナットⒹをゆるめてアジャスタを調整し，スプリング長さを調整します。



4．カッタ・排ワラ切替レバー

❶ 点検

(1) 切替レバーが《**排ワラ**》の状態でワイヤⒶ，Ⓑ，Ⓒに 3～4㎜ のガタがありますか。

(2) 切替レバーが《**カッタ**》の状態でスプリングⒹの寸法が 142～144㎜ ですか。

(3) 切替レバーが《**カッタ**》の状態で排ワラレールの伸び寸法が 135～145㎜ ですか。また，切替レバーが《**排ワラ**》の状態で排ワラレールの伸び寸法が 280～310㎜ ですか。

(4) 切替レバーが《**カッタ**》の状態で切替板先端とフレームとの距離が 192～198㎜ ですか。

(5) 切替レバーが《**カッタ**》の状態でスプリングⒺの寸法が 76～78㎜ ですか。

❷ 調整

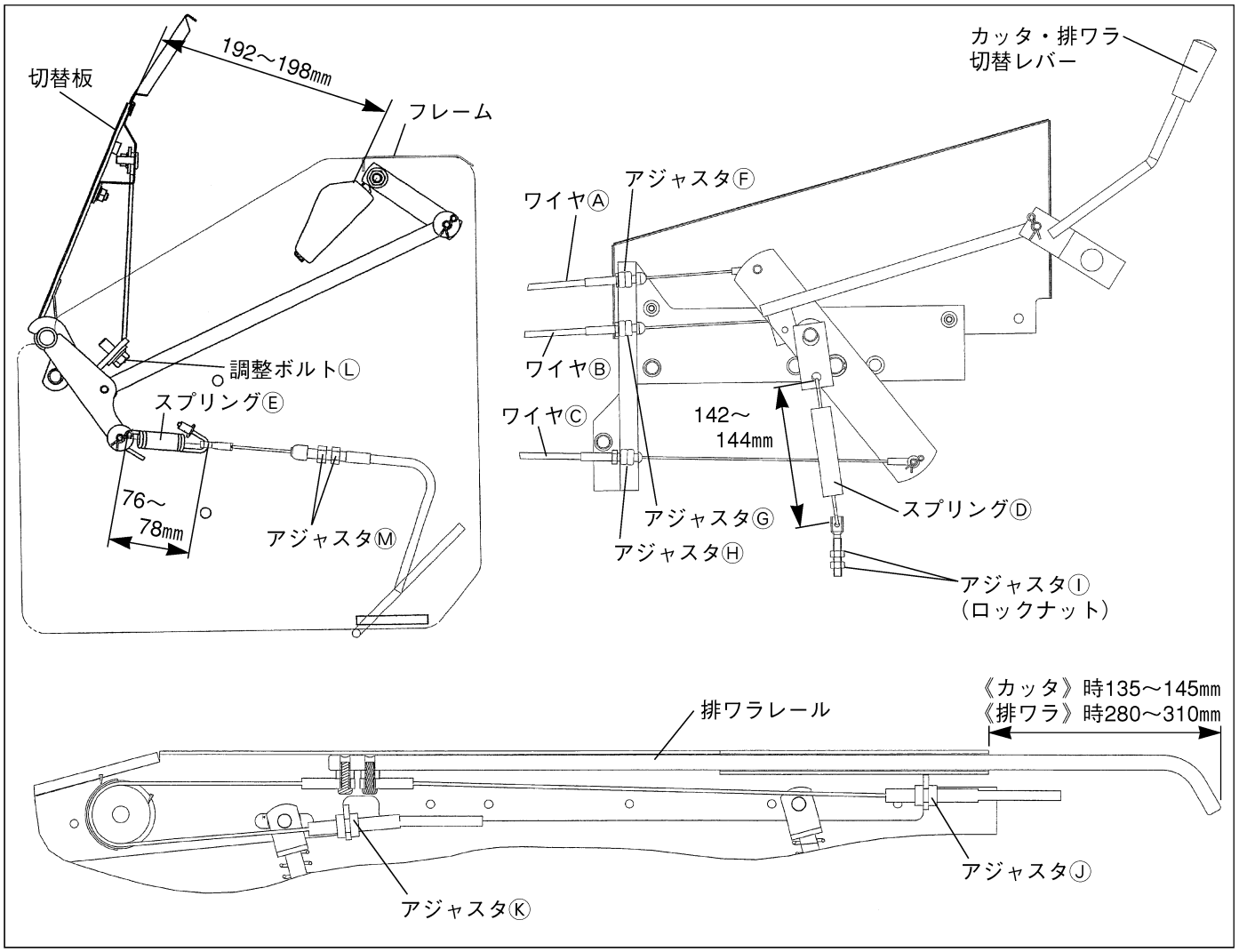
(1) アジャスタⒻ，Ⓖ，Ⓗで調整します。

(2) アジャスタⒾで調整します。

(3) アジャスタⒿ，Ⓚで調整します。

(4) 調整ボルトⓁの位置で調整します。

(5) アジャスタⓂで調整します。



「ベルトの点検・調整」

5．エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行なってください。

❶ 点検

ファンベルトの長い方の中央部を指で押し，タワミ量が 10～13mm となっていますか。

❷ 調整

・エンジンカバーを開きます。(21ページ参照)

オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめ，オルタネータを矢印（⇨）側に倒し，ベルトが張ります。

調整後，取付ボルトナットを締付けます。

6．走行ベルト

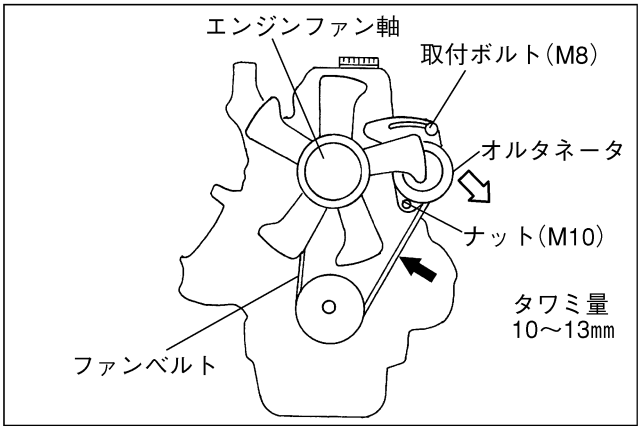
走行ベルトの点検・調整は，「**お買いあげ先**」にて行います。

❶ 点検

走行クラッチペダルを踏まない状態で，スプリング長さが 217～219mm になっていますか。

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

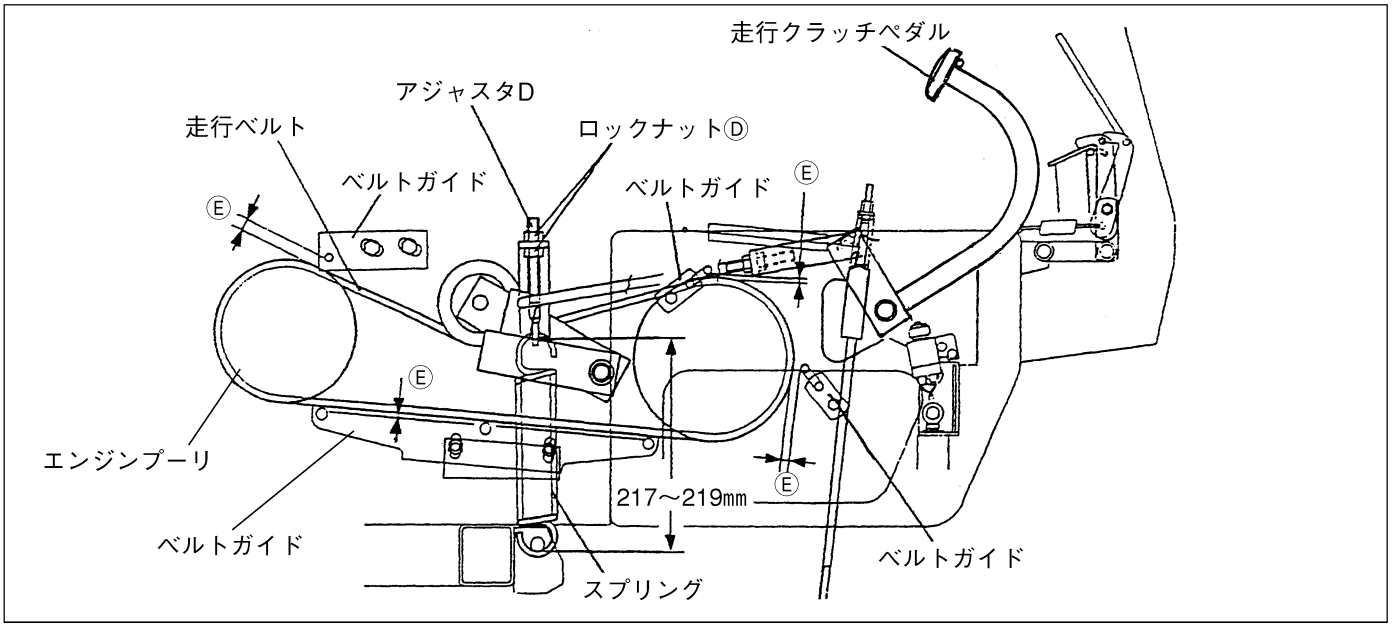


❷ 調整

・運転席左側の足元カバーを，ノブをゆるめて取外します。

(1) アジャスタDのロックナットⒹをゆるめて，スプリング長さを調整します。

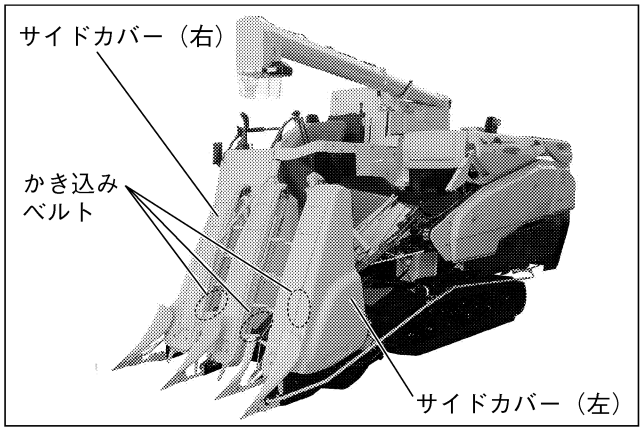
(2) 4個所のベルトガイドとベルトの隙間Ⓔを 3～5mm に調整します。



7．かき込みベルト（刈取部）

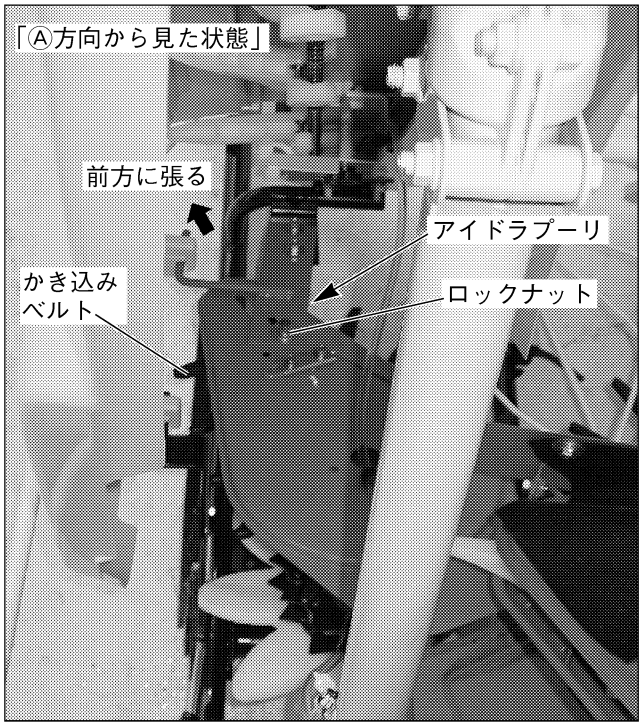
❶ 点検

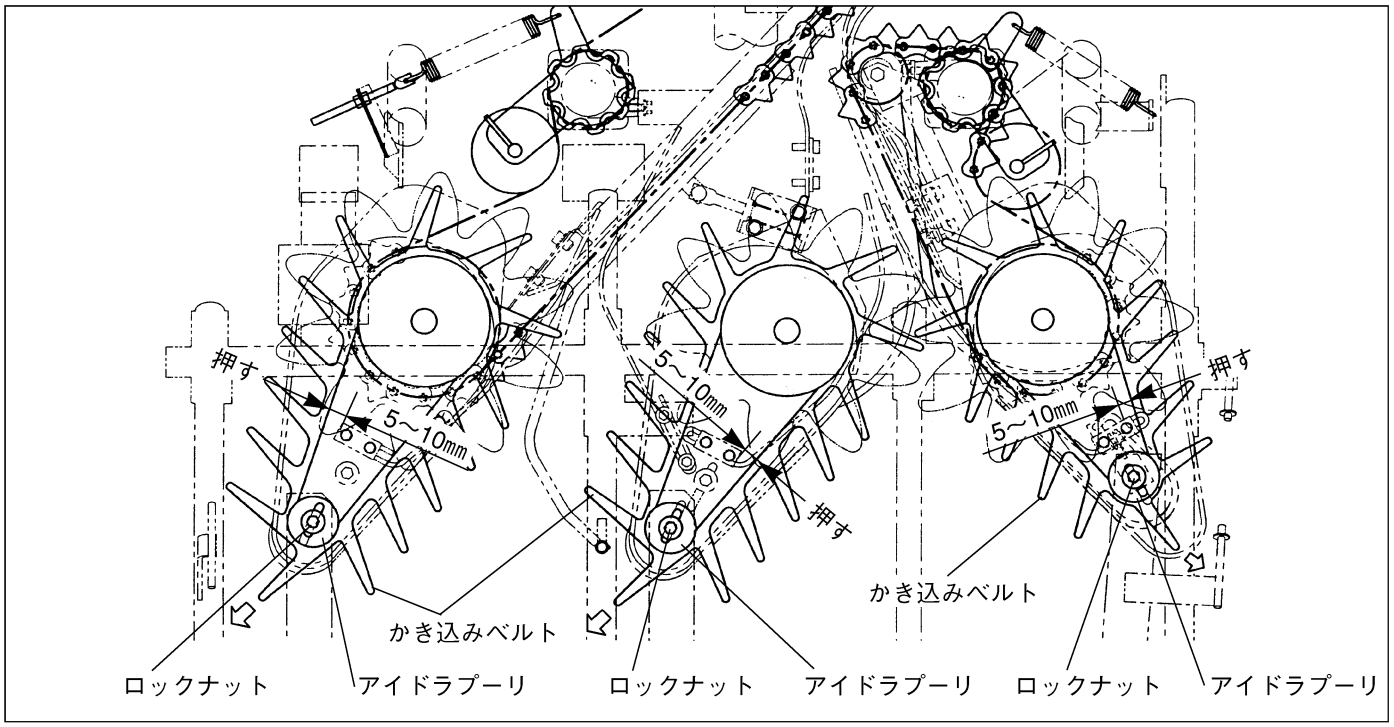
ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。3 個所(右，中，左)



❷ 調整

刈取部サイドカバー（右），（左）を外し，アイドラプーリのロックナットをゆるめて，アイドラプーリで調整します。





8．こぎ胴ベルト

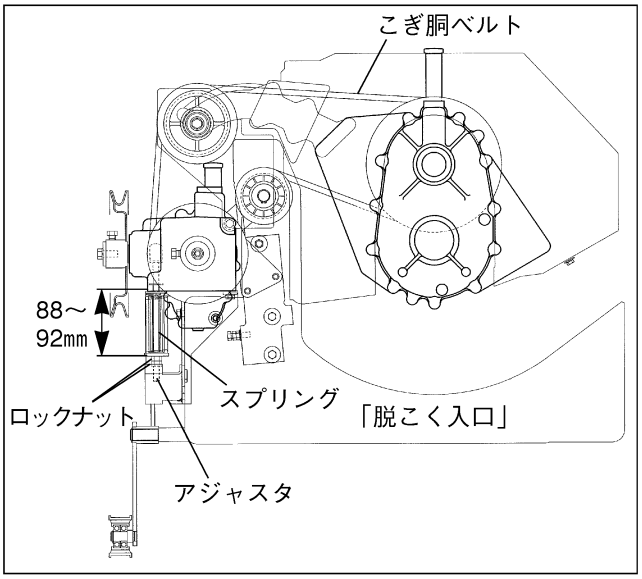
❶ 点検

スプリングのセット寸法が 88～92㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動（オープン）し，ストッパで固定します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。



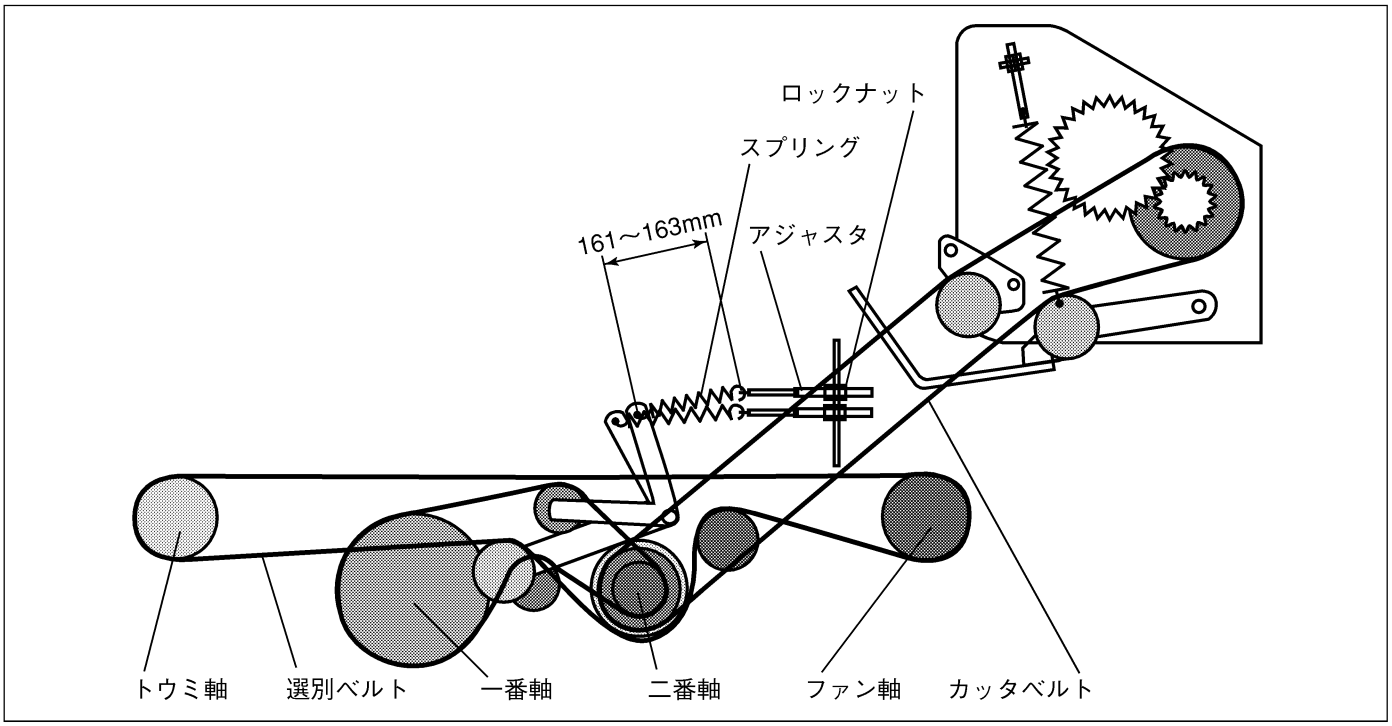
9．選別ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 161～163㎜ になっていますか。

❷ 調整

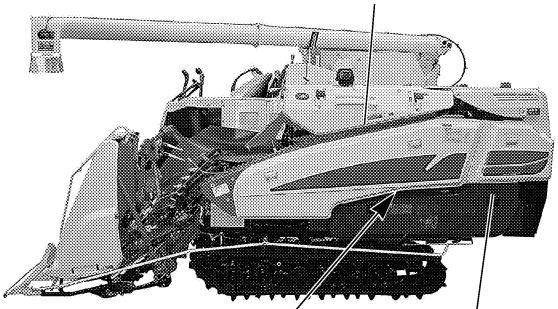
脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



10．1番ラセン駆動ベルト

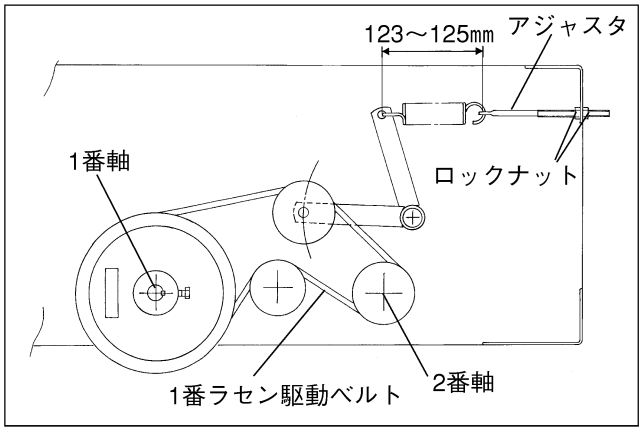
❶ 点検

スプリング長さが **123〜125㎜** になっていますか。



❷ 調整

脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



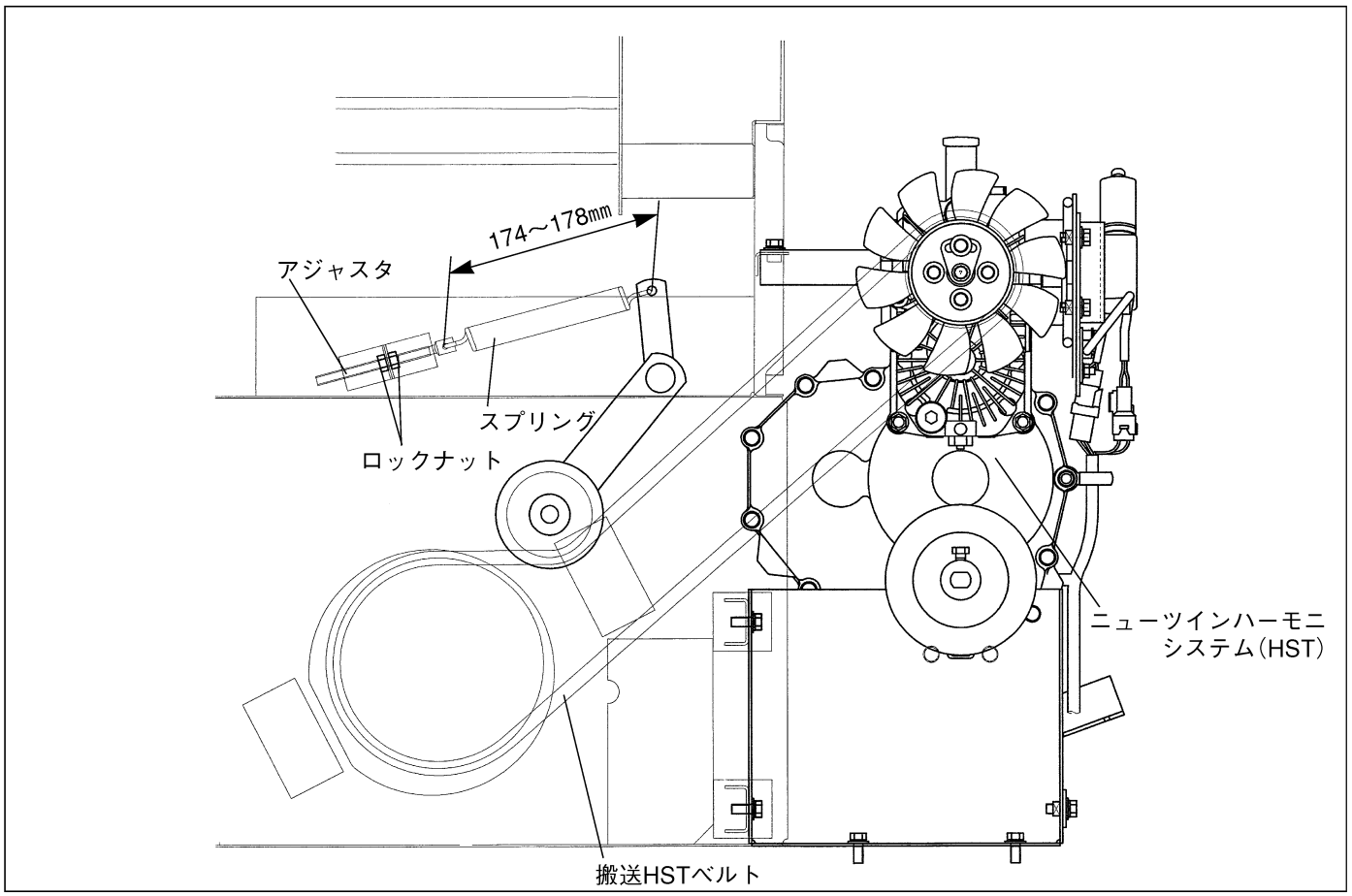
11．搬送HSTベルト

❶ 点検

スプリング長さが **174〜178㎜** になっていますか。

❷ 調整

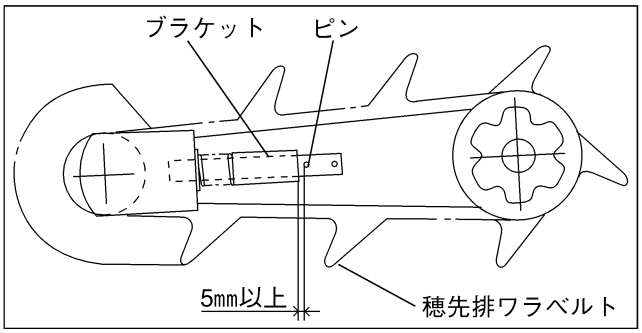
アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。



12. 穂先排ワラベルト

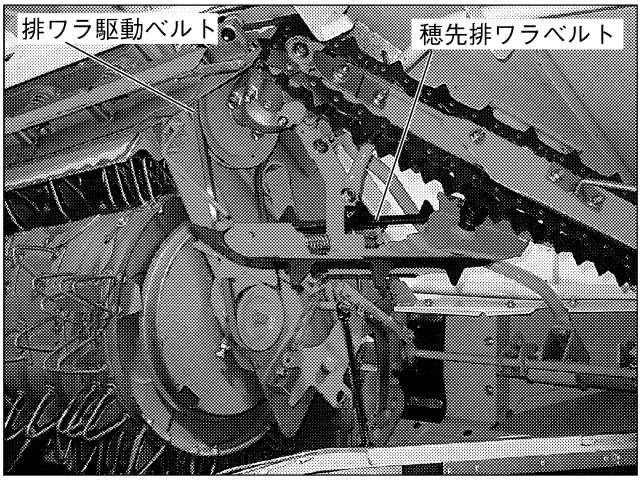
❶ 点検

ブラケットとピンの隙間が **5㎜以上** になっていますか。



❷ 調整

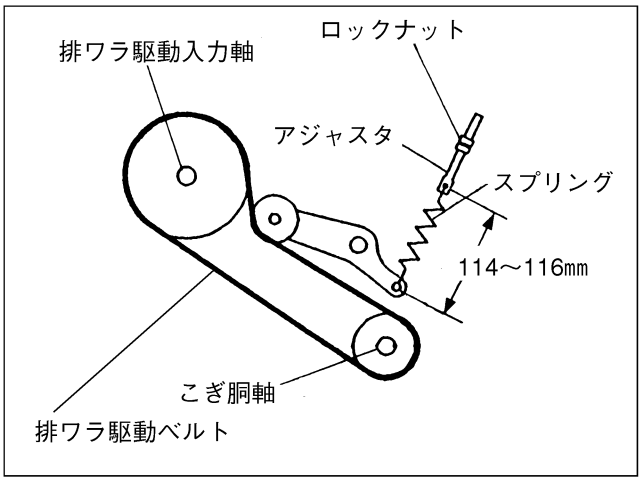
こぎ胴部を開き，自動ロックをかけ（90ページ参照），**5㎜以下** になっていたら，排ワラベルトを交換します。



13. 排ワラ駆動ベルト

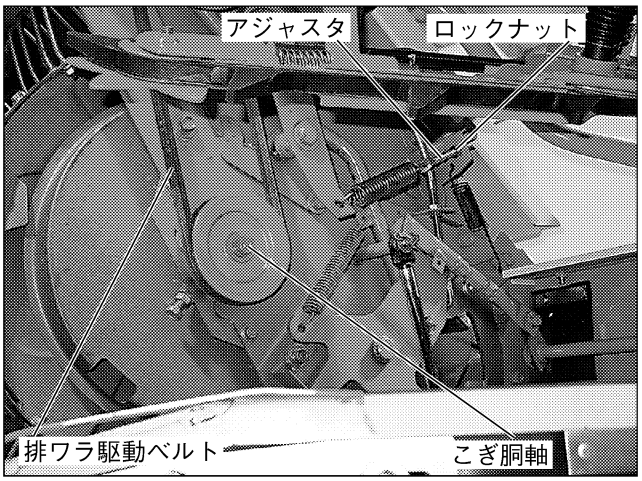
❶ 点検

スプリング長さが **114〜116㎜** になっていますか。



❷ 調整

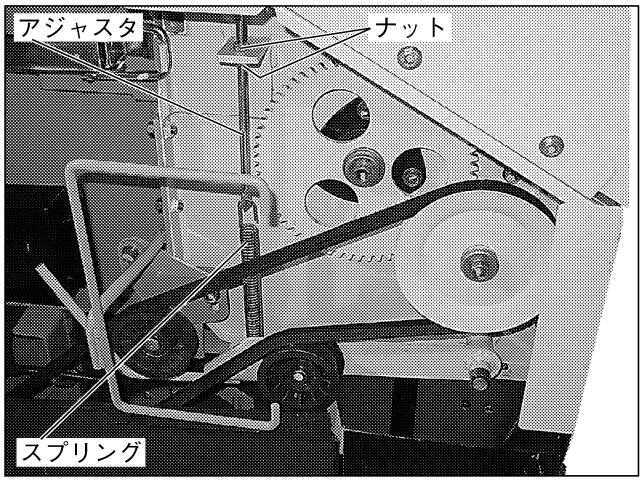
こぎ胴部を開き，自動ロックをかけ（90ページ参照），アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



14．カッタベルト

❶ 点検

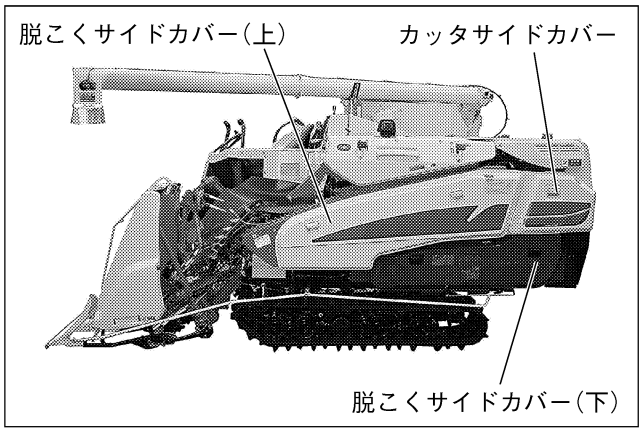
カッタベルトをセットしたとき，スプリングの寸法が 203～209㎜ になっていますか。(D28型)



[マルチカッタも同一寸法です。]

❷ 調整

カッタサイドカバーを外し，ナットをゆるめ，アジャスタで調整します。



15．グレン入力ベルト

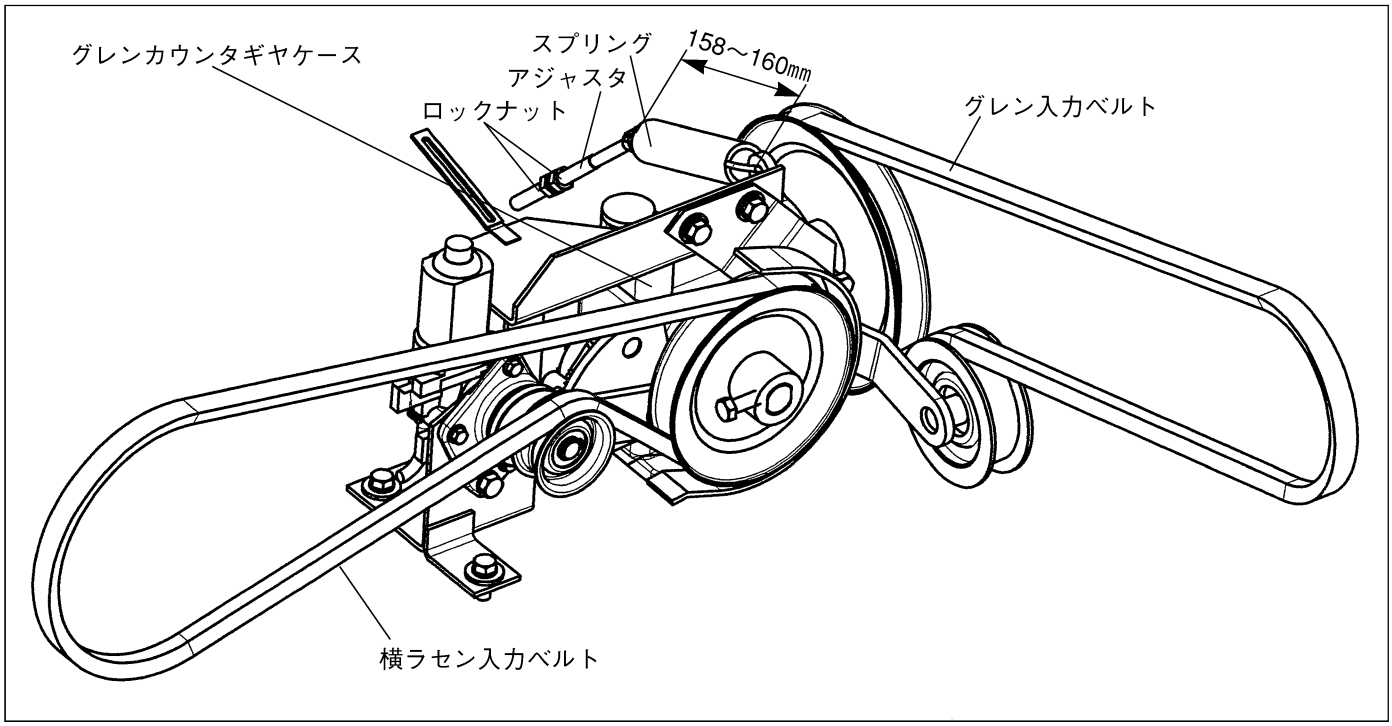
❶ 点検

※グレン入力ベルトはグレンタンクを回動（オープン）すると見ることができます。

スプリングの長さが 158～160㎜ になっていますか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめ，アジャスタで調整します。



「チェンの点検・調整」

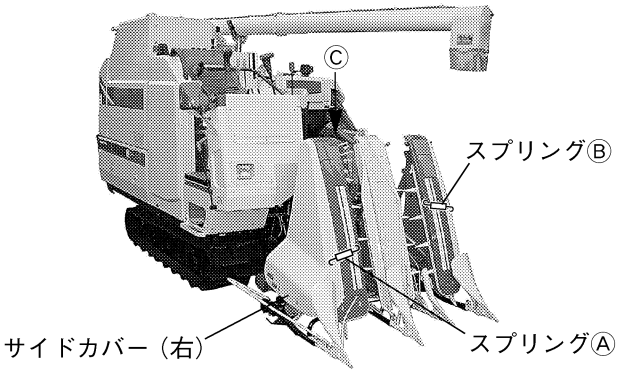
取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は，スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください。

16．株元搬送チェン（右）

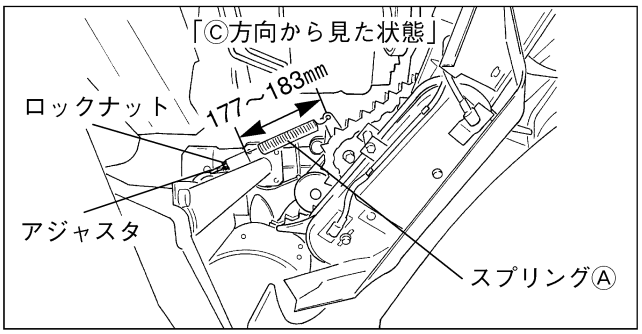
❶ 点検

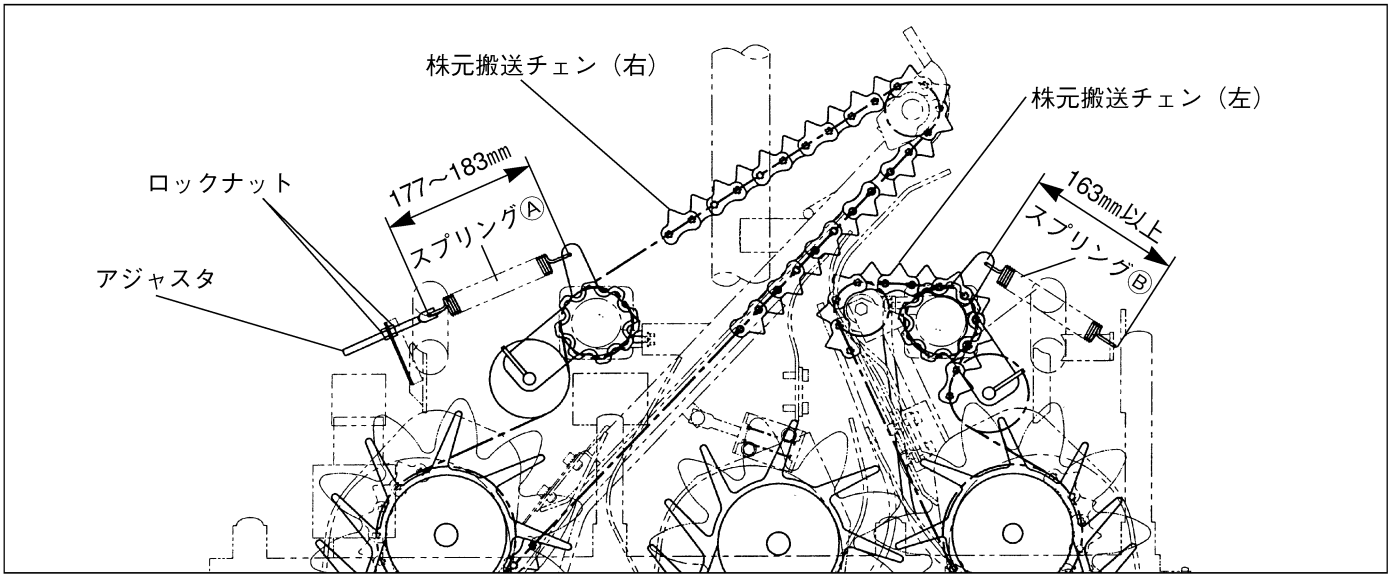
スプリング長さが 177～183㎜ になっていますか。



❷ 調整

刈取部サイドカバー（右）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリングの長さを調整します。





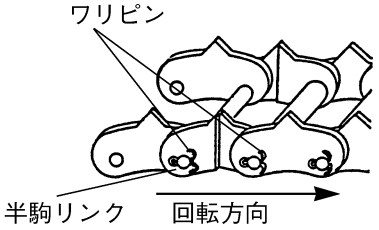
17．株元搬送チェン（左）

❶ 点検

スプリングⒷの長さが 163㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

刈取部サイドカバー（左）を外し，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



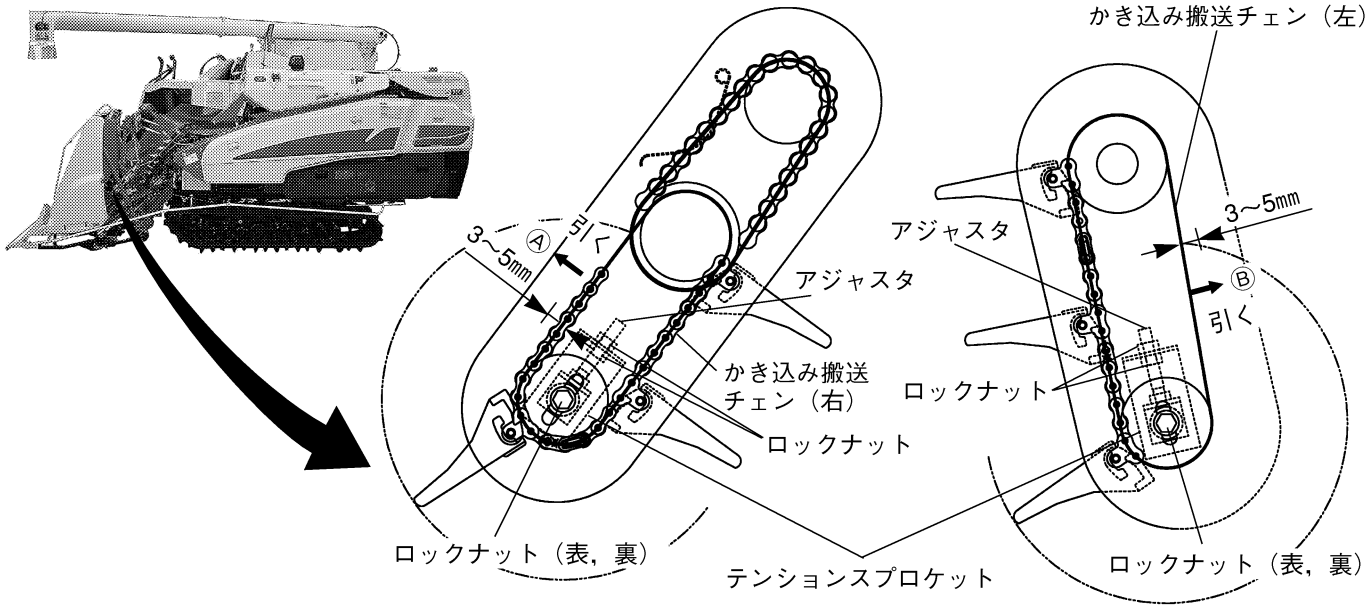
18．かき込み搬送チェン（右，左）

❶ 点検

かき込み搬送チェン（右，左）各々のⒶ，Ⓑ部を手で軽く引いたとき，タワミ量が **3〜5mm** になっていますか。

❷ 調整

テンションスプロケットのロックナット（表，裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。



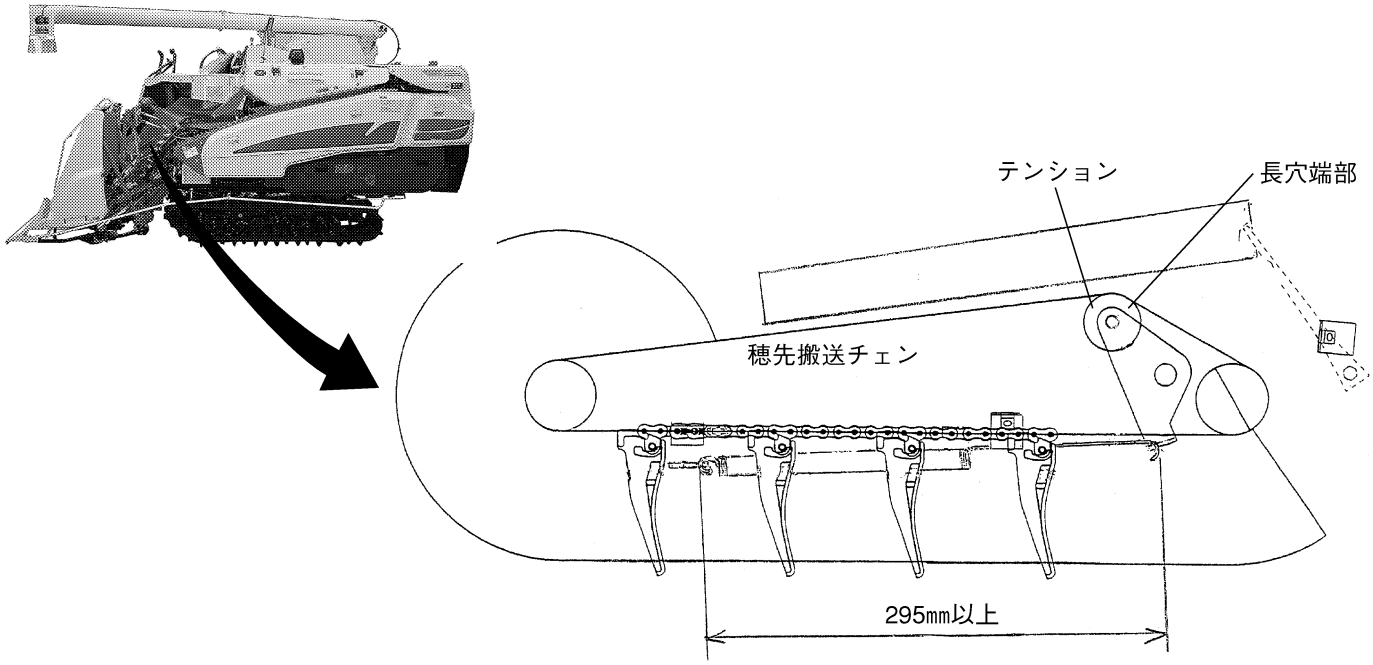
19．穂先搬送チェン

❶ 点検

スプリング長さが **295mm以上** になっていますか。

❷ 調整

搬送上カバーを外し，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



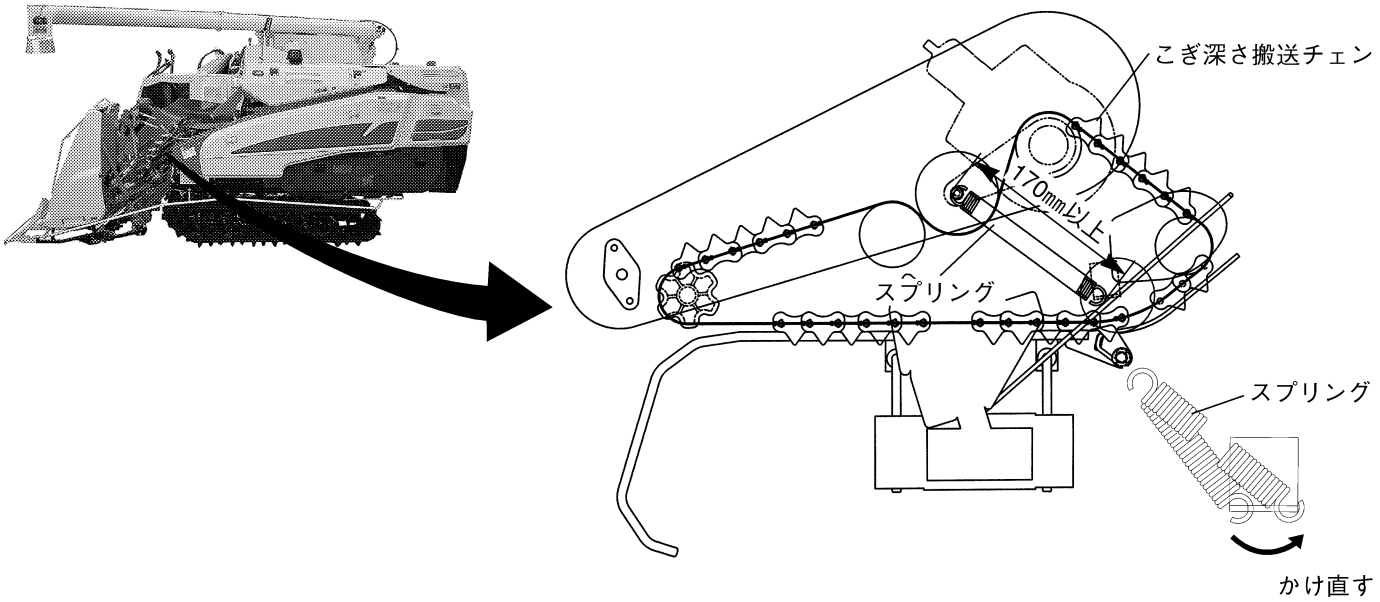
20. こぎ深さ搬送チェン

❶ 点検

スプリング長さが **170㎜以上** になっていますか。

❷ 調整

スプリングをかけ直します。それでもスプリングが170㎜以下の時は，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



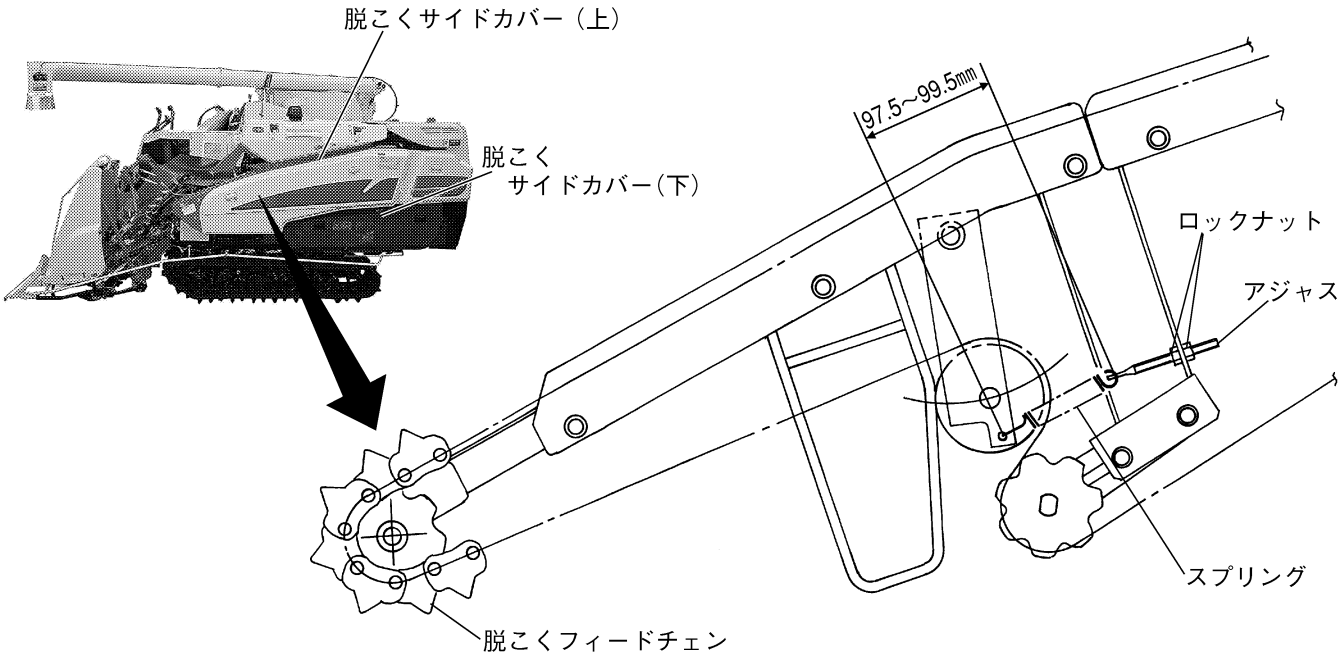
21. 脱こくフィードチェン

❶ 点検

スプリング長さが **97.5～99.5㎜** になっていますか。

❷ 調整

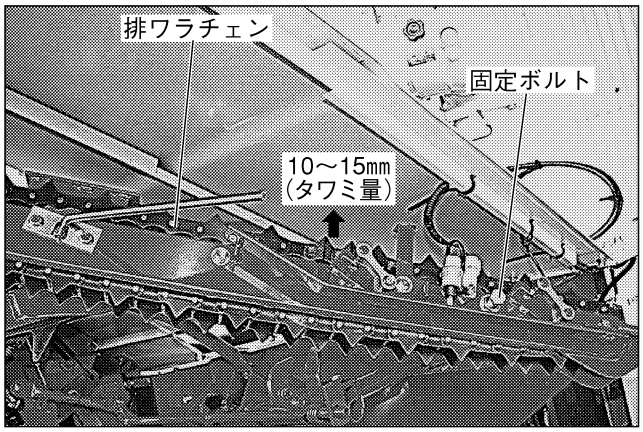
脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。



22．排ワラチェン

❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引き，タワミ量が 10〜15㎜ になっていますか。

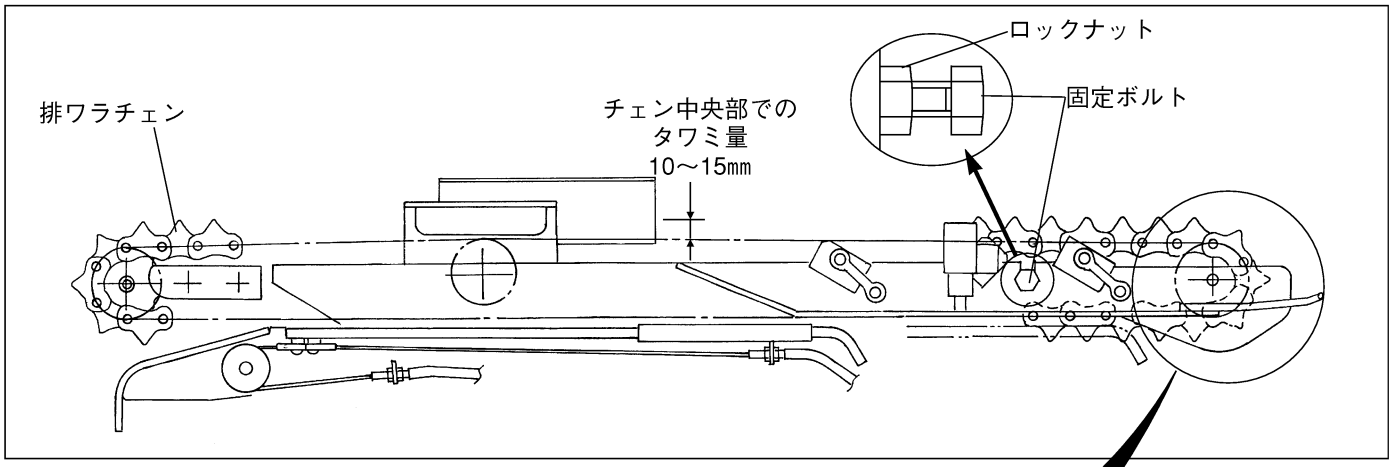


❷ 調整

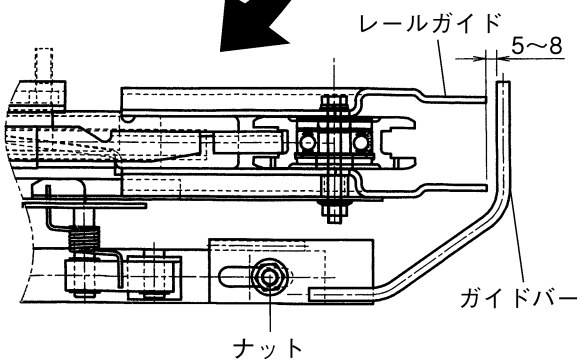
ロックナット，固定ボルトをゆるめると，自動的にチェンの張り調整ができます。

調整後，固定ボルトがゆるまないよう，ロックナットで締付けます。

なお，調整できなくなったときは，「**お買いあげ先**」にてチェンの長さの修正を行います。



排ワラチェン先端部にガイドバーがあります。このガイドバーとレールガイドの隙間が，5〜8㎜ になるように，ナットをゆるめて調整します。



「クローラの点検・調整」

23．クローラ

クローラの点検・調整は「**お買いあげ先**」にて行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

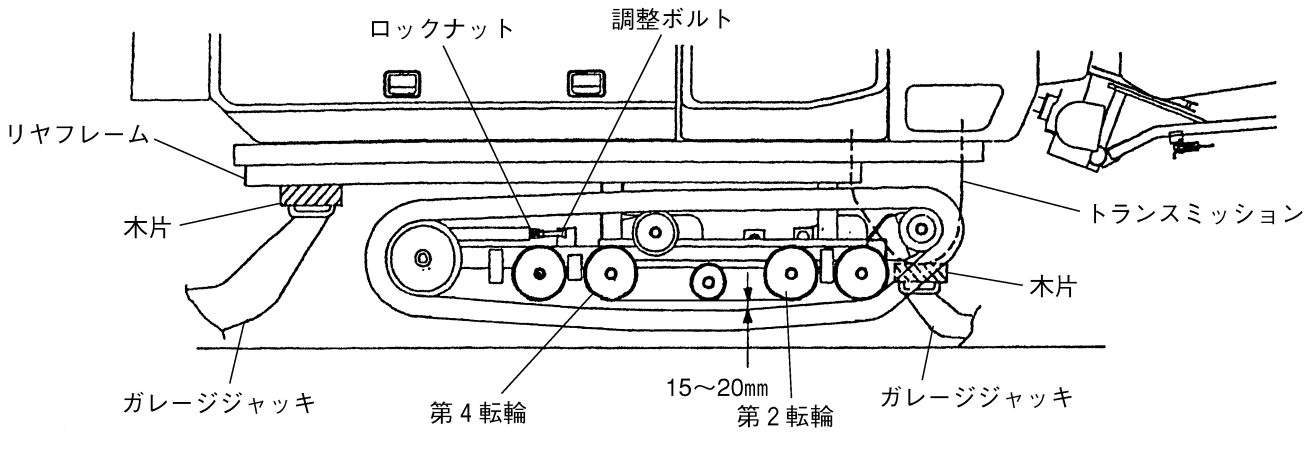
❶ 点検

⑴ 図示のように，トランスミッション部とリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせます。

⑵ クローラ下面を地面から浮かせた状態で，第２転輪および第４転輪とクローラのタワミ量が **15～20㎜** になっていますか。

❷ 調整

⑴ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，第２転輪および第４転輪とクローラの隙間が **15～20㎜** になるまで張ります。



取扱いのポイント

- クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキを掛ける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。
- トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損する恐れがありますので，木片を噛ませて行なってください。

「刈刃の調節」

24．刈　　刃

⚠警告　傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行なってください。刈刃は内側のボルトを外してから，外側のボルトを外してください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我をすることがあります。

◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

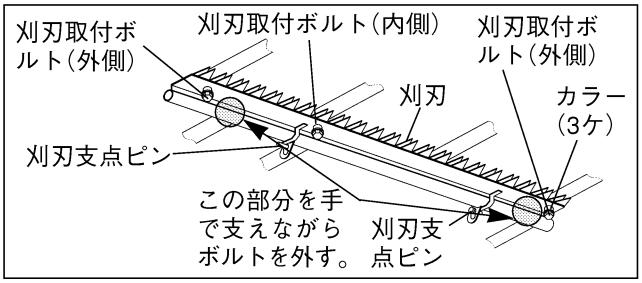
❶　刈刃のオープン

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，オープン（回動）します。

⑴　エンジンを始動し,マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

⑵　エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

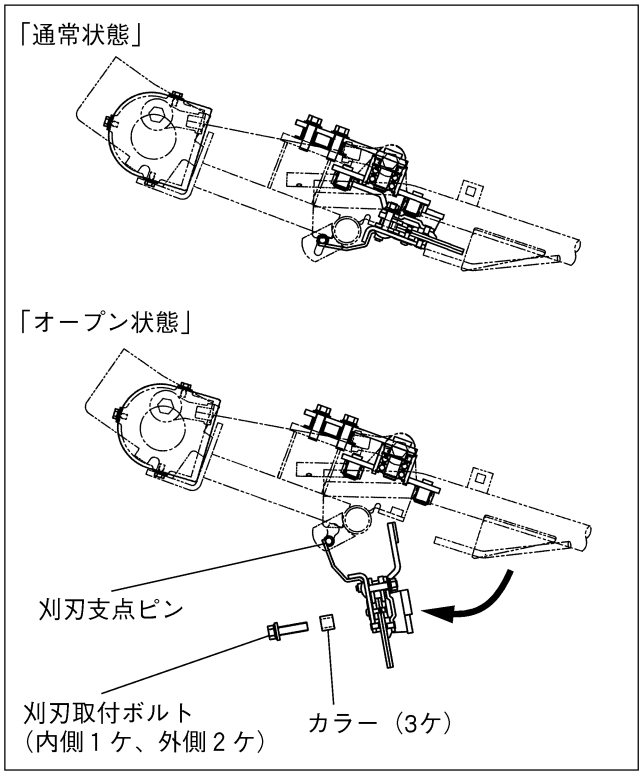
⑶　刈取部の下方から刈刃部を見ると，下図のような取付け状態になっています。



⑷　内側の刈刃取付ボルト（１ケ）を取外します。

⑸　刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルト（２ケ）を取外します。（２人作業）

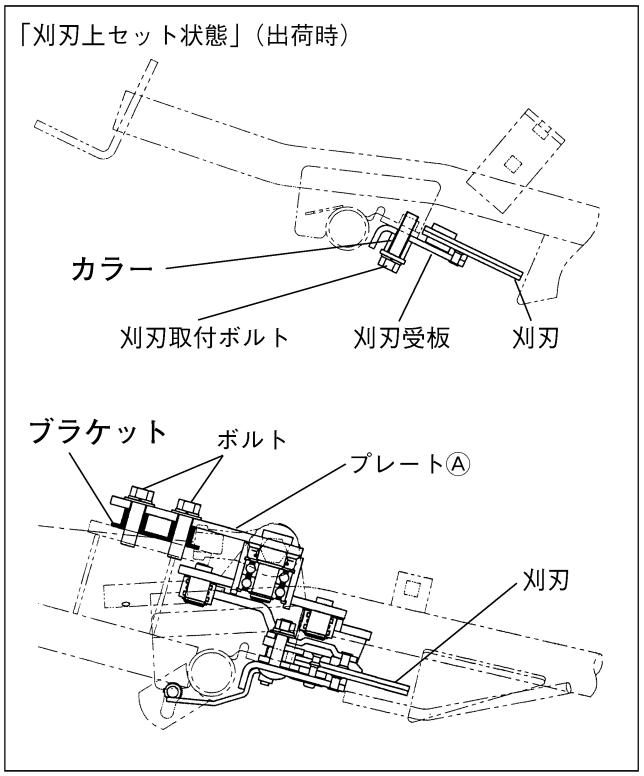
※刈刃取付ボルトには，それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。



⑹　刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃をオープン（回動）します。

❷　刈刃の上下調節

・出荷のとき，刈刃は「**上セット**」になっています。

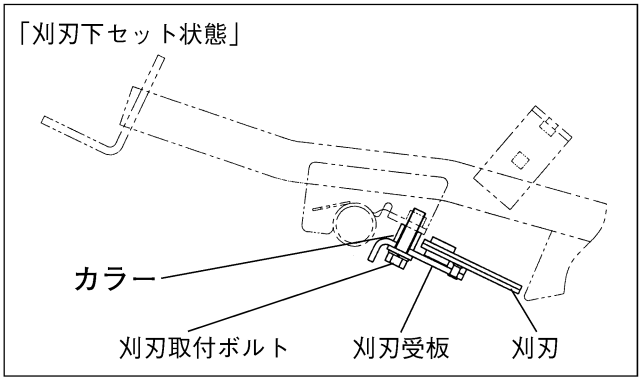


裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃を「**下セット**」にします。

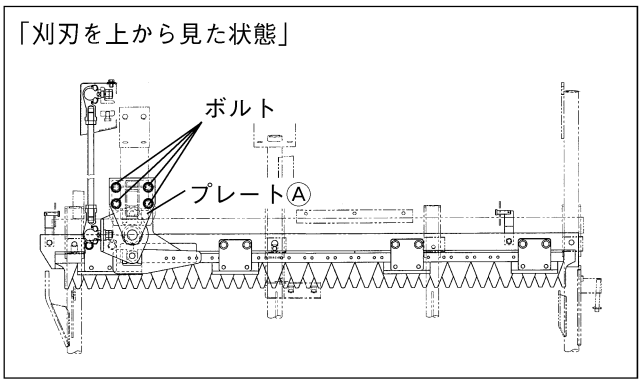
「**下セット**」にする場合，カラー・ブラケットの２個所の組替えを行います。

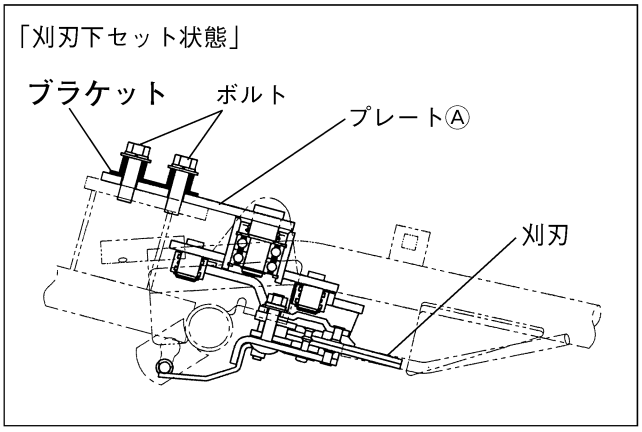
⑴ 刈刃をオープンします。

⑵ 刈刃取付ボルトのカラーを，刈刃受板の「**下側**」から「**上側**」に入替えて，ボルトを締付けます。（３個所）



⑶ ボルト４本を外し，ブラケットをプレートⒶの下方から上方へ入れ替えて，ボルトを締付けます。



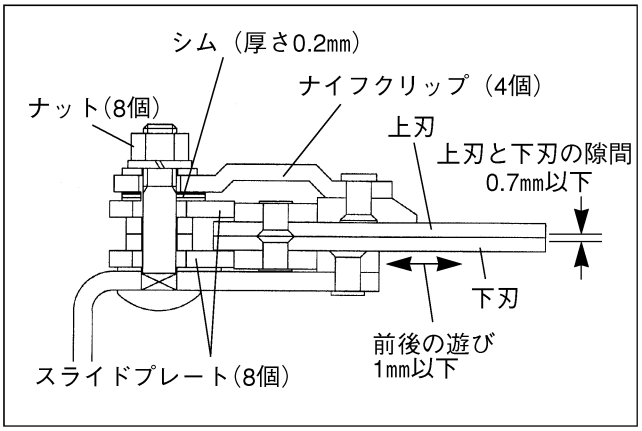


❸ 刈刃の調整

調整は「**お買いあげ先**」にて行います。

⑴ 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

⑵ ナット（８個）をゆるめ，ナイフクリップ（４個）の下側のシム（厚さ0.2㎜）で，上刃と下刃の隙間が0.7㎜以下になるように調整します。



⑶ 上刃，下刃の前後の遊びが１㎜以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

⑷ 上刃，下刃共スムーズ（15㎏程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- **１日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは,エンジンを停止して,各部の動きが止まってから行なってください。



◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料漏れがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したり漏れている場合は，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行なってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶　泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で拭き取ります。

❷　脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。
（91～94ページ脱こく内部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶　刈刃は掃除したのち，全面にグリースを塗布し錆止めをします。

❷　チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸　塗装が剥げた個所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

❶　エンジンコントロールレバーは，いっぱいに戻しておきます。

❷　新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

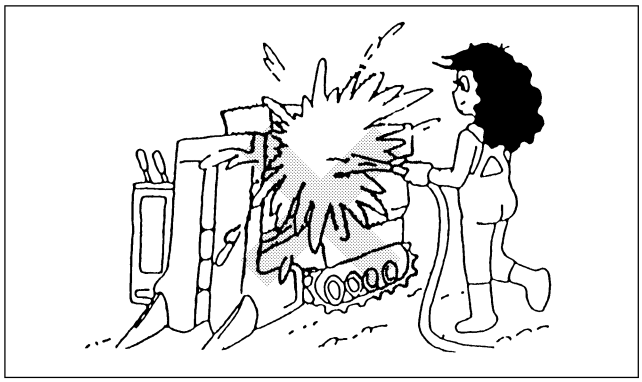
❸　冬期気温が 0 ℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（73～74ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（66～69ページ参照）

取扱いのポイント

- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。**



5．格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

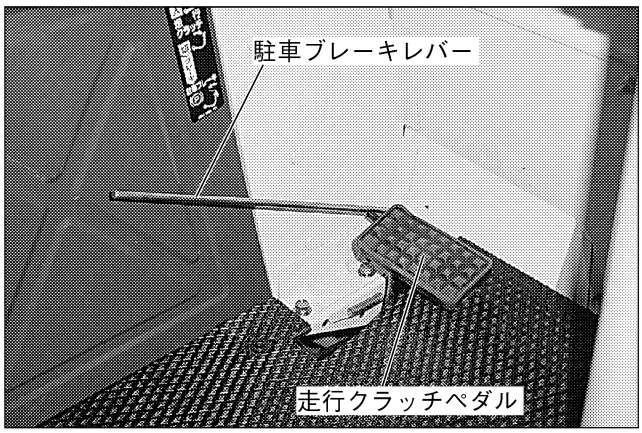
❶　「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷　各レバーは《**切**》・《**N**》(**中立**) の位置にします。

❸　「**ナローガイド（左)**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

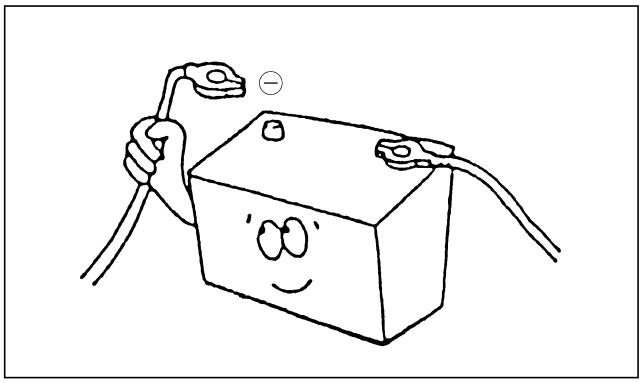
❹　刈取部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺　走行クラッチペダルに駐車ブレーキフックレバーをかけます。



❻　クローラに「**歯止め**」をします。

❼　「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか、㊀側のコードを外しておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と，同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元してください。**

6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行なった後に運転します。

❶　エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元します。

❷　始業点検，注油を確実に行います。

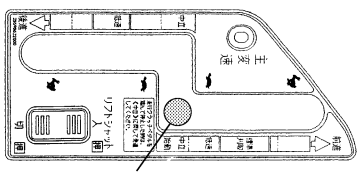
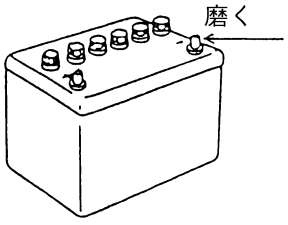
不調時の処理

・不調が発生したら，直ぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは，「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」を合わせてお知らせください。

⚠警告 傷害事故防止のために

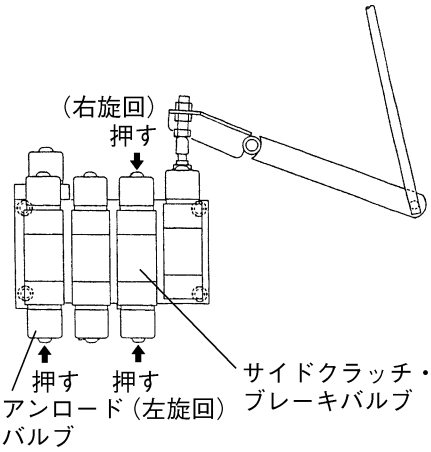
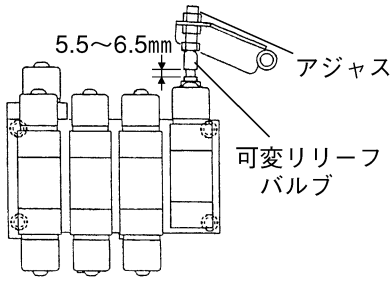
◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

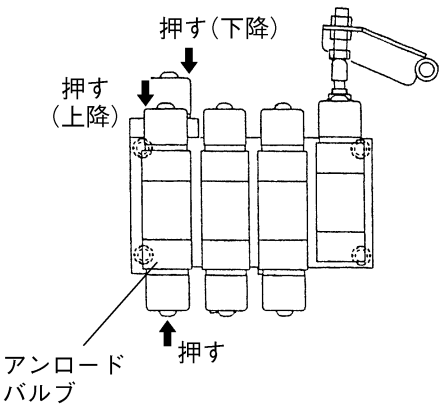
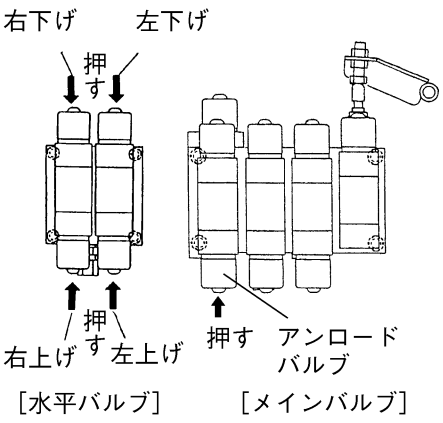
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶　主変速レバーを《**中立始動**》位置にしていない。作業機クラッチを《**切**》にしていない。クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，作業機クラッチを《**切**》にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	27
	❷　バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	85
	❸　メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズ（60A）を交換します。	22〜24
	❹　バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	86〜88
	❺　《**スタータスイッチ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22〜24

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（ディーゼル軽油……30ℓ）	72 84
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをします。	84
	❸　《**燃料カットソレノイド**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（50A）を交換します。	22～24
	❹　《**フラッシャ・ホーン・燃料ポンプ・注油モータ**》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	22～24
	❺　《**キー切り**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24
	❻　燃料コックが「**閉**」のままになっている。	●燃料コックを開ける。	83
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	83
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	82～83
	❸　ラジエータ防じんフィルタの目詰まり。	●防じんフィルタを掃除します。	82
	❹　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足	●指定のオイルを補給または交換します。	72～73
	❺　冷却水の不足	●冷却水を補給します。	73～74
	❻　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	129
	❼　《**フラッシャ・ホーン・燃料ポンプ・注油モータ**》ヒューズが切れているため燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	22～24
	❽　《**キー切り**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	22～24
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し，ホーン吹鳴	《**搬送**》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（20A）を交換します。	22～24

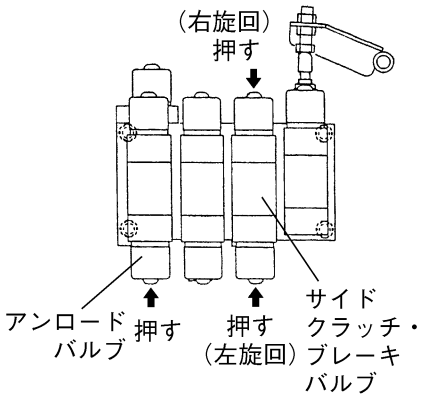
2．走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《N》（中立）位置になっている。	●条件に合わせ《倒伏》，または《標準》,《走行》位置にセットします。	15
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足	●規定量まで油圧作動油を補給します。	75〜76
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10A マイコン･リレーヒューズ…10A	22〜24
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《N》《中立》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《右旋回》および《左旋回》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—
マルチステアリングレバーを操作しても急旋回ができない	ブレーキの効きが悪い。  	●可変リリーフバルブ部のアジャスタボルトを調整します。	125

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《**リフト・操向**》ヒューズまたは《**マイコン・リレー**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10A マイコン・リレーヒューズ…10A	**22〜24**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，前処理リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	—
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置か《**下る**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。	**11**
傾斜手動レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない ［L仕様］	❶ 《**水平制御**》ヒューズまたは《**マイコン・リレー**》ヒューズまたは《**リフト・操向**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 水平制御ヒューズ……10A マイコン・リレーヒューズ…10A リフト・操向ヒューズ……10A	**22〜24**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**N**》《**中立**》にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。）	—

3．電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶　《前照灯･作業灯》ヒューズ，《マイコン・リレー》ヒューズ，《フラッシャ・ホーン・燃料ポンプ・注油モータ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 前照灯・作業灯ヒューズ…15Ａ マイコン･リレーヒューズ…10Ａ フラッシャ・ホーン・燃料ポンプ・注油モータヒューズ…15Ａ	22～24
	❷　バッテリの放電。	●バッテリを充電します。	86～88
方向指示灯が点灯しない	《フラッシャ・ホーン・燃料ポンプ・注油モータ》ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15Ａ）を交換します。	22～24
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶　《こぎ深さ制御》ヒューズまたは《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深さ制御ヒューズ……20Ａ マイコン･リレーヒューズ…10Ａ	22～24
	❷　刈取部のこぎ深センサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除きます。	―
刈高さポジションコントロールが作動しない	《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10Ａ マイコン･リレーヒューズ…10Ａ	22～24
選別自動制御が作動しない	❶　《選別制御》ヒューズまたは《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別制御ヒューズ……20Ａ マイコン･リレーヒューズ…10Ａ	22～24
	❷　スイングシーブ部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部の空運転をします。	63
方向自動制御が作動しない ［Ａ仕様］	❶　《リフト・操向》ヒューズまたは《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 リフト・操向ヒューズ……10Ａ マイコン･リレーヒューズ…10Ａ	22～24
	❷　刈取部の方向センサに草･泥･ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	―

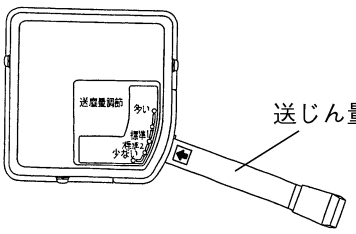
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
方向自動制御が作動しない **［A仕様］**	❸ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチ・ブレーキバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―

4. 刈　取　部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶　搬送経路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にします。 ②エンジンを停止します。 ③刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④エンジンを始動します。 ⑤作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。 ※副変速《**中立・N**》で主変速を《**前進・低速**》にします。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	49
	❷　刈取クラッチワイヤの調整不良（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	127
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足	●刈刃に十分注油します。	80
	❷　刈刃の調整不良（刈刃の隙間が広い）	●調整ライナで隙間を調整します。	141
	❸　刈刃の摩耗	●刈刃を交換します。	140〜141
	❹　マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条に沿って運転するときは，急激な操作は避ける。	17，38

5．脱こく部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	排ワラチェン部に詰まりがある。（排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ①作業機クラッチレバーを《**切**》にする。 ②脱こく排ワラ関係の詰まり個所を取除く。 ③排ワラフィードチェンの張りを点検・調整する。 ④エンジンを始動する。 ⑤作業機クラッチレバーを《**入**》にして確認する。 **取扱いのポイント** **●処置後，脱こく部の空運転をし，脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから，刈取りを開始してください。**	50
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	8，9
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	― 132 131
	❸　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」に合わせます。	57
	❹　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除	91～92
	❺　刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	14～15

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❻　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	63
	❼　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●開閉レバーを《**閉じる**》位置にし，ストッパをかけます。	93
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	91～92
	❷　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	57
	❸　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，《**イネ・ムギ，種子**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	8，9
	❹　刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を下げます。	14～15
	❺　送じんがスムースでない。	●送じん量調節レバーを《**多い**》側の位置にします。 	19
	❻　ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマの交換をします。 **取扱いのポイント** **●ワラ切カマは，こぎ歯に当たらないように取付けてください。** **●ワラ切カマの取付け方向を確認して，取付けてください**	122～124
	❼　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	63

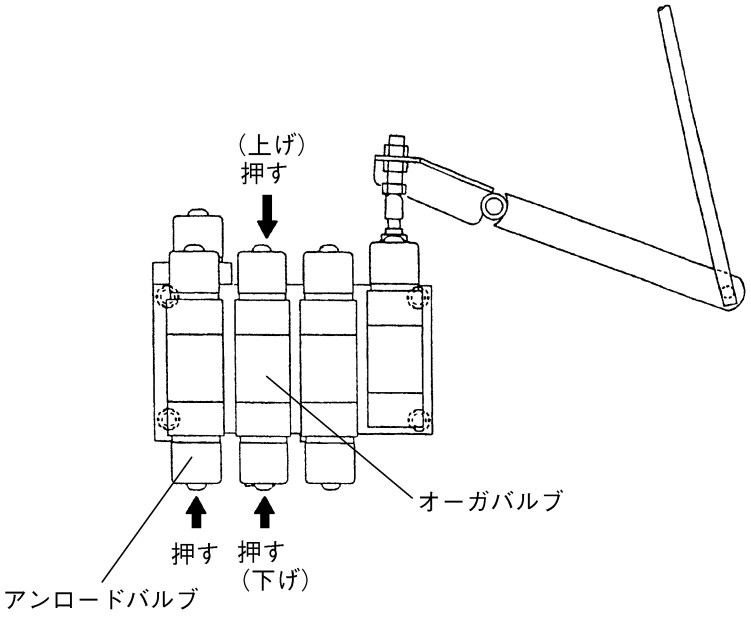
不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶　こぎ深さが「深こぎ」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置に合わせます。	57
	❷　能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をします。	14〜15
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	91〜92
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をします。	14〜15
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	63
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「穂先マーク」位置にあわせます。	57
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせて，マークの範囲内になるようにして作業をします。	8，9
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「ブレーキ」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	37〜42

6．ワラ処理部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
巻きつきが発生し馬力をとる	❶　刃の摩耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	102〜120 161
	❷　排ワラの搬送姿勢が悪い。	●こぎ深さ位置を適正にします。	57〜58
	❸　排ワラ量の増加	●作業速度を適正にします。	39
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶　排ワラチェンの張り不良	●チェンを張ります。	138
	❷　こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	57〜58

7．グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検個所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶　《グレンオーガ・排出クラッチ》ヒューズ,《グレンオーガ旋回モータ》ヒューズ,《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 グレンオーガ・ 排出クラッチヒューズ…20A グレンオーガ旋回モータ ヒューズ…40A マイコン・リレーヒューズ…10A	22〜24
	❷　油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《上げ》および《下げ》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは，運転席ステップの下にあります。）	―
こく粒排出スイッチを操作してもこく粒が出ない	❶　ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	―
	❷　《グレンオーガ・排出クラッチ》,《マイコン・リレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 グレンオーガ・ 排出クラッチヒューズ…20A マイコン・リレーヒューズ…10A	22〜24



取扱いのポイント

- 各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行なってください。
- ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

付　　表

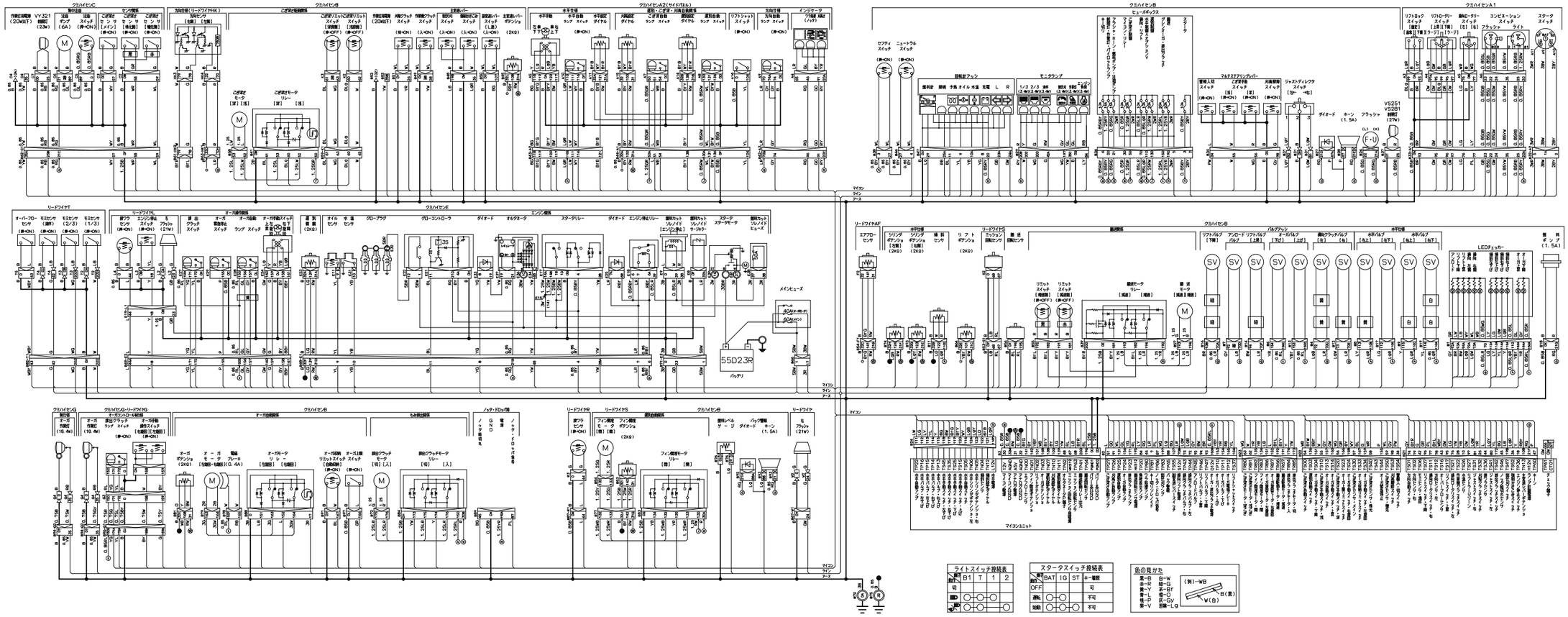
1．主要諸元

名称			コンバイン			
型式			VS251		VS281	
区分			GA	GLA	GA	GLA
機体寸法（格納時）	全長	(mm)	3,760			
	全幅	(mm)	1,680			
	全高	(mm)	1,980			
機体質量（重量）		(kg)	1,790	1,890	1,790	1,890
エンジン	型式		三菱S3L2－16C		三菱S3L2－17C	
	種類		水冷4サイクル3気筒ディーゼル			
	総排気量	(L{cc})	1.318{1,318}			
	出力／回転速度	(kW{PS}/rpm)	18.4{25}/2,800		20.6{28}/2,800	
	使用燃料		ディーゼル軽油			
	燃料タンク容量	(L)	30			
	始動方式		セルモータ式			
	バッテリ	(V·Ah)	12・48			
走行部	クローラ 幅×接地長	(mm)	400×1,390			
	クローラ 中心距離	(mm)	875			
	クローラ 平均接地圧	(kPa{kgf/cm²})	15.8{0.161}	16.7{0.17}	15.8{0.161}	16.7{0.17}
	変速方式		油圧モータ式（HST）			
	変速段数	(段)	前進無段，後進無段（副変速3段）			
	走行速度(m/s) 前進		0～2.15			
	走行速度(m/s) 後進		0～2.15			
刈取部	刈取り条数	(条)	3			
	デバイダ先端間隔	(mm)	1,150～1,200			
	刈取装置形式		往復動刃式（ツイン）			
	刃幅	(mm)	1,150			
	変速段数	(段)	2（車速連動式）			
	刈高さ範囲	(mm)	40～150			
	こぎ深さ調節方式		電動式（自動，手動併用）			
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）			
	こぎ胴 径×幅	(mm)	410×620			
	こぎ胴 回転速度	(rpm)	前450・後550			
	処理胴 径×幅	(mm)	140×639			
	処理胴 回転速度	(rpm)	1,515			
こく粒処理部	こく粒処理方式		グレンタンク式（オーガ排出）			
	タンク容量	(L)	750			
排ワラ処理装置			カッタ			
適応作物全長		(mm)	550～1,300			
倒伏適応性		(度)	追刈：85°以下・向刈：70°以下			
作業能率		(分/10a)	20～66		18～66	

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. 電気配線図

ヒューズ/継電器類		
10A	ホーン(1.5Aも)	ETR'シュノイド(別体)
15A	時間灯・作業灯	時間灯 作業灯 パイロットランプ×5(11)
15A	フラッシャ	フラッシャ ホーン 注油ポンプ 燃料ポンプ オルタネータ電源
10A	マイコン・リレー	マイコン リレー×2
20A	ごぼう止め角	ごぼう止めモータ ごぼう止め自動ランプ ごぼう止めリレー
10A	直角・リフト	バルブ×3 旋回表示ランプ
10A	水平自動	バルブ×2 水平自動ランプ
15A	運転自動	フィン感知モータ 運転自動ランプ
20A	オーガ・掘削クラッチ	掘削モータ ランプ×3 電磁ブレーキ バルブ
20A	電装	電装モータ リレー
10A	スタータ	スタータリレー



ライトスイッチ接続表				
端子 / 動作	B1	T	1	2
切				
車幅	○			○
前照灯	○		○	○

スタータスイッチ接続表				
端子 / 動作	BAT	IG	ST	キー電圧
OFF				可
通電	○	○		不可
始動	○	○	○	不可

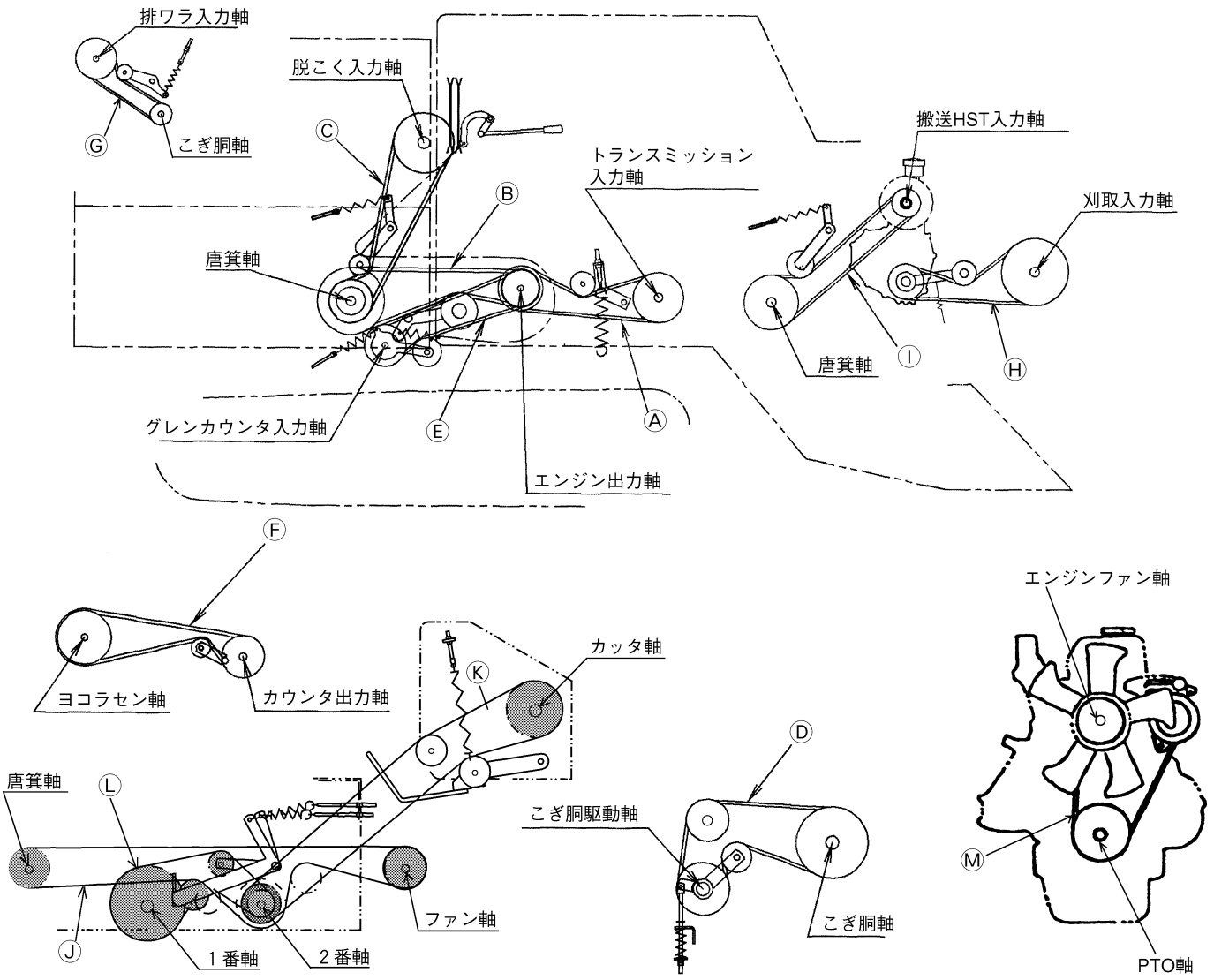
色の見かた

黒−B	白−W	緑−G	
赤−R	茶−Br		
黄−Y	橙−O		
青−L	桃−P	灰−Gy	
紫−V	若緑−Lg		

(例)−WB
B(黒)
W(白)

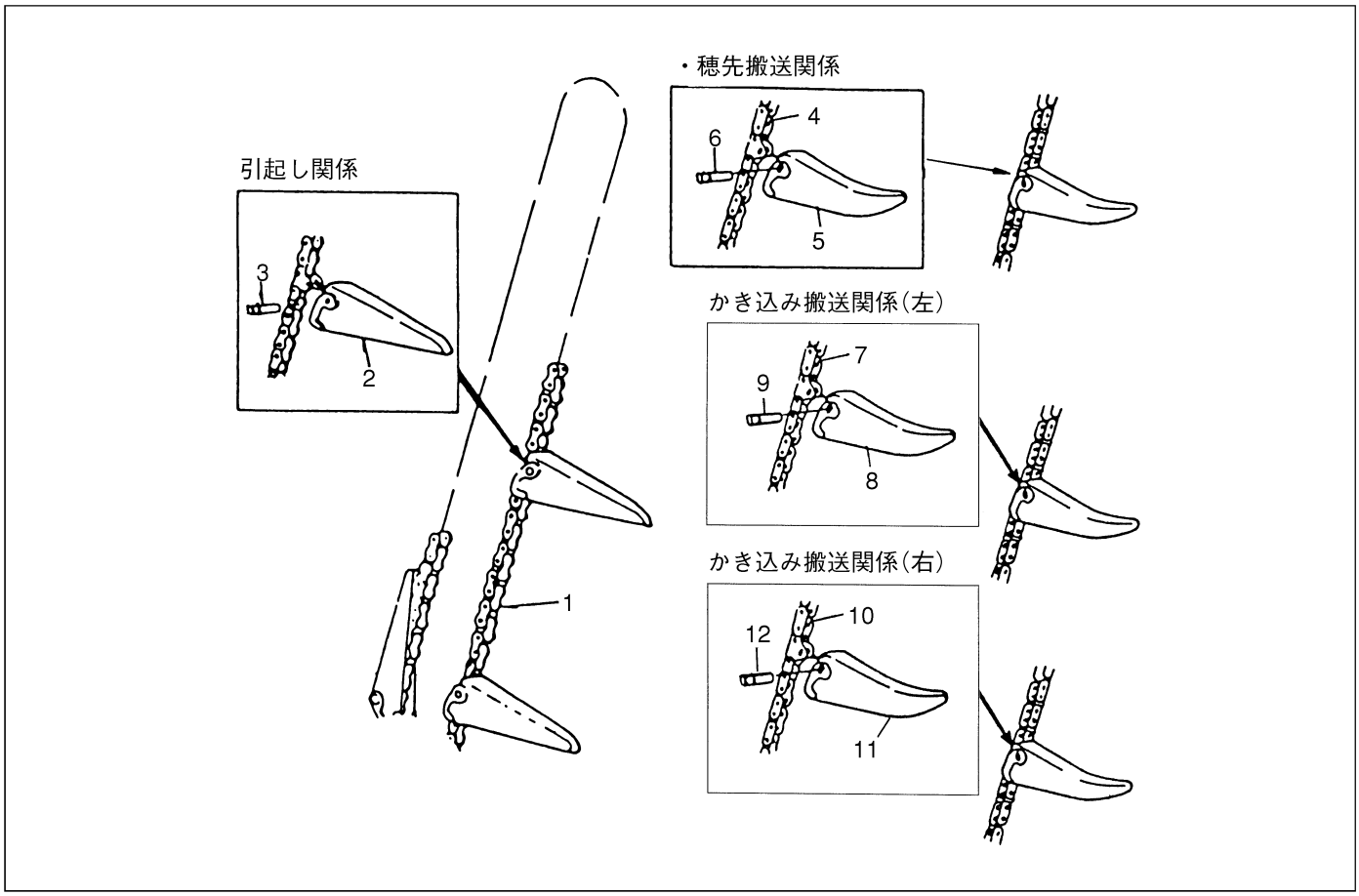
3. ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	1	3578 0054 000	SB54	走行ベルト
B	エンジン出力軸～唐箕軸	1	3578 6537 000	SC66	脱こく入力ベルト
C	唐箕軸～脱こく入力軸	1	3578 6107 000	SC67	脱こく入力ベルト
D	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	0852 1500 066	SB66	こぎ胴ベルト
E	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 053	SB53	グレン入力ベルト
F	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	0852 1200 052	SB52	横ラセン駆動ベルト
G	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0851 1200 037	LA37	排ワラ駆動ベルト
H	搬送HST刈取出力軸～刈取入力軸	1	3578 4018 500	LB53	刈取ベルト
I	唐箕軸～搬送HST入力軸	1	3578 6241 001	SB63	搬送HST駆動ベルト
J	唐箕軸～ファン軸	1	0852 1300 097	LB97	選別ベルト
K	2番軸～カッタ軸	1	0852 1200 082	LB82	カッタベルト
L	1番軸～2番軸	1	0851 1500 044	SA44	1番ラセン駆動ベルト
M	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	MD088955	980㎜	ファンベルト



4. 主な消耗部品

1. 爪関係

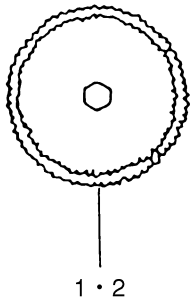


No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェン（2本）	3520 4438 000	引起し搬送（左，中）
	チェン（1本）	3544 4426 000	引起し搬送（右）
2	ツ　メ（30本）	3578 4419 000	
3	ピ　ン（30本）	3523 4428 000	
4	チェン（1本）	3578 5218 000	穂先搬送
5	ツ　メ（14本）	3501 5247 000	
6	ピ　ン（14本）	3523 4428 000	
7	チェン（1本）	3558 5287 100	カキコミ搬送（左）
8	ツ　メ（6本）	3543 7765 001	
9	ピ　ン（6本）	3523 4428 000	
10	チェン（1本）	3558 5295 101	カキコミ搬送（右）
11	ツ　メ（7本）	3579 5295 201	
12	ピ　ン（7本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2．カッタ関係

1．ディスクカッタ

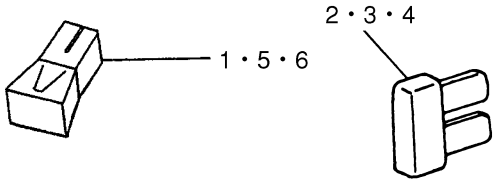


No.	部　品　名　称	部　品　番　号	個数（1セット分）	
			D28－17	D28－25
1	ノコ刃（φ140）	3578 8817 000	17	25

2．マルチカッタ

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	個数（1セット分）	
			DMS28	DMS28S
1	ノコ刃（φ140）	3830 0409 000	12	19
2	ノコ刃（φ160）	3830 0415 000	5	6

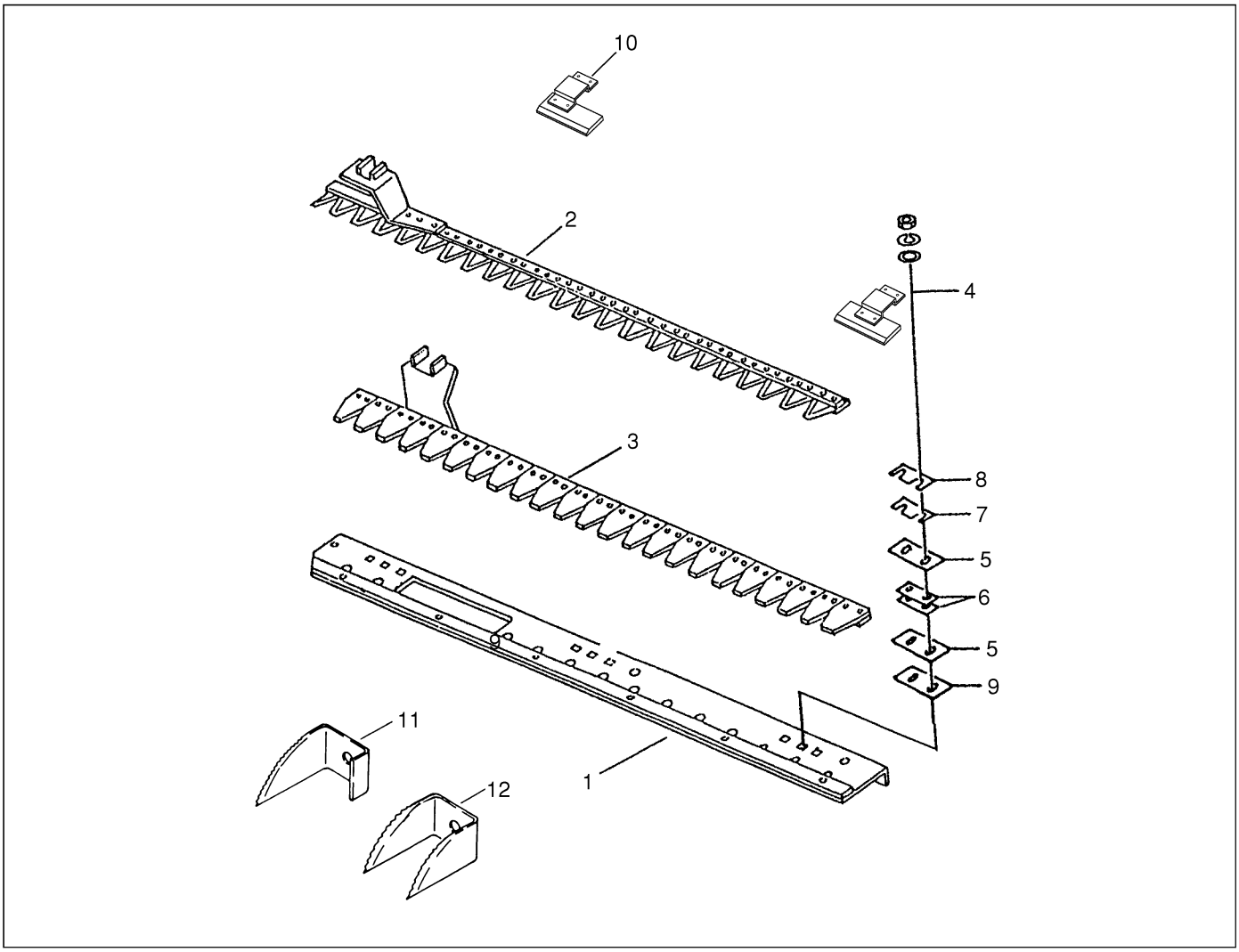
3．ヒューズ



No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
1	ヒ　ュ　ー　ズ	1037 5581 200	50A（燃料カットソレノイド用）
2	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 005	10A
3	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 505	15A
4	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1002 005	20A
5	ヒ　ュ　ー　ズ	3559 0861 200	40A（グレンオーガ旋回モータ用）
6	ヒ　ュ　ー　ズ	1037 5502 200	60A（メイン）

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 刈刃・カマ関係



No.	部品名称	部品番号	備考
1~10	カリハアッセンブリ	3578 4351 000	
1	ウケハダイ	3578 4352 000	
2	ウエバアッシ	3578 4358 000	
3	シタバアッシ	3578 4354 000	
4	ナイフクリップ（3個）	3532 4364 001	
5	スライドプレート（8個）	3532 4365 200	
6	ライナ（8個）	3532 4365 300	
7	シム（8個）	3532 4365 400	t =0.8㎜
8	シム	3532 4365 500	t =0.2㎜
9	スペーサ（4個）	3555 4366 000	
10	ナイフクリップB	3578 4359 000	
11	ワラキリカマ（1個）	3544 7223 000	
12	ワラキリカマ（10個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5．アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN－S281	スライドノッタ	株元・穂先結束両用
	S－S281D	カッタ用ドロッパ	
	R－KSM6	スタンド装置	］スタンドノッタ
	R－VS281	取付キット	
	EXG－32A	延長オーガ	800㎜
	EXG－34B	延長オーガ	2段折れ延長オーガ
	SP－S281W	スーパーデバイダ	2連
	SP－S281TQ	スーパーデバイダ	3連キット

6．付属工具一覧表

No	品　　名	個　数	備　　考
1	油差し	1	
2	漏斗	1	
3	ビニールパイプ	1	
4	工具袋	1	
5	両口スパナ	1	10×12
6	両口スパナ	1	12×14
7	両口スパナ	1	17×19
8	Ｌボックスレンチ	1	10×12
9	メガネレンチ	1	19×22
10	ドライバキット	1	
11	受網取外し工具	1	シートの下部にセットしてください。

7．潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1．エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD/CD/GL－4） スーパーマルチGDオイル（SAE・10W－30，SL/CF）
全農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ（SAE・10W－30）
新日本石油	HDS－3 ファームユニバーサルオイル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CD級オイルをお使いください。

2．油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD／CD／GL－4）
新日本石油	スーパーハイランド46

3．ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
新日本石油	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

取扱いのポイント

● トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

4. 三菱農機 (純正油) マルチオイル

・スーパーマルチＳＴＯＵ（ストー）オイルは１種類でエンジンオイル又はギヤオイルとして１年中ご使用いただけるオールシーズンタイプです。
・スーパーマルチＧＤオイルはエンジン専用オイルです。
・スーパーマルチＧＢオイルはギヤおよび湿式ブレーキの特性を考えて開発された，ギヤ（Ｇ）と湿式ブレーキ（Ｂ）専用オイルです。
・マルチSHPギヤオイルは，ギヤ専用オイルです。
・スーパーディーゼルＣＦ－４オイルはディーゼルエンジン用の耐久性に優れたエンジンオイルです。
・お買い求めは，弊社販売店で取扱っていますのでご相談ください。



性状＼品名		スーパーマルチ STOUオイル	スーパーマルチ GDオイル	スーパーマルチ GBオイル	マルチSHP ギヤオイル	スーパーディーゼル CF－4オイル
密度	15℃ g／cm³	0.883	0.880	0.884	0.900	0.871
引火点	℃	230	232	236	230	232
流動点	℃	－37.5	－32.5	－40	－22.5	－32.5
動粘度cSt	@ 40℃	67.0	65.2	57.7	188.5	65.6
	@ 100℃	10.5	10.1	8.6	17.5	10.3
粘度指数		144	140	117	100	144
ＡＰＩサービス分類		SD/CD/GL－4	SL/CF	GL－4	GL－５	CF－4
ＳＡＥ粘度番号		10W－30	10W－30	80W	90	10W－30
荷姿		ドラム・20L缶 ４Ｌ×６缶	ドラム・20L缶 ４Ｌ×６缶	ドラム・20L缶	ドラム・20L缶	ドラム・20L缶

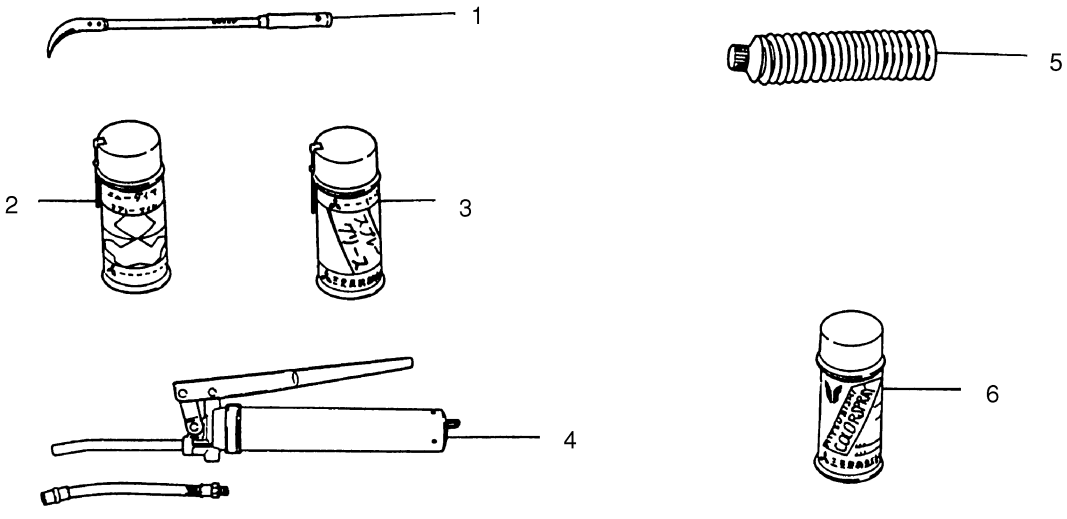
取扱いのポイント

● スーパーマルチGBオイル，マルチSHPギヤオイルはエンジンオイルとしては使用できません。

8. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商　品　名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリースポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリース	NMP400	グリースポンプ詰替え用
6	カラースプレー（赤） 〃　（白） 〃　（黒）	0975　0000　270 0975　0000　160 0975　0000　470	補修用塗料



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

9．用語解説

取扱説明書に使用している用語の意味は，次の通りです。

ア行

アタッチメント……コンバイン購入後に取付ける装置です。

アワメータ……作業時間の集計を表示します。

インジケータランプ……機械の状態を知らせるランプです。

エアクリーナエレメント……空気清浄器用のフィルタです。

ＨＳＴ……無段階で変速できる油圧装置です。

カ行

コンビネーションスイッチ……メータ類ランプ，前照灯，作業灯などのライトと方向指示灯の操作機能を１つにまとめたスイッチです。

サ行

増速ツインこぎ胴……こぎ胴部を前後に分割し，前後のこぎ胴に回転差をつけた機構です。

タ行

デバイダ……分草板のことをいいます。

トルクリミッタ……作業中にワラなどが巻付き異常な力が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐ安全装置です。

ナ行

ナローガイド……刈取る作物を分ける前処理誘導稈です。

ハ行

バンパ……デバイダ先端に取付ける，危険防止用の保護板です。

マ行

マルチカッタ……レバーの切換で，排ワラの切断長を変えることができるカッタです。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

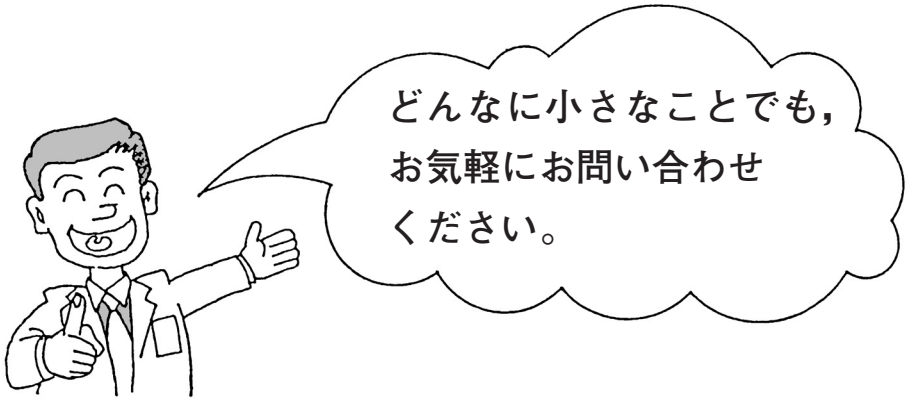
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)